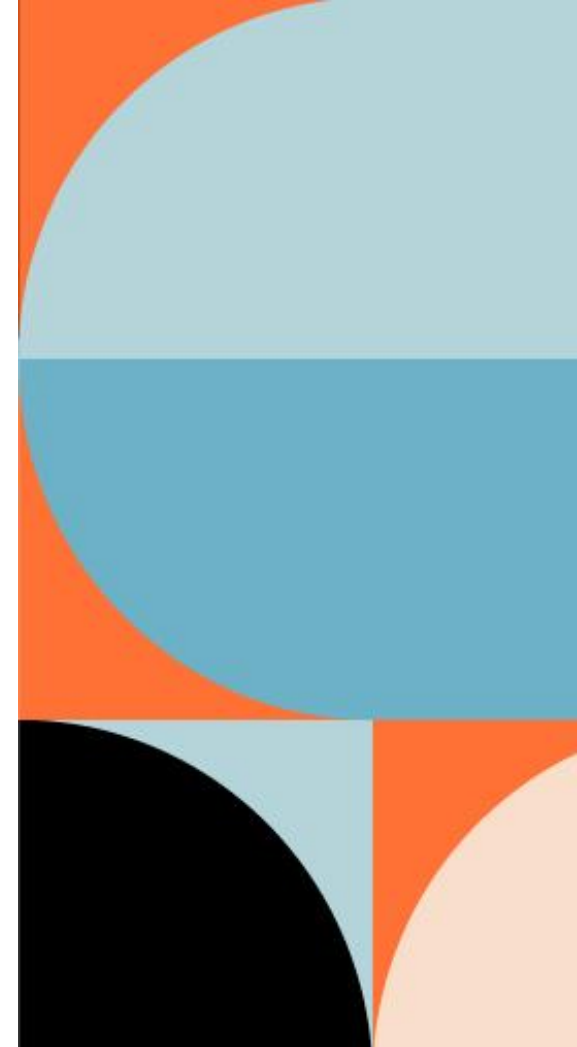


経済産業省 令和7年度
「フェムテック等サポートサービス実証事業」
最終報告資料

事務局 朝日広告社
PMO担当 NTTデータ経営研究所



目次

I. 実証事業の実施実績	P 3
II. イベント開催実績	P 7
III. 共通指標集計・分析結果	P15
1. 共通指標によるフェムテック等サポートサービスの評価とロジックモデル	
2. 結果サマリー	
3. 基礎集計	
4. 単純集計	
5. サービス等提供前後での分析	
① 女性特有の健康課題への意識（意識）	
② 女性特有の健康課題への取組状況（行動）	
③ キャリア等のアウトカム	
④ プレゼンティーズムの変化	
IV. 採択事業者の最終報告会資料	P47
V. 令和3年度～令和7年度の総括	P257
VI. 参考資料・付録	P300

I . 実証事業の実施実績

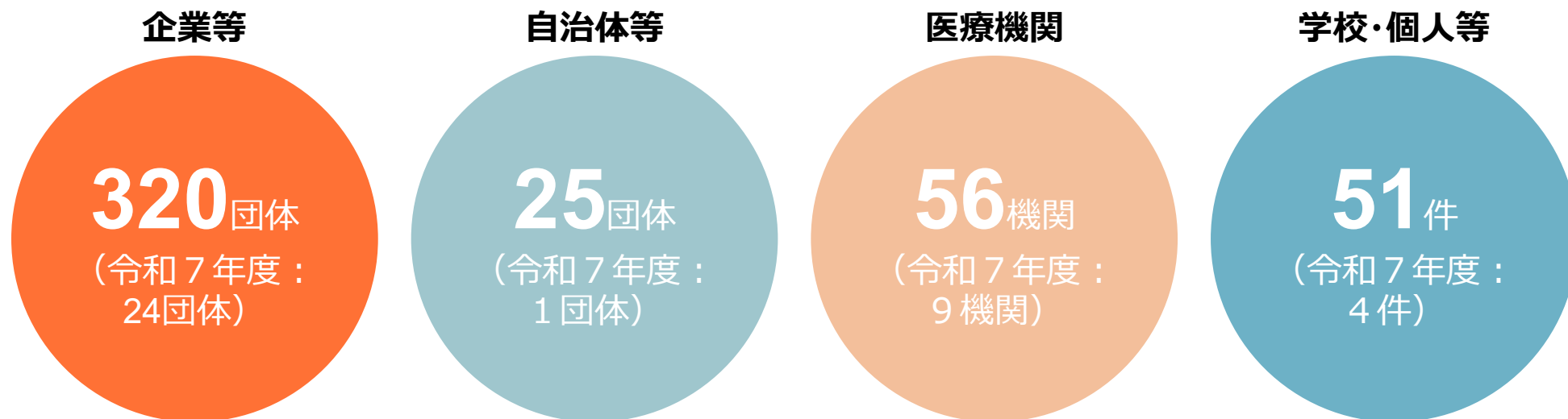
経済産業省 令和7年度フェムテック等サポートサービス実証事業費補助金
令和7年度採択事業一覧

事業者名	実証事業名	月経・PMS	妊娠・不妊	産後ケア	更年期	婦人科疾患	ヘルスリテラシー	その他
FUJIYAMA BRIDGE LAB株式会社	働く女性のためのウェルビーイングパートナー「つきのかたち」	●			●	●	●	
株式会社SympaFit	血糖値データに基づく生理・PMS重症度予測と睡眠改善支援事業	●					●	●
国立大学法人大阪大学	脳波による更年期判定AIを用いた更年期症状の早期発見・早期予防介入サービスの実証				●		●	
パナソニック株式会社 暮らしアプライアンス社	社員一人ひとりのウェルビーイングを実現する「人が生きる人的資本経営」をサポートー女性自身の健康行動が変わる、職場に集うみんなで変わる“オフィスRizMo（リズム）”の検証ー	●	●	●	●	●	●	
株式会社ジェイコム九州	女性の健康CareをNormal（あたりまえ）に／女性の健康プラットフォームCOTTON／Care Of Things, Things Of Normal	●	●	●	●	●	●	
株式会社WithMidwife	女性のストレスチェック結果と女性特有の不調の相関性を明らかにし、支援スキームの有効性を実証する	●	●		●	●	●	
株式会社Melon	更年期女性に対するマインドフルネスプログラムの効果検証			●	●		●	
HerLifeLab株式会社	AIチャットボットとPHR (personal healthcare record)を活用したパーソナライズ更年期医療モデルの構築実証				●	●	●	
株式会社コスミックコーポレーション	「女性特有の健康課題（プレゼンティズム）による経済損失解消」AIコラボ: WaiSE(ワイズ) x AITS(アイツ)-自覚症状 x 職場健診データから甲状腺検査への推奨度を示す-	●			●	●	●	●

フェムテック等サポートサービス実証事業実績（令和3～7年度）

- 令和3年度から令和7年度の5年間の累計で320の企業等、25の自治体等、56の医療機関、51の学校・個人等が関与し、フェムテック等サポートサービスの実証に取り組んだ。

サービス開発～提供に関わった団体等総数



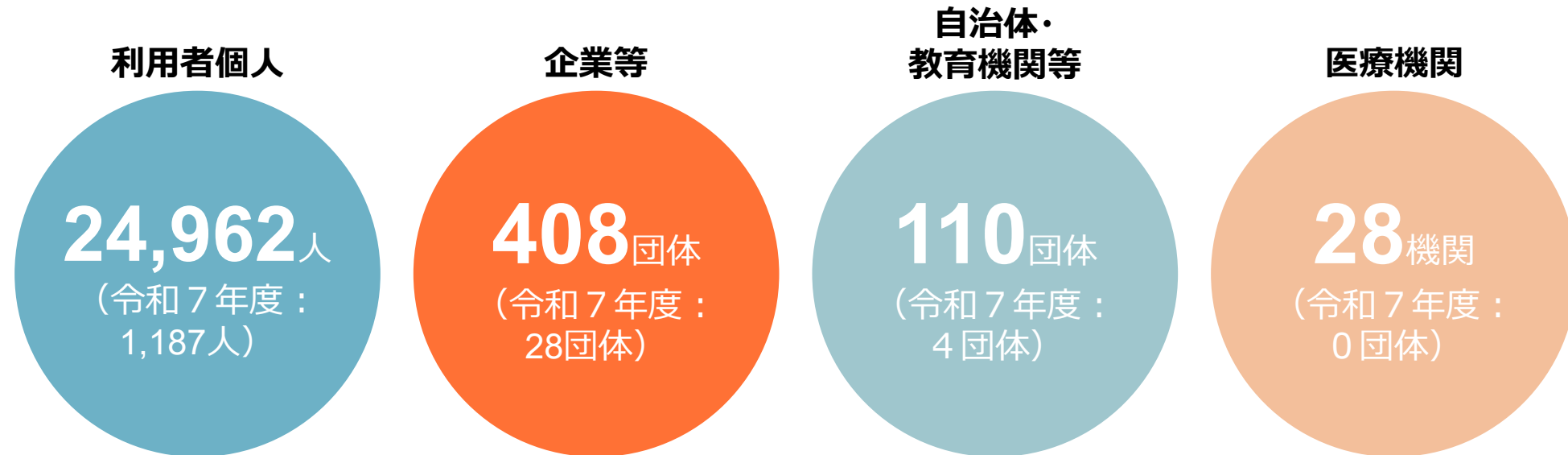
集計方針

- 複数年度参加している団体・個人は重複して集計する。
- NPO等団体は「企業等」の分類に含めて集計する。
- 大学等機関は「学校・個人等」に含めて集計する。
- 経産局等の国出先機関は「自治体等」に含めて集計する。
- 「サービス開発～提供に関わった団体総数」には実証フィールドは含めず、「サービス利用者、導入団体数」のみに含めて集計する。

フェムテック等サポートサービス実証事業実績（令和3～7年度）

- 令和3年度から令和7年度の5年間で、24,962人が実証に参加した。また、408の企業、110の自治体等、28の医療機関で導入された。

サービス利用者、導入団体数



集計方針（再掲）

- 複数年度参加している団体・個人は重複して集計する。
- NPO等団体は「企業等」の分類に含めて集計する。
- 大学等機関は「学校・個人等」に含めて集計する。
- 経産局等の国出先機関は「自治体等」に含めて集計する。
- 「サービス開発～提供に関わった団体総数」には実証フィールドは含めず、「サービス利用者、導入団体数」のみに含めて集計する。

Ⅱ．イベント開催実績

イベント開催実績

- 本事業では、フェムテック等製品・サービスの全国的な導入拡大を目的として、導入に前向きな地域を中心に、全国5か所における導入企業向けイベントやその他関連イベント（現地・オンライン）を開催した。また、本事業の最終報告会を、採択事業者や関係者同士の学びや交流の機会とするため、対面形式で開催した。

イベント

開催地	開催日程	申込者数
大阪府（大阪・関西万博）	2025年10月 3日（金）	119名
石川県	2025年10月15日（水）	117名
宮城県	2025年11月 7日（金）	61名
東京都	2025年11月21日（金）	139名
広島県	2025年12月 1日（月）	109名

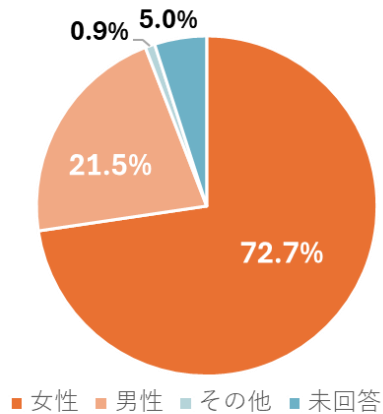


～大阪・関西万博～
パネルディスカッション

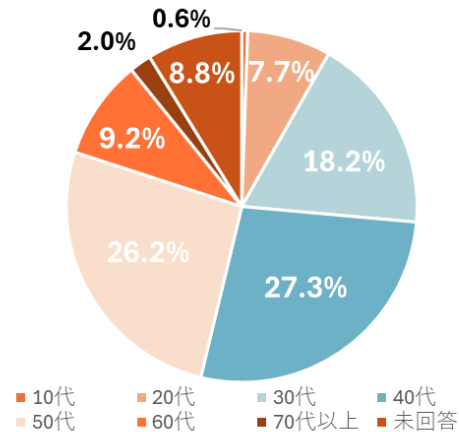


～最終報告会～
パネルディスカッション

性別 (SA) (n=545)



年齢 (SA) (n=545)



最終報告会

開催地	開催日程	申込者数
東京	2026年3月2日（月）	151名

イベント開催実績

- 大阪府において、女性活躍の推進とフェムテックの普及を行うイベントを実施した。

開催概要

自分らしく輝くために。女性のウェルビーイングと働き方
～フェムテックが叶える女性が輝く職場づくり～

- 日時 令和7年10月3日（金） 15:00 ～ 16:30
- 会場 大阪・関西万博会場内
- プログラム パネルディスカッション

登壇者：（順不同）

■ パネリスト

- | | |
|----------|---|
| 佐々木 成江 氏 | 東北大学 DEI推進センター 副センター長・教授
横浜国立大学ダイバーシティ戦略推進本部 教授・学長補佐
（ジェンダード・イノベーション担当） |
| 小島 慶子 氏 | メディアパーソナリティ |
| 鈴田 朗 氏 | コニカミノルタ健康保険組合 理事 |
| 石川 勇介 氏 | 株式会社ファミワン 代表取締役 |
| 高木 悠一 氏 | 経済産業省 経済産業政策局 経済社会政策室
経済社会政策室長 |

■ ファシリテータ

- | | |
|--------|-----------------------------------|
| 木村 恵 氏 | 一般社団法人 Femtech Community Japan 理事 |
|--------|-----------------------------------|

※ イベント登壇者、パネリストおよびファシリテータの企業名、役職名等に関しては、イベント開催時点の情報を記載



～パネルディスカッション～

- テーマ1：女性の健康課題に社会・職場はどう向き合い、社会・組織の意識を変えていくべきでしょうか
- テーマ2：男性社員・管理職への理解や共感を得るには、どのようなアプローチが求められると思いますか
- テーマ3：社会や組織のあり方は、フェムテックによってどのように変わっていくのでしょうか

※ フェムテック イベントレポート等を引用

イベント開催実績

- 石川県において、女性活躍の推進とフェムテックの普及を行うイベントを実施した。

開催概要

北陸地域から考える女性活躍推進とフェムテックの活用

- 日時 令和7年10月15日(水) 13:00 ~ 16:45
- 会場 金沢商工会議所
- プログラム
 - ・ 講演① 性差医学の基礎—男女の健康課題の違いとフェムテックの役割
 - ・ 講演② 性差によって生じる女性のライフステージの特有課題と最新フェムテック動向
 - ・ パネルディスカッション
 - ・ フェムテック製品等体験・ネットワーキング会

登壇者：（順不同）

■ 登壇者

- 片井 みゆき 氏 国立大学法人政策研究大学院大学 教授
- 木村 恵 氏 一般社団法人Femtech Community Japan 理事

■ パネリスト

- 小坂 律子 氏 コマニー株式会社 人財開発部長
- 田中 愛乃 氏 一般社団法人PCEA連盟 代表理事
- 斎藤 健 氏 石川県商工労働部産業政策課 課長
- 建部 千尋 氏 富山県商工労働部
多様な人材活躍推進室働き方改革・女性活躍推進課長
- 田中 睦 氏 福井県産業労働部 副部長

■ ファシリテータ

- 木村 恵 氏 一般社団法人 Femtech Community Japan 理事

※ イベント登壇者、パネリストおよびファシリテータの企業名、役職名等に関しては、イベント開催時点の情報を記載



～パネルディスカッション～

- テーマ1：女性活躍を支える職場環境づくりの工夫
- テーマ2：持続可能な女性活躍推進の取組とは
- テーマ3：フェムテックが拓く新しい健康支援モデル

※ フェムテック イベントレポート等を引用

イベント開催実績

- 宮城県において、女性活躍の推進とフェムテックの普及を行うイベントを実施した。

開催概要

女性のウェルビーイングと働き方～仙台の企業・自治体の取組とフェムテック～

- 日時 令和7年11月7日（金） 10：00～11：30
- 会場 エル・ソーラ仙台
- プログラム
 - ・ 講演：性差を考慮した女性の健康課題とフェムテックの可能性
 - ・ パネルディスカッション
 - ・ フェムテック製品等体験・ネットワーキング会

登壇者：（順不同）

■ 登壇者

佐々木 成江 氏 東北大学 DEI推進センター 副センター長・教授
横浜国立大学ダイバーシティ戦略推進本部 教授・学長補佐
（ジェンダード・イノベーション担当）

■ パネリスト

佐々木 成江 氏 東北大学 DEI推進センター 副センター長・教授
横浜国立大学ダイバーシティ戦略推進本部 教授・学長補佐
（ジェンダード・イノベーション担当）

平田 貞代 氏 北陸フェムテックネットワーク 会長
芝浦工業大学大学院 准教授 / 東北大学 特任准教授

齋藤 寿美 氏 株式会社TTK 人事部 ダイバーシティ推進室長

三谷 雅代 氏 仙台市 市民局市民活躍推進部男女共同参画課 課長

■ ファシリテータ

木村 恵 氏 一般社団法人 Femtech Community Japan 理事

※ イベント登壇者、パネリストおよびファシリテータの企業名、役職名等に関しては、イベント開催時点の情報を記載



～パネルディスカッション～

テーマ1：女性の活躍促進のための職場における健康環境づくりとフェムテックの活用

テーマ2：女性の健康に関する地域格差の解消に向けて

テーマ3：フェムテックが拓く新しい地域健康支援モデル

※ フェムテック イベントレポート等を引用

イベント開催実績

- 東京都において、女性活躍の推進とフェムテックの普及を行うイベントを実施した。

開催概要

女性のウェルビーイングと働き方 ～フェムテックが叶える女性が輝く職場づくり～

- 日時 令和7年11月21日（金） 14：00～16：30
- 会場 経済産業省
- プログラム
 - ・ 講演①
～妊娠・出産・育児とキャリアの両立を支えるフェムテックの可能性～
 - ・ 講演②
～企業が知っておきたい女性特有の健康課題とフェムテック活用術～
 - ・ フェムテック製品等体験・ネットワーキング会

登壇者：（順不同）

■ 登壇者

- | | |
|---------|---------------------------------------|
| 重見 大介 氏 | 株式会社Kids Public 産婦人科オンライン代表 |
| 齋藤 史織 氏 | 株式会社パソナ シニアマネージャー |
| 野村 優美 氏 | 丸紅株式会社 フェムテック担当部長
株式会社LIFEM 取締役 |
| 本間 涼 氏 | 株式会社ブリヂストン
HRXカルチャーチェンジ・DE&I推進部 部長 |

※ イベント登壇者、パネリストおよびファシリテータの企業名、役職名等に関しては、イベント開催時点の情報を記載



※ フェムテック イベントレポート等を引用

イベント開催実績

- ・ 広島県において、女性活躍の推進とフェムテックの普及を行うイベントを実施した。

開催概要

女性のウェルビーイングと働き方～広島企業・自治体の取組とフェムテック～

- 日時 令和7年12月1日（月） 15:00～16:30
- 会場 広島テレビ
- プログラム
 - ・ 講演：従業員のコンディションマネジメント
 - ・ パネルディスカッション
 - ・ 整品体験会

登壇者：（順不同）

■ 登壇者

木下 麻子 氏 株式会社ひろぎんホールディングス
執行役員 サステナビリティ統括部長

■ パネリスト

木下 麻子 氏 株式会社ひろぎんホールディングス
執行役員 サステナビリティ統括部長

秋信 裕子 氏 広島テレビ放送株式会社 経営企画局 経営企画部長

武内 聡 氏 広島県 健康福祉局 健康づくり推進課 課長

■ ファシリテータ

木村 恵 氏 一般社団法人 Femtech Community Japan 理事

※ イベント登壇者、パネリストおよびファシリテータの企業名、役職名等に関しては、イベント開催時点の情報を記載



～パネルディスカッション～

- テーマ1：職場における健康環境づくりの意義
- テーマ2：持続可能な女性活躍推進の取組とは
- テーマ3：フェムテックが拓く新しい地域健康支援モデル

※ フェムテック イベントレポート等を引用

最終報告会開催実績

- ・ 経済産業省において、本事業の最終報告会を実施した。

開催概要

令和7年度 経済産業省フェムテック等サポートサービス実証事業 最終報告会
もっと自分らしく、もっと前向きに ～フェムテックが変えた、働く毎日～

- 日時 令和7年12月1日（月） 14：00～17：00
- 会場 経済産業省
- プログラム
 - ・ 実証事業者による採取報告
 - ・ パネルディスカッション
 - ・ 採択事業者との交流・ネットワーキング

登壇者：（順不同）

■ パネリスト

佐々木成江氏 東北大学 教授

片井みゆき氏 政策研究大学院大学 教授

木村恵氏 （一社）ウイメンズヘルス・イノベーション協会 理事

高木悠一氏 経済産業省 経済産業政策局 経済社会政策 室長

※ イベント登壇者、パネリストおよびファシリテータの企業名、役職名等に関しては、イベント開催時点の情報を記載



～パネルディスカッション～

テーマ1：フェムテックはこの5年で何を变えたのか

テーマ2：次の5年に向けて、フェムテックはどこへ向かうのか

Ⅲ. 共通指標集計・分析結果

1. 共通指標によるフェムテック等サポートサービスの評価とロジックモデル
2. 結果サマリー
3. 基礎集計
4. 単純集計
5. サービス等提供前後での分析
 - ① 女性特有の健康課題への意識（意識）
 - ② 女性特有の健康課題への取組状況（行動）
 - ③ キャリア等のアウトカム
 - ④ プレゼンティーズムの変化

Ⅲ. 共通指標集計・分析結果

1. 共通指標によるフェムテック等 サポートサービスの評価とロジックモデル

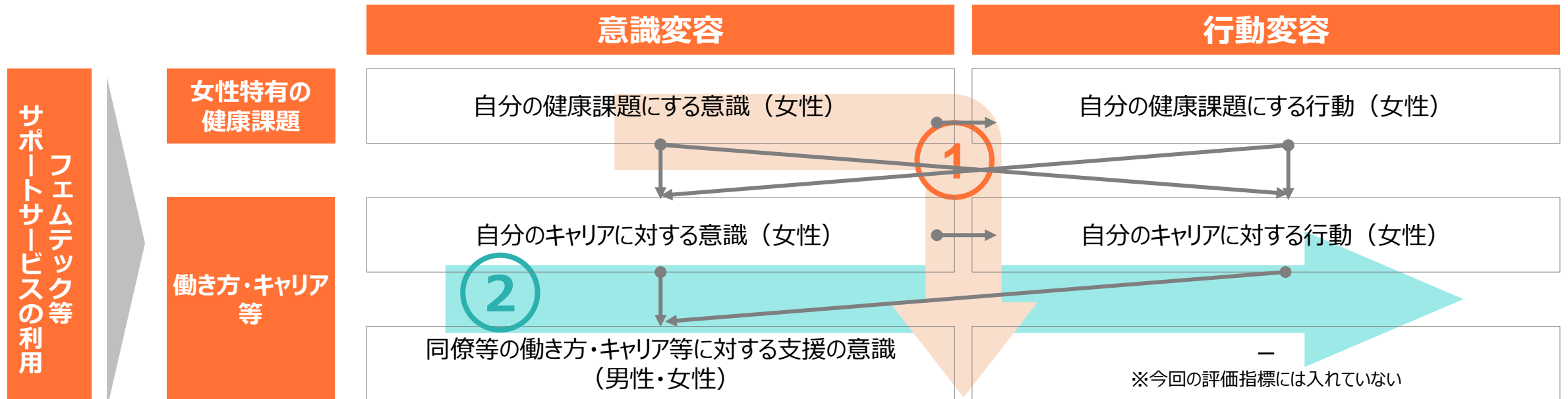
I. 共通指標によるフェムテック等サポートサービスの評価とロジックモデル

目的

- フェムテック等サポートサービスの利用による、プレゼンティーズムの変化、キャリアに関する考え方等の変化、意識・行動変容の効果測定を行うために、全ての実証事業で共通指標を用いた評価を行った。
- これにより、フェムテック等サポートサービスの効果を広く発信するとともに、サービスの信頼度の向上を図ることを目的とする。また、効果を示すことで企業や自治体でのフェムテック活用の動機付けにつなげていく。

ロジックモデルと仮説

- フェムテック等サポートサービス利用の効果として、①女性特有の健康課題に関する意識・行動変容のきっかけとなり、働き方・キャリア等の意識変容・行動変容につながるケースと、②フェムテック等サポートサービスの利用が直接働き方・キャリア等の意識・行動変容につながるケースが想定される。また、フェムテック等サポートサービスによる効果には、自己の健康課題に関する意識・行動変容の他に、同僚等への働き方・キャリア等の支援の意識変容につながる可能性も考えられる。
- 仮説検証のため、女性特有の健康課題、働き方・キャリア等の観点で、サービス利用前後での意識変容、行動変容を評価する。



I. 共通指標 (1/2)

- 共通指標は以下の項目から構成しており、フェムテック等サポートサービスの利用前後で評価を行った。
- 対象者属性、フェムテック等サポートサービス利用前の課題、利用サービス、知識・意識、行動、キャリア等アウトカム、フェムテック等サポートサービスによる効果、WHO-HPQについて情報を得た。

#	大カテゴリ	中カテゴリ	調査項目 (2-3以降は質問文)	事前	事後
1	対象者属性	本人属性	年代、性別、就業状況、役職、職種、雇用形態	●	
2		企業等属性	勤務先業種、勤務先の従業員規模	●	
3-1	現在の課題	就業上の課題	現在、働く上でどのような課題を感じていますか。	●	
3-2		女性特有の健康課題	現在、どのような女性特有の健康課題を感じていますか。 注) 女性特有の健康課題とは、月経・PMS、妊娠・不妊、産後ケアに関する課題、更年期、婦人科疾患、ヘルスリテラシーに関する課題等としている。	●	
3-3			女性特有の健康課題に対して、今まで対策をしたことがありますか。	●	
3-4			現在、どの程度女性特有健康課題に関連する症状に困っていますか。	●	●
4-1	利用したサービス	内容	今回利用したフェムテック等サポートサービスは、どのような内容でしたか。あてはまるものを全てお答えください。 注) 経済産業省の実証事業で利用したサービスの他に、それをきっかけにあなたが個別に利用したサービスも含まれます		●
4-2		提供主体	今回利用したフェムテック等サポートサービスは、誰からの情報提供・紹介がきっかけでしたか。 注) 経済産業省の実証事業で利用したサービスの他に、それをきっかけにあなたが個別に利用したサービスも含まれます		●
4-3		サービス選択で重要視する観点	女性特有の健康課題に関連したサービスを選択する上でどのようなことを重視しますか。重要だと思うものを最大3つ選んでください。 男性の場合は自身の職場に導入する場合や同僚に勧める場合に重視することを想定して回答して下さい。	●	●

I. 共通指標 (2/2)

#	大カテゴリ	中カテゴリ	調査項目 (2-3以降は質問文)	事前	事後
5-1	知識・意識	知識	女性特有の健康課題について、あなたの知っていることは何ですか。あてはまるものを全てお答えください。	●	●
5-2		意識	あなたご自身の女性特有の健康課題について、日頃の考えをお答えください。	●	●
6-1	行動	取組状況	あなたご自身の女性特有の健康課題について、日頃の取組状況をお答えください。	●	●
6-2		情報の選択	女性特有の健康課題について、適切な情報を選択していますか。	●	●
6-3		対処	女性特有の健康課題について、適切なケア（自宅等でのセルフケアや医療機関の受診等）ができていますか。	●	●
6-4		ケア方法	具体的にどのような行動をしていますか。	●	●
6-5		企業や自治体の支援	働く女性がその能力を最大限発揮するために、企業や自治体の支援が必要だと考える女性の健康課題は何ですか？特に必要だと考える支援を3つお答え下さい。	●	●
6-6		普及しない理由	フェムテック等サポートサービスについて、あなたが利用・購入・関心を持ちにくいまたは、周囲で普及していないと感じる理由は何ですか？あてはまるものを3つお答え下さい。	●	●
7-1	キャリア等 アウトカム	ロイヤリティ	現在の会社に対し、愛着を持っている。	●	●
7-2		自らのキャリア	女性特有の健康課題によって業務に影響が生じる場合にも、フェムテック等を活用しながら目標をもって前向きに働くことができる。	●	●
7-3			各ライフステージにおいて、女性特有の健康課題があなたに発生した場合にも、その課題を自己管理しながら、キャリアを築いていくイメージが持てる。	●	●
7-4		同僚への配慮	女性特有の健康課題を抱える同僚等に適切な配慮や支援を行うことができる。 注) 女性特有の健康課題とは、月経・PMS、妊娠・不妊、産後ケアに関する課題、更年期、婦人科疾患、ヘルスリテラシーに関する課題等としている。また支援とは、同僚等が抱える健康課題を踏まえて、業務量・内容を調整・分担すること等を示す。	●	●
8-1	効果		利用・導入したフェムテック等サポートサービスによって、あなたや職場に起こった具体的な良い変化をお答えください。	●	●
9-1	WHO-HPQ			●	●

I. 共通指標：プレゼンティーズム

- プレゼンティーズムの定義と評価方法を以下に示す。

プレゼンティーズムとは

- プレゼンティーズムとは、WHO（世界保健機関）によって提唱された健康問題に起因したパフォーマンスの損失を表す指標の一つであり、欠勤には至っておらず勤怠管理上は表に出てこないが、健康問題が理由で生産性が低下している状態を意味している。

評価方法

#	質問文
1	あなたの仕事において、0が誰でも達成できるような仕事ぶり、10が最も優れた勤務者の仕事ぶりとしたとき、同僚等、あなたと似た仕事に携わる他の社員の普段の仕事ぶりを、あなたはどのように評価しますか。
2	あなたの仕事において、0が誰でも達成できるような仕事ぶり、10が最も優れた勤務者の仕事ぶりとしたとき、過去 1-2 年のあなたの普段の仕事ぶりを、あなたはどのように評価しますか。
3	あなたの仕事において、0が誰でも達成できるような仕事ぶり、10が最も優れた勤務者の仕事ぶりとしたとき、過去 4 週間（28 日間）の間の勤務日におけるあなたの総合的な仕事ぶりを、あなたはどのように評価しますか。

区分	算出方法	数値の範囲
絶対的 プレゼンティーズム	# 3に10をかけて算出	0~100
相対的 プレゼンティーズム	# 3を # 1で割ることによって算出	0.25~2.00 0.25< は0.25 2.0> は2.0とする

出典)

https://www.meti.go.jp/policy/mono_info_service/healthcare/downloadfiles/kenkokeieioffice_report.pdf
<https://www.hcp.med.harvard.edu/hpq/ftpd/absenteeism%20presenteeism%20scoring%20050107.pdf>

Ⅲ. 共通指標集計・分析結果

2. 結果サマリー

Ⅱ. 共通指標の結果サマリー（1/2）

サービス等利用前後での意識変容

フェムテックサポートサービス等の利用により、新たな知識が習得できた

- ✓ フェムテックサポートサービス等の利用前に、女性特有の健康課題に対して知識があると回答した者は91.9%と高い割合を占めていた。一方、事後評価においては、70.5%が「今回のサービスをきっかけに新たな情報を知った」と回答した。
- ✓ フェムテックサポートサービス等の利用は、既に一定の知識を有している層においても、新たな知識を習得する機会となった可能性がある。

サービス等の利用により、女性特有の健康課題に気にかける者が増加

- ✓ フェムテックサポートサービス等の利用前に、女性特有の健康課題に対して「あまり気にかけていない」と回答していた人の60%以上が、サービス等利用により「とても気にかけている」～「まあまあ気にかけている」と回答した。

サービス等提供前後での行動変容

サービス等の利用をきっかけに、女性特有の健康課題への「具体的な取組」を開始・継続する人が増加した

- ✓ 事前に「現在は取り組んでいないが、1か月以内に取り組を始めたい」と回答していた層のうち70%以上、「6か月以内に取り組を始めたい」と回答していた層のうち、40%がサービス等利用後に実際の行動開始につながった。

サービス等の利用をきっかけに、女性特有の健康課題に関して「適切な情報を選択できる」ようになった人、適切なケア（セルフケア・医療機関受診等）を「実行できている」と感じる人が増加した

- ✓ フェムテックサポートサービス等の利用後の適切な情報の選択ができるかという質問に対して、事前では適切な情報の選定が「全くできない」～「あまりできない」と回答した層のうち、半数以上が事後には「とてもできる」～「まあまあできる」に変化しており、サービス等の利用が情報選択の改善につながった可能性が示唆された。
- ✓ 適切なケアの選択についても、事前評価で「全くできない」～「あまりできない」と回答した層のうち、40%以上が事後には「とてもできる」～「まあまあできる」に変化しており、知識・意識の変化が実際の対処行動（セルフケア・医療機関受診等）に結びつく可能性が示された。

Ⅱ. 共通指標の結果サマリー (2/2)

普及・阻害要因

「情報アクセス」と「選択の難しさ」が、普及を阻害する主な要因である可能性が考えられる

- ✓ フェムテックサポートサービス等が周囲で普及していないと感じる理由として、「どこで買えるか／始められるかがわからない」・「フェムテックという言葉や製品を知らなかった」・「正しい情報や体験談が手に入りにくい」が上位であることから、フェムテックに関する認知不足や体験情報への接触の少なさが、普及を阻害している可能性が示唆される。今後は、普及啓発とともに具体的な利用イメージが伝わる情報発信が重要である。

キャリア等のアウトカムへの効果

フェムテックサポートサービス等の利用は、女性の健康課題とキャリア等のアウトカムに対して一定の効果が見られた。

- ✓ 女性特有の健康課題によって業務に影響が生じる場合にも、目標をもって前向きに働くことができるという自信や、健康課題を自己管理しながらキャリアを築いていくイメージを持つことにつながっていた。
- ✓ 「女性特有の健康課題によって業務に影響が生じる場合にも、目標をもって前向きに働くことができるか」との問いに対し、事前に「あまりあてはまらない」「全くあてはまらない」と回答した人の60%以上が、事後には「とてもあてはまる」～「まあまああてはまる」に変化していた。
- ✓ 同様に、「各ライフステージにおいて健康課題が発生した場合にも、自己管理しながらキャリアを築いていくイメージが持てるか」についても、事前に「あまりあてはまらない」と回答した人の50%以上でポジティブな変化（「とてもあてはまる」～「まあまああてはまる」の回答）が確認された。

プレゼンティーズムへの効果

フェムテックサポートサービス等の利用により、プレゼンティーズムの上昇効果が見られた

- ✓ 年代別分析では、すべての年代で絶対的プレゼンティーズムが改善しており、特に、60代、20代、40代での改善幅が大きかった。
- ✓ 領域別での絶対的プレゼンティーズムは、ヘルスリテラシー、月経・PMS、更年期に関するサービス利用で改善幅が大きかった。

Ⅲ. 共通指標集計・分析結果

3. 基礎集計

Ⅲ. 基礎集計：事業者別の状況

- フェムテック等サポートサービス提供事業者9社から、事前評価1,186件、事後評価816件を回収した。
- 以降に集計・分析の結果を示す。

	事業者名（※採択事業者番号順）	評価指標の回答状況			サービスカテゴリ ** (重複あり)						
		事前評価	事後評価	事後アンケート回収率*	月経・PMS	妊娠・不妊	産後ケア	更年期	婦人科疾患	ヘルスリテラシー	その他
1	株式会社WithMidwife	406	208	51.2%	●	●		●	●	●	
2	FUJIYAMA BRIDGE LAB株式会社	70	38	54.3%	●			●	●	●	
3	株式会社SympaFit	32	21	65.6%	●					●	●
4	国立大学法人大阪大学	60	58	96.7%				●		●	
5	パナソニック（株）くらしアプライアンス社	117	105	89.7%	●	●	●	●	●	●	
6	株式会社ジェイコム九州	230	145	63.0%	●	●	●	●	●	●	
7	株式会社Melon	56	38	67.9%			●	●		●	
8	HerlifeLab株式会社	142	130	91.5%				●	●	●	
9	株式会社コスミックコーポレーション	73	73	100.0%	●			●	●	●	●
	合計	1,186	816	68.8%	928	753	403	1,154	1,038	1,186	105

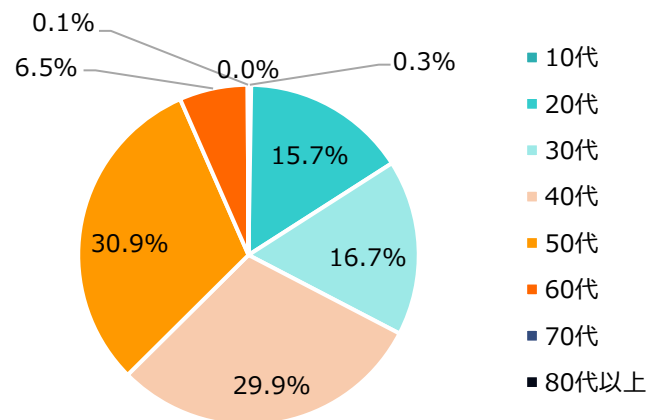
*事後のみのデータを除いた件数で回収率を計算

** 経済産業省 フェムテックwebサイトにてタグ付けされたサービスカテゴリを採用

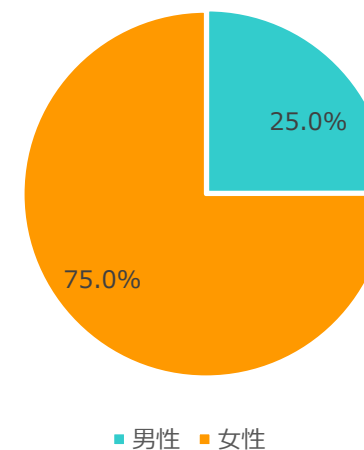
Ⅲ. 基礎集計：対象者属性

- 回答者の年代は50歳代が30.9%で最も多く、次いで40歳代、30歳代が多かった。また、男女比は女性が70%以上であった。
- 事前事後ともに90%以上の者が就業していた。

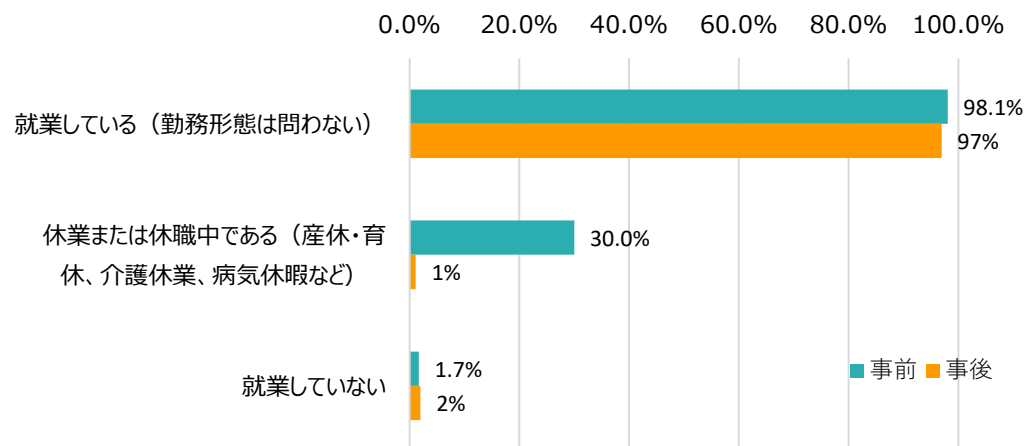
年代 (SA, n=1,186)



性別 (SA, n=1,181)



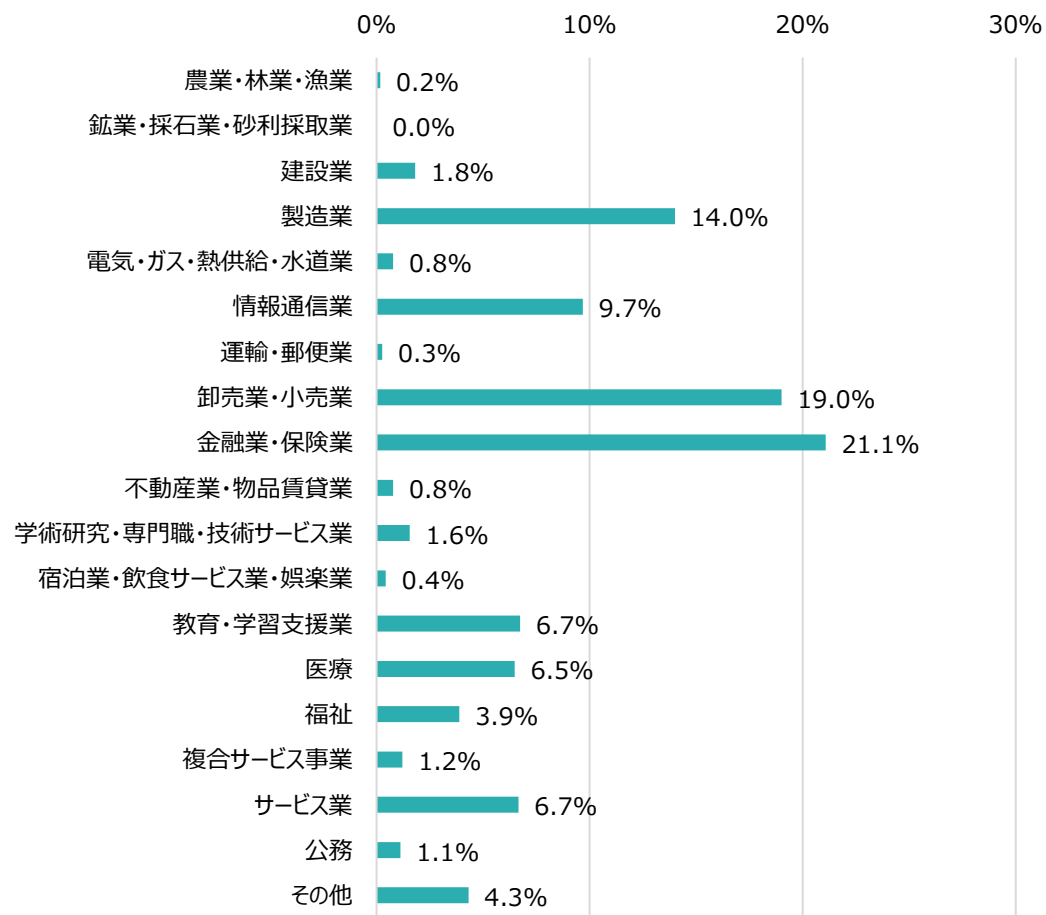
就業状況 (SA, 事前n=1,186、事後n=814)



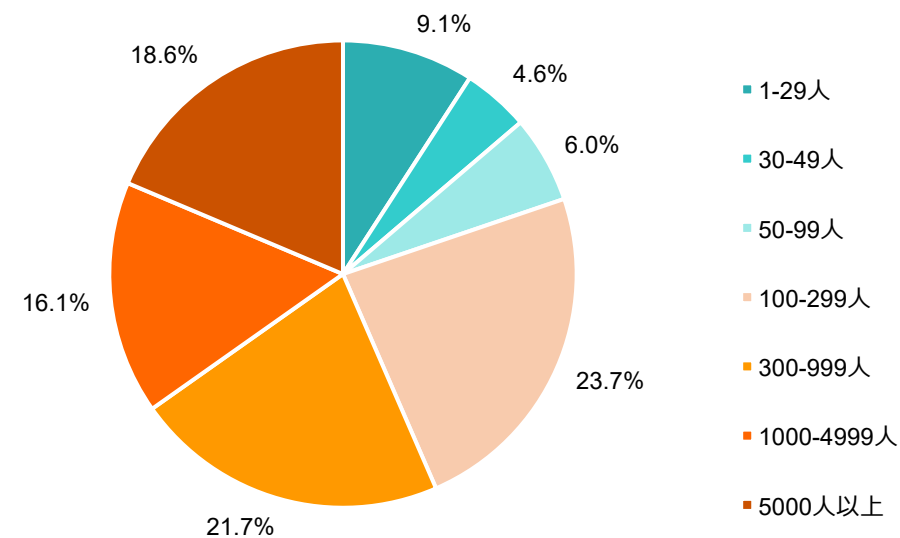
Ⅲ. 基礎集計：就業に関する状況①

- 回答者の業種は「金融業・保険業」が21.1%で最も多く、次いで「卸売業・小売業」が19.0%と多かった。
- 勤務先の従業員規模は、「100-299人」が最も多く、次いで「300-999人」が多かった。

勤務先の業種 (SA, n=1,157)



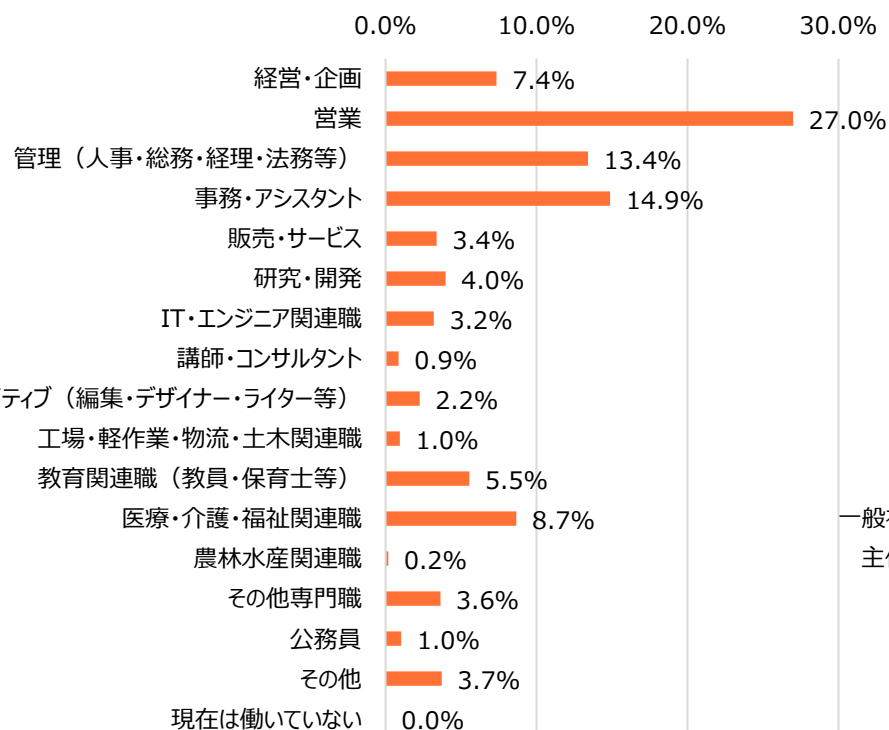
従業員規模 (SA, n=1,127)



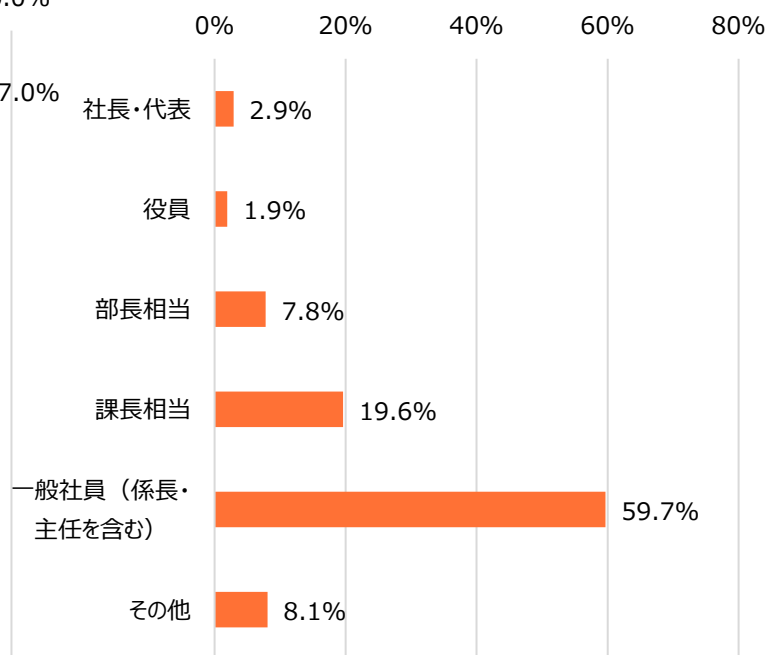
Ⅲ. 基礎集計：就業に関する状況②

- 回答者の職種は「営業」が最も多く27.0%であった。役職は「一般社員」が74.1%と最も多く、雇用形態は86.7%が「正社員」であった。

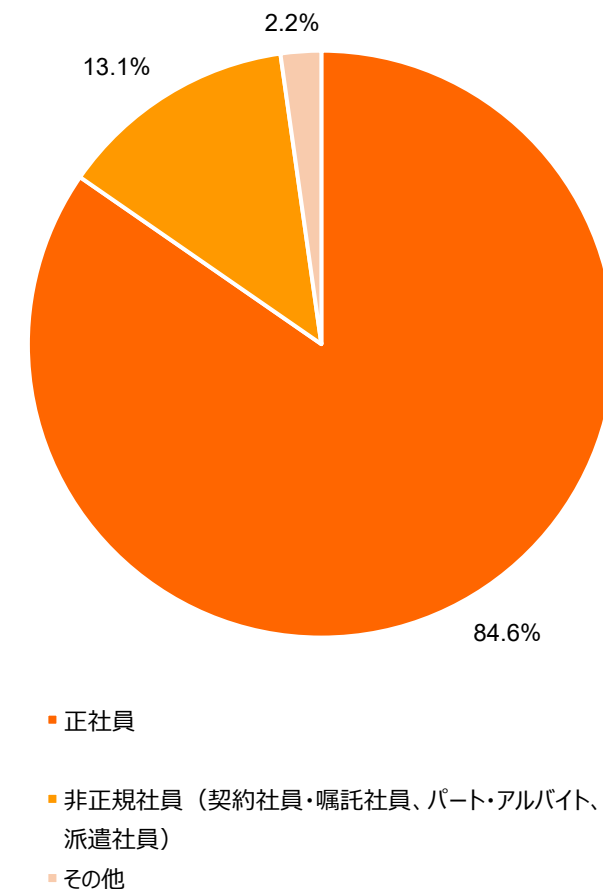
職種 (SA, n=1,156)



役職 (SA, n=1,141)



雇用形態 (SA, n=1,165)



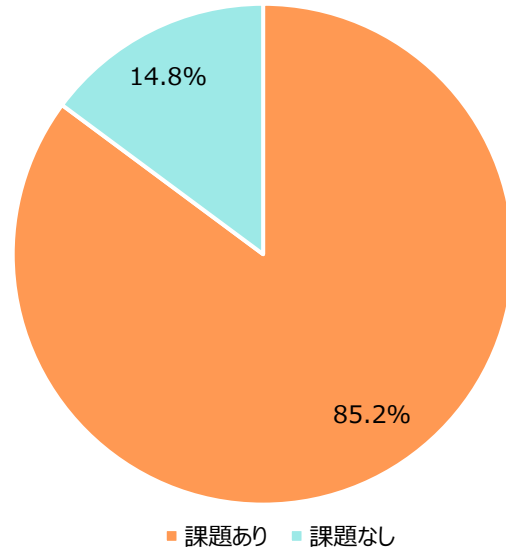
Ⅲ. 共通指標集計・分析結果

4. 単純集計

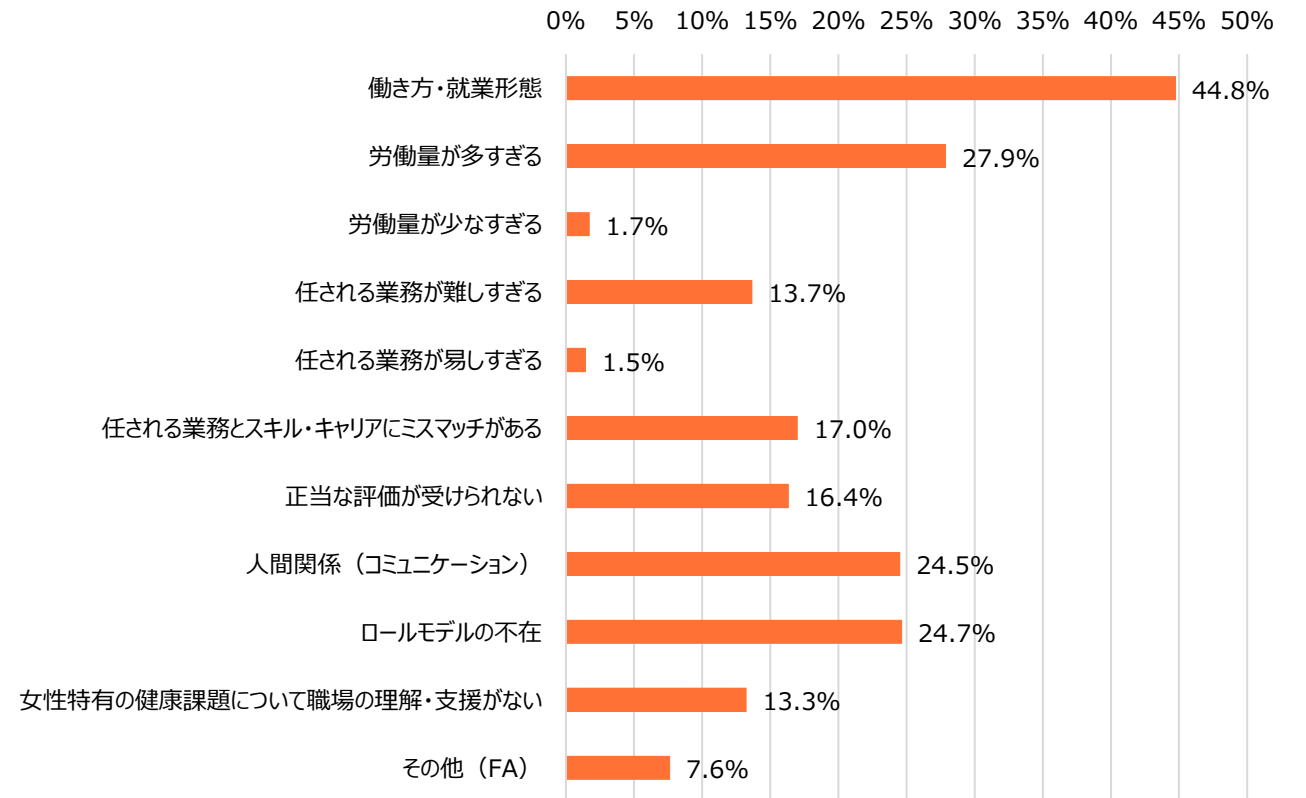
IV. 単純集計：勤務する上での課題

- 勤務する上での課題を感じていると回答した人は85.2%であった。
- 課題の具体的な内容としては、「働き方・就業形態」、「労働量が多すぎる」、「ロールモデルの不在」の順に多かった。

勤務する上での課題（MA, 女性のみn=886）



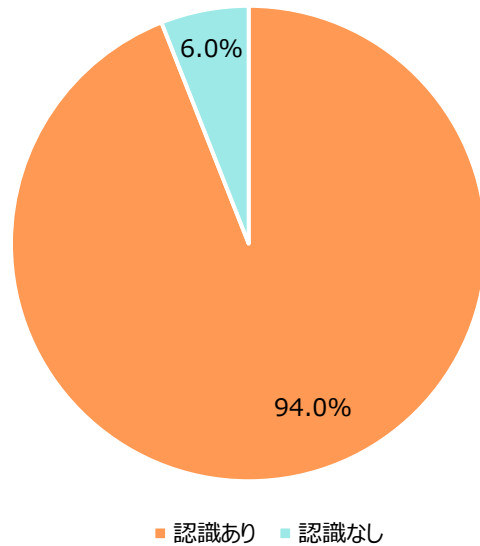
課題の具体的な内容（MA, n=886）



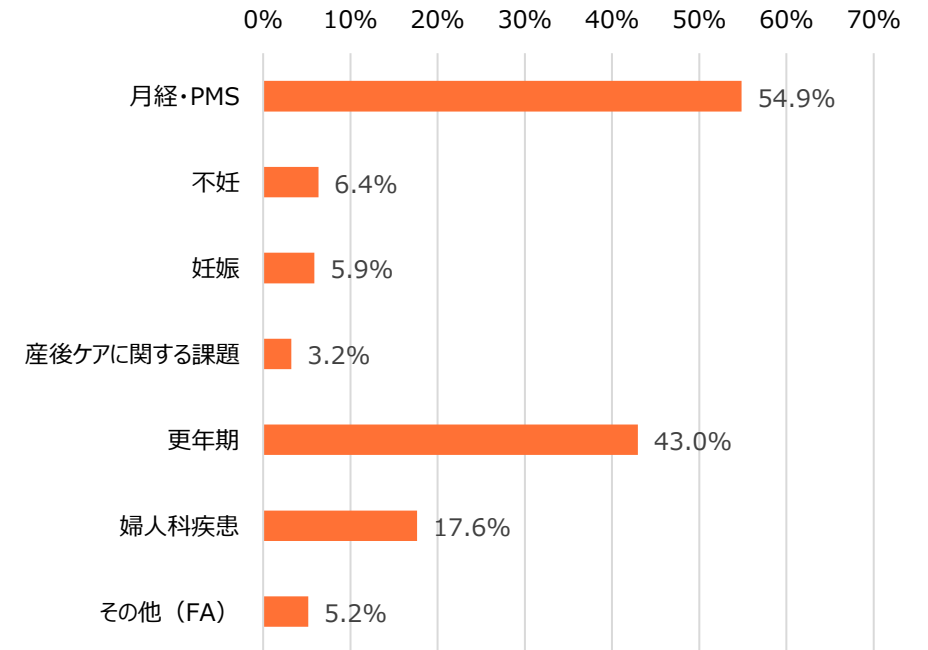
IV. 単純集計：女性特有の健康課題

- 女性の回答者のうち、なんらかの女性特有の健康課題を感じている人は94.0%であった。課題の内容としては、「月経・PMS」、「更年期」、「婦人科疾患」の順に多かった。

現在感じている女性特有の健康課題
(SA, 女性のみn=886)



課題の具体的な内容 (MA, 女性のみn=886)



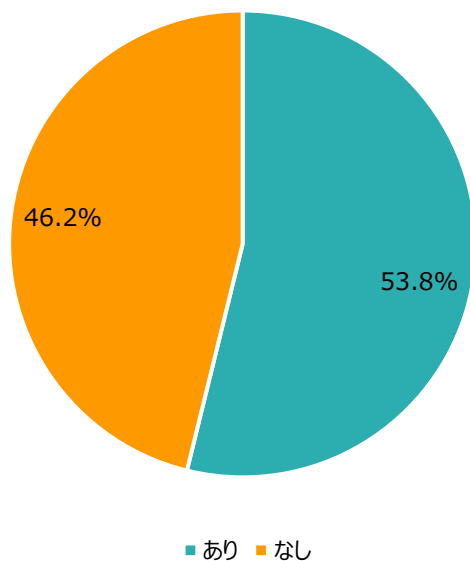
IV. 単純集計：実証をきっかけに利用したフェムテック等サポートサービス①

事前評価

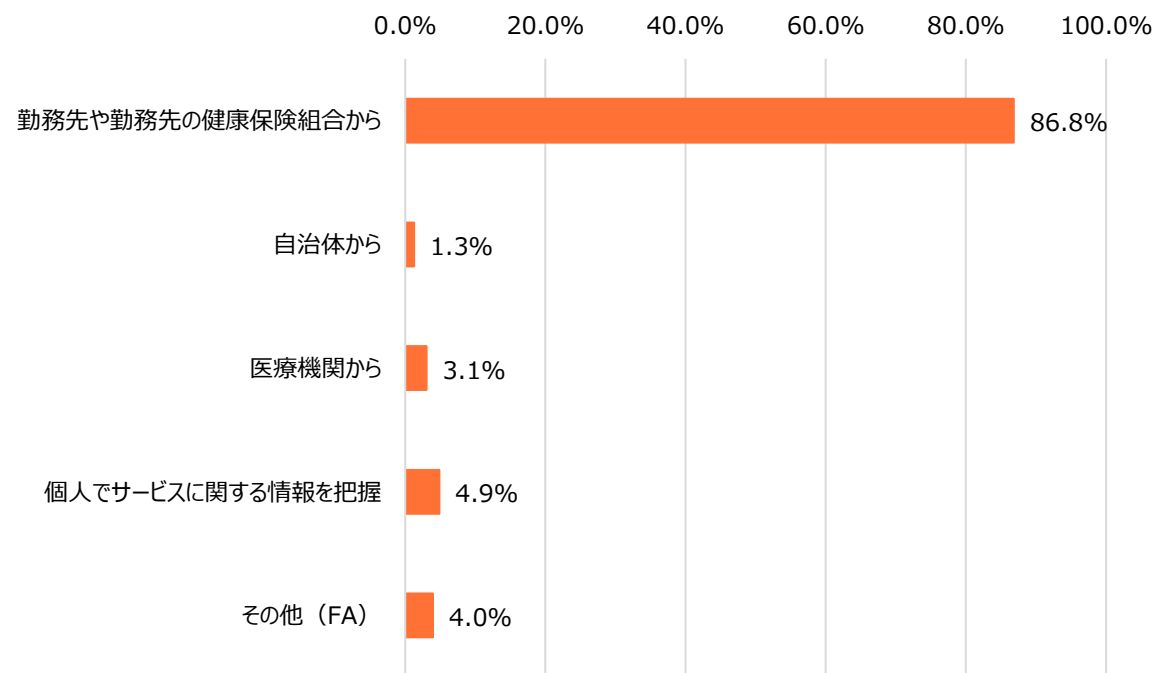
事後評価

- 女性の回答者のうち、女性特有の健康課題に今まで対策をしたことのある人は53.8%であった。
- 今回利用したサービスの情報提供・紹介元は「勤務先や勤務先の健康保険組合から」が最も多く86.8%であった。

今まで対策をしたことがあるか
(SA, 女性のみn=886)



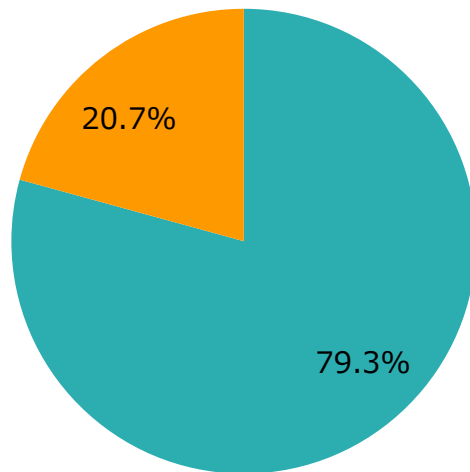
今回利用したサービスの紹介元 (MA, n=555)



IV. 単純集計：実証をきっかけに利用したフェムテック等サポートサービス②

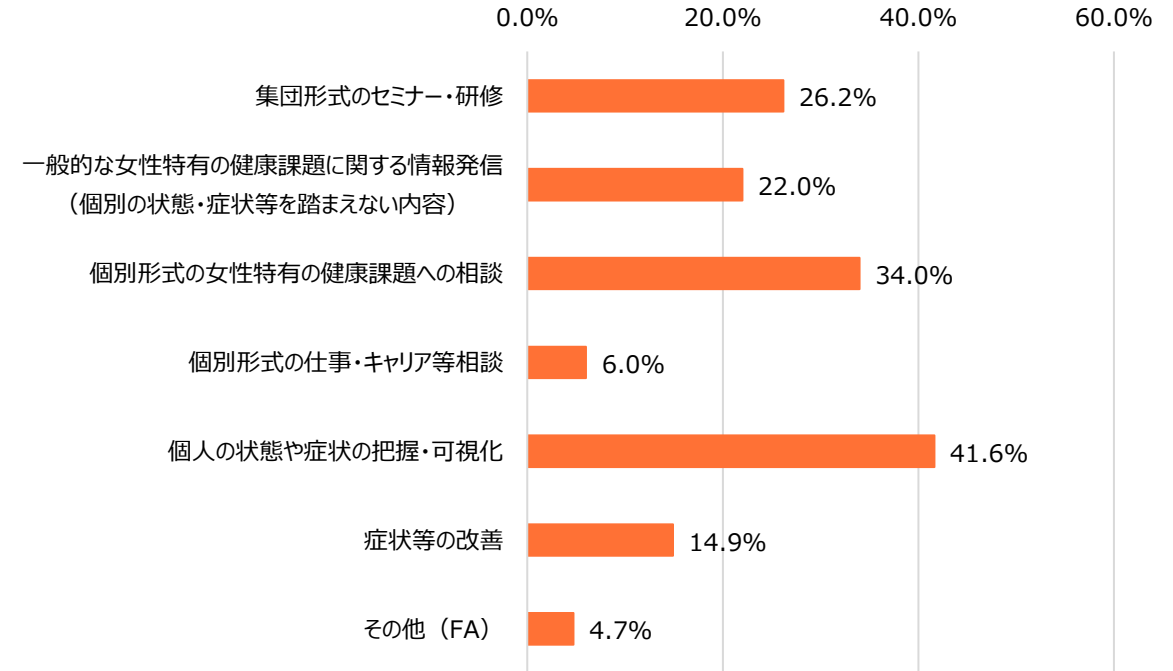
- 回答者のうち何らかのフェムテック等サポートサービスを利用した人は79.3%であった。
- 利用したサービスの内容としては、「個人の状態や症状の把握・可視化」、「個別形式の女性特有の健康課題への相談」、「集団形式のセミナー・研修」の順に多かった。

サービス利用の有無 (MA, n=822)



■ 利用あり ■ 利用なし

利用したサービスの具体的な内容 (MA, n=763)

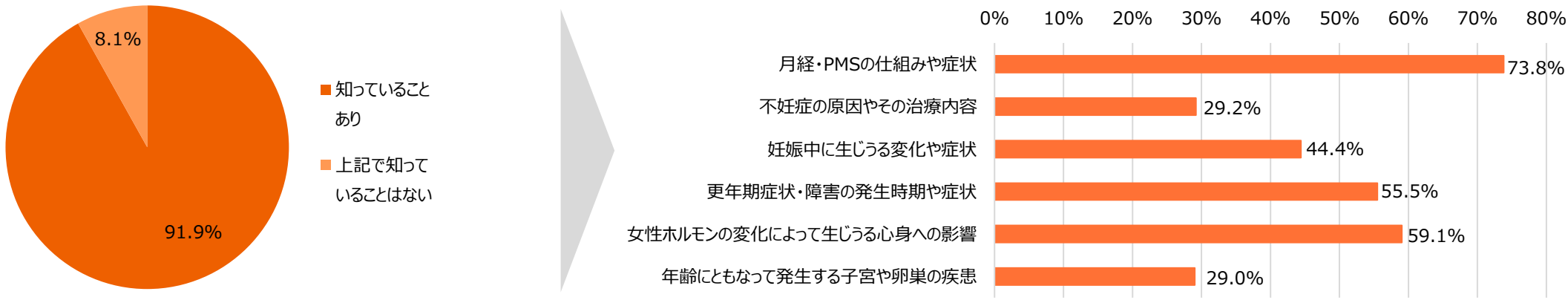


※ 一般的な女性特有の健康課題に関する情報発信は、個別の状態・症状等を踏まえない内容である

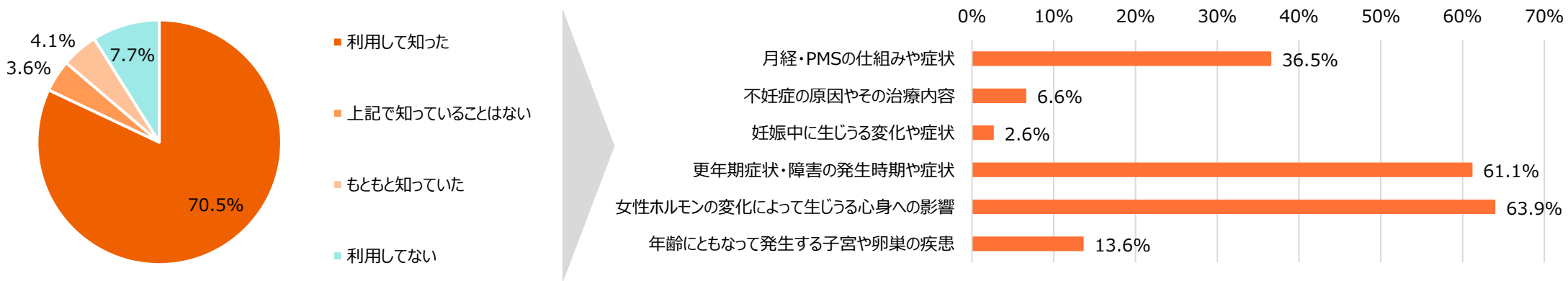
IV.単純集計：女性特有の健康課題への意識（意識）

- 女性特有の健康課題について「知っていることがある」と回答した人は事前評価では91.9%であり、内容は「月経・PMSの仕組みや症状」が最も多かった。事後評価では、今回利用したサービスをきっかけに情報を知ったかどうかについて、「何らかの情報を知った」と回答した人が70.5%であった。フェムテックのサービス等の利用以前から、女性特有の健康課題の知識を得ていた可能性がある。

女性特有の健康課題に関する知識（実証前） (MA, n=1,159)



女性特有の健康課題に関する知識（実証後） (MA, n=606)

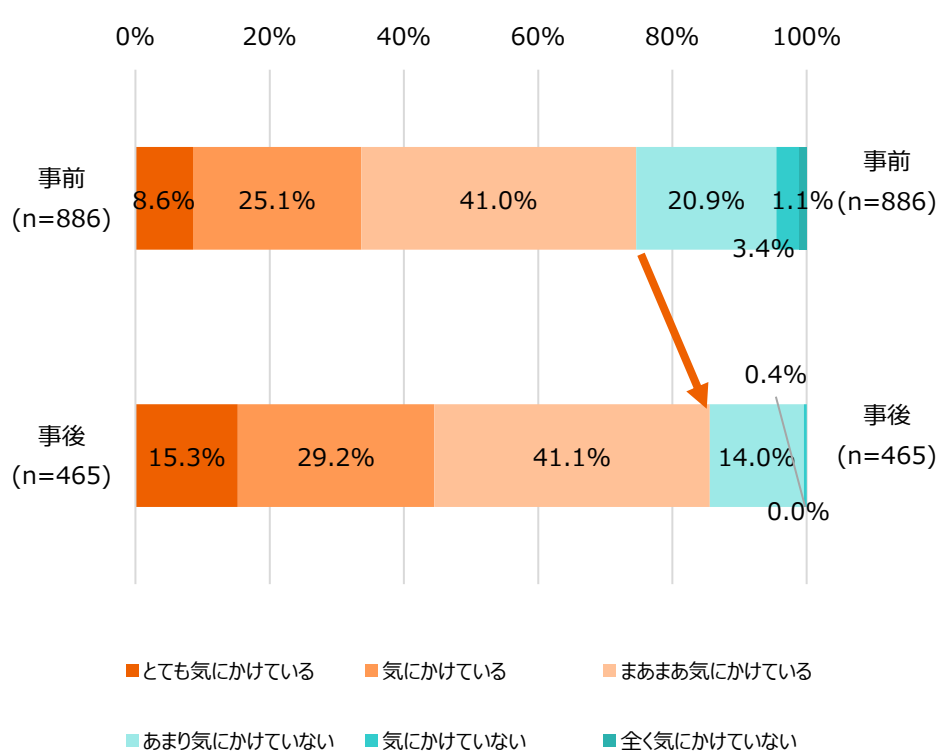


IV.単純集計：実証前後での女性特有の健康課題への意識・取組の状況

- サービス提供前後で、女性特有の健康課題への日頃の意識、適切な情報の選択は「とてもあてはまる」～「まあまああてはまる」と回答した人がそれぞれ約11ポイント、20ポイント増加した。日頃の取り組みでは「過去6か月以内・6か月より前に取組を開始し、現在も取組んでいる」と回答した人が約17ポイント増加した。本実証を通じて日頃から女性特有の健康課題を気にかける人が増え、情報の選択や取組といった行動につながった可能性がある。

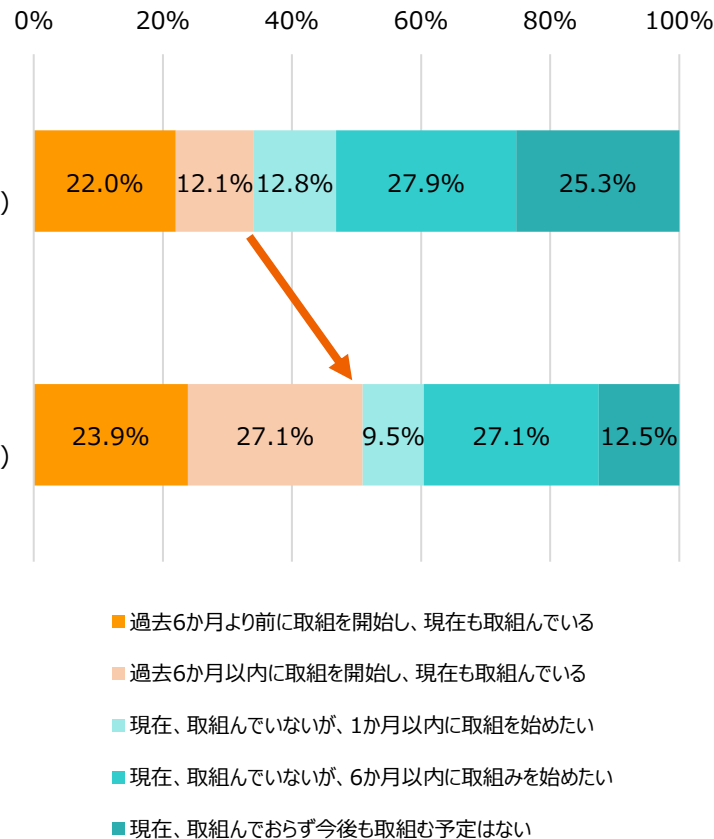
女性特有の健康課題への日頃の意識

※ 女性のみ回答

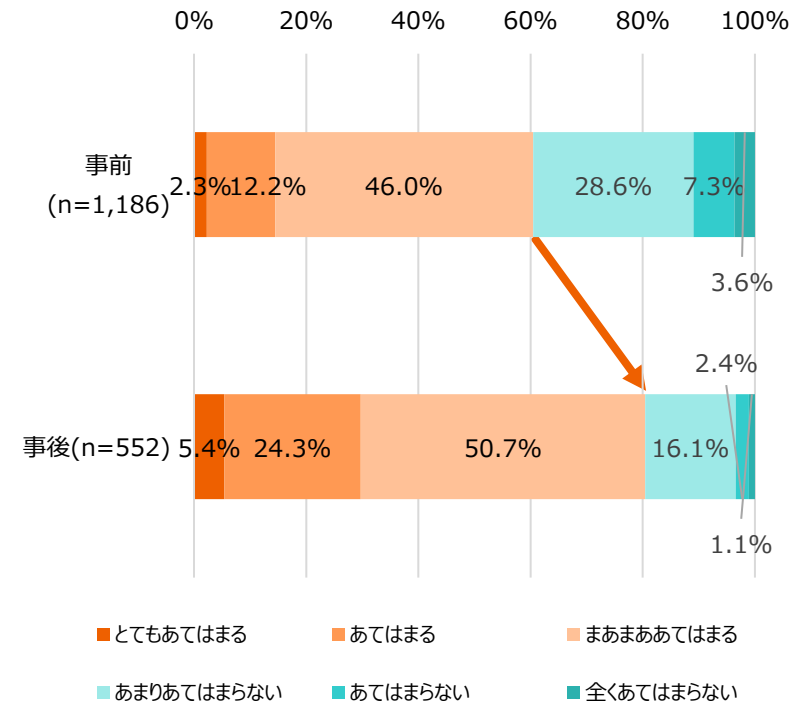


女性特有の健康課題への日頃の取組

※ 女性のみ回答



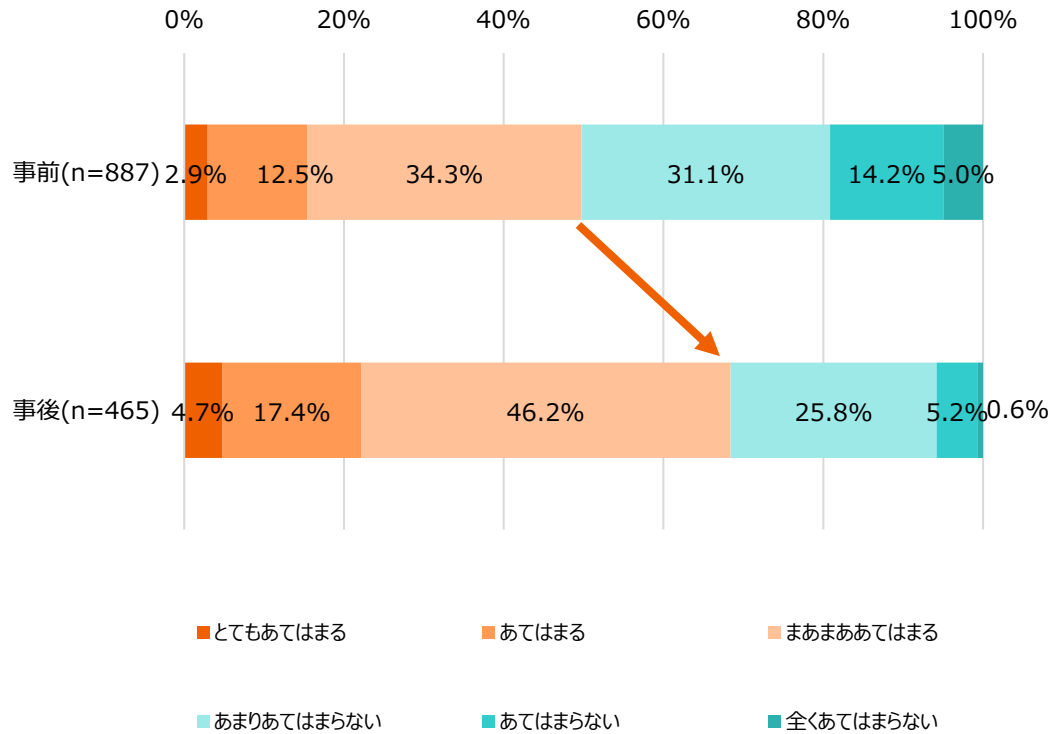
適切な情報の選択



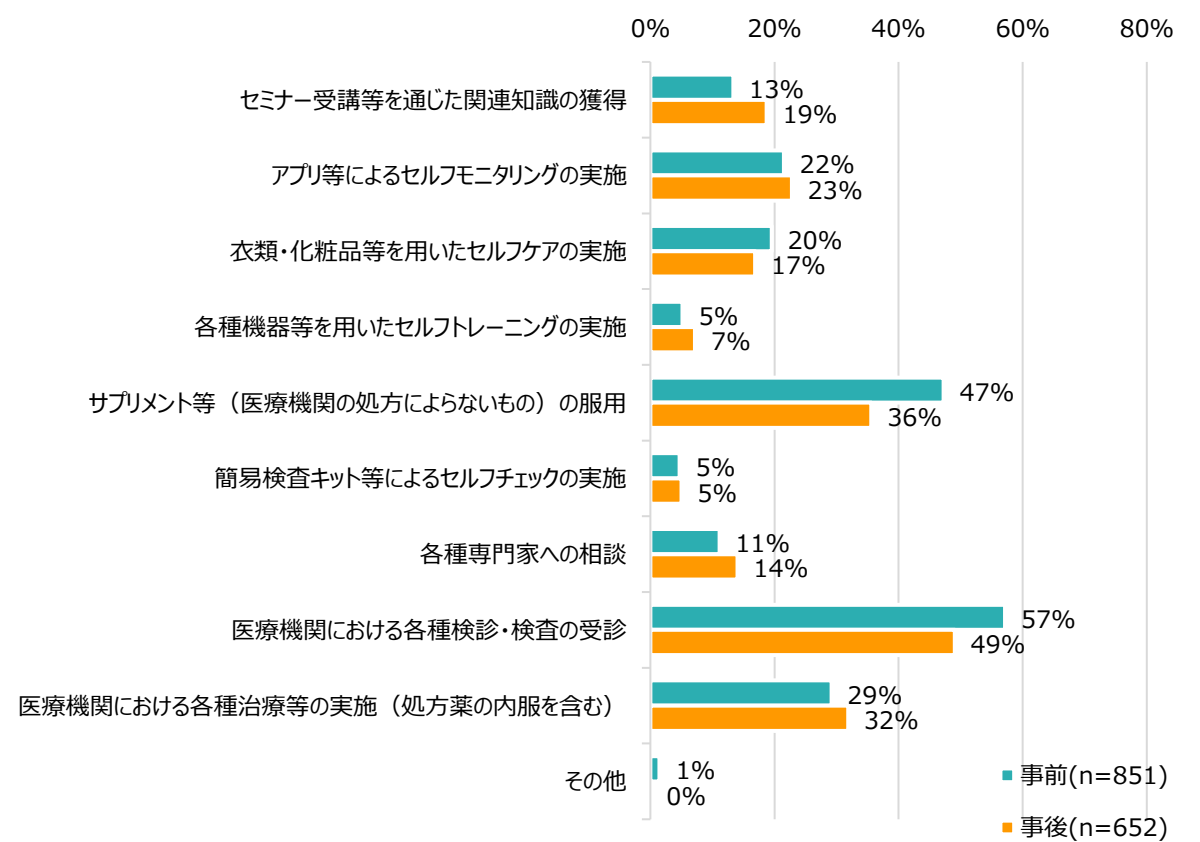
IV.単純集計：実証前後で女性特有の健康課題への取組の状況

- 女性特有の健康課題に関する適切なケアできているかどうかについて、「とてもあてはまる」～「まあまああてはまる」と回答した人と回答した人は実証前後で約19ポイント増加した。具体的の実施しているケアの内容としては実証前後で大きな傾向の違いは見られなかった。

適切なケアの実施状況



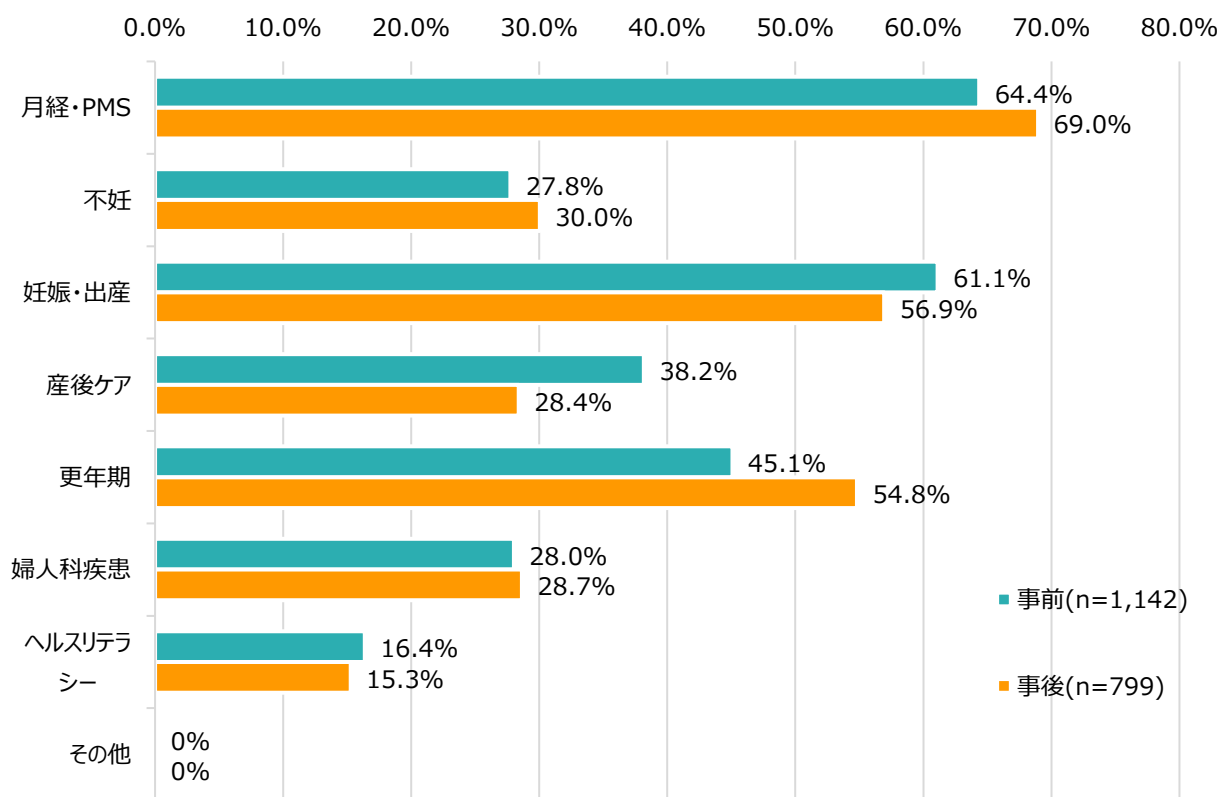
適切なケアの実施状況 (MA)



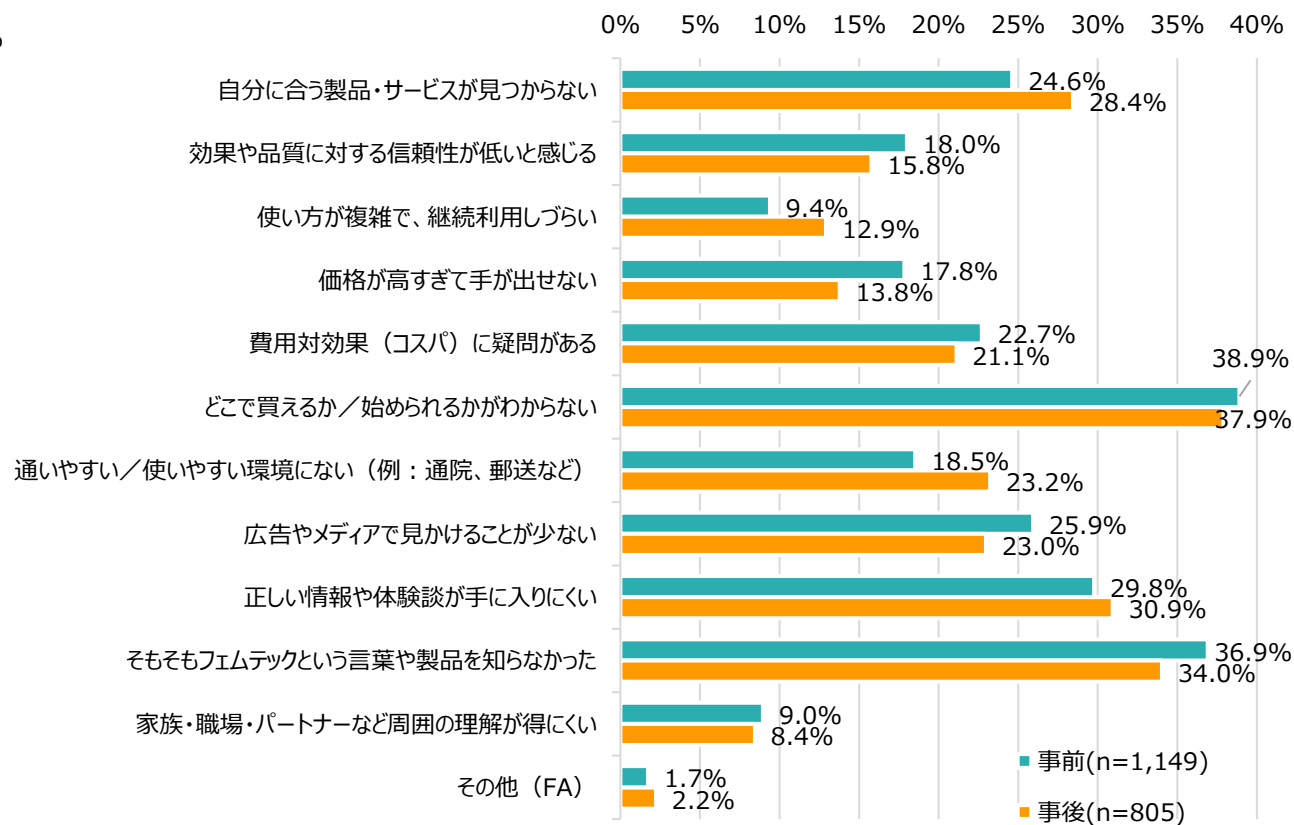
IV.単純集計：企業や自治体の支援・普及を阻害する要因

- 企業や自治体の支援が必要と考える女性の健康課題は、月経・PMS、次いで妊娠・出産が多かった。
- フェムテックサポートサービス等の普及の阻害要因について、事前・事後の回答割合およびその差に着目して分析を行った。その結果、「どこで買えるか／始められるかがわからない」「フェムテックという言葉や製品を知らなかった」「正しい情報や体験談が手に入りにくい」といった、情報へのアクセスや選択の難しさに関する項目が、事前・事後ともに回答割合が高かった。

企業や自治体の支援が必要だと考える女性の健康課題（MA）



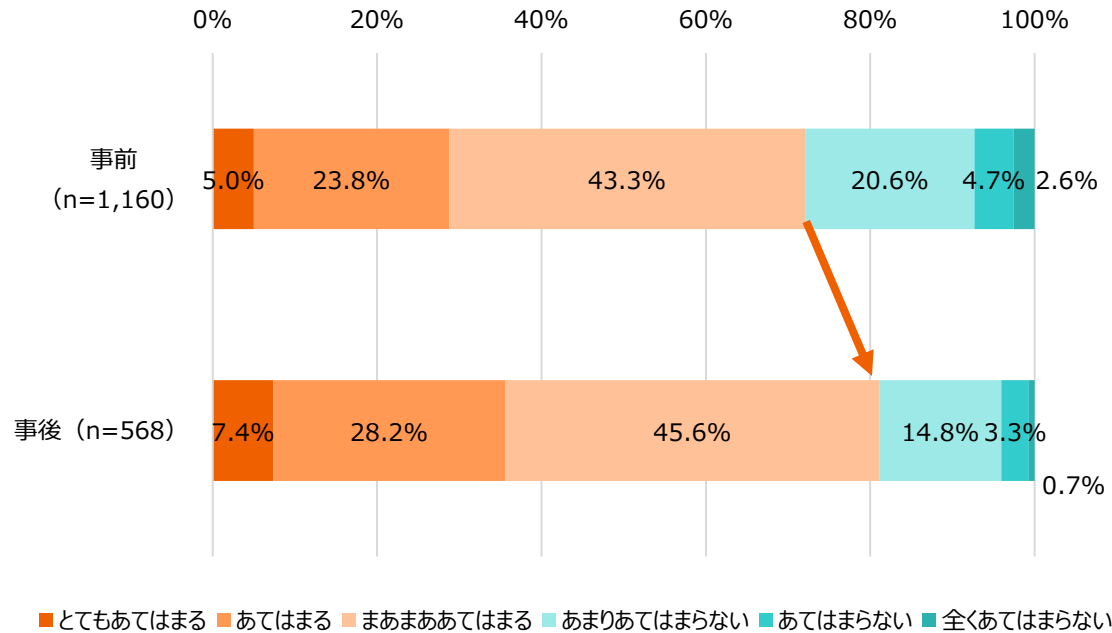
周囲で普及していないと感じる理由（MA）



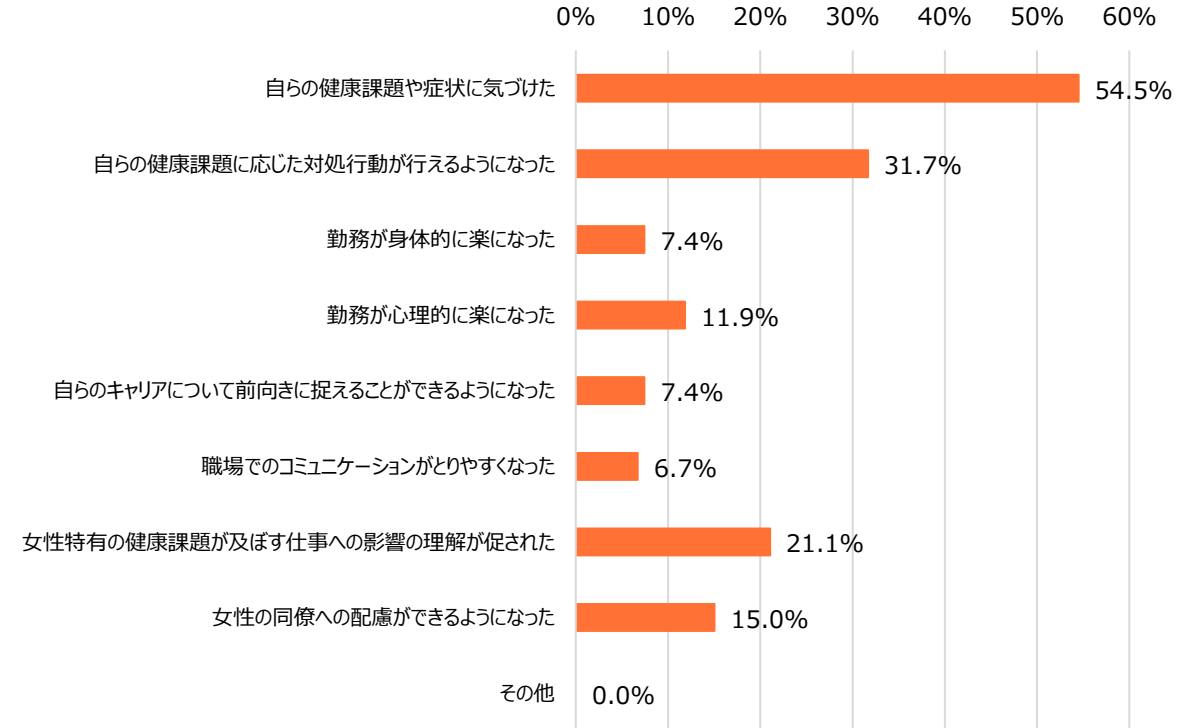
IV.単純集計：実証による効果

- サービス提供前後で、女性特有の健康課題を抱える同僚等に適切な配慮や支援を行うことができると回答した人は約9ポイント増加した。利用・導入したフェムテック等サポートサービスによって、自分や職場に起こった具体的な良い変化があった人は回答者の78%であり、具体的には「自らの健康課題や症状に気づけた」、「自らの健康課題に応じた対処行動が行えるようになった」、「女性特有の健康課題が及ぼす仕事への影響の理解が促された」の順に多かった。本実証を通じて、知識や意識だけでなく、具体的な行動の変化があった可能性が示された。

同僚等に適切な配慮や支援を行うことができるか



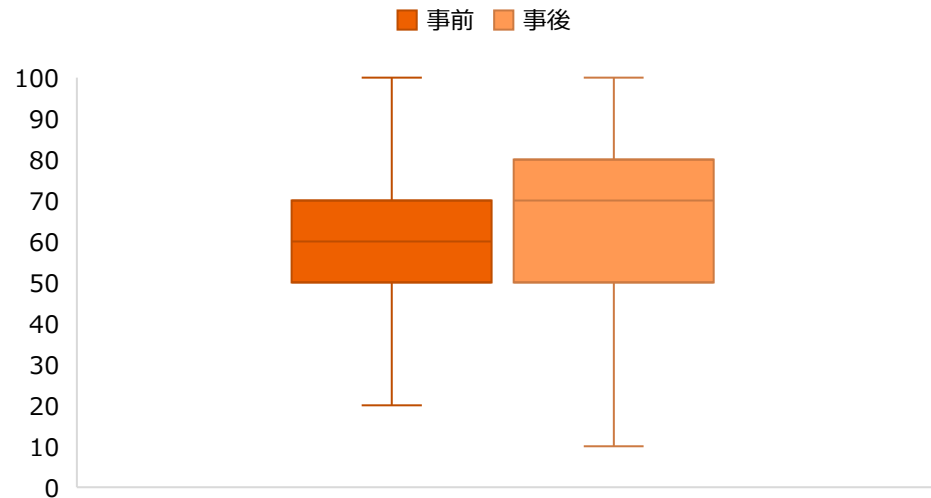
あなたや職場に起こった具体的な良い変化（実証後）（MA, n=565）



IV.単純集計：実証前後でのプレゼンティーズム

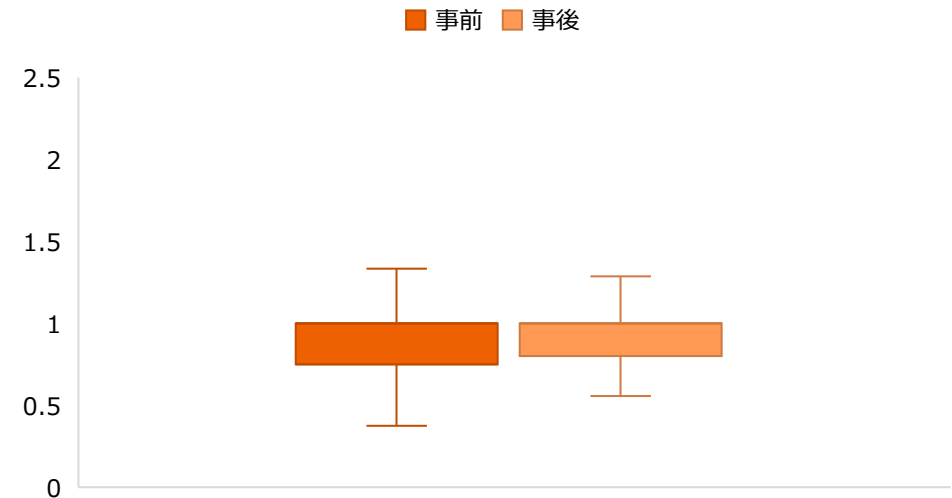
- サービス等提供前後で、絶対的プレゼンティーズムのスコアの平均値は59.4から65.0へ上昇した。一方、相対的プレゼンティーズムの平均値は0.94から0.95へと、ほぼ横ばいで推移した。

絶対的プレゼンティーズム



	事前	事後
平均	59.4	65.0
標準偏差	21.1	19.4
中央値 (第二四分位)	60.0	70.0
最小値	10.0	0.0
第一四分位	50.0	50.0
第三四分位	70.0	80.0
最大値	100.0	100.0

相対的プレゼンティーズム



	事前	事後
平均	0.94	0.95
標準偏差	0.33	0.28
中央値 (第二四分位)	1.00	1.00
最小値	0.25	0.25
第一四分位	0.75	0.80
第三四分位	1.00	1.00
最大値	2.00	2.00

Ⅲ. 共通指標集計・分析結果

5. サービス等提供前後での分析

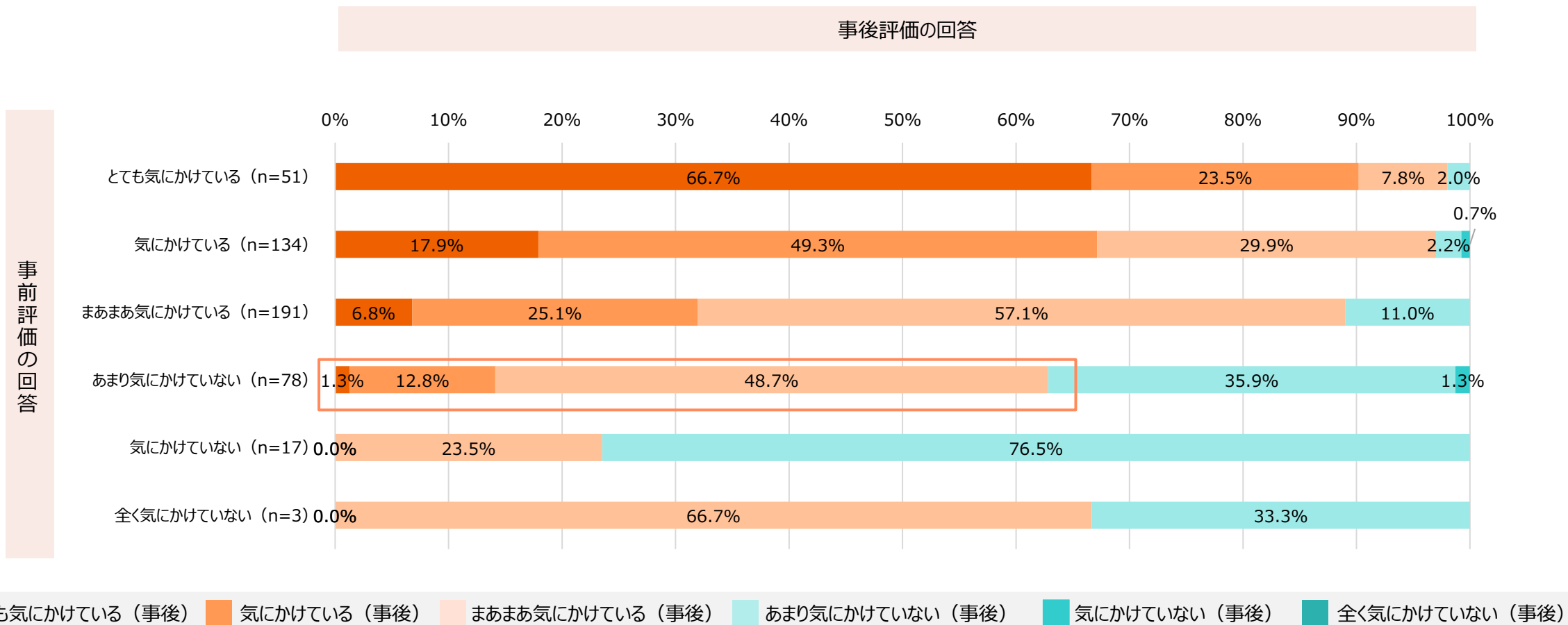
- ① 女性特有の健康課題への意識（意識）
- ② 女性特有の健康課題への取組状況（行動）
- ③ キャリア等のアウトカム
- ④ プレゼンティーズムの変化

V. サービス等提供前後での分析：女性特有の健康課題に対する意識の変化

- 女性特有の健康課題に対して、事前評価で「あまり気にかけていない」と回答した層においても、事後には約6割が「まあまあ気にかけている」以上に移行しており、サービス利用前後でより自身の女性特有の健康課題について気にかけるようになっていた。

※グラフの縦軸は事前評価の回答を示し、グラフ中の割合は事後評価における回答割合を示す

女性特有の健康課題に対する日頃の意識の変化（SA, n=474）

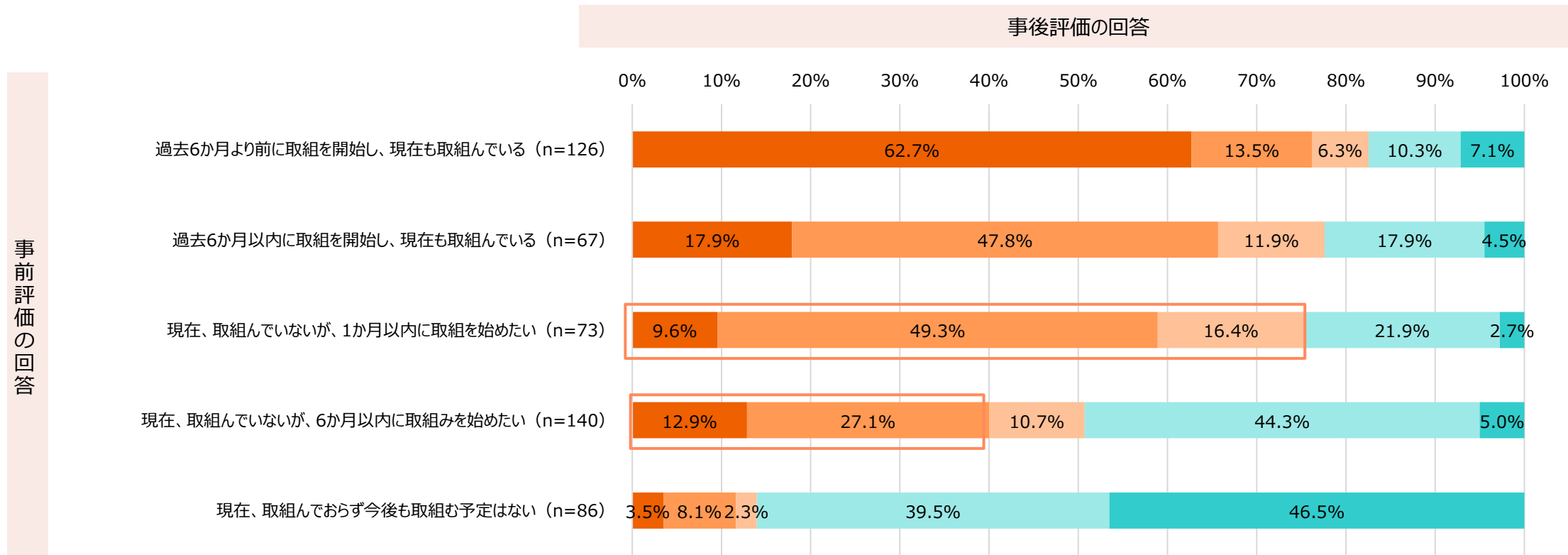


V. サービス等提供前後での分析：女性特有の健康課題に対する行動の変化

- 女性特有の健康課題に対する行動について、事前に「1か月以内に取り組みを始めた」としていた層のうち、約7割が事後に実際の行動開始に至っていた。さらに、事前に「6か月以内に取り組みを始めた」と回答した層においても、約4割が事後に実際の行動開始に至っており、全体として行動段階の前進が認められる。

※グラフの縦軸は事前評価の回答を示し、グラフ中の割合は事後評価における回答割合を示す

日頃の女性特有の健康課題に対する取組の変化 (SA, n=492)



■ 過去6か月より前に取組を開始し、現在も取組んでいる (事後)
 ■ 過去6か月以内に取り組みを開始し、現在も取組んでいる (事後)
 ■ 現在、取組んでいないが、1か月以内に取り組みを始めた (事後)
 ■ 現在、取組んでいないが、6か月以内に取り組みを始めた (事後)
 ■ 現在、取組んでおらず今後も取組む予定はない (事後)

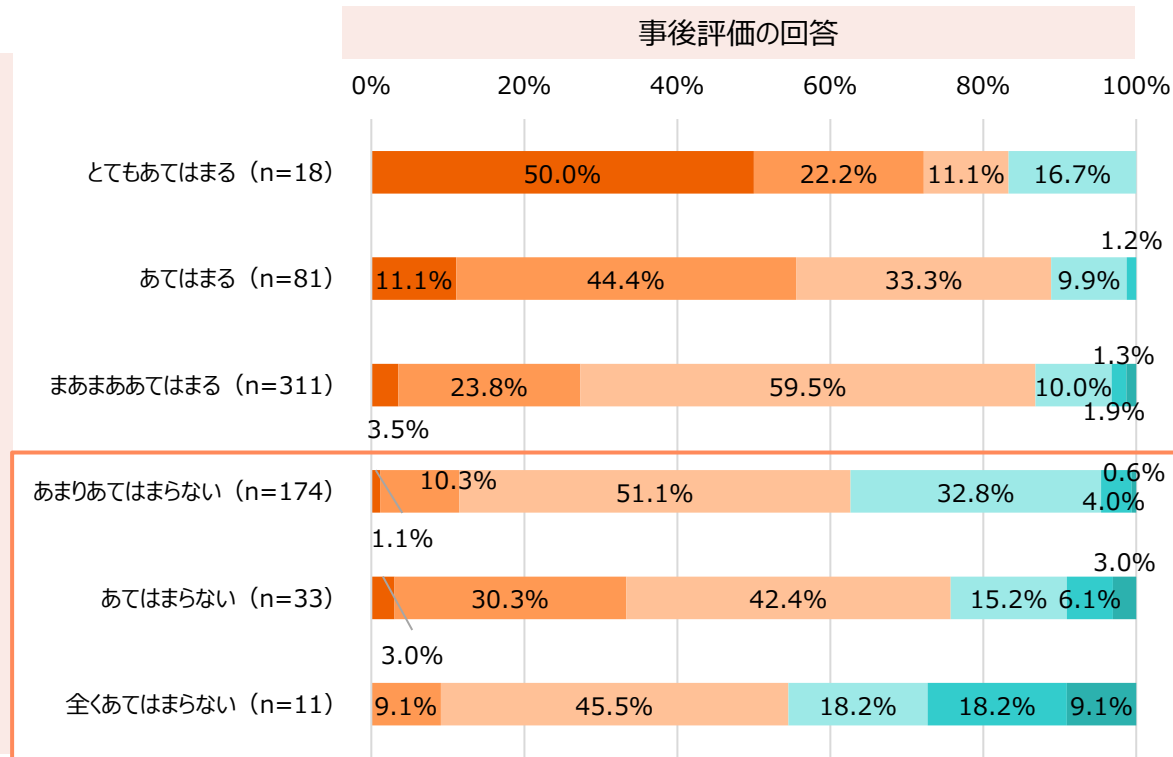
V. サービス等提供前後での分析：適切な情報やケアの選択

- 適切な情報の選択ができているかとの問いに事前評価で、「全くあてはまらない」～「あまりあてはまらない」と回答した人の半数以上が、サービス等提供後に「とてもあてはまる」～「まあまああてはまる」に変化していた。
- また、適切なケアの選択ができているかとの問いに事前評価で、「全くあてはまらない」～「あまりあてはまらない」と回答した人の40%以上が、サービス提供後に「とてもあてはまる」～「まあまああてはまる」に変化していた。

※グラフの縦軸は事前評価の回答を示し、グラフ中の割合は事後評価における回答割合を示す

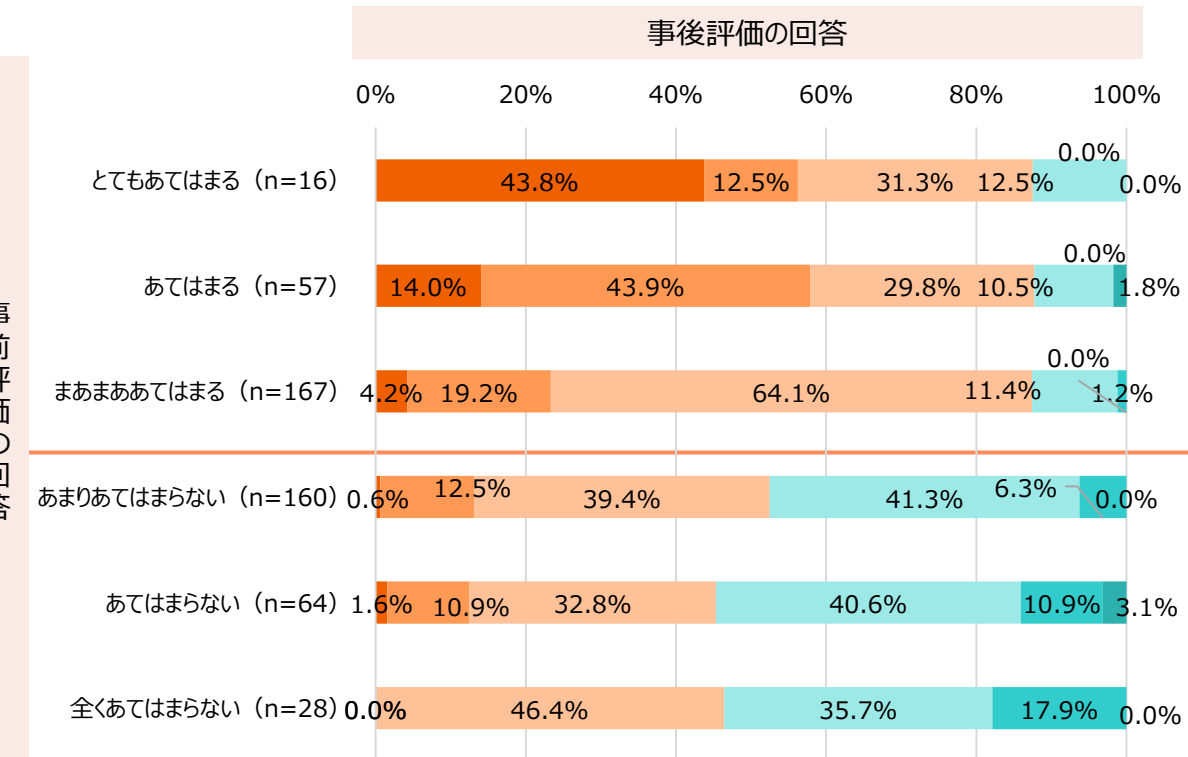
適切な情報の選択 (SA, n=628)

事前評価の回答



適切なケアの選択 (SA, n=492)

事前評価の回答



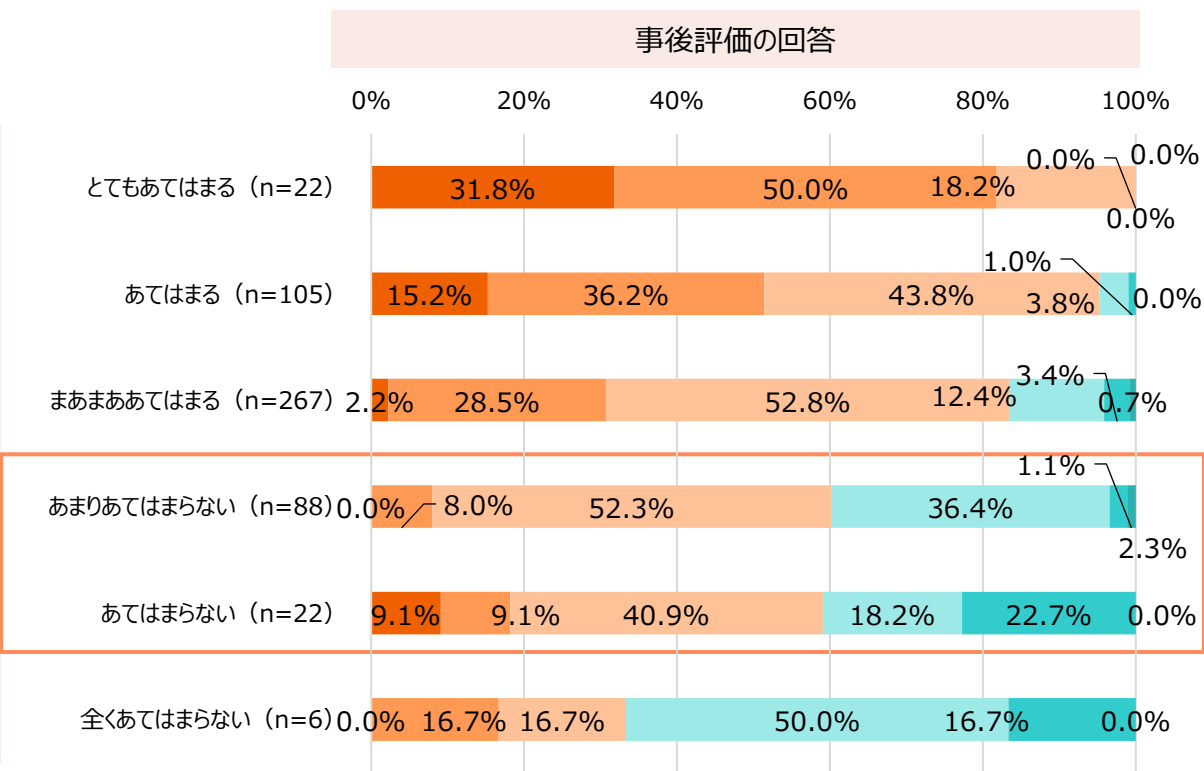
V. サービス等提供前後での分析：自身のキャリアへの考え方やイメージの変化

- 女性と特有の健康課題が発生して目標をもって前向きに働けるかとの問いに、「あまりあてはまらない」「あてはならない」と回答した人の約60%がサービス利用後に「とてもあてはまる」～「まあまああてはまる」に変化した。
- 同様に、キャリアを築いていくイメージが持てるかに対しては「あまりあてはまらない」と回答した人の約50%以上でポジティブな変化が見られた。

※グラフの縦軸は事前評価の回答を示し、グラフ中の割合は事後評価における回答割合を示す

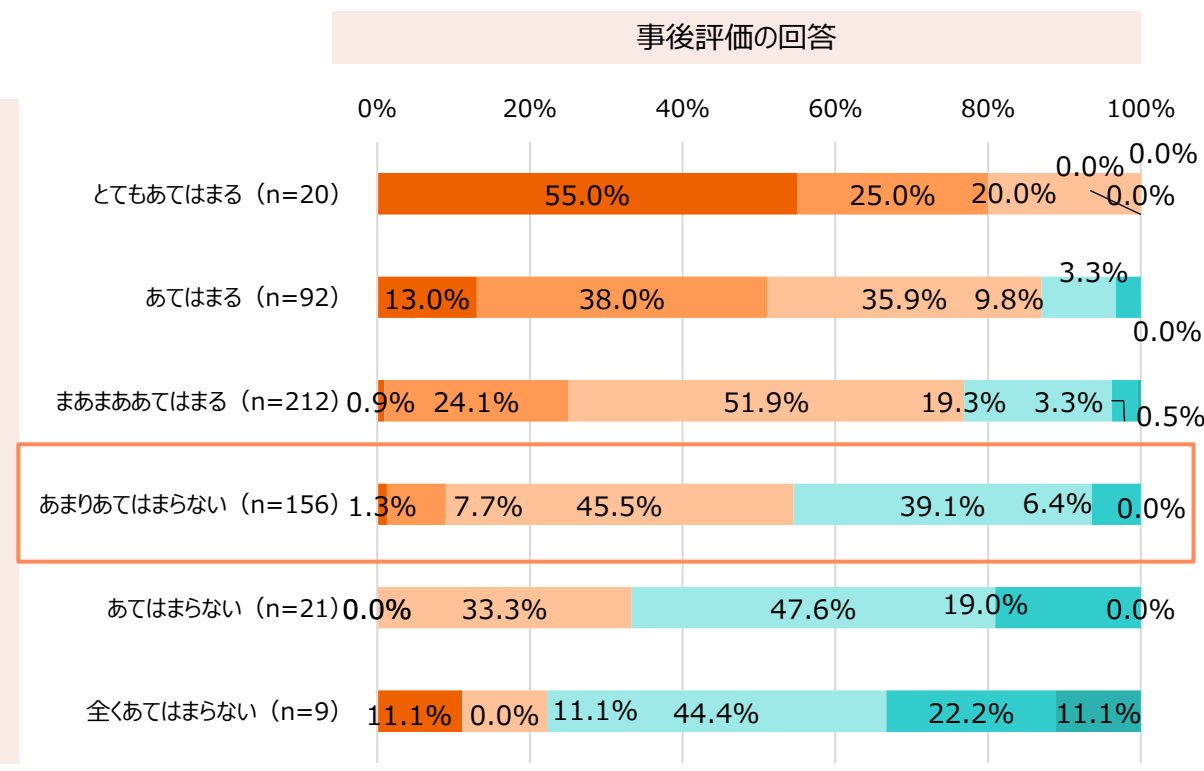
目標をもって前向きに働けるか (SA, n=510)

事前評価の回答



キャリアを築いていくイメージが持てるか (SA, n=510)

事前評価の回答



とてもあてはまる (事後) あてはまる (事後) まあまああてはまる (事後) あまりあてはまらない (事後) あてはまらない (事後) 全くあてはまらない (事後)

V. サービス等提供前後での分析：年代別でのプレゼンティーズムの変化

- 本事業の前後で比較すると、ほぼすべての年代で絶対的プレゼンティーズムが改善していた。特に、60代、20代、40代での改善が大きかった。
- 一方、相対的プレゼンティーズムについては、20代、30代では改善が見られたものの、40代以降では改善は見られなかった。

A：絶対的 プレゼンティーズム

平均値※2

前後の
平均値の差

20歳代 (A : n=186, 71)^{※1}
(B : n= 184, 71)^{※1}

51.0 → 58.6

7.6

30歳代 (A : n=193, 110)^{※1}
(B : n=191, 110)^{※1}

58.4 → 64.0

5.6

40歳代 (A : n=349, 213)^{※1}
(B : n=348, 212)^{※1}

62.0 → 66.8

4.8

50歳代 (A : n=355, 227)^{※1}
(B : n=360, 227)^{※1}

61.8 → 65.7

3.9

60歳代 (A : n=75, 37)^{※1}
(B : n=69, 36)^{※1}

57.9 → 66.2

8.3

B：相対的 プレゼンティーズム

平均値※2

前後の
平均値の差

0.82 → 0.86

0.03

0.91 → 0.92

0.01

0.97 → 0.97

0.00

0.98 → 0.96

-0.02

1.01 → 0.97

-0.04

※1 正規分布であることを確認し平均値を示した

※2 カッコ内のn数は絶対的・相対的プレゼンティーズムそれぞれの事前、事後評価の集計人数を示す

• 尚、10歳代はn=3、70歳代はn=1と少なかったため集計から除外した

V. サービス等提供前後での分析：領域でのプレゼンティーズムの変化

- 本事業の前後において、すべてのサービス領域で絶対的プレゼンティーズムが改善していた。一方、相対的プレゼンティーズムは不変であった。特にヘルスリテラシー、月経・PMS、更年期に関するサービスで仕事のパフォーマンスが改善が大きかった。

		A：絶対的 プレゼンティーズム		B：相対的 プレゼンティーズム	
		平均値※2	前後の平均値の差	平均値※2	前後の平均値の差
月経・PMS	(A : n=922, 436)※1 (B : n=897, 434)※1	58.2 → 63.7	5.6	0.93 → 0.93	0.00
妊娠・不妊	(A : n=753, 324)※1 (B : n=746, 324)※1	57.8 → 62.1	4.3	0.92 → 0.90	-0.02
産後ケア	(A : n=385, 285)※1 (B : n=401, 285)※1	62.4 → 64.0	1.7	0.95 → 0.92	-0.03
更年期	(A : n=1,136, 642)※1 (B : n=1,129, 640)※1	58.9 → 64.5	5.5	0.94 → 0.94	0.00
ヘルスリテラシー	(A : n=1,161, 660)※1 (B : n=1,155, 658)※1	59.4 → 65.0	5.7	0.94 → 0.95	0.01
その他	(A : n=99, 81)※1 (B : n=81, 74)※1	57.3 → 72.5	15.2	1.01 → 1.03	0.02

※1 正規分布であることを確認し平均値を示した

※2 カッコ内のn数は絶対的・相対的プレゼンティーズムそれぞれの事前、事後評価の集計人数を示す

・ 複数の領域にわたってサービス等を提供している事業者があり重複した集計結果である

IV. 採択事業者の最終報告会資料

FUJIIYAMA BRIDGE LAB

株式会社



つきのかたち

働く女性のための
ウェルビーイングパートナー

FUJIYAMA BRIDGE LAB株式会社

令和7年度フェムテック等サポートサービス実証事業費補助金
最終報告資料

働く女性を支えるAIコーチングサービス



つきのかたち

「生理がつらいけど言いにくい」

「なんとなく仕事がしんどいけど、誰に相談したらいいのかわからない」

体調不良や仕事のモヤモヤや将来の不安・・・

多くの女性が感じながらも言い出せず我慢で乗り切っている現状があります。

つきのかたちは、“声にならない声”を、

AIとの対話で少しずつ言語化し、**自律的キャリア形成をサポート**します。

匿名分析した女性の声は企業へフィードバック。

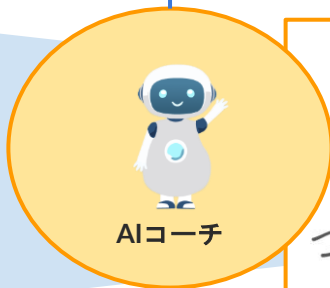
女性たちの本音に寄り添い、企業の未来を変えるきっかけをつくります。



事業概要

AIコーチが個と組織の両面からキャリア形成支援を行う

対話データを匿名分析



女性社員

AIメンターによる内省支援を通じ、働く女性のウェルビーイングを向上

企業

会話ログの分析により、女性活躍推進の施策内容や、取り組みの優先順位を把握する

本事業の背景・事業目的

背景

日本において性別役割分業意識は根強く (※1)、多様なキャリアやロールモデルに触れる機会の不足が、働く女性の就労継続やキャリア向上の停滞に影響している。働く女性自身と、企業の女性活躍推進の双方を支援できる仕組みが十分に整っていない。

(※1) 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方に賛成する人の割合は33.1%(「賛成」4.5+「どちらかといえば賛成」28.6%)となっており、約3人に1人が性別役割分業を支持し、前回調査と大きな割合の変化がない。
https://survey.gov-online.go.jp/women_empowerment/202502/r06/r06-danjo/#sub11

解決したい課題

- 女性は特有の健康課題やライフスタイルの多様性により、適切なメンターやロールモデルを見つけづらい
- 悩みの内容が他者と共有しづらいことが多く、企業側も女性の本音を把握しにくい

実施項目と目標

① リバランスセミナー

■対象

企業で働く従業員（性別問わず）

■内容

- 働く女性を取り巻く環境、女性特有健康課題の基礎知識についての講義
- 誰もが働きやすい環境について考えるワーク

■目標

項目	目標
セミナー受講後、女性特有の健康課題についてどの程度知識が深まったか	「十分知識が深まった」 「深まった」：計50%以上



TOKAIホールディングス様にて実施

実施項目と目標

② アプリ導入

■対象 企業で働く従業員（女性のみ）

■内容

- ① AIコーチ・ルミナとの対話
- ② 月経、更年期のセルフチェック
- ③ オンライン看護師相談
- ④ クリニック紹介「応援ドクター」

■目標

項目	目標
主観的ウェルビーイング指標	利用前より向上
本音を話せた人の割合	80%以上
ルミナ回答満足度	平均7.0以上(10段階評価)
会話後にポジティブな気持ちになった人の割合	80%以上



AIコーチ

看護師の専門知識、女性のキャリア課題を学んだ生成AI。気軽な悩み相談やコーチングを行う

看護師相談

看護師にオンラインで気軽に相談が可能

セルフチェック

生理や更年期の状態を、簡単なスコアチェックで見える化

応援ドクター

女性ヘルスケア専門医の資格を持った医師を中心に紹介

実施項目と目標

③ インサイトレポート

働く女性とAIコーチの会話ログを匿名分析し、
相談傾向や課題をフィードバック

2. エグゼクティブサマリー

本分析から、以下3つの重要な発見が明らかになりました。

身体的健康への不安が最多、背景にワークライフバランスの課題

女性社員の相談で最も多いのは身体的健康に関する内容（76件、23.2%）です。慢性的な疲労、睡眠不足などが顕著ですが、その背景には「早朝4時起床・21時退社」「残業削減要請と業務量増加の板挟み」といった厳しい労働環境があります。全社員に最適化された環境を提供するのは難しいかもしれませんが、改善の余地を探していきましょう。

優秀な社員のバーンアウトの可能性と成長意欲

経験豊富な社員から「スタッフの入れ替わりが多く、業務を教えて成長しても異動になる。少し疲れてしまった」という声が寄せられました。一方で、健康診断受診率8年連続100%を達成した53歳の産業保健担当者が「新しいことを学びたい。経営管理部や総務部で従業員の健康施策を企画したい」と意欲を示しています。派遣スタッフの入れ替わりや正社員の異動により、常に育成役を担い続ける負担が、優秀な人材のモチベーションを低下させている可能性があります。高い成長意欲を持っている社員も存在します。

複数課題を同時に抱える層への支援体制の強化が鍵

時間的制約（長時間労働）、健康上の課題、家庭との両立の3つを同時に抱える社員が複数確認されました。現状のサポート体制では、個別の困難に対応できておらず、相談先（スクールカウンセラーなど）も機能していないケースがあります。社員のプライベートに介入するのは難しい部分がありますが、組織ができることを探していきましょう。

3. 相談テーマの分析

テーマ別キーワードマッチ数

テーマ	マッチ数	割合
身体的健康	76	23.2%
メンタルヘルス	62	18.9%
キャリア・仕事	59	18.0%
ワークライフバランス	45	13.7%
自己肯定感	24	7.3%
人間関係	22	6.7%

※1つのメッセージが複数テーマに該当する場合があります

詳細分析

テーマ1: 身体的健康 (23.2%)	
代表的な相談例	「繁忙期に入っていて休めません」 「乳がん検診、頭痛外来など、クリニックがあるが予約が優劫。有休を適院で使うのが嫌」

■対象

企業の人事担当者

■内容

女性とAIコーチ・ルミナの会話ログを匿名分析する

- ・相談テーマ分析と詳細
- ・会社への要望
- ・重点的に支援が必要な層
- ・人事施策の提案 等

■目標※

発行数：10回

※当初、企業人事担当者へのアンケートにてインサイトレポートの有用性を評価する計画であったが、人事担当者の助言を踏まえ、定性評価で深堀を行うこととした。

実施項目・目標（KPI）と達成状況一覧

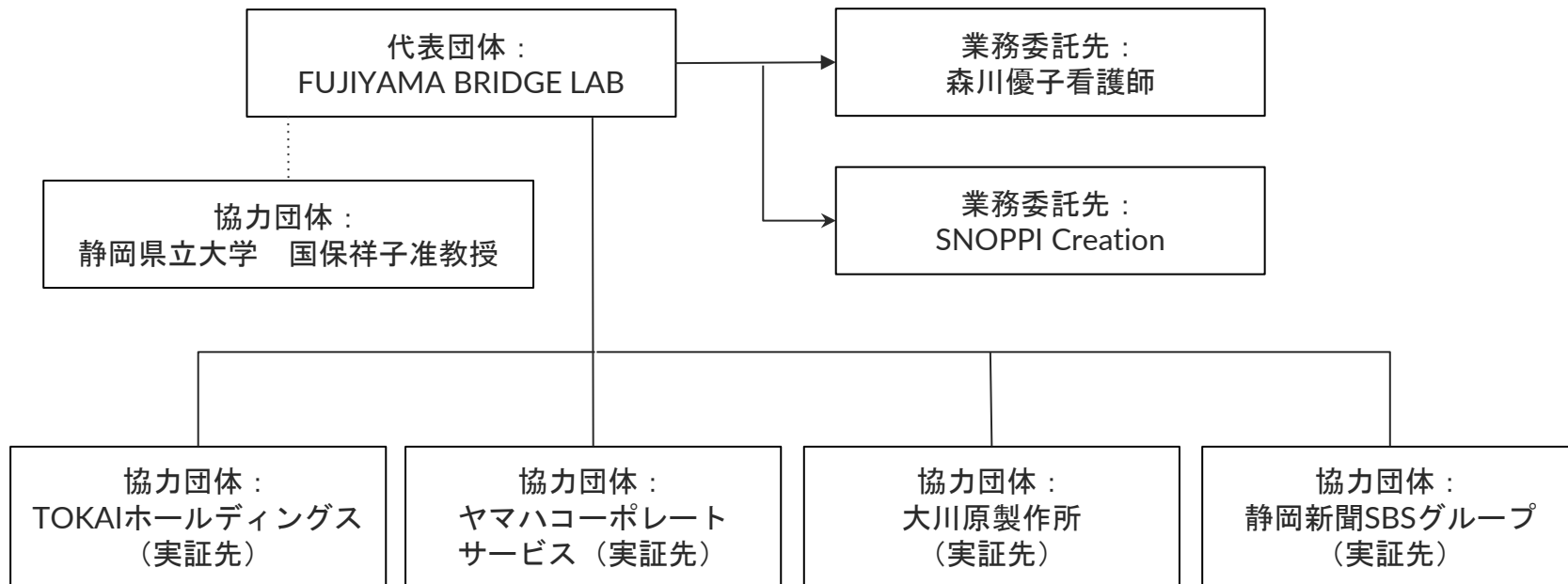
リバランスセミナーとインサイトレポートは目標達成。
アプリ使用は目標未達も、独自指標で明確な効果を確認した。

	KPI	目標	結果
リバランスセミナー	知識深まり度	50%以上	80.0%
アプリ	主観的ウェルビーイング指標 （過去4週間の総合的な自分の仕事ぶり）	向上	利用者スコアは減少したが、未利用者と比較すると下がり幅が小さかった
	本音を話せた人の割合	80%以上	62.1%
	会話満足度	7.0以上	5.89
	ポジティブな気持ち	80%以上	64.6%
インサイトレポート※	発行数	10回	12回

※当初、企業へのアンケートにてインサイトレポートの有用性を評価する計画であったが、人事担当者の助言を踏まえ、定性評価で深堀を行うこととした。

実施体制

協力団体4社計98※名の女性にアプリを利用いただき、利用期間の前後でアンケートを実施し、アプリによる利用者のウェルビーイングの向上度合いを比較検証する。
協力企業数が増えたことで、当初計画していたよりも多様な業種での検証が可能になった。



※中間報告では99名の利用者であったが途中辞退者が出たため、最終的に利用者98名を対象に評価を行った

スケジュール

実施項目		2025年						2026年			
		7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
リバランス セミナー	セミナー設計	→									
	セミナー実施		→								
	効果測定		→								
アプリ導入	アプリ改良	→									
	試験設計 (アンケート等)	→									
	参加者募集	→									
	アプリ導入、活用		→								
	効果測定							→			
インサイト レポート	レポート準備		→								
	レポート作成				→						
	効果測定						→				

リバランスセミナー 参加者属性

3社80名以上に実施。女性当事者だけでなく、管理職への啓発も含めた組織全体へのアプローチを企業ニーズに合わせて展開した。

企業	セミナー参加者	うち女性	うち男性
TOKAIホールディングス	44名	25名	19名（管理職）
ヤマハコーポレートサービス	16名以上※	16名以上	0名
大川原製作所	20名以上※	20名以上	0名
合計	80名以上	61名以上	19名

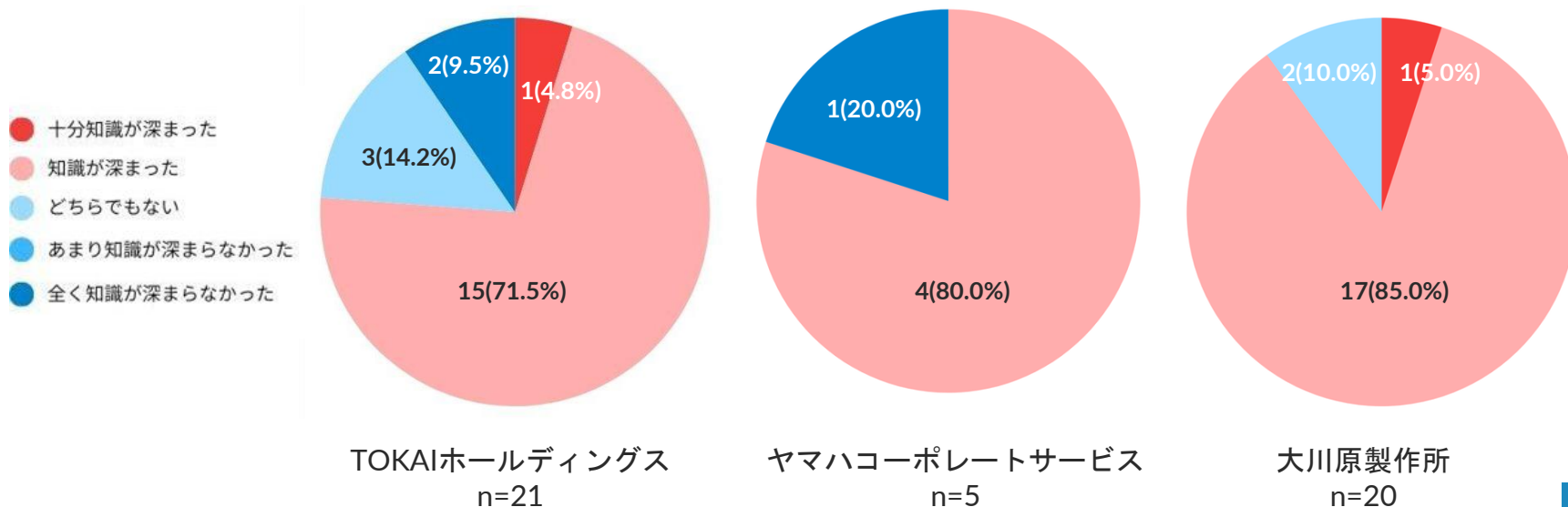
※セミナー視聴をきっかけにサービス利用を開始した人数を最小値として記載。実参加者数は把握できていないため、実際はこれ以上の可能性あり（ヤマハコーポレートサービスはアーカイブ配信も実施）。

リバランスセミナー 結果

■知識の深まり

3社で効果測定を行い、約80%が「知識が深まった」と回答

Q：セミナー受講後、月経や更年期障害などの女性特有の健康課題についてどの程度知識が深まったと感じますか。

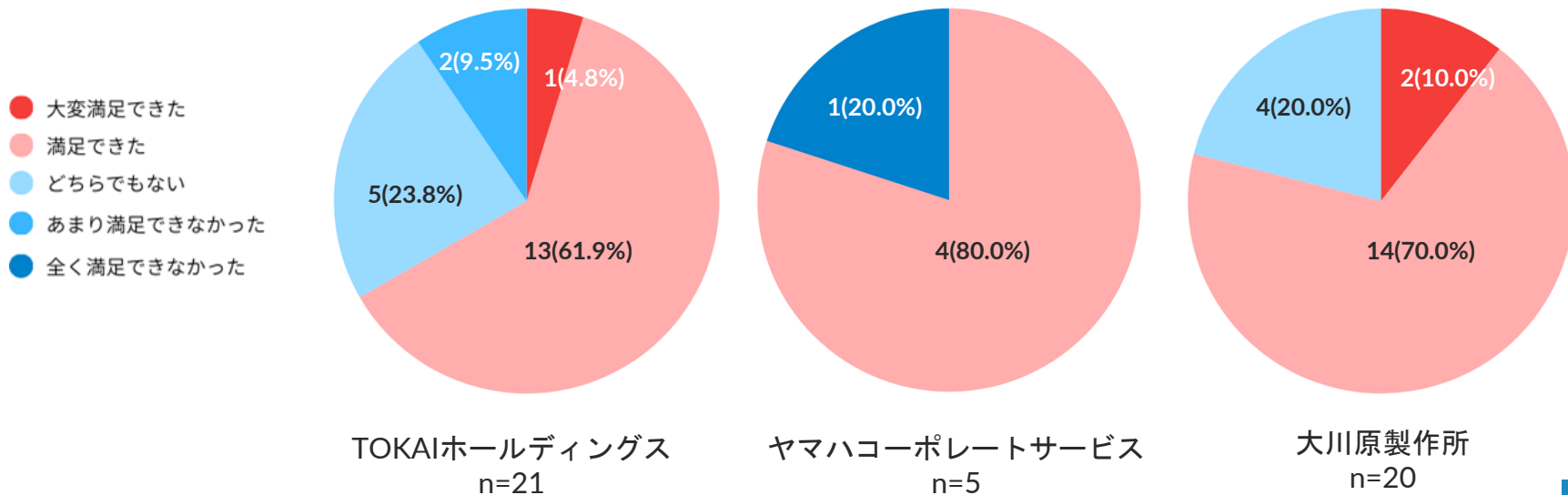


リバランスセミナー 結果

■満足度

満足度も高く、65～80%が「満足できた」以上を選択。男女問わず好評だった

Q:セミナーの満足度を教えてください。



■リバランスセミナーを受けた社員の感想（抜粋）

「女性特有の健康課題への理解が深まった」「職場全体の意識変革が必要」との声多数

- 女性特有の体調に関する問題について、**普段意識している以上に難しいものであると認識**を改めました。**本人の意向を確認しながら対処策を一緒に考えないといけないもの**だと思ひ至りました。（40代男性）
- 女性特有の症状や、その症状との付き合い方が理解できた気がするので、**今後の自分の生活に活かそう**だと思ひました。（30代女性）
- 知らない情報もあった為、勉強になりました。ありがとうございました。**世の中全体（家族、職場、会社）で、理解が深まり、働きやすくなれば良いと思ひます。**また家庭でも女性が家事の主担当でなくなれば良いなと思ひます。（50代女性）

利用調査概要

■期間 3ヶ月

■測定内容

アプリ利用者・未利用者に対し、事前・事後で9カテゴリー/23項目の独自指標を測定（5段階評価）

■測定対象人数 アプリ利用98名・未利用80名

■アンケート回収数

区分	事前	事後	ID一致
アプリ利用	70	41	38
アプリ未利用	72	47	45

■スコアリングルール

回答選択肢	スコア
とても当てはまる	5
やや当てはまる	4
どちらとも言えない	3
あまり当てはまらない	2
全く当てはまらない	1

アプリ導入 結果

■AIコーチ・ルミナ利用状況

利用者の35%が1-2回で離脱。50%が時々利用、5%が頻繁に利用。継続利用に課題がある。

利用状況	人数	割合
アプリに登録したが一度も会話していない	4	10.0%
1-2回ルミナと会話し、その後利用していない	15	35.0%
時々利用している（2週に一度程度）	20	50.0%
頻繁に利用している（週に一度程度）	2	5.0%

n=41

アプリ導入 結果

■主観的ウェルビーイング指標

利用者・未利用者ともにスコアが低下（利用者 -0.44、未利用者 -0.77）。ただし利用者の低下幅は未利用者より0.33小さかった。
実証期間中、複数企業で人事異動・組織再編が発生。外的要因で主観的ウェルビーイングが下がりやすい状況下でも、アプリ利用者は影響を抑えられた。変化の激しい局面でこそ効果を発揮することが分かった

質問	利用者 事前	利用者 事後	利用者 変化	未利用者 事前	未利用者 事後	未利用者 変化	差分 (利用－未利用)
過去4週間の総合的な 自分の仕事ぶり (0-10点)	6.37	5.93	-0.44	6.7	5.93	-0.77	0.33

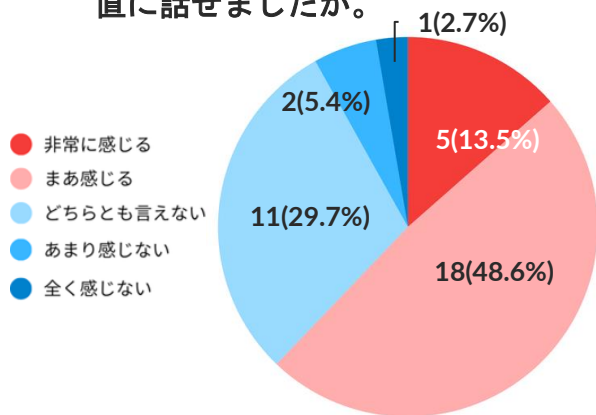
利用者：n=38 未利用者：n=45

アプリ導入 結果

■AIコーチ・ルミナ評価

本音を話せた人62%、満足度5.89と目標未達。利用満足度向上が課題

Q：AIコーチ・ルミナに本音を率直に話せましたか。



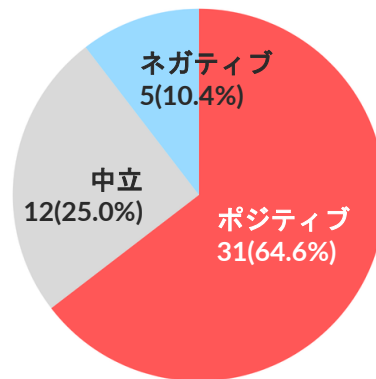
目標：80%以上
結果：62.1% (非常に感じる/まあ感じるを選択)
n=37(ルミナを期間中1度以上利用)

Q：AIコーチとの全体的な会話満足度を教えてください。(10段階評価)

5.89
(全体平均)

目標：7.0以上
n=37(ルミナを期間中1度以上利用)

Q：AIコーチ・ルミナとの会話後の気持ちとして当てはまるものを全て教えてください。



目標：80%以上
結果：64.6% (前向き/すっきり/心が晴れた/やる気・向上心)
n=37(ルミナを期間中1度以上利用)

アプリ導入 結果

■利用頻度別AIコーチ・ルミナ評価

全ての項目で、利用頻度が高いほど評価が明確に上昇する傾向が確認された。
使い続けることで効果があることがわかった。

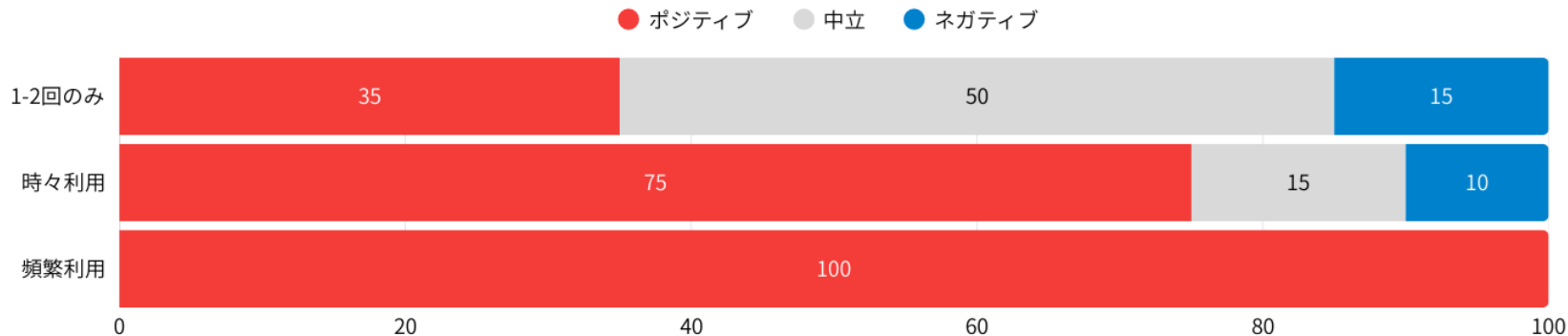
質問	1-2回のみ	時々利用	頻繁に利用	全体平均
本音を率直に話せた	3.43	3.75	4.00	3.64
ストレスが軽くなった	2.79	3.25	3.50	3.08
感情が安定した	2.79	3.25	3.50	3.08
強みを理解できた	2.64	2.9	3.50	2.83
安心して気持ちを表現できた	2.79	3.45	4.00	3.22
孤独感が和らいだ	2.64	3.35	3.50	3.08

とても当てはまる:5/やや当てはまる:4/どちらとも言えない:3/あまり当てはまらない:2/全く当てはまらない:1 として平均値を算出 (n=37)

アプリ導入 結果

■気持ちの変化

1-2回のみ利用者では中立が半数（50%）を占めるのに対し、利用頻度が増えるにつれて、「前向き」「すっきり」「心が晴れた」「やる気・向上心」のいずれにおいてもよい結果が得られ、ネガティブな気持ちは0%になった。



n=37

アプリ導入 結果

■気持ちの変化

	1-2回のみ (n=15)	2週に1度程度利用 (n=20)	週に1度程度利用 (n=2)
前向き	14%	40%	50%
すっきり	21%	30%	50%
心が晴れた	0%	20%	100%
やる気・向上心	0%	15%	50%
変化無し	50%	20%	0%
なるほど・気づき	0%	10%	0%
もやもや	14%	10%	0%
不安	7%	0%	0%

※複数回答

アプリ導入 結果

■9カテゴリー変化

健康管理・エンゲージメント(+0.44)、感情の安定(+0.19)、組織への帰属意識(+0.16)で特に効果が高かった。キャリア成長・所属感・生活満足度は両群ともに変化が小さく、外的要因の影響も考えられるため、引き続き検証が必要。

カテゴリー	利用者変化	未利用者変化	効果
健康管理・エンゲージメント	0.42	-0.02	0.44
感情の安定・レジリエンス	0.22	0.02	0.19
組織への帰属意識	0.06	-0.11	0.16
自己効力感・役割遂行	0.21	0.07	0.15
仕事への主体性・前向き姿勢	0.25	0.10	0.15
時間的・精神的余裕	0.20	0.15	0.05
キャリア成長・昇進意欲	0.11	0.12	-0.01
所属感・サポート	-0.06	0.12	-0.18
ウェルビーイング・生活満足度	-0.09	0.12	-0.22

利用者：n=38
未利用者：n=45
※効果 = 利用者変化平均
- 未利用者変化平均

アプリ導入 結果

- 特に効果が大きかった項目
体調面の不調に対しうまく対処できている
(健康管理・エンゲージメント)

利用者と未利用者の
平均スコアの差

+0.44

利用者平均
(3.04→3.46)
n=38

事前
3.04

事後
3.46

+0.42

未利用者平均
(3.53→3.51)
n=45

-0.02

▲
事後
3.51

▲
事前
3.53

アプリ導入 結果

■特に効果が大きかった項目

私は今後、これまでに培った知識や経験を後輩に伝え、職場の技能継承に貢献していくことができる

(自己効力感・役割遂行)

利用者と未利用者の
平均スコアの差

+0.37

利用者平均
(3.47→3.76)
n=38

事前
3.47

事後
3.76

+0.29

未利用者平均
(3.55→3.47)
n=45

-0.08

▲
事後
3.47

▲
事前
3.55

アプリ導入 結果

■特に効果が大きかった項目

私は友人や知人にこの会社を働き先として勧めたいと思う
(組織への帰属意識)

利用者と未利用者の
平均スコアの差

+0.34

利用者平均
(2.92→3.10)
n=38

事前
2.92

事後
3.10

+0.18

未利用者平均
(3.16→3.00)
n=45

▲
事後
3.00

▲
事前
3.16

-0.16

アプリ導入 結果

- 特に効果が大きかった項目
キャリアを築いていくイメージを持っている
(仕事への主体性・前向き姿勢)

利用者と未利用者の
平均スコアの差

+0.34

利用者平均
(2.69→3.12)
n=38

事前
2.69
▼

事後
3.12
▼

+0.43

未利用者平均
(2.61→2.70)
n=45

▲
事前
2.61

▲
事後
2.70

0.09

アプリ導入 結果

- 特に効果が大きかった項目
嫌な出来事があっても、気持ちを整え直せている
(感情の安定・レジリエンス)

利用者と未利用者の
平均スコアの差

+0.26

利用者平均
(3.13→3.39)
n=38

事前
3.13

事後
3.39

+0.26

未利用者平均
(3.17→3.17)
n=45

±0.00

▲
事前・事後
3.17

インサイトレポート 結果

■提供実績

4社に対し計12回発行。目標10回を上回り、定期的なフィードバックを実現

	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回
TOKAI ホールディングス	10/1	11/7	12/8	1/9	2/13
ヤマハコーポレート サービス	11/5	12/6	1/16	—	—
静岡新聞SBSグループ	11/20	—	—	—	—
大川原製作所	12/4	1/9	2/13	—	—

インサイトレポート 結果

■活用事例

女性社員の本音を可視化し、制度改善や経営層への報告に活用する企業も。「現場と経営層のギャップも把握できた」との声

インサイトレポート活用事例

「生理休暇」という名称が取得のネックになっていることが分かり、名称変更を検討



社員の生の声としてインサイトレポートを経営層へ報告



人事担当者の評価

- ・体調の状態や組織の雰囲気など、アンケートでは表出しない「本音」を把握できた。
- ・現場感覚と経営層の認識にギャップが有ることが分かった。
- ・会社として女性社員をバックアップする姿勢を見せることができた。

全体成果と考察

体調・役割遂行での自己コントロール感の向上が、キャリアイメージやレジリエンスの強化につながった。さらに、サービス導入自体が会社へのエンゲージメント向上に寄与したことが定量的に示された。

■考察①

効果が特に大きかった「体調面の不調への対処」「職場の技能継承への貢献」は、自分自身をコントロールできるという感覚の醸成と捉えられる。この自己コントロール感が、「キャリアを築いていくイメージ（p.26）」や「嫌な出来事からの立ち直り（p.27）」といった前向きな変化の土台になったと考えられる。

■考察②

「友人や知人にこの会社を勧めたい」の項目（p.25）で効果が確認されたことに加え、ユーザーからも「このサービスを導入した会社を肯定的に思った」との声があった。本サービスの導入自体が、所属企業へのエンゲージメント向上に直結することが、定量・定性の両面から示された。

■ユーザーの感想

- ・ 上長には言いづらいこともAIだからこそ胸の内を明かすことができました。
- ・ 女性の支援や本音を収集するサービスの導入を決めた会社に対して肯定的な印象を持ちました。
- ・ 断続的に相談したことをAIコーチ・ルミナが関連付けてくれ、点と点が線になった感覚ですっきりしました。

課題と今後の改善方針

本事業の導入による有用性を確認できたが、サービス展開にはいくつかの課題もあると考える

■課題①利用継続率

AIコーチ・ルミナとの会話を1-2回行ってその後利用しない層が35%にのぼる

対策として、リマインド通知の強化や、利用メリットを実感できるアプリ上の工夫、オンボーディングセミナーでAIコーチ・ルミナとの会話を体験してもらう導線の確保などを行う

■課題②AIコーチ・ルミナ満足度の未達成

AIコーチ・ルミナとの会話満足度が目標に至らなかった

実証期間終盤で実装したメモリ機能により、過去の会話やユーザー属性を踏まえたより個別性の高い会話が可能になった。今後も継続して効果を測る。

今後の事業活動について

今回の実証で得た知見を活かし、全ての女性が自身の「ありたい姿」を目指して自律的キャリア形成ができることを目指して、事業のさらなる磨き込みを行う。

■サービス改善

継続利用を促すため、通知の内容やタイミングの個別最適化、アプリのUI/UX改善を行う。

AIコーチ・ルミナとの会話体験向上のためのプロンプト改善も行う。

■他業種・他地域への展開

今回、女性活躍に意欲的な企業からの賛同を得ることができ、実証実験を実施できた。今後は他業種・他地域での展開も行い、様々な企業のニーズに応えられるようなサービス提案や価格設定を検討する。

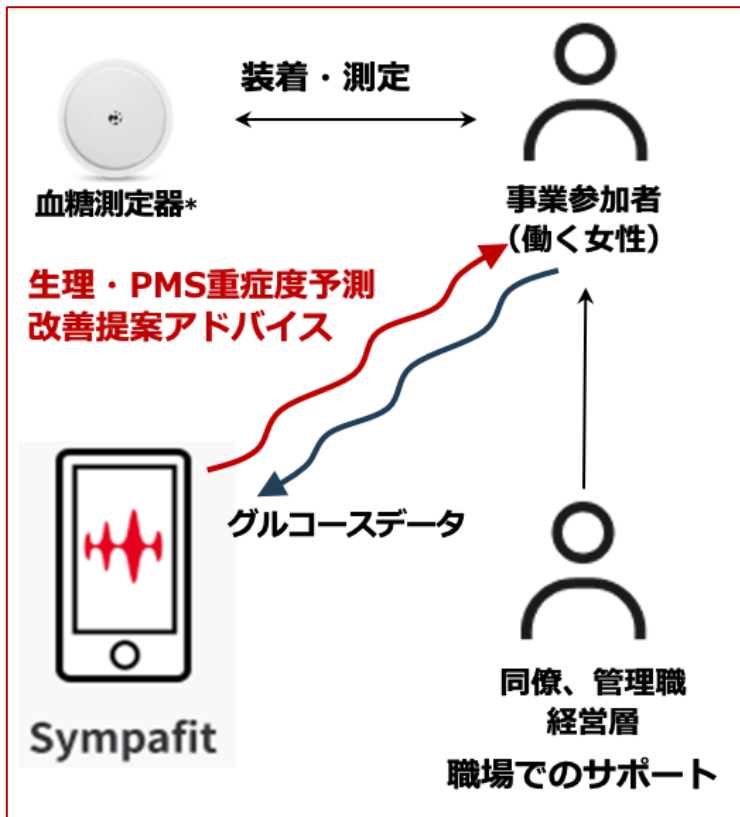
株式会社SympaFit

令和7年度 フェムテック等サポートサービス実証事業費補助金

血糖値データに基づく 生理・PMS重症度予測と 睡眠改善支援事業 最終報告



(株)SympaFit



SympaFit

(生理・PMS重症度予測・睡眠改善サポート)

持続的血糖測定装置 (CGM) から得られる経時グルコースデータをもとに、生理・PMS症状の重症度予測および要因分析を行う学習モデル搭載アプリケーション

①生活習慣の改善提案

- 睡眠の質、食後スパイク、日中のストレスなど、生理・PMS症状の影響因子のデータを統合解析し、ユーザごとの重症度要因を特定することで生活習慣の改善提案を行う

②血糖×睡眠モデル

- 夜間の血糖変動と睡眠スコアの相関を分析し、夕食の時間・内容変更など、行動介入による生理・PMS軽減を行う

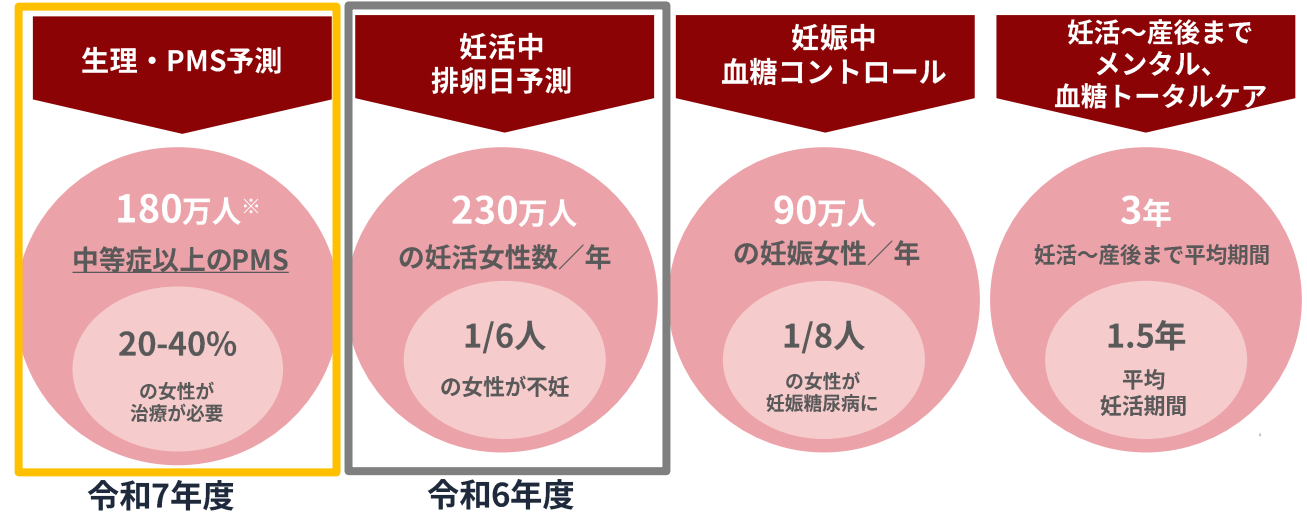
③企業向け生理・PMSセミナーの開催

- 働く女性を中心に、同僚や管理職、また経営層に対して生理・PMSに関する実態とともに仕事・キャリアとライフイベントの両立に関する理解とサポート方法についてのセミナーを実施する。経時的な血糖値モニタリングによる血糖・睡眠スコア改善に向けたサポートについて広く認知してもらうことで、個人のみならず組織内の行動変容。理解促進につなげる。

*Abbott社のFreeStyleリブレ2を使用。間質液中のグルコースの濃度を1分間隔で測定。

事業目的

- 働く女性が心身ともに健康を保ち、仕事・家庭・育児を無理なく両立できる環境の構築を目指す



本事業の提供価値

重症度の予測

血糖値の経時的変動データに基づき、生理・PMS症状の重症度を事前に予測

要因の定量化

個人により異なる要因（睡眠の質、食事内容、ストレス）を定量的に解析・特定

介入ガイド

自身の体調を予測可能なものとして捉え、事前に対処できる行動変容を支援

※Arc. Women's Ment. Health; 9(4): 209-212, 2006

サービス・製品：月経・PMS重症度予測アルゴリズム

Glucose Analysis v6.0

Deploy ⋮

Ovulation & Menstrual/PMS
Prediction

Menstrual/PMS Severity Prediction

Predict menstrual pain & PMS severity from glucose data

Mode

- Quick Analysis
- Batch Processing
- Ovulation Prediction
- Menstrual/PMS Prediction

System Info

PMS Models: 4 loaded

v6.0 Features:

- 400 models (40 subjects)
- Sleep DL scoring
- PPTX report generation

Model Information

Models loaded: ['pain_severity', 'stress_level', 'vas_menst', 'vas_pms']

Training Data: 55 subjects, 195 records

Models:

1. Upload Glucose CSV

CSV/TSV with time & glucose columns



Drag and drop file here

Limit 200MB per file • CSV, TSV, TXT

Browse files



057_f_3.csv 0.9MB



サービス・製品：月経・PMS重症度予測アルゴリズム

1. Upload Glucose CSV

CSV/TSV with time & glucose columns



Drag and drop file here

Limit 200MB per file • CSV, TSV, TXT

Browse files



057_f_3.csv 0.9MB

Sleep start hour (0-23)

0

-

+

Sleep duration (hours)

6

-

+

Data loaded: 569 records

2. Prediction Results

Menstrual Pain

1.5

↑ 1: Mild

Stress Level

5.5

↑ High stress

VAS Menstrual

3.5

↑ Mild

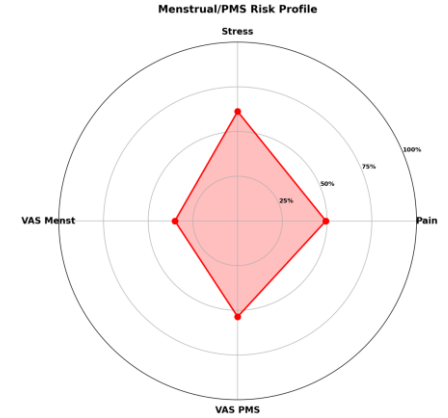
VAS PMS

5.4

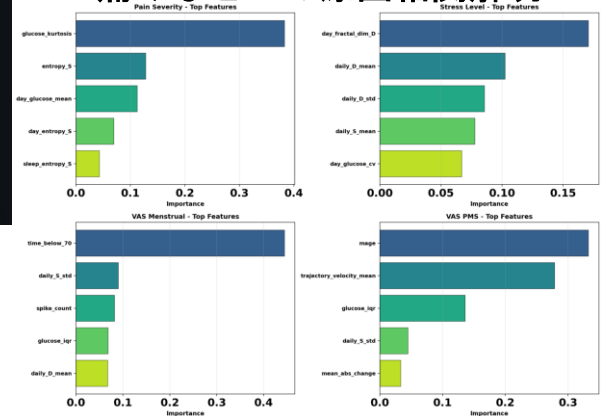
↑ Moderate

[Risk Profile](#) [Feature Importance](#) [Feature Values](#) [Details](#)

ストレス
月経・PMS重症度の予測

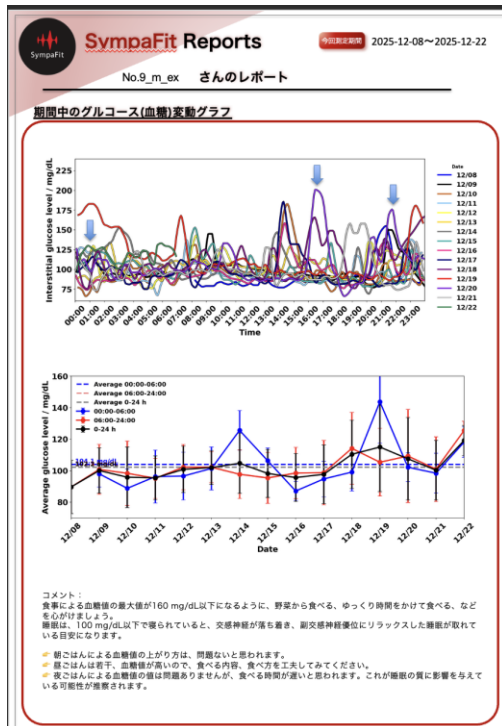


痛みなどへの原因相関説明

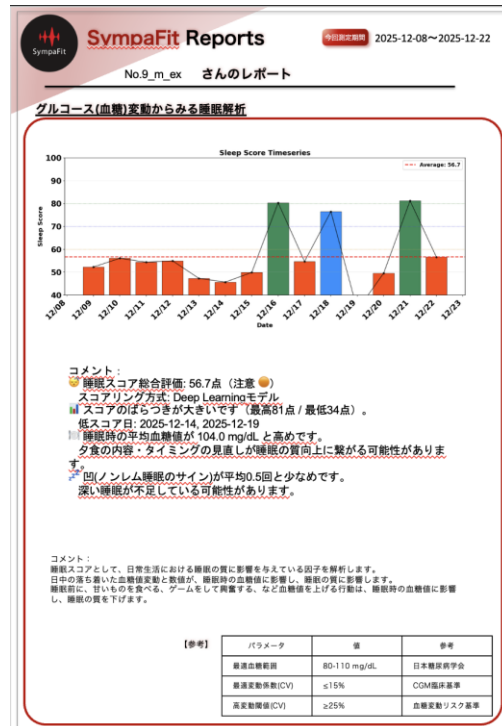


サービス・製品：食事・睡眠アドバイスレポート

月経・PMSへの影響を与える因子をあぶり出し、生活習慣を変えていくアドバイス



2週間の食事・ストレス。睡眠レポート



睡眠への改善ポイントアドバイス

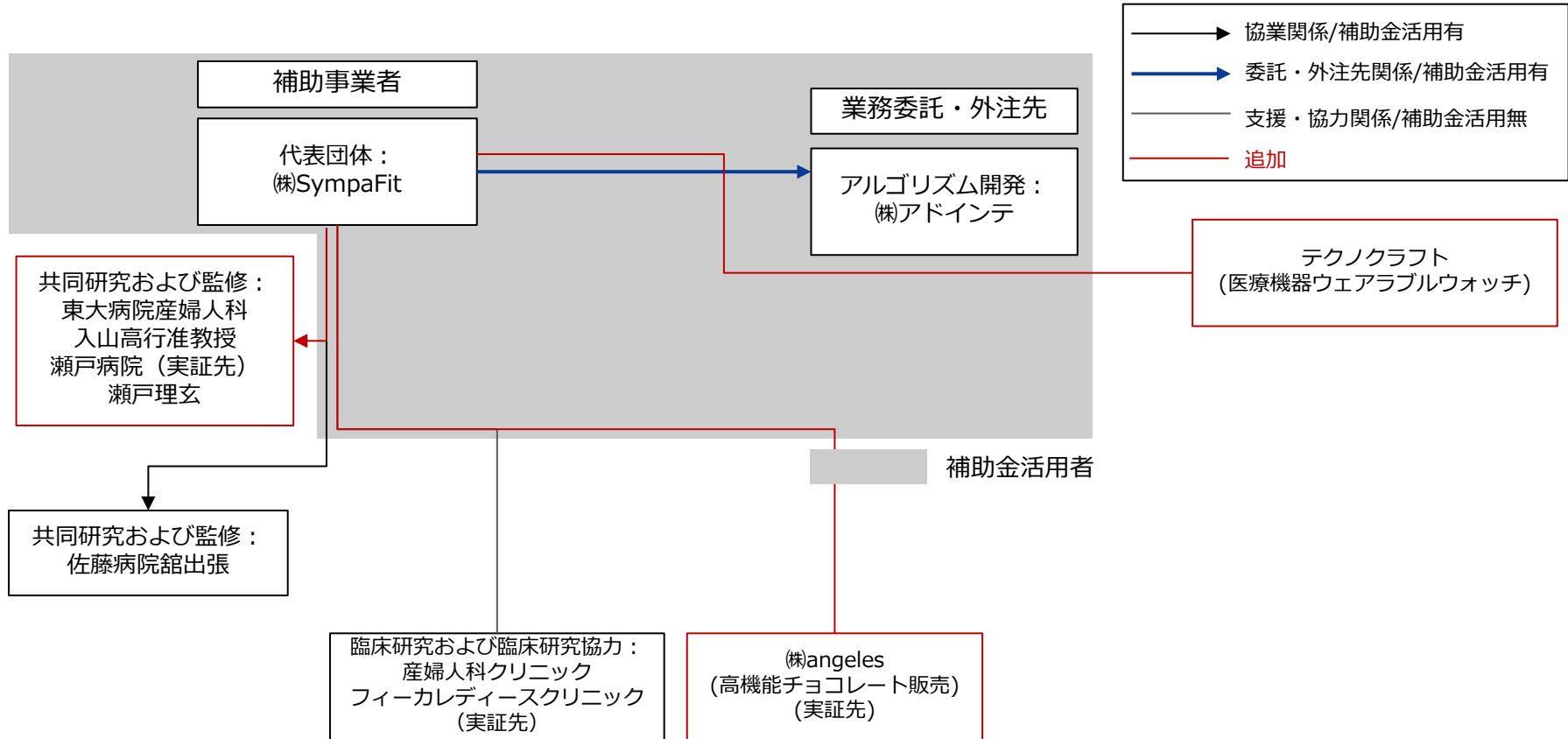
実施項目・目標

大項目	小項目	2025年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	2026年 1月	2月	3月
1. 生理・PMS症状の予測と改善プログラムの構築	1. 1 データ分析とフィードバック		▶							
	1. 2 血糖値と生理・PMSデータの相互相関分析			▶						
	1. 3 生理・PMS症状改善アプリの開発・改善						▶			
	1. 4 ユーザーサポート						▶			
2. 個人向けメンタルサポートおよび食事サポート	2. 1 生理・PMS重症度の大きい女性の血糖値を用いた原因分析				▶					
	2. 2 生理・PMS重症度の大きい女性への介入サポート実証						▶			
3. 企業向け生理・PMSセミナーの開催	3. 1 セミナーの設計		▶							
	3. 2 セミナーの実施					▶	▶			
	3. 3 成果測定							▶		

目標(KPI)

実施項目	短期：令和7年度末 (本実証期間内)	中期：令和9～11年度 (サービス展開期)	長期：令和12年度 (社会実装・普及期)
CGM(持続的グルコースモニタリング)データ収集	症例登録数：>150名 CGM記録：50名×3周期	累積データ数：1,000名規模 多様な重症度分布の網羅	国内最大級の女性ホルモン×血糖DB構築
解析・予測精度	TIR (Time in Range) : > 70% CV (変動係数) : < 15% 重症度予測MSE : 0.12以下	予測精度の安定化 個人差要因の分類精度 : AUC (Area under the curve) > 0.85	他疾患(妊娠糖尿病等)リスク予測モデルの実装
健康アウトカム	WHO-HPQ改善：利用者30%が2pt以上改善 PMSスコア：介入群で有意な減少傾向を確認	WHO-HPQ：利用者70%が5%向上 利用者75%が効果実感10%向上	生理・PMSによるパフォーマンス低下20%以上抑制 WHO-HPQ：利用者75%が10pt以上の高水準維持
プロダクト	B2B販売アルゴリズム	正式版サービスイン 導入企業数：7社以上	女性ヘルスケアプラットフォームとしての確立

実施体制



現状の達成状況と成果①：生理・PMS症状の予測と改善プログラムの構築

月経・PMSデータおよびグルコースデータの取得

臨床研究 症例登録進捗

195例

(2/27時点)

事前アンケート回答

32例

250

目標症例数

200

月末アンケート
登録完了数 (最終見込み)



データ収集継続中

取得データの種類

CGM (グルコース)

1ヶ月 × 3~5周期

持続的な血糖変動データ

排卵日検査

ホルモン変動の推定

月経周期フェーズの特定

VAS(痛み) / アンケート

主観的スコア記録

月経・PMS重症度の半定量

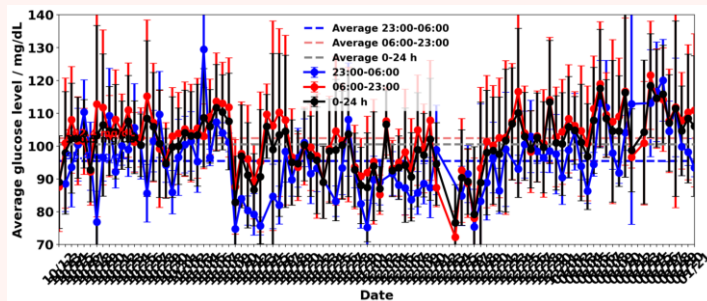
ウェアラブル

血圧データの常時測定

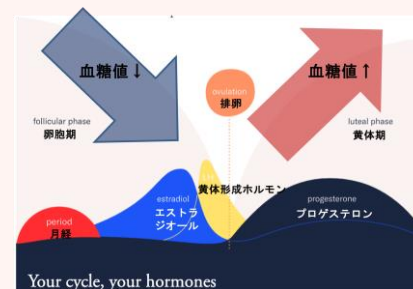
睡眠深度・時間、心拍数

現状の達成状況と成果①：グルコース・排卵データの取得

CGMデバイスを用いた
経時グルコースデータの取得
女性ホルモンと相関したグルコース変動の観察



排卵検査薬を用いた排卵日の同定
排卵日をフラグとして、生理周期を同定する



現状の達成状況と成果①：VAS(痛み)・睡眠データの取得

VAS試験による月経・PMSの重症度に関する 半定量データ

月経・PMS期間、痛み、経血量に関するデータの取得

生理開始日*
月、日
生理終了日*
月、日
生理の量*
<input type="radio"/> 多い
<input type="radio"/> 普通
<input type="radio"/> 少ない

痛みの指標を示す定規(VASスケール)をご覧ください。今月の生理痛の痛みとして、このスケール*のどの位置にあたりますか？ 0.0cm (全く痛みを感じない) ~10.0cm (我慢できないほどの痛み)の範囲で、小数点第1位まで入力してください。

(回答例：軽い痛み → 2.3

中程度の痛み → 5.7

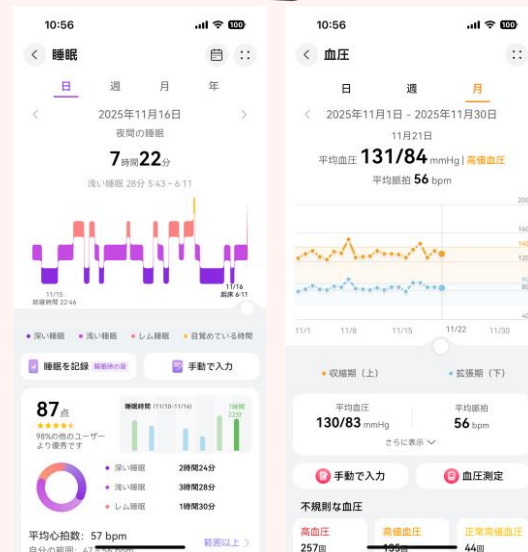
強い痛み → 8.1)



8.0

医療機器ウェアラブルウォッチを用いた 睡眠時間・血圧データの取得

睡眠に関する情報と、付随的に血圧データの取得



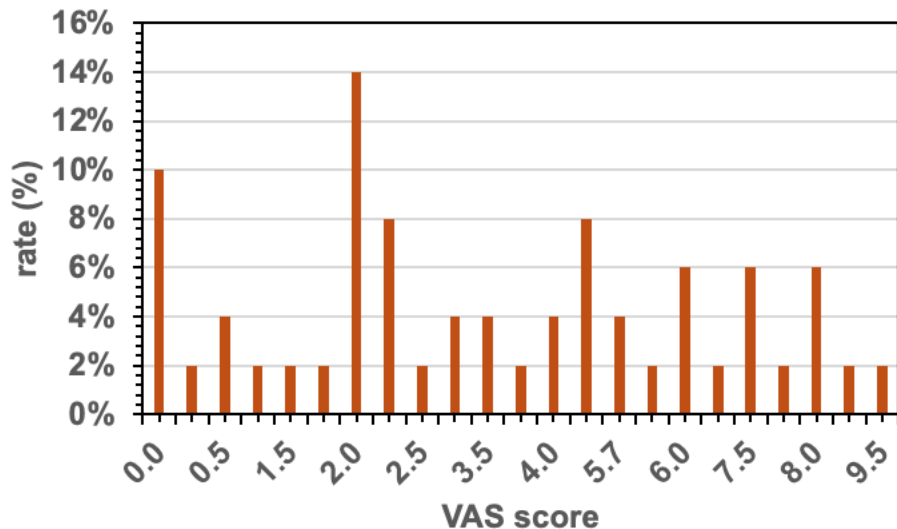
現状の達成状況と成果①：月経・PMSのVAS(痛み)データの取得

臨床研究協力者：45名(17～46歳)

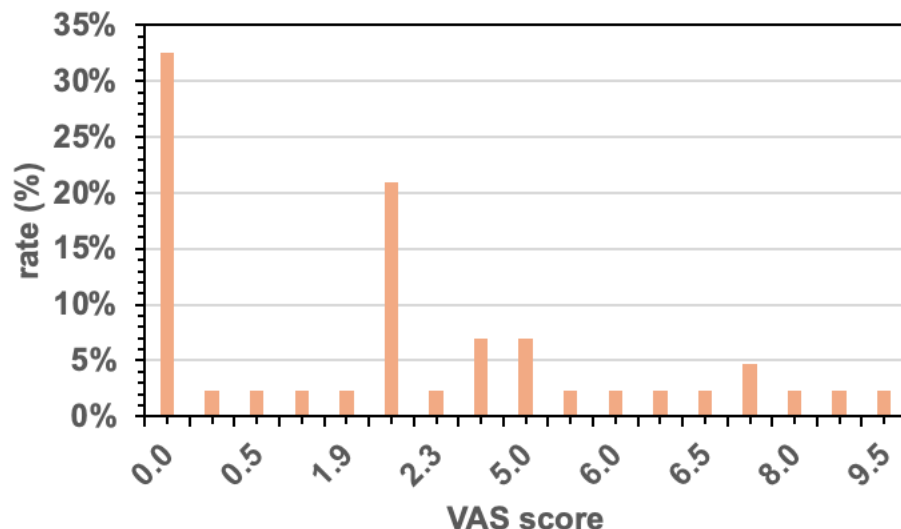
事前アンケート回答者：32名

臨床研究データ：195例※(2/27時点)

※性周期換算



月経痛の痛み



PMSの痛み

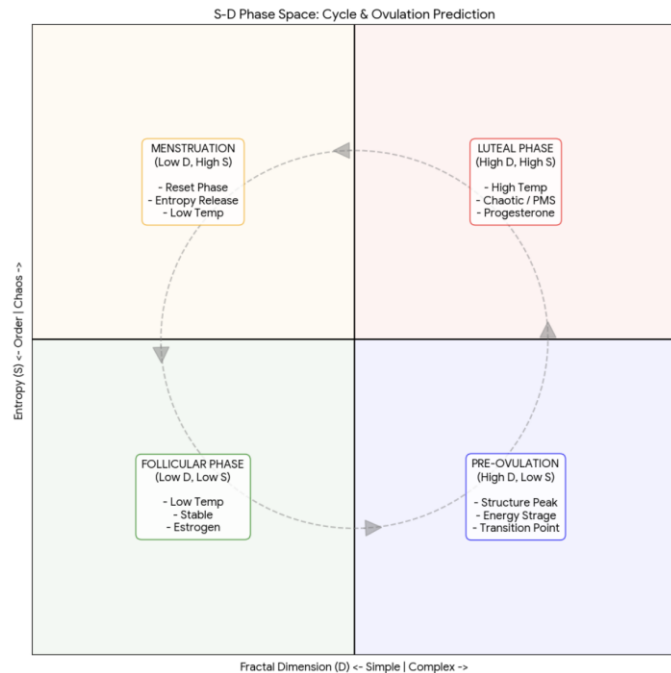
現状の達成状況②：生理・PMS症状の予測アルゴリズムの構築

「S-D位相空間理論」を人体のグルコースモニタリングデータへ適用し、

「動的平衡」の遷移観測に基づいた女性ホルモン変動を予測する。

本モデルは連続血糖測定（CGM）データから得られるエントロピー（S）とフラクタル次元（D）の時系列変化を解析することで、ホルモンバランスの変化に伴う

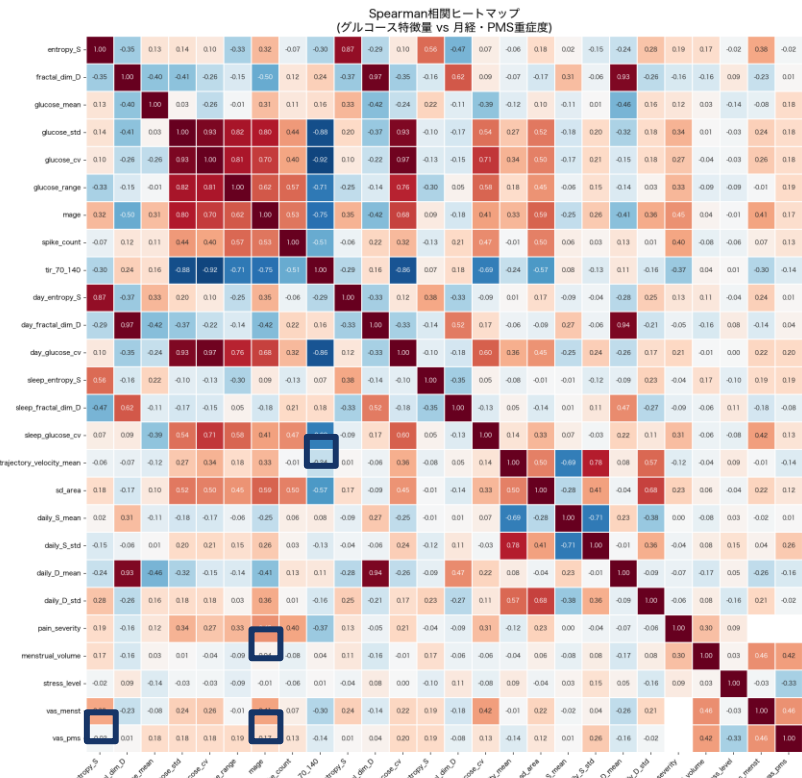
「生体システムの相転移」をリアルタイムに近い形で捉えることを可能にする。これにより、フィジカルAIによる高精度な健康管理と、女性のウェルビーイング向上に寄与する。



グルコース変動による女性ホルモン変動予測（動的平衡）

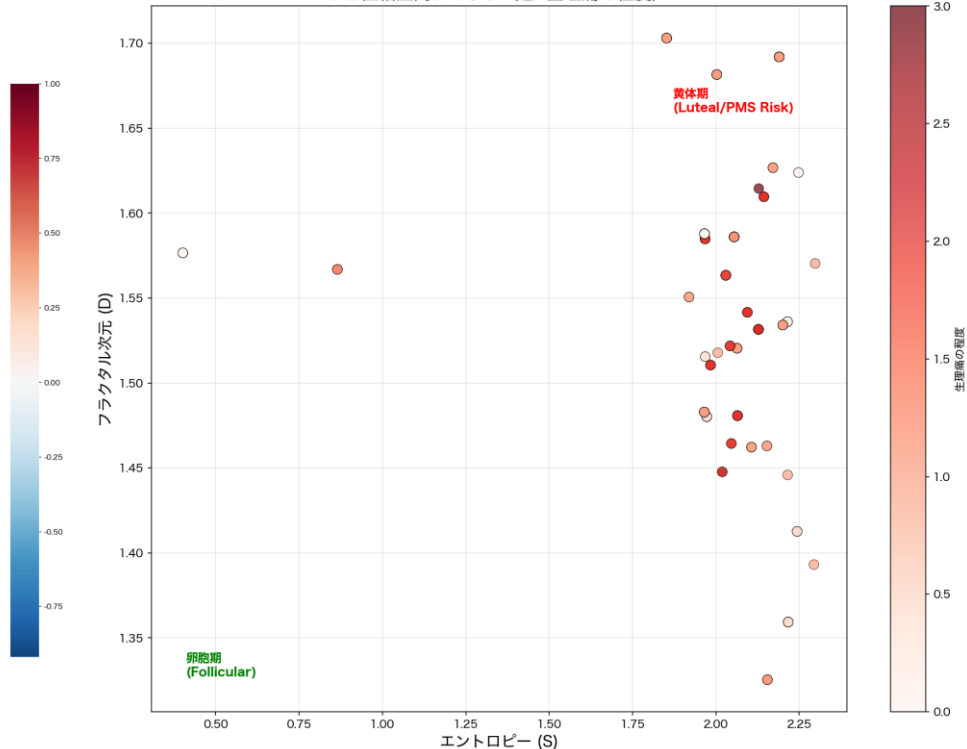
現状の達成状況②：生理・PMS症状の予測アルゴリズムの構築

月経痛の痛みの尺度と相関性の高い項目を、グルコースデータ結果より探索した(青枠など)。



相関ヒートマップからの高相関性項目のあぶり出し

S-D位相空間プロット (色: 生理痛の程度)

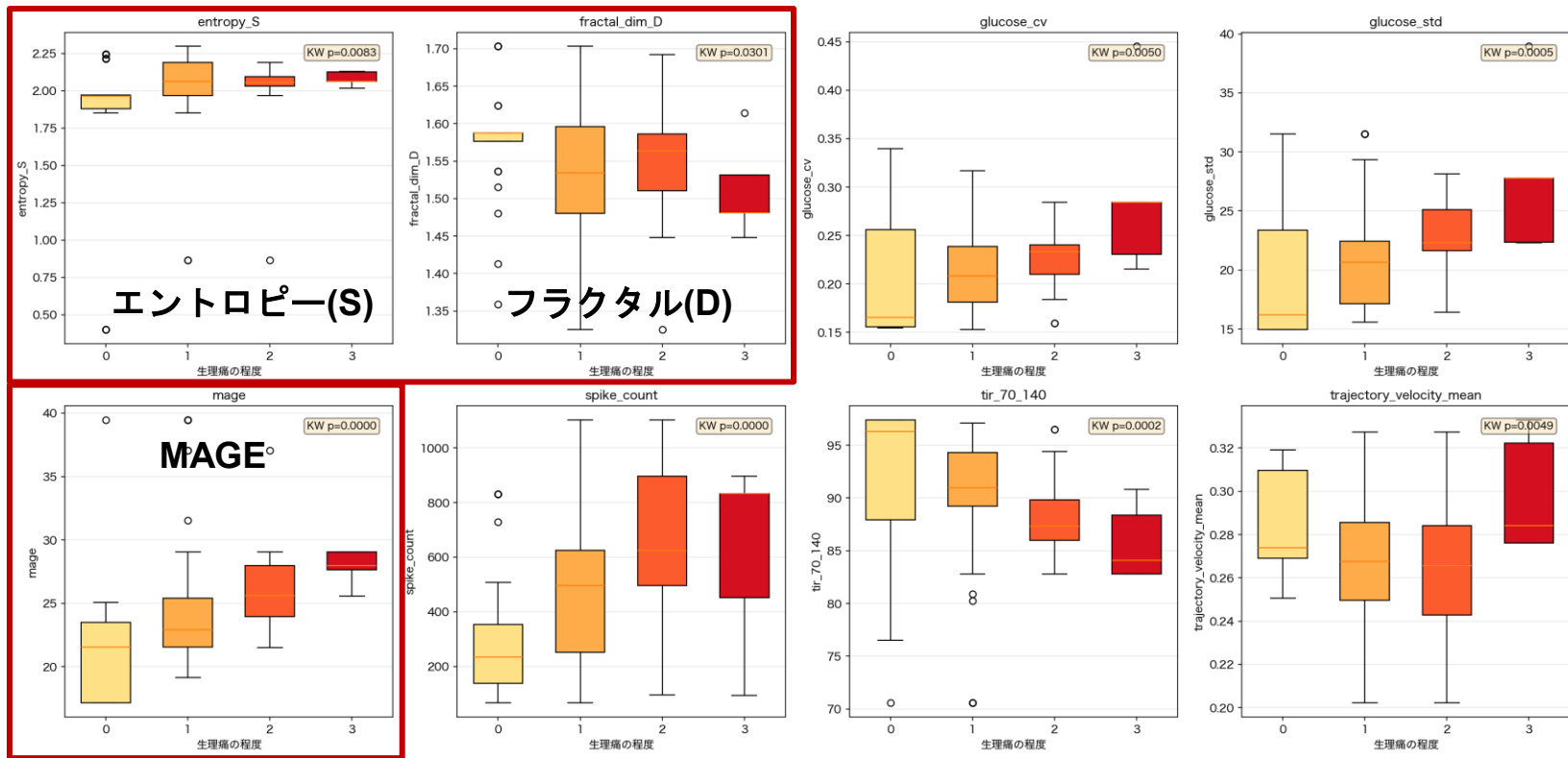


動的平衡モデルでの月経痛の因子の探索

現状の達成状況②：生理・PMS症状の予測アルゴリズムの構築

月経痛の程度を4段階に分けたとき、相関性の高い項目は、エントロピー(S)/フラクタル(D)/MAGE(平均血糖変動幅)であることが明らかとなった。

生理痛の程度別 グルコース特徴量の分布



事後アンケート結果：WHO-HPQ指標について(有効回答者 21名)

WHO-HPQ変化率	8.8%↑		16.4%↑		17.6%↑	
	事前	事後(+12)	事前	事後(+22)	事前	事後(+23)
	Q26 あなたの仕事において、0が誰でも達成できるような仕事ぶり、10が最も優れた勤務者の仕事ぶりとしたとき、同僚等、あなたと似た仕事に携わる他の社員の普段の仕事ぶりを、あなたはどのように評価しますか。	Q19 あなたの仕事において、0が誰でも達成できるような仕事ぶり、10が最も優れた勤務者の仕事ぶりとしたとき、同僚等、あなたと似た仕事に携わる他の社員の普段の仕事ぶりを、あなたはどのように評価しますか。	Q27 あなたの仕事において、0が誰でも達成できるような仕事ぶり、10が最も優れた勤務者の仕事ぶりとしたとき、過去 1-2年のあなたの普段の仕事ぶりを、あなたはどのように評価しますか。	Q20 あなたの仕事において、0が誰でも達成できるような仕事ぶり、10が最も優れた勤務者の仕事ぶりとしたとき、過去 1-2年のあなたの普段の仕事ぶりを、あなたはどのように評価しますか。	Q28 あなたの仕事において、0が誰でも達成できるような仕事ぶり、10が最も優れた勤務者の仕事ぶりとしたとき、過去 4週間(28日間)の間の勤務日におけるあなたの総合的な仕事ぶりを、あなたはどのように評価しますか。	Q21 あなたの仕事において、0が誰でも達成できるような仕事ぶり、10が最も優れた勤務者の仕事ぶりとしたとき、過去 4週間(28日間)の間の勤務日におけるあなたの総合的な仕事ぶりを、あなたはどのように評価しますか。
利用者の30%以上が2pt以上改善		5/21 (24%)		6/21 (29%)	32	5/21 (24%)
トータルスコア (前後21名)	137	149	134	156	131	154

実施項目3：企業向けセミナーと食事・睡眠の介入について

企業向けセミナー

① 1/22 クロレラ工業 オンラインセミナー

女性社員中心に男性経営層も含めて参加

食事・睡眠介入の長期効果についてのレポート報告も合わせて行った。

② 2/24 自衛隊那覇病院

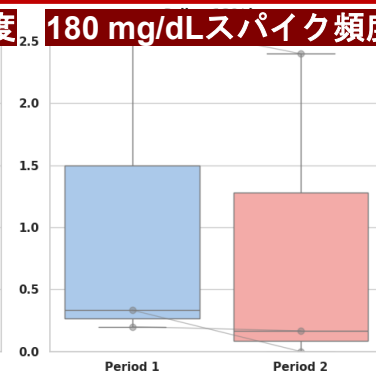
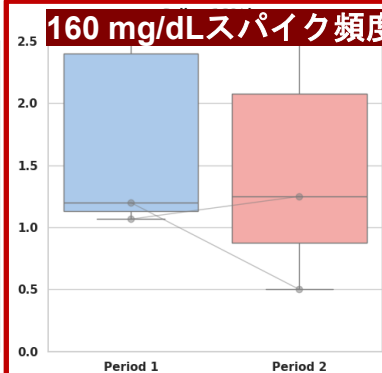
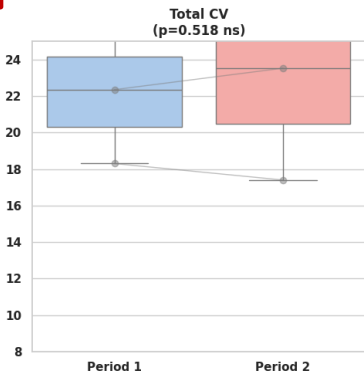
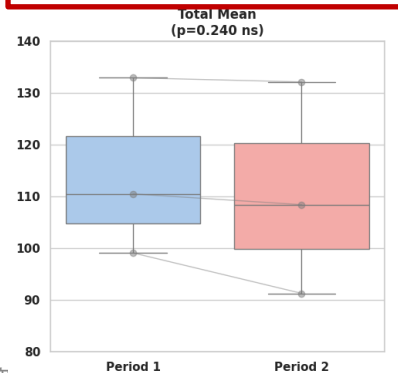
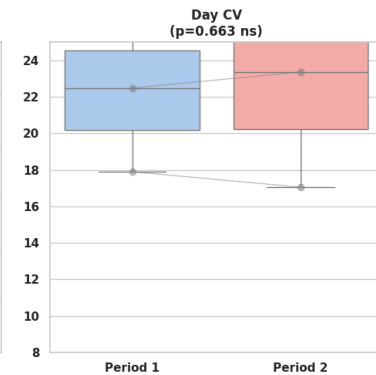
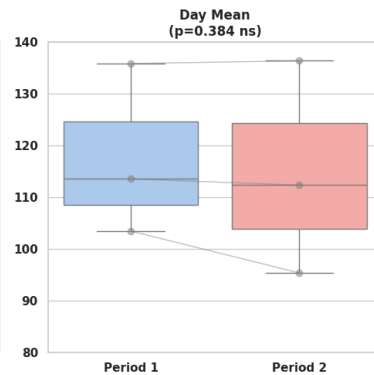
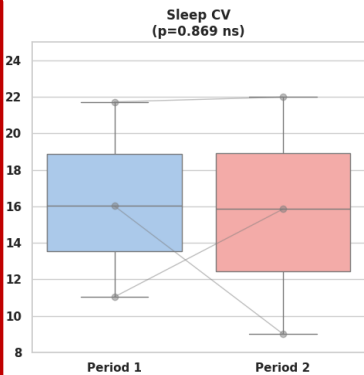
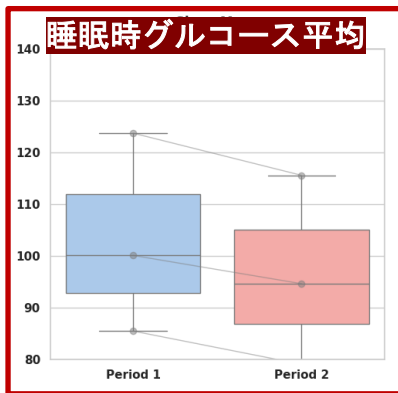
女性医師・保健師・栄養士、男性/女性隊員もオンライン中継も合わせて行った。



実施事項2および3：企業向けセミナーと食事・睡眠の介入について

セミナー参加者から血糖値モニターを募集し、食事・睡眠への介入効果を観察・レポートを行った
(青：介入前、赤：介入後)

実施期間：介入前12/10-12/24, 介入後12/25-1/6



KPI達成状況

実施項目	短期：令和7年度末 (本実証期間内)	達成状況(2/27時点)
データ収集	症例登録数：>150名 CGM記録：50名×3周期	症例数：195周期分
解析・予測精度	TIR (Time in Range)：> 70% CV (変動係数)：< 15% 重症度予測 MSE：0.12以下	S-D動的平衡モデルの構築 グルコース値と、月経痛の相関性
健康アウトカム	WHO-HPQ改善：利用者30%が 2pt以上改善 PMSスコア：介入群で有意な減 少傾向を確認	WHO-HPQ: 利用者24-29%が2pt以上改善 WHO-HPQ変化率としては、8.8~17.6%上昇
プロダクト	B2B販売アルゴリズム	月経予測に関わるアルゴリズム構築

目標(KPI)

実施項目	短期：令和7年度末 (本実証期間内)	中期：令和9～11年度 (サービス展開期)	長期：令和12年度 (社会実装・普及期)
データ収集	症例登録数：>150名 CGM記録：50名×3周期	累積データ数：1,000名規模多様な重症度分布の網羅	● 国内最大級の女性ホルモン×血糖DB構築
解析・予測精度	TIR (Time in Range)：> 70% CV (変動係数)：< 15% 重症度予測 MSE：0.12以下	予測精度の安定化 個人差要因の分類精度：AUC > 0.85	● 他疾患(妊娠糖尿病等)リスク予測モデルの実装
健康アウトカム	WHO-HPQ改善：利用者30%が2pt以上改善 PMSスコア：介入群で有意な減少傾向を確認	WHO-HPQ：利用者70%が5%向上 利用者75%が効果実感10%向上	生理・PMSによるパフォーマンス低下20%以上抑制 WHO-HPQ：利用者75%が10pt以上の高水準維持
プロダクト	B2B販売アルゴリズム	正式版サービスイン 導入企業数：7社以上	● 女性ヘルスケアプラットフォームとしての確立

現段階での課題 / 課題への対応策

【課題】

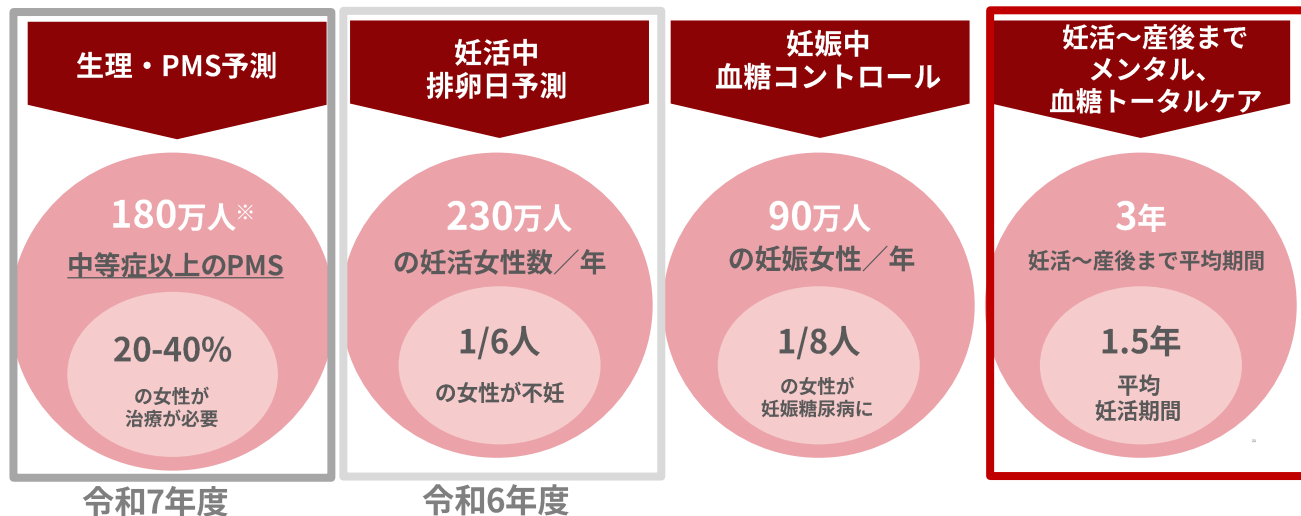
- ① : 月経・PMSの重症度予測へのデータ数の不足
- ② : サービス価格・ハードルとペインとニーズの乖離

【対応策】

- ① 重症度高い被験者データの継続的な取得。重症度の模式的な変化を、同一被験者からデータを取得する。
- ② 食事・睡眠改善をメインとするサービスメニューに、女性の健康をオプションに加え、福利厚生・健保組合からの企業導入を目指す。

今後の展望

- ・ 月経・PMS予測
データ数および他のパラメータとの解析数を増やすことにより精度向上を目指す
- ・ 産後うつをめざした研究開発
産後うつのグルコース変動モニタリングによる予測と予防



国立大学法人大阪大学

経産省 令和7年度 「フェムテック等サポートサービス実証事業補助金」

脳波による更年期判定AIを用いた 更年期症状の早期発見・早期予防介入サービスの実証 【最終成果報告】

[2026年02月20日] 代表団体名：国立大学法人大阪大学



脳波(客観)×アンケート(主観)に医師の伴走を掛け合わせ、高い行動変容を実現 働く女性の更年期症状を早期に捉え、解決へ導く支援モデルの実証

パッチ式脳波計による睡眠時の脳波計測と睡眠AI、
さらに睡眠と更年期に関する論文†を元に開発した
判定アルゴリズムにより、更年期症状を早期に捉える

産婦人科専門医の
カウンセリングを実施



肌にやさしく
負担の少ない
パッチ式脳波計



労働生産性が3.0pt向上！

更年期症状(SMI)を訴えた人の57.8%の人が改善！

睡眠の質が大幅に向上！
(中途覚醒が減少+深い睡眠が増加)

†Sawada K, et al. Womens Health Rep (New Rochelle).
2025 Apr 10;6(1):393-402.

更年期症状を客観的に捉え、働く女性を起点とした
更年期症状の早期発見・早期介入モデルを実証

経営課題

更年期女性の
離職に伴う
経済損失

1.9兆円

主観の問題

簡易更年期指数が
医療機関受診の目安となる
スコアの割合

20%

受診率の低さ

医療機関を受診し
更年期障害と
診断されている割合

9.1%

当事者と企業の双方に変化をもたらし、女性のウェルビーイング向上とライフイベントとキャリアの両立に貢献することを目指す。

本事業の提供価値



当事者

リテラシーの向上と
自身の状態把握



企業

従業員への
機会提供

当事者のウェルビーイングと企業へのエンゲージメント向上

脳波で「睡眠悪化」を可視化し、更年期離職を早期に防ぐ。

のぼせや寝汗といった更年期症状が、仕事満足度と働く意欲を低下させ、離職意向を高める

Jack G, et al.(2014) Women and the menopause: an Australian exploratory study. Climacteric.17(Suppl 2):34.

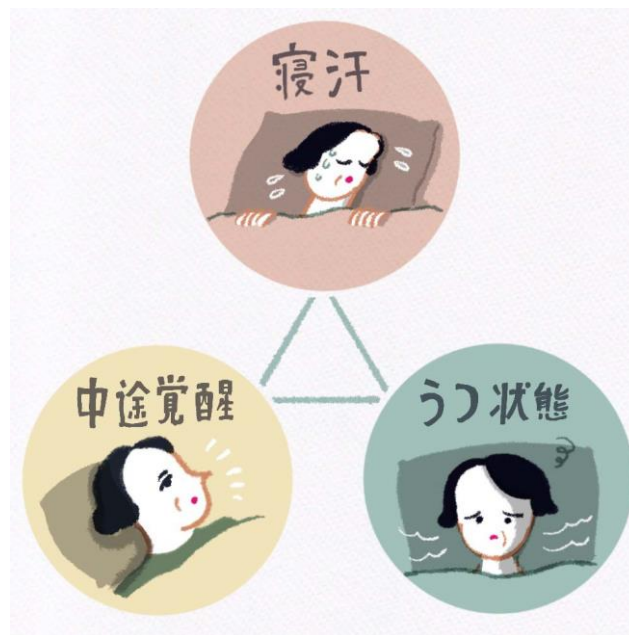
更年期では加齢により睡眠が浅く短くなることに加えて、のぼせ・発汗・動悸などで睡眠の質が悪化する

厚生労働省 健康日本21アクション支援システム <https://kennet.mhlw.go.jp/information/information/heart/k-02-005>

大阪大学産婦人科受診患者133名のデータ†
パッチ式脳波計を用い、夜間睡眠時脳波を測定

	未閉経 (N = 37)	閉経後 (N = 96)	P値
睡眠期間 (分)	437	432	0.83
睡眠効率 (%)	87 %	78 %	0.009
入眠まで (分)	8 分	21 分	0.022
中途覚醒 (分)	21 分	51 分	0.049

閉経すると、入眠までの時間が延び、
中途覚醒の時間が増加する

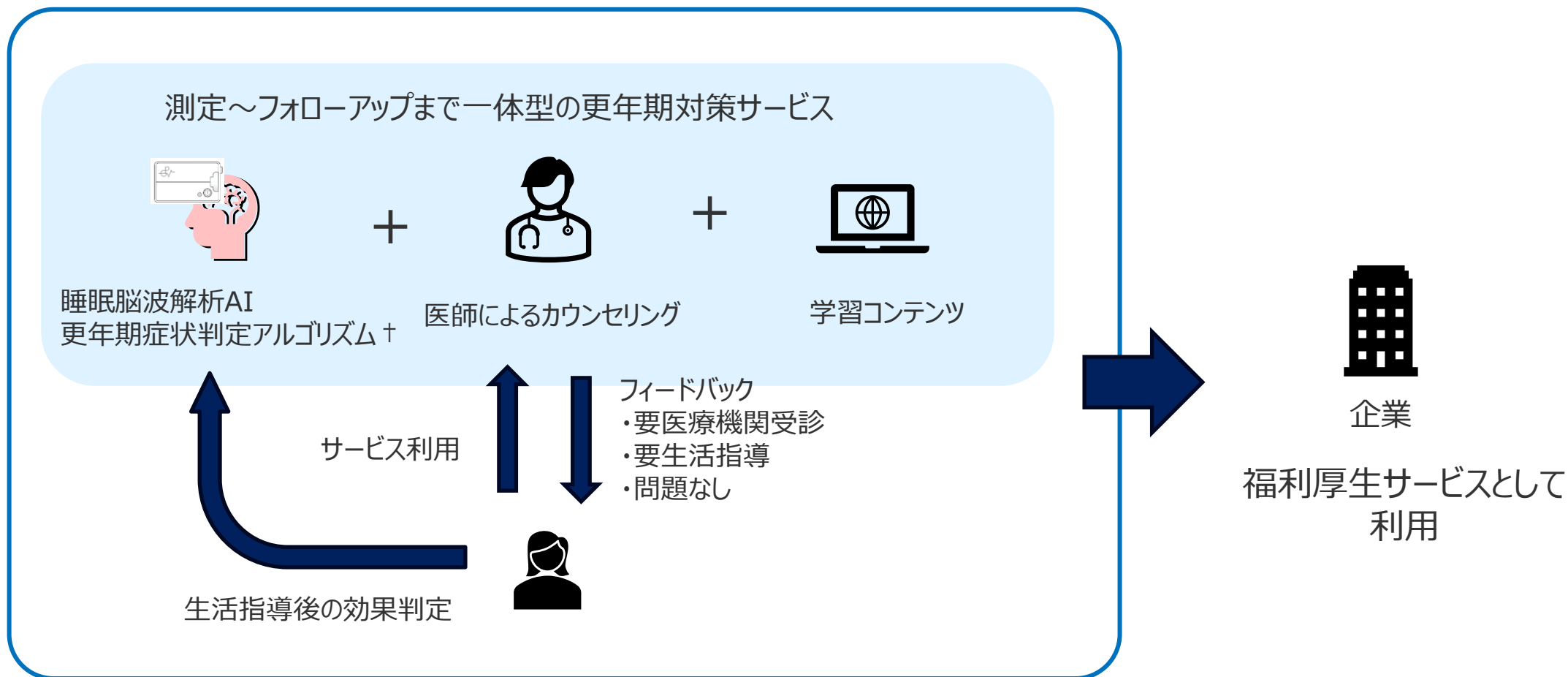


<https://www.nishikawa1566.com/column/sleep/20220728162154/>

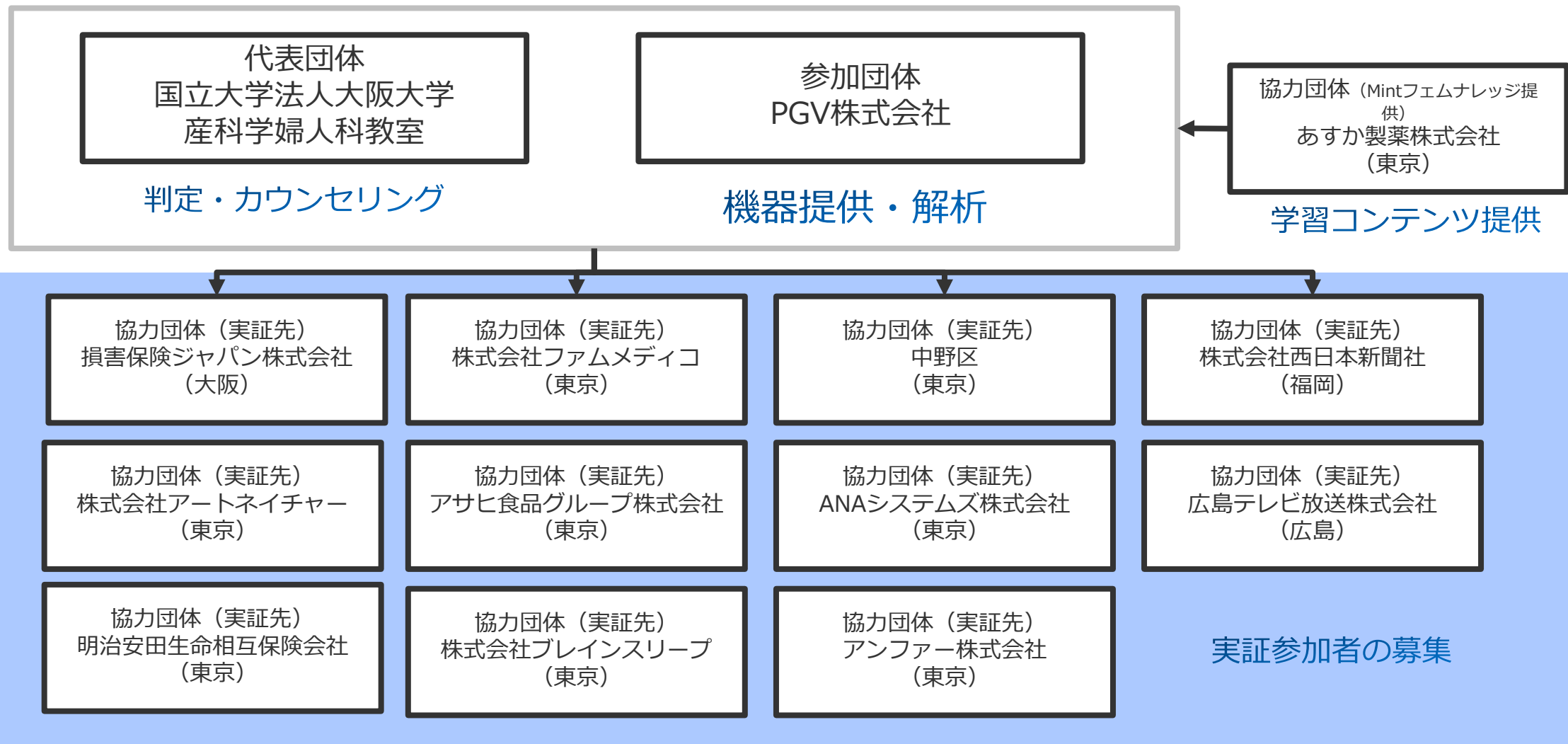
更年期世代の働く女性
における更年期症状
(問診)、睡眠の質
(脳波計測) を可視化
し、早期に予防策を講
じる (カウンセリング
を通じた生活改善) を
行うことにより、更年
期女性の離職予防につ
ながるのではないかと

†Sawada K, et al. Womens Health Rep (New Rochelle). 2025 Apr 10;6(1):393-402.

「睡眠解析」と「医師カウンセリング」で自身の状態を「知る」ためのサービスモデル



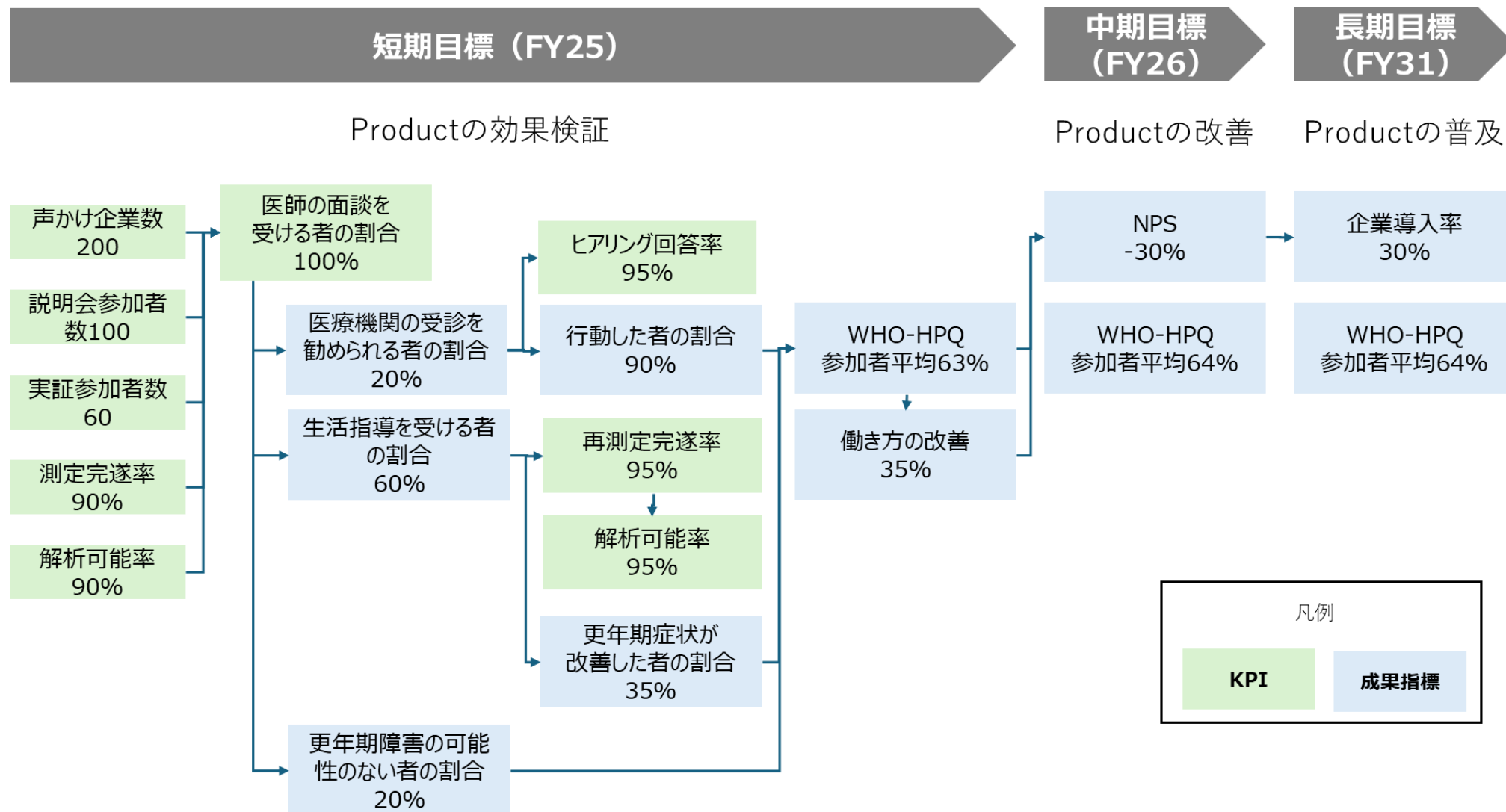
以下の実施体制で本実証を実施した。



倫理審査の長期化等により2ヶ月近い遅れも、 全ての予定していた計画を実行

実施事項	担当団体	8月		9月					10月					11月					12月					1月					2月				
		28-1	4-8	11-15	18-22	25-29	1-5	8-12	15-19	22-26	29-3	6-10	13-17	20-24	27-31	3-7	10-14	17-21	24-28	1-5	8-12	15-19	22-26	29-2	5-9	12-16	19-23	26-30	2-6	9-13	16-20	23-27	
実施項目1 リクルーティング																																	
①倫理審査	大阪大学	→																															
②事前告知	PGV	→																															
③事業説明	大阪大学、PGV	→																															
④参加者確定と事前アンケート	大阪大学、PGV	→																															
実施項目2 睡眠解析																																	
①睡眠時脳波測定 グループ①	PGV	→																															
②睡眠時脳波測定 グループ②	PGV	→																															
③睡眠時脳波測定 グループ③	PGV	→																															
④更年期症状判定 事前のSMI判定と群分け	大阪大学、PGV	→																															
実施項目3 医師による面談																																	
①結果説明・医師による面談	大阪大学	→																															
実施項目4 効果判定																																	
①改善行動の実施	大阪大学	→																															
②睡眠時脳波測定とアンケート（事後）	大阪大学、PGV	→																															
③アンケート（事後）	PGV	→																															
実施項目5 解析																																	
①最終解析と報告書作成	大阪大学、PGV	→																															

全体計画とKPI・成果指標



実証事業の実施内容

①産婦人科専門医による ウェビナー形式説明会



2020年-
Best Doctors in Japan
に選出



**婦人科がん
治療の名医
43名に選出**



②調査票回答

大阪大学xPGVフェムテックサポート実証事業 事前アンケート

このたびは、本事業にご参加いただきありがとうございます。
本フォームは、大阪大学産科婦人科教室とPGV株式会社実施する「経済産業省フェムテック等サポートサービス実証事業」にご参加いただく皆さまを対象としています。
サービス体験に先立ち、皆さまの勤務状況や健康に関する現状をお伺いし、集計・分析を通じて本事業の基礎データとして活用いたします。正確なデータ収集のため、可能な範囲でご回答ください。皆さまのご協力を心よりお願い申し上げます。

個人情報の取扱い：ご提供いただいた情報は、本事業の集計・分析のみに使用し、その他の目的には利用いたしません。
お問い合わせ先：PGV株式会社 フェムテック実証事業事務局 ☎ femtech@pgv.co.jp

このフォームを送信する際、お客様が、ご自身のお名前やメールアドレスなどの詳細情報を入力しない限り、その情報が自動的に取得されることはありません。

* 必須

1. 回答者ID *

受検者様検査用QRに記載の「0000-00000008-FT20250○○」の2桁の数字を記載ください。不明な場合は氏名(姓・名)を記載ください

2. メールアドレス *



Pita スクリーニング
更年期症状

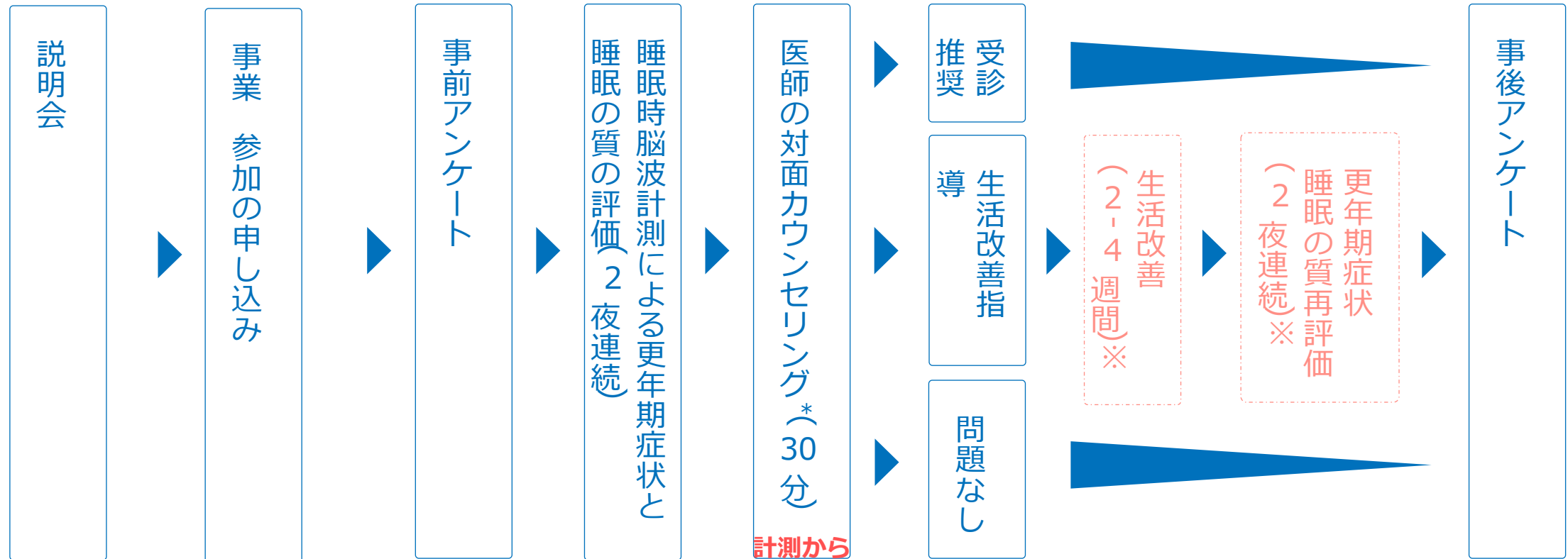
④医師カウンセリング (30分のカウンセリングを全員に実施)

⑤女性の活躍推進eラーニング教材

(希望者に対して提供)

③脳波計測と睡眠AI・ 更年期判定アルゴリズムによる 更年期症状評価

運用フロー詳細



計測から
4週間以内

* : 全員に実施

リクルーティングに関するKPI

声かけ団体

実績 **16社**

目標 **200社**

8%

説明会応募人数

実績 **178名**

目標 **100名**

178%

実証参加者

実績 **59名**

目標 **60名**

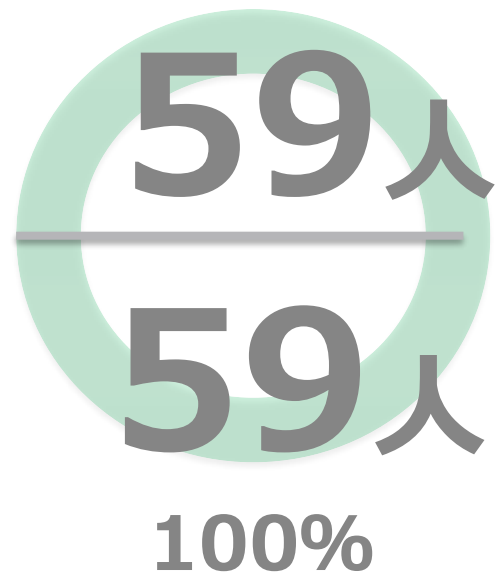
※1名途中辞退

98%

協力予定団体の辞退などにより、声かけ団体の再調整を実施
一方で、説明会参加応募数は想定をはるかに超え
関心の高さがうかがえる

睡眠解析に関するKPI

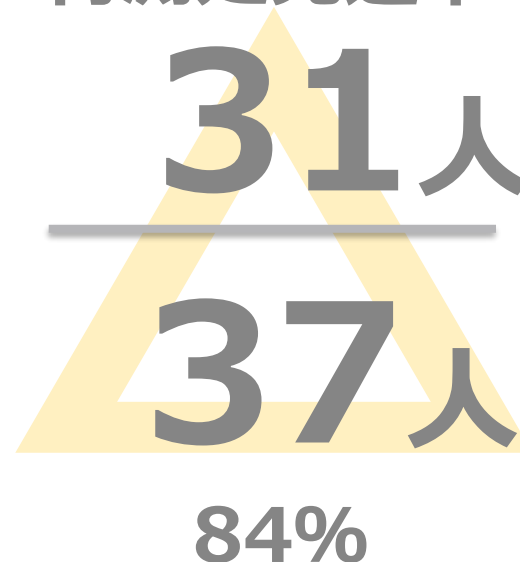
測定完遂率



解析可能率



再測定完遂率



再測定解析可能率



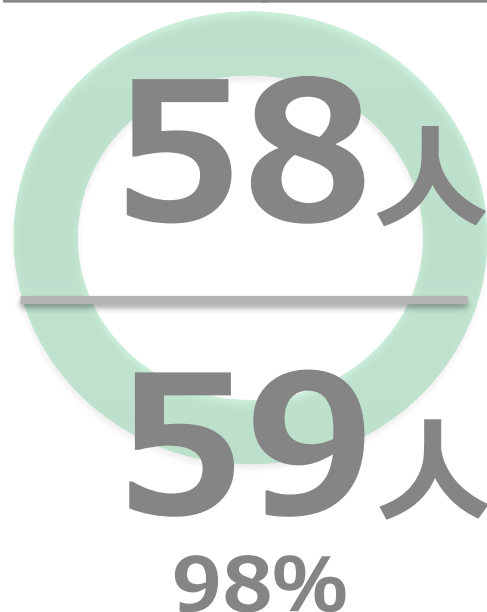
スケジュール遅延による対応時間の短縮や体調不良などの事情により
再測定の完遂率はやや低下

医師カウンセリング・ヒアリングのKPI

医師カウンセリング

参加人数

※対面37人/Web21人



事前

アンケート回答率



事後

アンケート回答率



機会提供ができれば積極的な医師相談へ繋がる可能性が示唆

更年期症状に関する指標（実態）

医療機関の受診を
勧められる者の割合

16%

想定:20%

生活指導を受ける者
の割合※

67%

想定:60%

更年期障害の可能性
のない者の割合

17%

想定:20%

概ね想定通りの分布

※基本的な生活指導は全参加者に実施
ここでいう「生活指導を受ける者」は睡眠の再検査の対象となった者

行動変容に関する指標(実態)

医療機関の受診を勧められた者
のうち行動した者の割合

88.9%

想定:90%

ヘルスケアリテラシーが
向上した者の割合

21.2%

想定:35%

生活指導を受けた者のうち
更年期症状が
改善した者の割合

57.8%

想定:35%

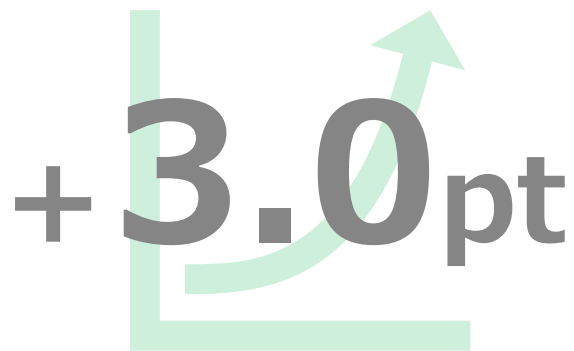
※女性特有の健康課題についてあなたの
知っていることはなんですか?という質
問に「更年期」を回答した人の増加割合

元々リテラシーが高い
54.2% ▶ 75.4%

行動変容の促進を通じ症状の改善に寄与したことが示唆

就業意欲に関する評価指標

プレゼンティーズム
参加者全体平均
(WHO-HPQ)



実証前59.8% ▶ 実証後62.8%

働き方が改善した人の
割合



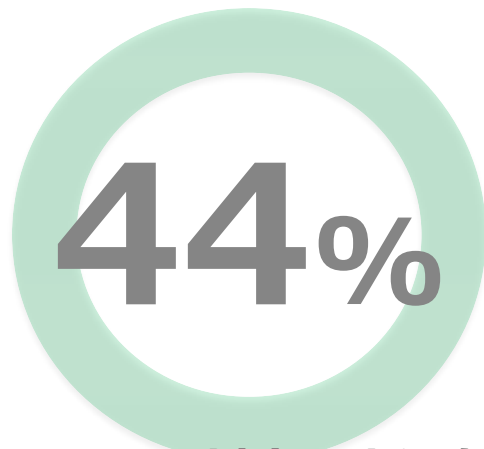
想定:35%

※全参加者中、実証事業の前後で取得したアンケートにおいて、「働き方が改善した」と回答した人の割合

労働生産性が大きく改善

その他インサイト

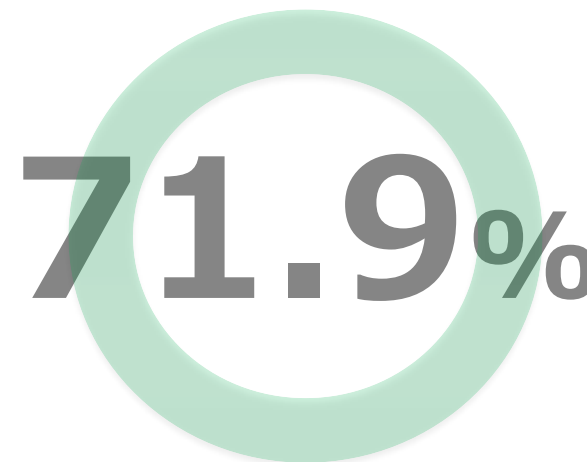
医療機関の受診を勧められた者のうち
事業終了時にSMIが改善した人



SMI*66以上の人にも
医師のカウンセリングによる効果があった

※SMI（簡略更年期指数）：更年期症状の重症度を測る自己チェックリストです。
10項目の症状を点数化し、51点以上が医療機関受診の目安とされています

本サービスによって、
自身や職場に良い変化が起こった割合



※「利用・導入したフェムテック等サポートサービスによって、
あなたや職場に起こった具体的な良い変化をお答えください」の
回答にその他、あまりかわらなかった以外に回答した人の割合

行動変容の促進を通じ症状の改善に寄与したことが示唆

更年期特有の睡眠への効果

実証事業前後の
睡眠効率
(睡眠効率83%未満の参
加者に対して)

23%
増加

睡眠効率 (すいみんこうりつ)
ベッドに入っていた時間のうち、
実際に眠れていた時間の割合。
ムダなくぐっすり眠れているかを見る指標。

実証事業前後の
中途覚醒の割合
(中途覚醒46分以上の参
加者に対して)

46.3分
短縮

中途覚醒 (ちゅうとかくせい)
睡眠中の覚醒時間。
回数・時間が多いと、眠りの質が下がる。

更年期特有の睡眠への効果

実証事業前後の
入眠潜時
(入眠潜時14分以上の参加者に対して)

46.6%
短縮

入眠潜時（にゆうみんせんじ）
布団に入ってから実際に眠りにつくまでの時間。
短いほど、スムーズに眠れている状態を示す。

実証事業前後の
深睡眠
(深睡眠16.5分未満の参加者に対して)

+14.9分

深睡眠（しんすいみん）
脳や体がしっかり休んでいる、ぐっすり深い眠りのこと。
疲労回復や体の修復にとっても大切とされる。

「当事者の関心の高さ」と 「医師のカウンセリング」の効果が如実に表れた結果

- 参加希望者 ▶  想定 of 178%
- オペレーションに関するKPI ▶  ほぼ達成
- 行動変容に関する評価目標 ▶  ほぼ達成
- 就業意欲の改善 ▶  + 3.0pt改善
- 睡眠に関する改善 ▶  複数の睡眠指標が改善

「計測・調整の負担」や「リソース制約」等の課題を特定し、 ツール改善と仕組化による具体的な対応策を立案

●計測オペレーション

課題： 自宅計測におけるユーザー負担と、それに伴う再測定率の低下（運用工数の増大）

対策： 脳波計およびアプリのUI/UX改善による計測ハードルのさらなる低減

●スケジュール調整

課題： 個別カウンセリングの日程調整の煩雑化

対策： 予約管理プロセスのシステム化・自動化による運用効率の向上

●カウンセリング体制（コスト・リソース）

課題： 医師による対面・個別対応のリソース制約とコスト（スケーラビリティの課題）

対策： カウンセリングのパッケージ化（スクリプト・マニュアル活用）および医療機関連携モデルへの移行

●e-learning（教育コンテンツ）

課題： 知識習得の継続と行動変容への結びつき（視聴率・定着率の維持）

対策： カウンセリングを通じた個別推奨（動機づけ）およびアプリ等によるリマインド強化

中期的な展開

**事業化に向けた
Productの改善・PMF**

**医療機関において
カウンセリングパッケージ
の試験運用**

※副次的な成果物
「オンラインカウンセリング
に適用可能なトークスクリプト」
を活用可能

長期的な展開

Productの普及・GTM

**企業・産業医
での利用**

パナソニック株式会社
くらしアプライアンス社

社員一人ひとりのウェルビーングを実現する「人が生きる人的資本経営」をサポート
ー 女性自身の健康行動が変わる、職場に集うみんなで変わる “オフィスRizMo” の検証ー
最終報告資料



パナソニック株式会社 くらしアプライアンス社

働く女性が、日常生活の中でも、企業の中でも、いきいきと活躍できることを目的とします。

最終的にはサービス導入効果を定量的（経営指標として）に見える化し、企業向けに投資効果のあるサービスであることを目指します。



そのために実施すること

①女性自身が、自分の体調の変化を客観的に知ること、行動変容を起こしやすくなったうえで、日常生活の中で自分自身で、体調コントロールがしやすくなることを目指します。

▶**体調ナビゲーションサービス「RizMo（リズモ）」***の提供／ヘルスクア相談サービスの提供／**セミナー動画配信**

*以下「RizMoサービス」と記載

②体調が悪い時に我慢してしまう女性が多い中で、体調が悪い時には職場の仲間に相談してもいいんだよと、何でも言える環境づくりを目指します。

▶**職場ワークショップ（コミュニケーションカフェ）**の実施（全国6拠点）




実施項目

◆自分の体の変化・状態を知る

- ・温度変化による生理周期の把握
- ・睡眠状態による、その日の体調の把握


①「RizMoサービス」の提供



◆一人じゃない、誰かがいつもそばにいる安心感

- ・スマホでいつでも手軽に専門家*に相談できる
- * 約50人の専門家(看護師・薬剤師・臨床心理士など)

②ヘルスケア相談サービスの提供



◆自分の体について学ぶ

- ・「何となく知ってる」からもっと理解を深める

③セミナー動画配信

◆なんでも言える職場環境をつくる

- ・体調が悪い時、気軽に上司・同僚に相談できる

④職場ワークショップ

目的

当事者ヘルスリテラシー向上

体の変化を知る
(生理周期の二相性・睡眠)



日常生活行動・意識
の変化

自分事として、日常生活の中で
体の変化を実感しながら、
ヘルスリテラシーが身につく
それに伴い行動変容が起こる

周囲リテラシーの向上

働く環境での心理的
安全性の確保

体調ナビゲーションサービス 「RizMo (リズムモ)」

女性社員モニター

女性の不調に影響を与えるバイタルデータを計測し、そのデータを基に分析・予測・アドバイスまでを、トータルでサポートします。



バイタルデータ
①月経リズムと連動した温度
②睡眠状態



・本サービスは、疾病の予防、診断または治療を目的としたものではありません。
・日々の体調管理や生活習慣をサポートするためのサービスです。

ヘルスケア相談サービス（株式会社ファミワン）

全社員利用可能

オンラインでいつでも気軽に相談可能。約50人の専門家*が健康課題に伴走します。
一人ではなく、誰かがそばいてくれる安心感を提供。

* 看護師、臨床心理士、助産師、保健師、管理栄養士等

生理・PMS・妊活・不妊治療・妊娠中・産後・育児・仕事の両立・更年期まで

ファミワンヘルスケア相談

ファミワンでは様々な分野の専門家が在籍していますので、お悩みにあわせた専門家チームによるきめ細かなサポートが可能です

- 利用者数 3万人突破 (2023年11月現在)
- 総アドバイス数 1.4万件突破 (2023年11月現在)
- ユーザー満足度 93.7% (2023年11月現在)

いつでも相談

スマホで簡単

匿名OK

LINE 友だち追加

セミナー動画配信（株式会社ファミワン）

全社員視聴可能

基礎知識を毎月配信し、自分自身でも課題解決の方法を身につけられるようにします。（アーカイブ形式）



**8月から12月
毎月更新**

ちょっとした工夫で体も気持ちも変わる。
自分のカラダを知り、毎日をもっと心地よく過ごすヒントをお届けします。

 <p>2025年 8月 専門家が教える パフォーマンスを 発揮するためのヒント —睡眠について—</p>	 <p>2025年 9月 知って得する、 自律神経とセルフケア</p>	 <p>2025年 10月 男女の更年期、 基本のキ</p>
 <p>2025年 11月 ちょっとした理解が、 働きやすさをつくる —月経と女性の健康課題に関する基礎知識—</p>	 <p>2025年 12月 生活習慣を見直そう ～年末年始の過ごし方～</p>	<p>動画配信 特設サイトはこちら</p> <p>毎月こちらのページに 更新しています</p>

職場ワークショップ（コミュニケーションカフェ withファミワン）

職場単位で参加

ファミワンの専門家を招き、実際の職場単位で、女性特有の健康課題について、男女がコーヒーを飲みながらワイワイガヤガヤと話し合える雰囲気をつくります。今までタブーとされてきた内容について、男女の壁を取り払って会話することで、何でも言える職場環境をつくります。



<会場は全国6拠点で実施>

マーケティング部門

東京本社
パナソニック目黒ビル

商品開発部門

草津拠点(滋賀)
(美容健康・冷蔵庫・食洗機)

商品開発・製造部門

彦根工場(滋賀)
(美容・健康家電)

製造部門

袋井工場(静岡)
(洗濯機)

製造部門

神戸工場(兵庫)
(IHクッキングヒーター)

製造部門

東近江工場(滋賀)
(掃除機)

<ワークショップの内容>

前半（知識を身につける）

◆女性活躍の課題について

- ・就業継続の難しさ

◆月経とPMSについて

- ・カラダとココロの変化
- ・受診の目安

◆更年期について

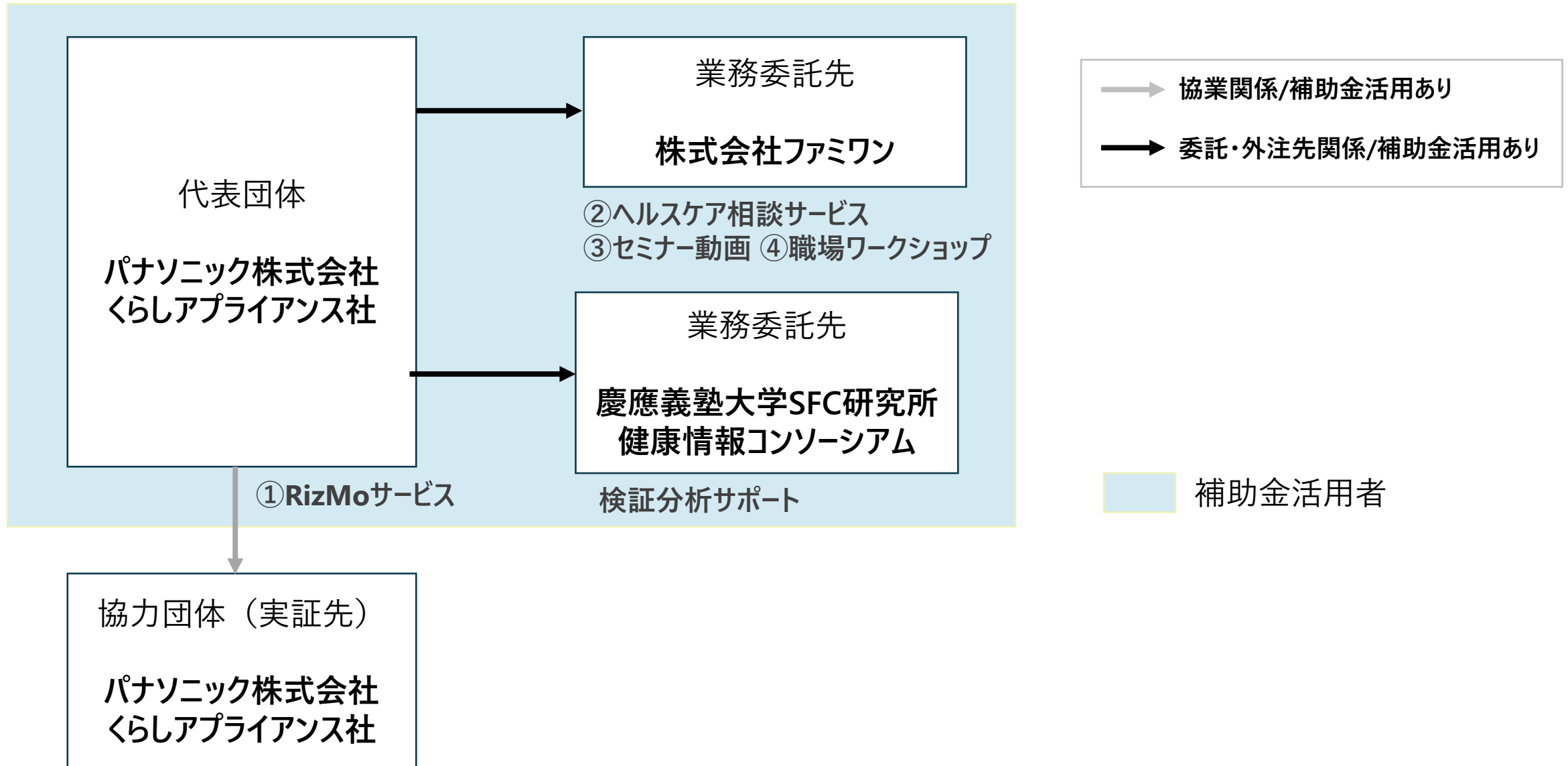
- ・男女別更年期
- ・セルフケアについて

後半（話し合い）

<男女入り交じりグループワーク>

◆PMSが辛い女性社員からの相談

- ・困っていることは何だろう？
- ・相談する側の工夫
- ・相談を受ける側の工



1. 準備期間：男女共同参画週間に合わせたイベントや、産官学連携の啓発イベントを実施し参加募集
2. 運用期間：サービス提供と合わせて、定期的な動画配信や各拠点ワークショップ実施
3. 分析期間：アンケートとRizMoサービスデータをもとに効果分析

実施項目		2025年						2026年		
大項目	小項目	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
募集	参加者募集/説明会	▶								
①RizMoサービス	サービス実施			▶						
②ヘルスケア相談サービス	サービス実施			▶						
③セミナー動画配信	基礎知識セミナー			① ②	③	④	⑤			
④職場ワークショップ	参加グループの選定			▶						
	ワークショップ実施				① ② ③ ④ ⑤ ⑥					
成果測定	事前アンケート		▶							
	事後アンケート						▶			
	データ分析							▶		

目標

働く女性が、日常生活の中、企業の中でも、いきいきと活躍できることを目的、目標とし、下記に取り組む

- ① RizMoサービスを軸にしたサービスにより、**女性当事者のヘルスリテラシー向上と行動変容促進**
- ② 職場ワークショップを通じ、**周囲のリテラシー向上と社員間のエンゲージメント効果促進**

結果

- ① **サービス利用者の分析結果：ヘルスリテラシー向上と行動変化が確認された**
 - ・利用者の76%が「女性特有の健康知識が増えた」と回答、「健康を気にかけている」が85%に有意に向上
 - ・女性特有の健康課題について「適切なケアができています」が67%に有意に向上
 - ・睡眠時間が有意増加、睡眠効率が有意向上。利用者の80%で睡眠に改善傾向を確認（行動変容）
 - ・一方、(A)応募者数、(B)ヘルスケア相談サービス利用者数、(C)体調入力率は目標を下回った
- ② **ワークショップ参加者の分析結果：周囲リテラシー向上とエンゲージメント促進効果が確認された**
 - ・女性特有の健康課題について、98%が「理解が高まった」、82%が「話しやすい雰囲気になった」、84%が「（体調不良を理由に）業務調整したり休暇を取得しやすいと思えるようになった」と回答

総括

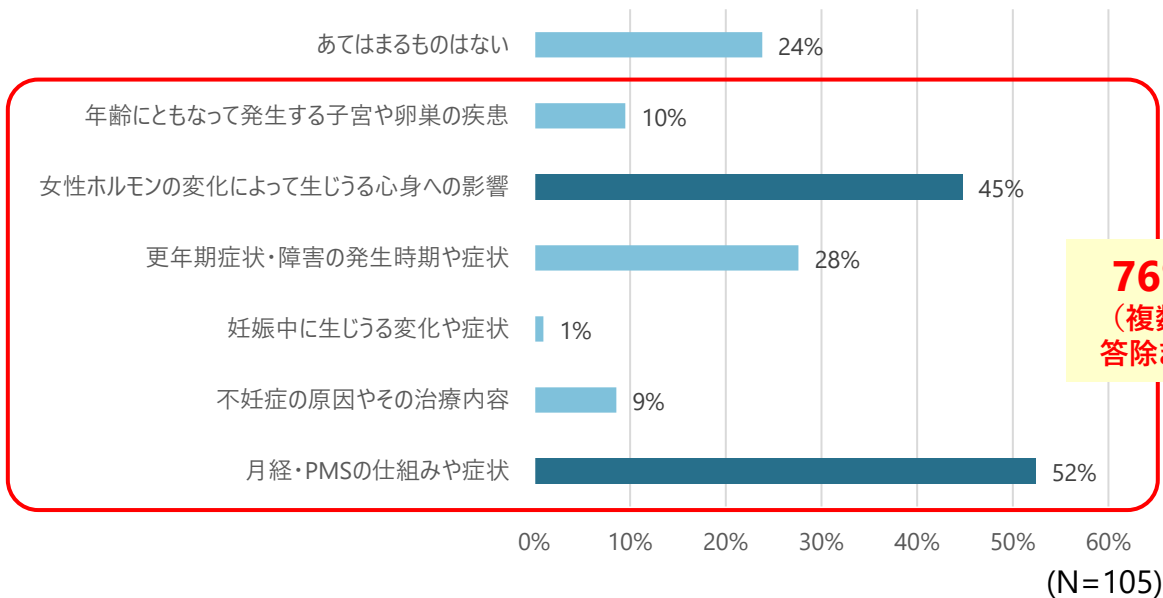
- ・モニターへの参加・利用継続について、強制をしない当事者に一任した「現実的な運用方法」で検証実施
- ・100名以上の参加者を得て、本事業の主目的である当事者のヘルスリテラシー向上や、周囲のリテラシー向上はKPI未達があるも、おおむね狙い通りの成果確認ができた

目的	実施項目	計画値・KPI	達成状況
ヘルスリテラシー向上 当事者	RizMo サービス	<ul style="list-style-type: none"> ◆参加者 200人（女性） ◆検証期間 5か月 ◆参加継続率 90%以上 ◆体調入力率 90%以上 ◆睡眠改善度 80%以上 ◆サービス満足度 80%以上 	<ul style="list-style-type: none"> → ◆サービス登録者117人（20-50代） → ◆検証期間 約3か月半 → ◆参加継続率 92% → ◇体調入力率 16% → ◆睡眠改善度 80%（睡眠の量or質：行動変容） → ◆サービス満足度 76%
	ヘルスケア 相談サービス	<ul style="list-style-type: none"> ◆利用率 1回以上利用90%以上 ◆利用率 1回/月以上60%以上 ◆サービス満足度 80%以上 	<ul style="list-style-type: none"> → ◇利用率 16% → ◇利用率 18% *利用者の内 → ◇サービス満足度 53% *利用者の内
リテラシー向上 周囲	職場 ワークショップ	<ul style="list-style-type: none"> ◆モニター参加者の部署が対象 ◆100グループ/500人以上（男女） ◆意識の変化 80%以上 	<ul style="list-style-type: none"> → ◆全国6拠点にて実施 *モニター参加者以外の各拠点 → ◆27グループ/95人（20-50代 男36人女59人） → ◆女性の理解度、話しやすさが80%以上に向上

ヘルスリテラシー改善 （主観評価）

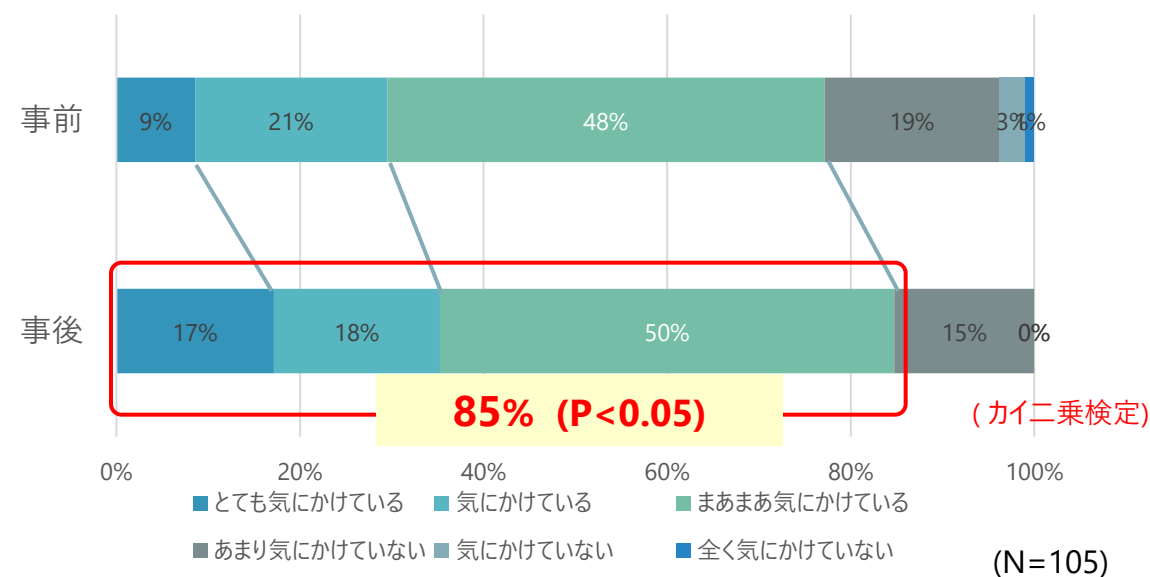
サービスを利用することで、**76%**の方が女性特有の健康知識が増え、健康意識（気にかけている方の割合）が**85%**に有意に向上した

今回利用したフェムテック等サポートサービスをきっかけに知ったことは何ですか。あてはまるものを全てお答えください



76%
（複数回答除き）

あなたご自身の女性特有の健康課題について、日ごろの考えをお答えください

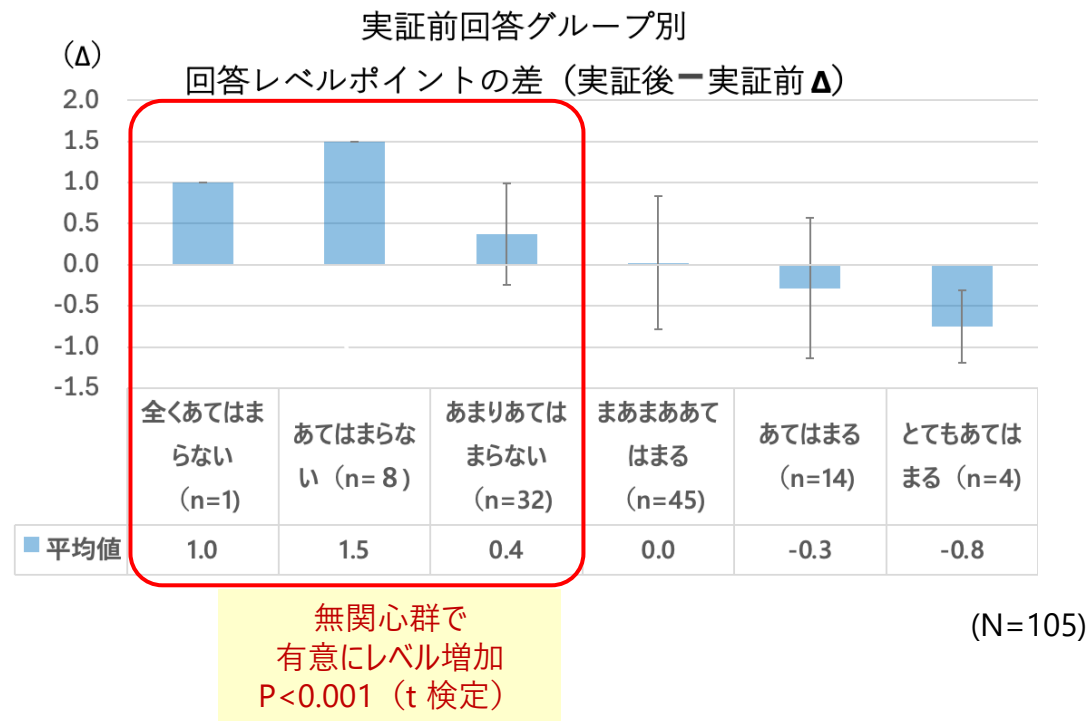
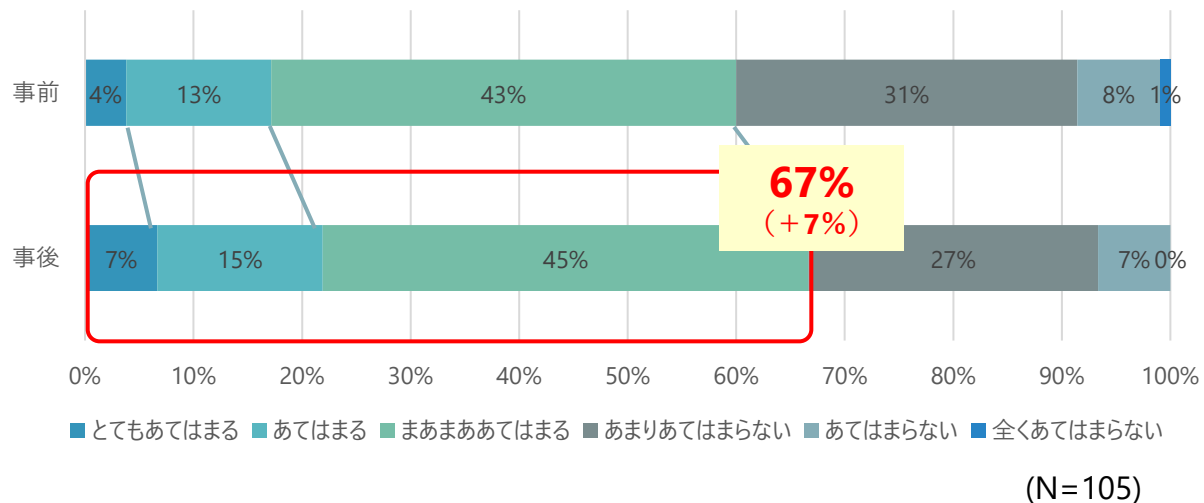


考察

- ▶ 参加者は女性であり、①女性ホルモンの変化によって生じる心身への影響、②月経・PMSの仕組みや症状、等は「知っている（①61%、②88%；事前アンケート）」つもりだったが、必ずしも正確な知識が十分でなく、知識提供の取り組みは重要と言える
- ▶ 当事者向けサービス（バイタル計測/可視化/知識提供と健康相談）は、利用者集団の健康意識向上に役立つ

行動改善 (主観評価) 女性特有の健康課題について「適切なケアができています」割合が増加したサブグループ解析の結果、実施前無関心群で有意な行動改善が確認できた

女性特有の健康課題について、適切なケアができていますか



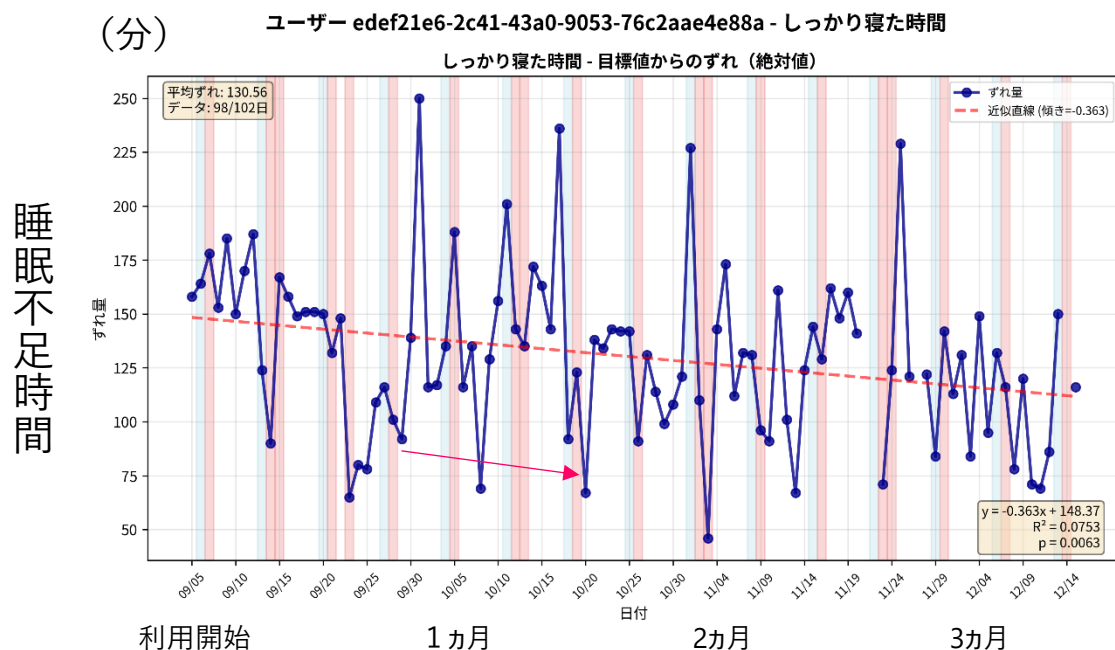
考察

- ▶ 当事者向けサービス (温度・睡眠計測/可視化/知識提供と健康相談) は、利用者集団の行動変容を促進する可能性がある
- ▶ 特に「ケアへの無関心群」方で行動変容度合いが高かった。正しい知識を得たことが適切なケアにつながった可能性がある

睡眠の改善 (客観評価)

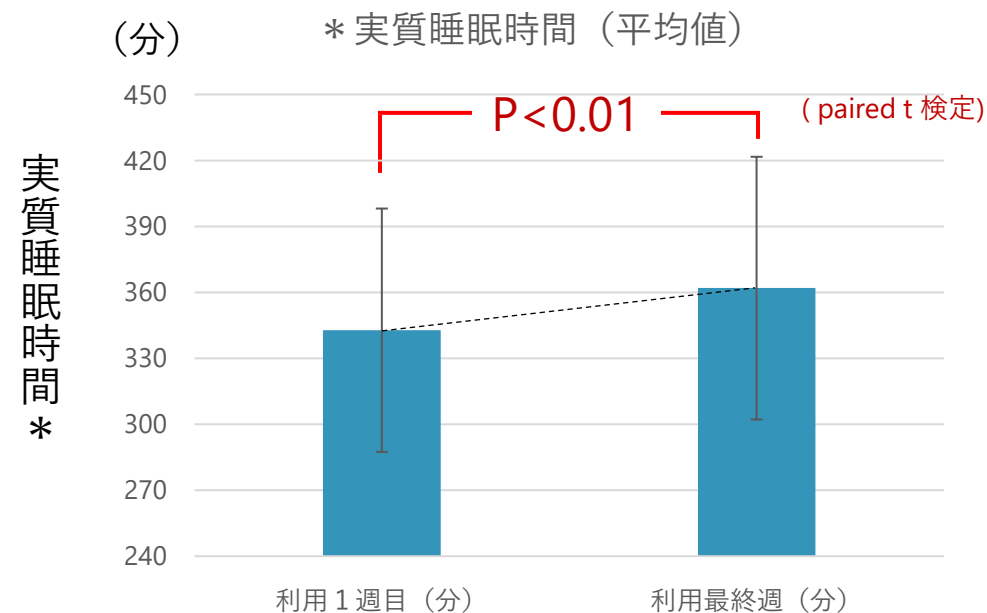
ウェアラブルデバイスを用いたRizMoサービスにより睡眠状態の客観的な分析が可能になった
【結果1】参加者の約70%で睡眠不足時間が減少傾向を示し、睡眠の量は有意に増加した

< 睡眠の量の改善を示す事例 >



約70%の参加者で睡眠不足時間が減少傾向を示した

< 3.5か月で睡眠の量が有意に増加 >



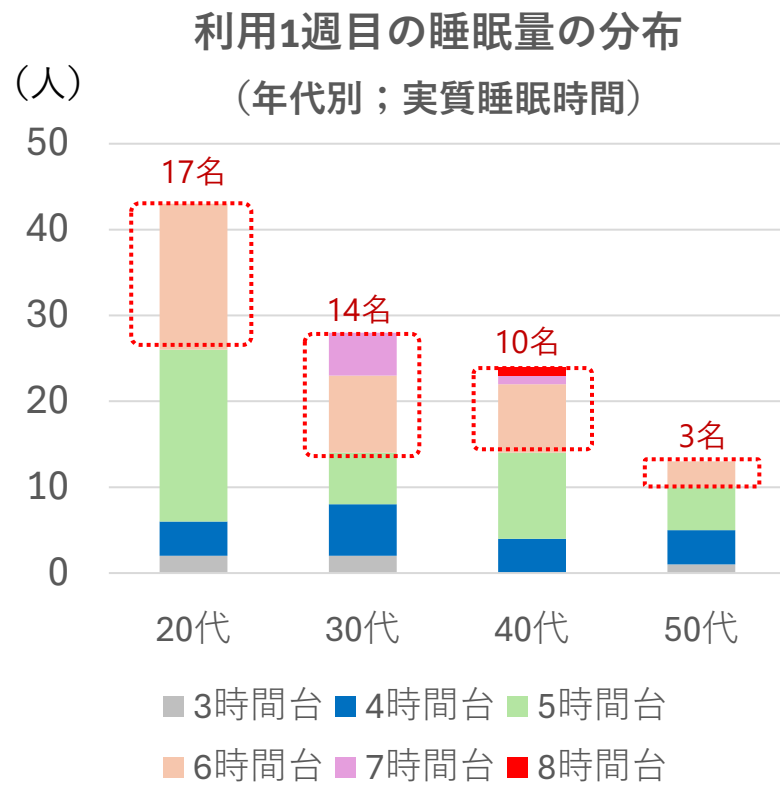
* 睡眠時間から中途覚醒
 や離床を除いた時間

集計期間: 2025年 9/3-12/15
 有効データ数: N=108

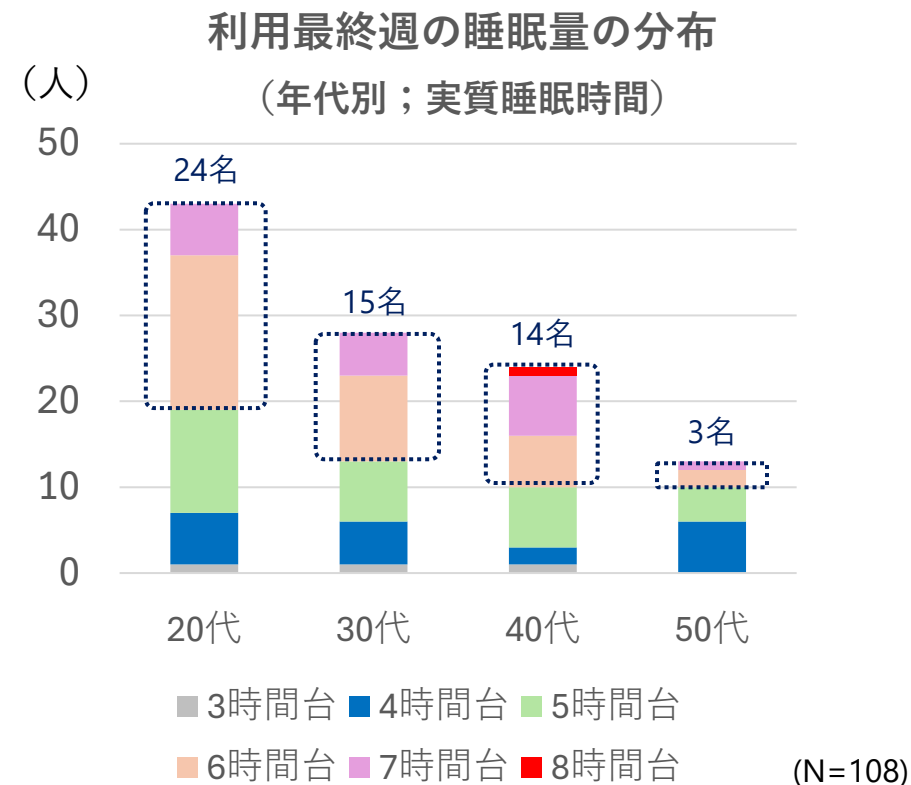
睡眠の改善 (客観評価)

20-40代で「**実質睡眠時間※が6時間以上**」の割合が増加した

※睡眠時間から中途覚醒や離床を除いた時間



介入期間
約 3.5か月



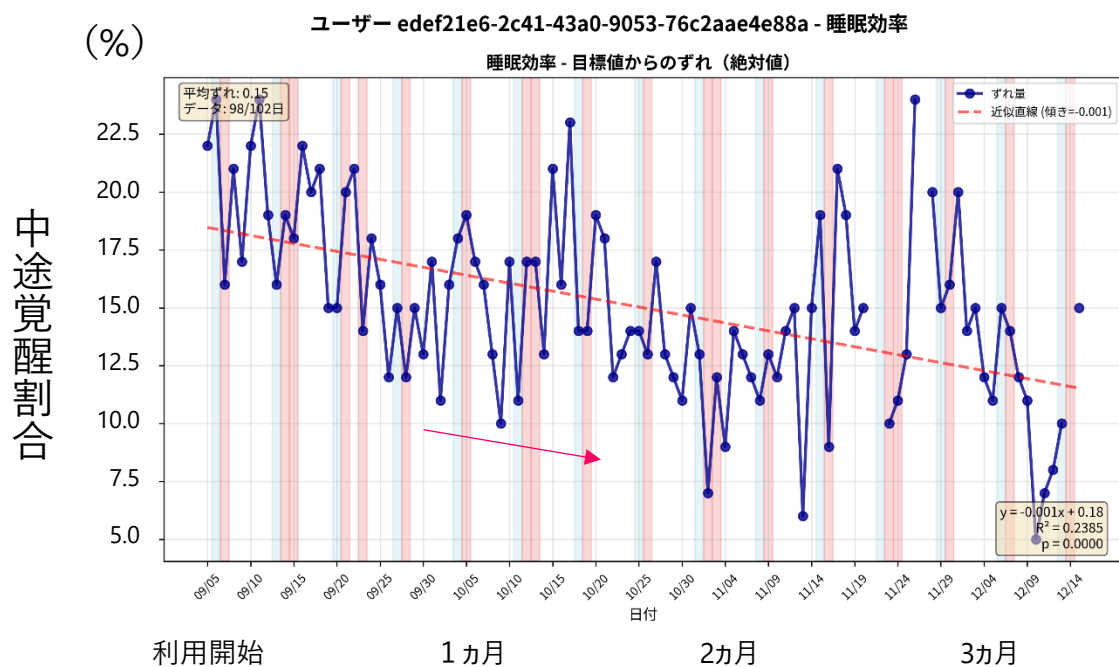
考察

- ▶ 参加した従業員は年齢が上がるほど睡眠時間が少ない割合が増えており、中年層の睡眠不足が改めて明らかになった
- ▶ 20代と40代で特に睡眠時間が増加した割合が多かった

睡眠の改善 (客観評価)

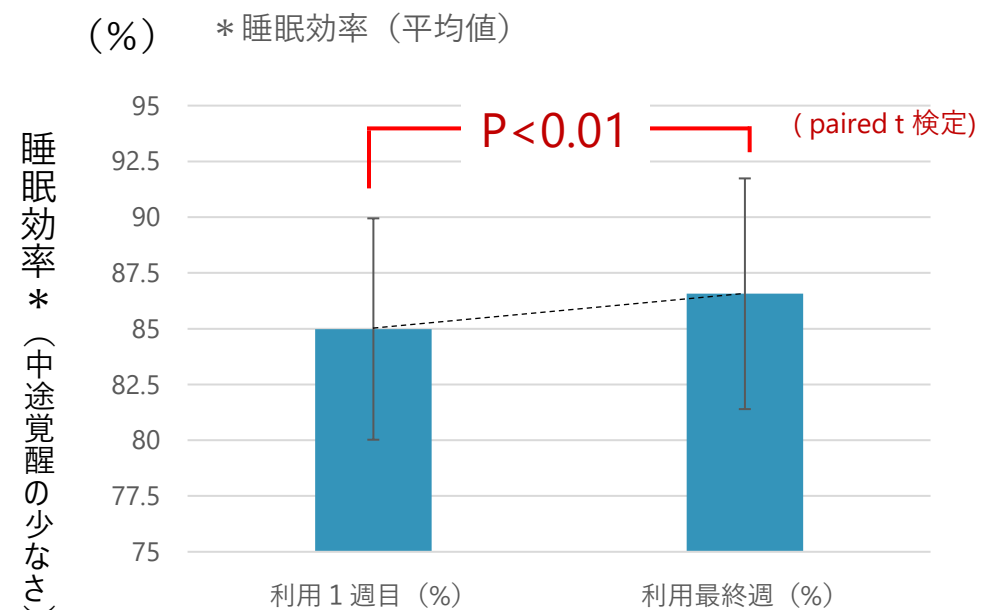
【結果2】参加者の約80%で中途覚醒割合が減少傾向を示し、睡眠効率*が有意に向上した
 →睡眠の計測/可視化/知識提供を行うRizMoサービスは、睡眠に対する行動変容が期待できる

< 中途覚醒の減少傾向を示す事例 >



約80%の参加者で中途覚醒割合が減少傾向を示した

< 3.5か月で睡眠効率*が有意に向上 >



* 入眠時刻から目覚時刻までの間のうち、しっかり寝た時間の占める割合です。85%未満だと、効率があまり良くないと考えられます。

集計期間： 2025年 9/3-12/15
 有効データ数： N=108

考察

- ▶ アンケートでは捉えられない行動の変化がRizMoサービスにより明らかになった
- ▶ 睡眠のリズムは有意差には至らなかった (図省略)。参加者が会社員で睡眠時間帯は以前から安定していたためと考察した

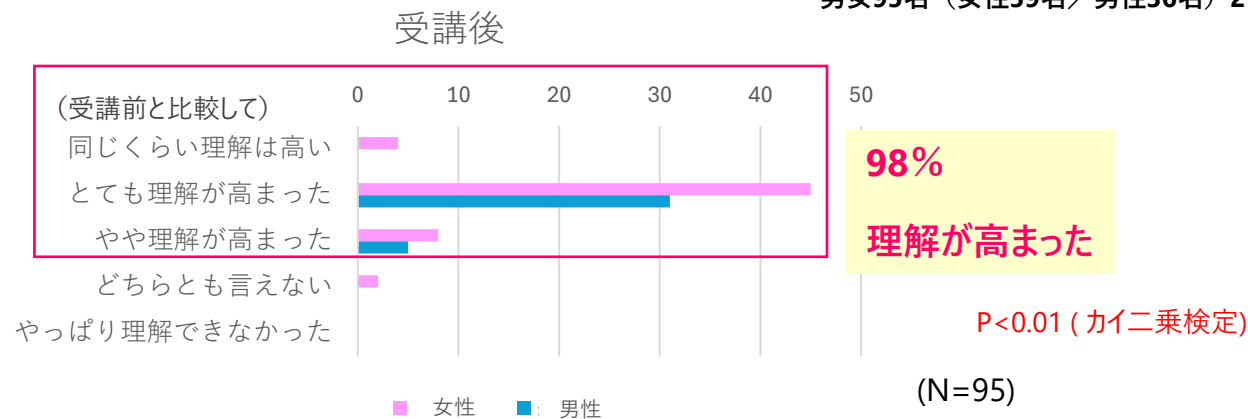
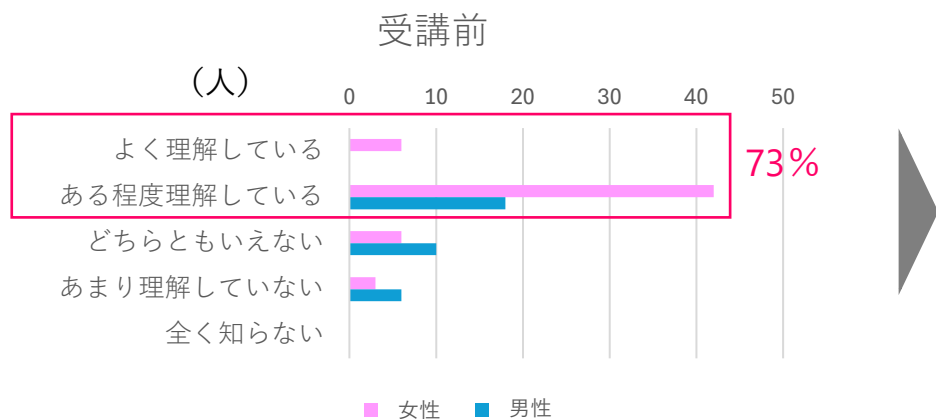
リテラシー改善 (主観評価)

専門家を招いた、職場ワークショップに参加した男女の80%以上に知識と意識の変化が見られ、周囲リテラシーの向上に効果的であることが示された

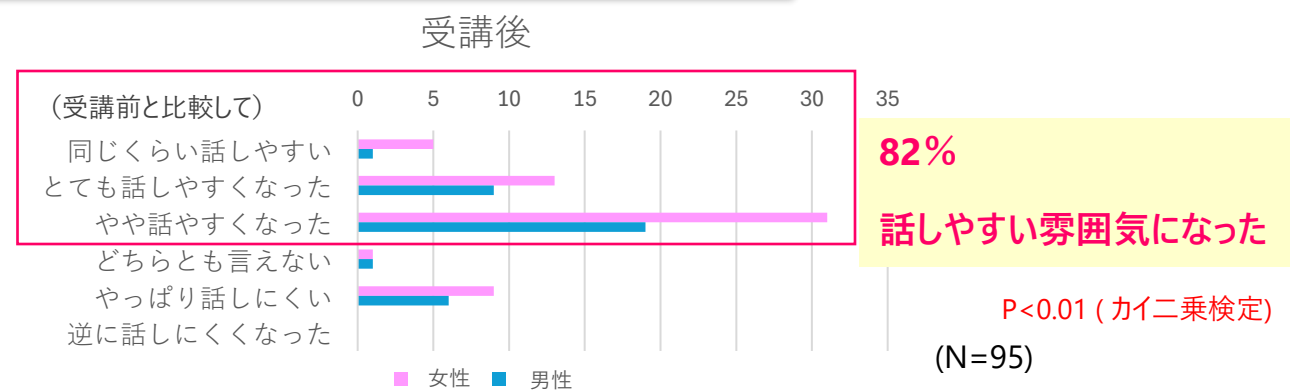
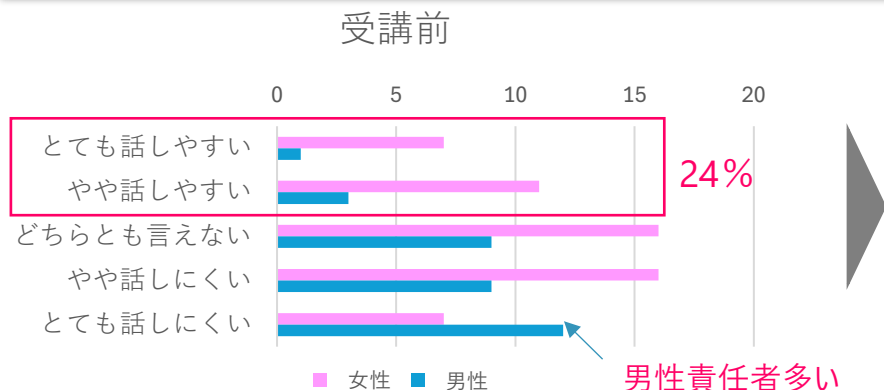


くらしアプライアンス社 6拠点
(目黒・東近江・袋井・草津・彦根・神戸)
男女95名 (女性59名/男性36名) 27グループ

生理前や更年期に起こる体調不調について、どの程度理解していますか？



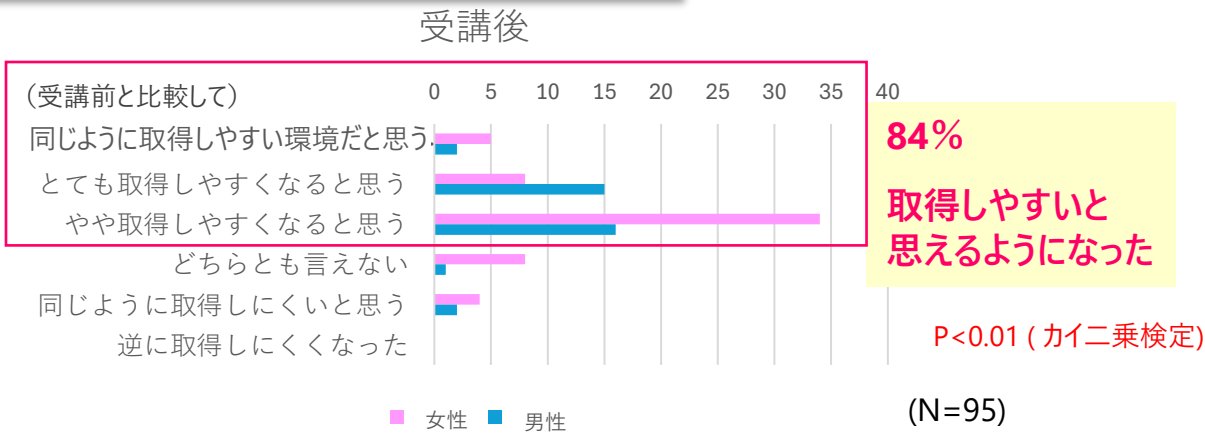
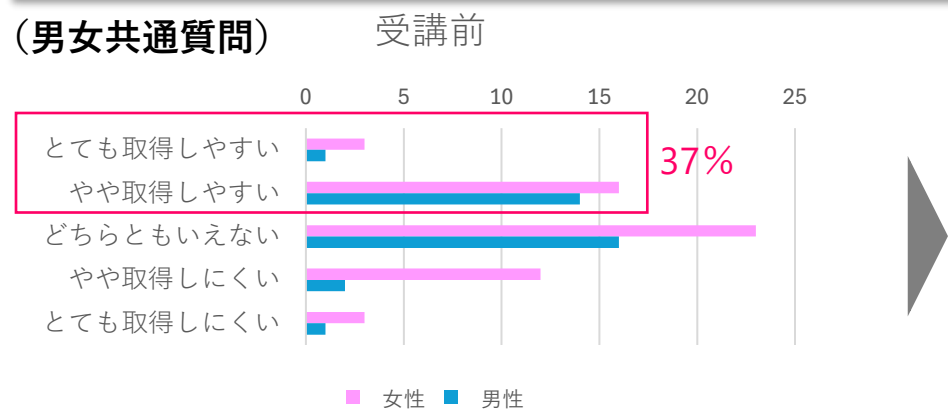
職場での女性の健康課題 (PMS、更年期など) について、どの程度話題にしやすいと感じますか？



意識改善 (主観評価) 専門家を招いた、職場ワークショップに参加した男女にて、制度の活用意識の変化が見られ、あわせて、男性の意識改善にも大いに効果的であることが示された

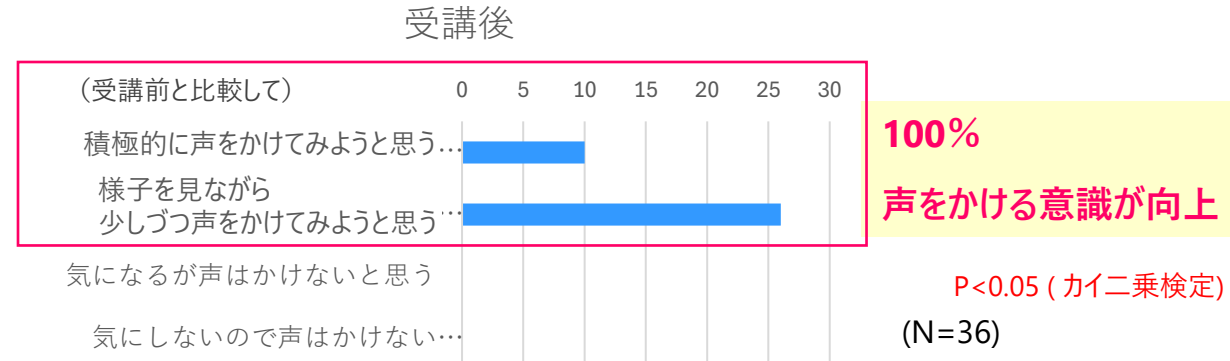
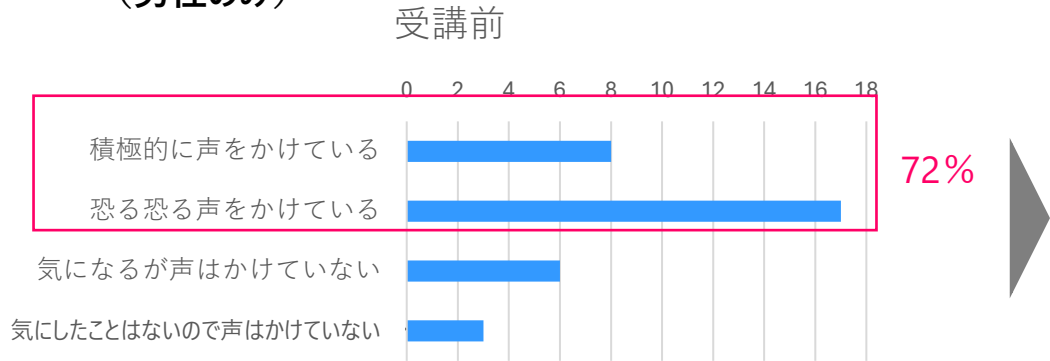
生理や更年期に関する体調不調を理由に、業務調整や休暇取得がしやすい環境だと思いますか？

(男女共通質問)



女性従業員に対して、体調が悪そうなときにどのような対応をしていますか？

(男性のみ)



自由意見（回答数 男女 65人／95人）

◆もっとたくさんの社員に参加してほしい、という要望 25人

（その中で、男性社員や管理職の方に参加してほしい 9人）

- ・「このような機会を管理職含む社員全員に与えてほしい」
- ・「女性は知識があると思うので、男性社員の参加を増やしてほしいと思います。」
- ・「職場の男性に今日のワークショップの内容を理解してほしい」

◆女性の健康について理解が深まった 21人

（その中で、特に更年期について理解が深まった 10人 ※20代、30代女性が多い）

- ・「学校では生理痛などしか学ばないので、PMSや更年期を学ぶ機会ができて良かったです。」
- ・「女性の体調不良に関して理解が深まった」

◆職場の仲間に対する対話の意識が変わった 16人

（その中で、特に男性 10人）

- ・「女性同士の同僚とも生理の話題はデリケートなため、あまり話す機会がなかったので、新鮮な気持ちで参加できました。」
- ・「職場のメンバーがどのような悩みを持っているのか考えたくなった。」
- ・「タブーのハードルが大きく下がるきっかけになったと思います。」

考察

▶ ワークショップ参加者の効果実感が高かった
その結果、全員参加の要望につながっている

▶ 専門家を招いての健康知識レクチャーについては、リアルの場で、男女入り交じりの学びが、より理解度を高める

▶ 専門家を交えたより実践的なロールプレイングは、男女共に「言ってもいいのかな」といった、モヤモヤした壁を取り払う効果が見える。
女性特有の健康課題への社員間コミュニケーションとして、特に男性管理職の意識に影響を与えやすい。

全体成果

RizMoサービスを通じ、当事者にとっては日々の計測データがあることで、自身を客観視できるため、健康意識の改善、健康行動促進へ効果を発揮
 また、専門家を招き、女性特有の健康課題について、男女が共に職場で学び、より実践的なロールプレイングを実施することで、社員間エンゲージメントに効果を発揮

考察

ヘルスリテラシー向上
 当事者

RizMoサービス

- ◆利用継続率は高かった。
- ◆睡眠状態を分析した結果、睡眠時間の有意な増加および、睡眠効率の有意な向上が見られた。
 ・睡眠の改善は従業員の健康とともに仕事のパフォーマンスにも重要な指標となるため
 企業の健康管理室でも関心が高く、睡眠状態を客観的に可視化できることはメリットが多い。
- ◆体調入力は利用率が低かったため、習慣にしてもらうにはさらに工夫が必要。

ヘルスケア
 相談サービス

- ◆幅広い相談へ対応できるため、いつでも専門家へ相談できる安心感として重要と考える。
 一方、今回の期間中の、利用頻度だけを指標とすると実装優先度は下がる。
 しかし、ライフイベント（妊活・不妊）相談も多く、サービスの打ち出し方含め、周知の工夫が重要。

リテラシー向上
 周囲

職場
 ワークショップ

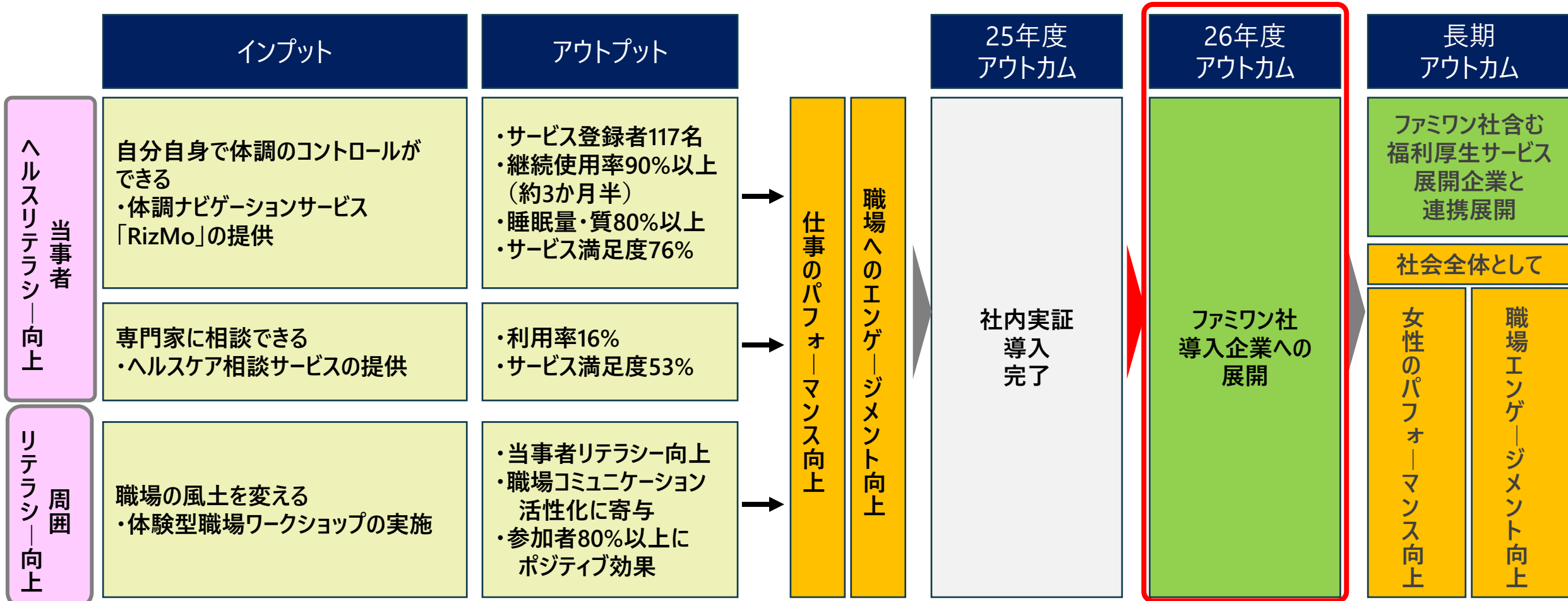
- ◆参加者の効果実感が高かった
- ◆専門家を招いた、職場の男女入り交じりの学びの場は、より理解度を高め、さらにグループワークでより実践的なロールプレイング実施により、職場社員間のコミュニケーション意識を変える効果が見える。
 特に男性管理職の意識が変わり、職場環境の改善としては有効と考える。
- ◆今回、一部の職場のみの実施であったが、ボトムアップでは限界があり、人事政策の仕組みに入れる工夫が重要

企業内制度として、人的資本経営にむけた人事戦略の一環として仕組化できるかが重要

項目	今回の実施方法	課題	改善案
社内啓発	<ul style="list-style-type: none"> ●本社ビルでフェムテックイベント初開催 <ul style="list-style-type: none"> ・広報部門と連携し社内外へリリース発信 (記事も多数掲載) ●イベント連動で参加募集告知 <ul style="list-style-type: none"> ・メール、ポスター、食堂サイネージにて各事業場内に告知 	<ul style="list-style-type: none"> ●全体波及効果がでなかった <ul style="list-style-type: none"> ・単発イベント企画と見え企業制度として定着していない場合は情報が一過性となる 	<ul style="list-style-type: none"> ◆企業トップのコミットメント <ul style="list-style-type: none"> ・経営管理アジェンダへ「女性特有の健康課題」支援を明記 ex)年度運営方針
制度運営	<p>人事DEI部門より社内メールで、各サービス案内を発信</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者へのメール対応 ・月1回セミナー動画案内を通じた利用啓発 	<ul style="list-style-type: none"> ●各種人事研修の中で埋没 <ul style="list-style-type: none"> ・社内での人事関連連絡研修が多数の場合、埋没 ●バイタルデータを扱うため個人情報保護の観点から参加者を特定できない仕組み <ul style="list-style-type: none"> ・運用フォローができない 	<ul style="list-style-type: none"> ◆全社員参加型の啓発期間設定 <ul style="list-style-type: none"> ・全社一斉に期間中ワークショップ開催 * 組織風土の醸成 ex)女性特有の健康理解デー ◆個人を特定しない利用促進方法を開発 <ul style="list-style-type: none"> ・データ管理画面にてシステムのアプローチ

今回の結果を踏まえ、導入効果の確認と事業モデルの確立

- ①外部企業への試験導入：1社へ導入テスト（4月～）
- ②各種学会にて成果発表：日本産業衛生学会（5月）等



株式会社ジエイコム九州

【令和7年度フェムテック等サポートサービス実証事業 事業報告】

あたらしいを、あたりまえに

J:COM

女性の健康ケアをあたりまえに 女性の健康プラットフォーム&アプリ



Care Of Things, Things Of Normal

株式会社ジェイコム九州

2026年2月

令和6年度、当社では本実証の取り組みにおいて、女性の健康に関するプラットフォームの構築と管理職向けのセミナー開催により、女性がいきいきと安心して働くことのできる職場環境整備に関する実証事業を行った。実証の結果、管理監督者のリテラシー向上による職場環境の整備、女性自身のリテラシー向上による婦人科受診率の向上の成果が見られた。

また、プラットフォームを活用した女性においてはキャリアへのイメージや健康課題への取り組みにポジティブな回答が増加し、プレゼンטיーイズムの改善につながることを示されたことから、本事業を進めることでより多くの企業の生産性向上につながると考えている。

以下に記載の事業を実施することで、職場において女性が抱える健康課題について相談ができる環境を整え、一人ひとりの体質・心身の状態に合わせた健康ケアをサポートし、女性がいきいきと働くことのできる環境をつくる。

- ◆企業における女性の健康に関するリテラシー向上の仕組みを構築し
それぞれの企業において女性の健康に対する取り組みをサポートする。
- ◆女性の健康プラットフォーム『Cotton』の内容拡充により、ライフステージごとの健康課題の理解を深める。
- ◆女性の健康アプリ『Cotton』の制作により、自身の健康状態が見える化し
必要な正しい情報を知る→受診する→セルフケアのサイクルをサポートする。

女性特有の健康課題に関するリテラシーを向上させることで

働く女性のこころとからだの健康維持

能力を発揮できる職場環境整備

女性の昇進希望率・管理職登用率増加

を図り、労働損失・経済損失の抑制につなげる

企業・自治体の健康経営推進担当者向けセミナー実施
(3回実施 9社 23名参加)

支援

健康経営推進担当者が研修ノウハウを各組織に持ち帰る

それぞれの健康経営推進担当者と組織内研修を企画実施
(6社実施 328名参加)

各企業および自治体内の従業員の健康リテラシー向上

成果

職場環境の改善
プレゼンティーズムの改善



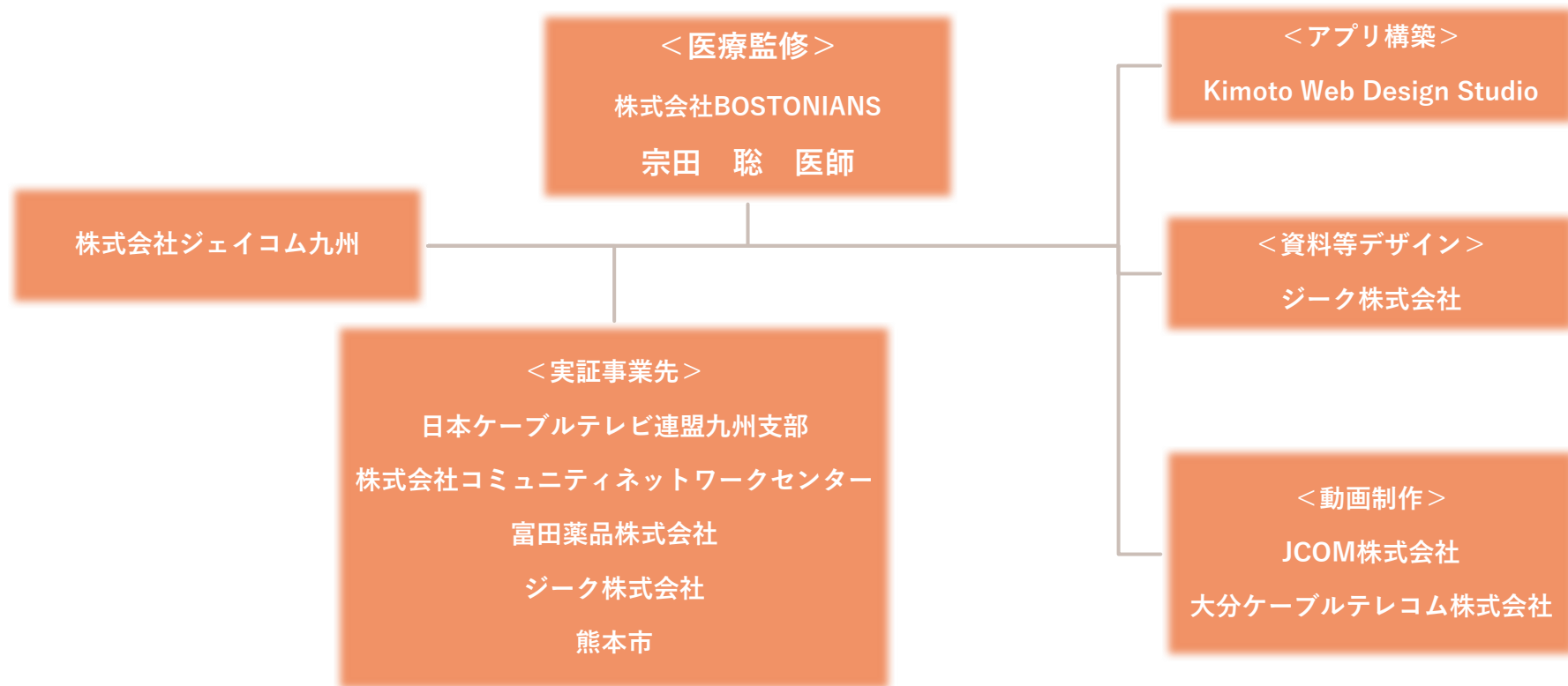
プラットフォーム

- ・研修資料の提供
- ・動画コンテンツの提供
- ・婦人科受診

健康管理アプリ

- ・健康状態の記録
- ・スケジュール/健診管理
- ・受診勧奨

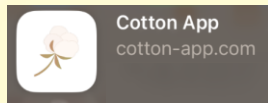
補助



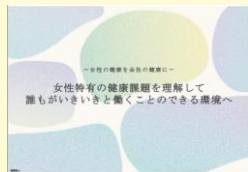


Care Of Things, Things Of Normal.

<コンテンツ拡充> 産婦人科の役割と選び方

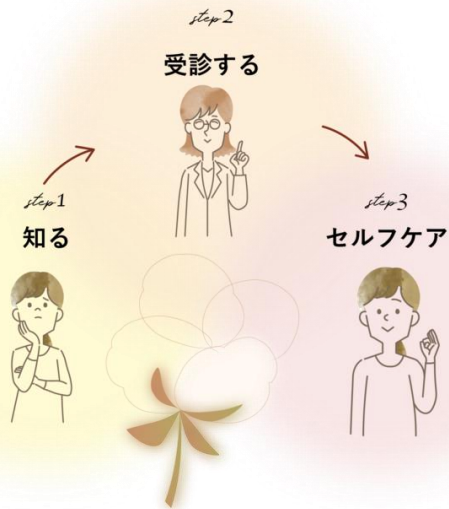


※アプリ詳細は別途記載



健康管理アプリ等による
体調の把握・受診管理

健康経営推進者向けセミナー
各企業内セミナー



Care Of Things, Things Of Normal.

<コンテンツ拡充>
女性と眠り
女性とスポーツ
産後ケア など

実施スケジュール

実施事項	2025年					2026年		
	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	
実施項目1 女性の健康アプリ制作								
アプリ構築		→						
アプリ運用						→		
実施項目2 コンテンツ制作								
①動画制作（婦人科受診）		→						
②動画制作（セルフケア）	→							
③動画制作（女性の健康）			→					
④動画制作（思春期外来、更年期外来）						→		
⑤動画制作（産後ケア）						→		
実施項目3 健康経営推進者向けセミナー								
セミナー実施（セミナー資料のデザイン等の準備含む）	→							
参加者へ研修ツール案内送信				→				
実施項目4 各企業でのセミナー								
各社セミナー実施（各社事前アンケート実施）						→		
各社事後アンケート実施						→		
アンケート分析						→		

女性特有の健康課題への対処

女性特有の健康課題に関するリテラシー向上による
相対的プレゼンティーズム1.0以下の女性の割合15%改善

職場環境の整備

職場において女性特有の健康に対して必要な対応を
取ることができる従業員の割合が20%増加

婦人科健診受診意向

健康課題に対して医療機関および専門家へ相談している
女性の割合が25%増加

- ・ プレゼンティーズムとは、WHO（世界保健機関）によって提唱された健康問題に起因したパフォーマンスの損失を表す指標の一つであり、欠勤には至っておらず勤怠管理上は表に出てこないが、健康問題が理由で生産性が低下している状態を意味している。
https://www.meti.go.jp/policy/mono_info_service/healthcare/downloadfiles/kenkokeieioffice_report.pdf
<https://www.hcp.med.harvard.edu/hpq/ftpd/absenteeism%20presenteeism%20scoring%20050107.pdf>

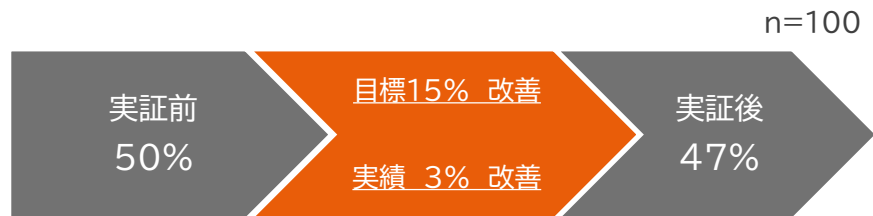
実証結果 <女性特有の健康課題への対処>

女性特有の健康課題に関するリテラシー向上によるプレゼンティーズム改善

WHO-HPQスコア増加

- ・改善した女性受講者の割合

相対的プレゼンティーズムが 1.0以下の女性の割合
(パフォーマンスが低下している人の割合)



一定の改善は見られたものの、改善率は目標には届かなかった。回答が一部、事前・事後アンケートの期間が極めて短いことも影響したと考える。

管理職志望意向

管理職(すでに管理職は上位の役職)を志望しているか

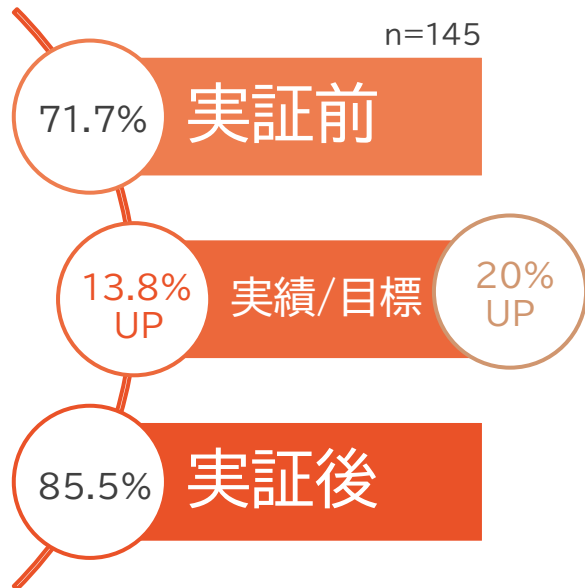
n=100

	事前	事後	増加
とてもあてはまる	1	1	0
あてはまる	7	10	3
まあまああてはまる	23	20	-3
あまりあてはまらない	29	36	7
あてはまらない	19	16	-3
全くあてはまらない	21	17	-4

大きな変動はないが、微かに良化傾向が見られた。キャリアプランニングや各社の人事制度についての研修など組織による総合的なサポートが必要であると考え。

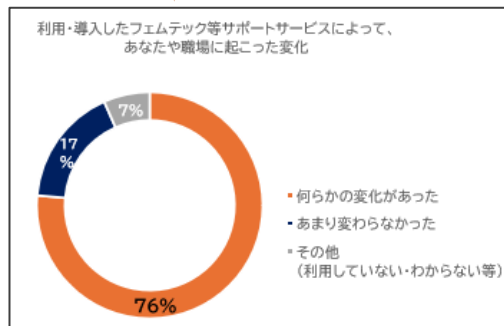
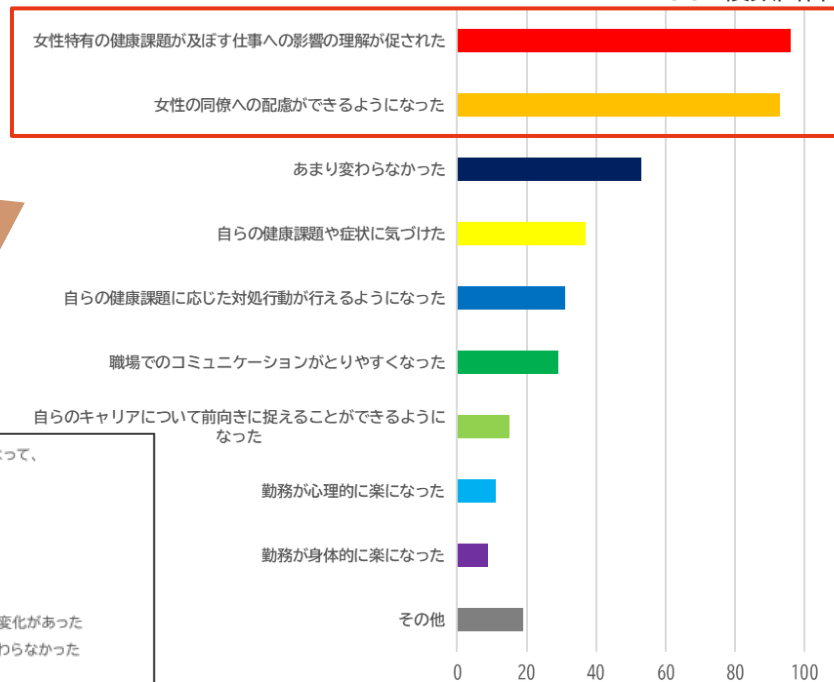
女性特有の健康課題に関する職場での支援

Q.「女性特有の健康課題を抱える同僚等に適切な配慮や支援を行うことができる」という問いに対して肯定的な回答をした人の割合



利用・導入したフェムテック等サポートサービスによって
あなたや職場に起こった具体的な良い変化

n=288 複数回答可

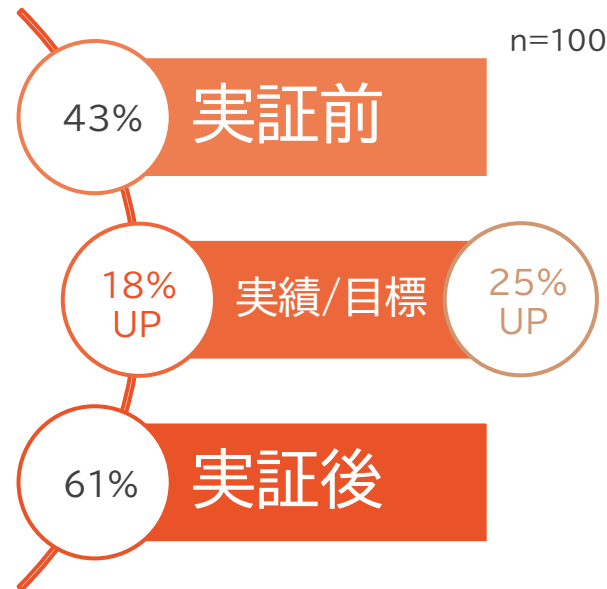


婦人科健診受診意向の向上

Q.「女性特有の健康課題について、適切なケア(自宅等でのセルフケアや医療機関の受診等)ができている」という問いに対して肯定的な回答をした人の中で、さらに具体的な行動として以下のいずれかを選択した女性の割合

- ・各種専門家への相談
- ・医療機関における各種検診・検査の受診
- ・医療機関における各種治療等の実施(処方薬の内服を含む)

女性自身のリテラシー向上から、受診行動へ結びつける効果がみられた。定期健診等のタイミングでのフォローや継続的な働きかけ、情報提供により更なる向上を期待。



実施内容と成果

<健康経営推進担当者向けセミナーの開催>

企業・自治体が自社で研修を実施できるよう、健康経営推進担当者向けに「女性の健康課題について」のセミナーを実施。

理解を深めるため各社の課題や取り組み事例についてディスカッションを実施した。

開催時期	開催場所	参加企業	参加者数
2025/10	熊本市	富田薬品 他1社	3名
2025/10	福岡市	コミュニティネットワークセンター ジーク 日本ケーブルテレビ連盟九州支部 4社	13名
2025/12	熊本市	熊本県	7名

実施内容と成果

<健康経営推進担当者によるセミナー開催>

台本と資料を提供し、企業・自治体の健康経営推進担当者が自社へ戻って研修を開催。

実施にあたり不明点や疑問点があれば事前に打ち合わせをおこなった。参加対象や人数は各企業に一任し、相談に応じて、キャリア研修やディスカッションなどを組み合わせて実施。

開催時期	参加企業	参加者数
2025/12	コミュニティネットワークセンター	57名
2025/12	富田薬品	149名
2026/01	ジーク	17名
2026/02	大分ケーブルテレコム	25名
2026/02	熊本市 *当社が講師となりセミナー実施	80名



健康経営推進担当者向けセミナー

- ・女性の健康についてのセミナー
- ・各企業間でのディスカッション

女性の健康への理解につながるよう
企業内で抱える悩みや取組み施策等を共有

各企業内セミナー

- ・講師:各企業の健康経営推進担当者
- ・投影資料、台本等:当社より提供

参加対象や人数は各企業に一任



健康管理アプリの構築・公開

利用方法: 女性の健康プラットフォームCotton同様アクセス制限なく、誰でも利用可能(無料)

- ・継続的に必要な情報や通知を届けることで、自身の健康状態が見える化
- ・正しい情報を「知る」→「受診する」→「セルフケア」のサイクルをサポート

経済産業省 令和7年度 フェムテック等サポートサービス実証事業

女性の健康CareをNormal(あたりまえ)に



女性の健康
プラットフォーム



Cotton

Care Of Things, Things Of Normal.



健康管理アプリ



不妊治療
月経前症候群
同僚・部下への対応
職場の理解
プレコンセプションケア
女性特有のがん
更年期
女性ホルモン
貧血
月経
セルフケア

女性にも 男性にも 会社にも
正しく知って対応してほしい
女性の健康のこと

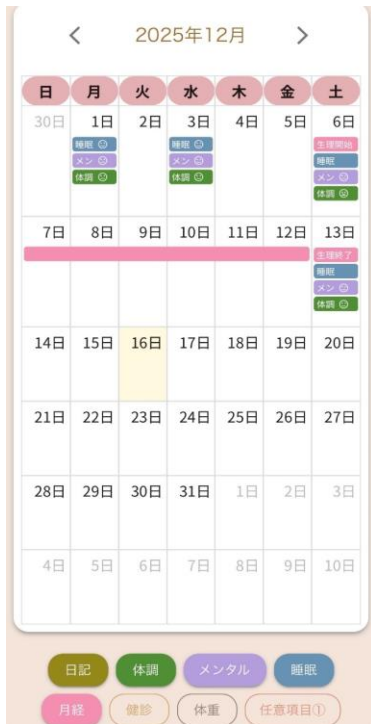


Cotton

株式会社ジェイコム九州

健康管理アプリの構築・公開②

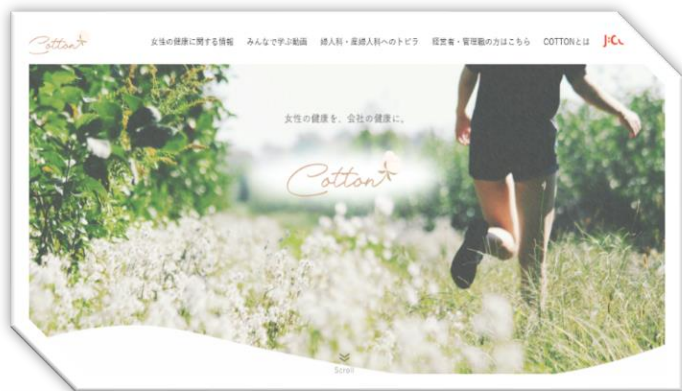
- ・記録内容の選択で性別に関係なく活用できるよう設計
- ・自身の体調を記録することで日々のヘルスケアや、体調管理、受診管理をサポート



プラットフォームCottonの掲載動画拡充

あたらしいを、あたりまえに

J:COM



昨年度本事業で制作した
女性の健康プラットフォームCottonへ
セルフケアや産婦人科受診のきっかけ
となる番組など計10本を公開

<https://cotton.jcom.co.jp/>

ねむり



婦人科外来

ライフステージ



予防医療



全体成果と考察

- ◆企業における女性の健康に関するリテラシー向上の仕組みを構築
- ◆女性の健康プラットフォーム『Cotton』の内容拡充
- ◆女性の健康アプリ『Cotton』の制作

同僚等への支援

71.7% → 85.5%

13.8ポイント改善

婦人科受診意向

43% → 61%

18ポイント改善

管理職志望意向

31% → 31%

変化なし

アンケート結果では、

- ・女性特有の健康課題を抱える同僚への配慮・支援ができると回答した割合が13.8ポイント増加
 - ・婦人科受診の意向が18ポイント増加
- と、職場全体での女性の健康への理解が進み、受診の必要性の認識も高まった。

一方で、管理職への志望意向には変化が見られず、アンケート期間が短かったことが要因と考えられる。

実証に関する課題・対応

✓ 女性の健康理解の定着

⇒各企業での女性の健康理解促進の活動を継続するため、健康経営推進担当者に向けた情報発信、フォローアップの体制を整備する

✓ 管理職志望率の向上

⇒管理職の受講後のアクション設計をさらに整備し、「健康×キャリア自律」の定着を図る

✓ 婦人科検診の必要性の理解

⇒受診意向は増加したものの、婦人科検診の受診率の向上につなげるため、参加企業向けサイトで受診しやすい環境整備のための情報提供・啓発を行う。

今後の事業活動について

✓ 行政連携

行政の理解を深め、行政と連携した地域全体での取り組み

✓ 地域企業・団体へのセミナー実施(健康経営推進担当者向けセミナー含む)

今回の実証で実施した、健康経営推進担当者向けセミナーを活用し、地域企業・団体へ向けた女性の健康についての理解促進、職場環境の整備、婦人科受診率の向上等の活動推進・支援

✓ 次世代育成

高校・大学でのセミナー実施による、これから働く世代の女性の健康リテラシー向上

情報発信の強化、セミナーとプラットフォーム、アプリの活用を通して、
地域社会の女性の健康に対する理解とリテラシー向上、職場環境の整備を進めます。

継続的な取り組みを通じて、全ての女性が健康で安心して働ける環境を構築することを目指し、
事業活動を継続してまいります。

ご興味のある、自治体様、産婦人科様、企業様いらっしゃいましたら、ぜひお声がけいただけましたら幸いです。

あたらしいを、あたりまえに

J:COM



株式会社WithMidwife

令和7年度 フェムテック等サポートサービス実証事業費補助金
最終報告資料

女性特有の健康課題とメンタル不調の 相関分析を通じた 伴走支援スキームの有効性検証事業



WITH MIDWIFE

2026年3月2日



本事業では、職業性ストレスチェック（以下BJSQ）の活用が企業に求められる一方、十分に支援へ結びついていない女性特有の健康課題に着目し、企業で働く女性を中心とした従業員が抱える、健康課題と仕事上のストレスの関連性を捉えた実証を行った。その手法として専属の医療専門職（看護師・保健師・助産師）によるフィードバック型伴走支援サービス「THE CARE」を活用した。

01

心身の健康状態の取得 / 分析



02

個別支援および集団介入の提供



03

効果測定とフィードバック



企業における従業員の健康課題を可視化し、 一人ひとりが安心して働き続けられる環境をつくる

健康課題の可視化



義務化されているストレスチェック等の制度を活用し、特に女性の健康課題（例：月経・不妊・更年期など）を含む多様な体調変化の実態を可視化

支援体制の構築



THE CARE

専門職によるオンライン支援を通じ、個々の課題に応じた行動変容を促進する。

働きやすい環境づくり



企業とともに制度活用を促進し、健康・キャリアの両立を支援することで企業の健康経営・人的資本経営の推進にも寄与。



目指す成果

女性がライフイベントとキャリアを両立できるような働きやすい環境を企業とともに整備し、生産性の改善につなげる。

株式会社With Midwifeが提供する
「THE CARE」は従業員の仕事とプライベートにしっかり寄り添う
伴走型の従業員支援サービスです。



THE CAREはこんな企業に最適です

- 女性特有の健康課題に対応したい
- 若手の採用を強化したい
- ライフステージに応じた支援を整えたい

導入企業の **7** 割以上が
健康経営優良法人を取得

企業専門の医療専門家が企業とそこで働く人を継続的にサポートします。

01



従業員をサポートするのは、企業視点を持った専属の医療専門家

相談に対応するのは、看護師 / 助産師 / 保健師 3つの国家資格併有者。また人事労務やキャリア支援の知識を独自ライセンスを通じて継続的に習得しています。心身だけでなく、仕事との両立を目的としたライフキャリアをサポートできる専門職として、制度や労務の情報も常にアップデートしています。

02



従業員サポートはアプリでカンタン

ストレスチェックやアンケートは、すべてスマホ・PCからアクセスできます。高リスク者への個別相談に加えて、従業員のウェルネス向上を目的としたコンテンツもアプリ内で提供します。

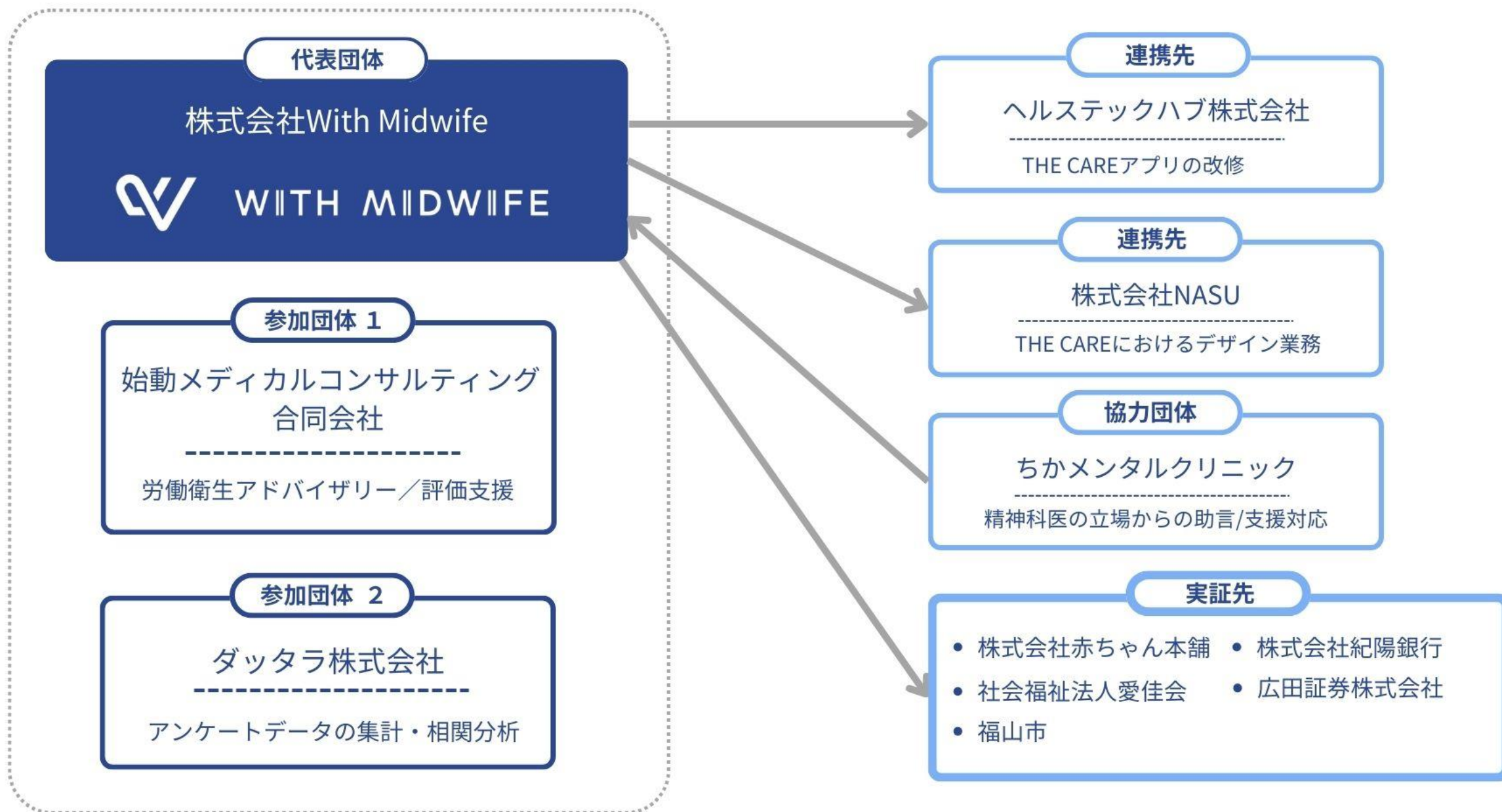
03



社員のリアルな声から、新たな女性活躍施策へ

社員の声を相談・アンケート・ストレスチェックなどから集約し、課題を可視化し、見えてきたニーズに合わせて、最適な施策を実施できます。

実施体制



スケジュール

7月

計画・設計
実証の目的
対象を整理

8月

集客・参加者案内
協力企業の調整
協力内容の事前説明

9月

事前アンケート構築

10月

事前アンケート

11月

従業員への支援

- ・ アプリ（THE CARE）を利用した相談対応
- ・ 参加者向けeラーニング：12月中に配信
- ・ 情報発信

事前アンケートの分析

12月

事後アンケート構築

1月

事後アンケート

2月

報告資料作成

各企業へのフィードバック

事後アンケート分析

3月

最終報告会

01 | 統合分析の実施

目標



対象企業5社以上において、BJSQ結果と女性の健康課題に関するアンケート情報を統合した分析を実施する。

計画・実施内容

BJSQおよび性別特有の健康課題に関するアンケートを実施

- 全従業員を対象に、BJSQおよび性別特有の健康課題に関する任意のアンケートを、アプリを活用して実施した。
- 初回案内メールからシームレスにアクセスでき、ログイン後すぐに回答を開始できる導線を整備するとともに、スマートフォンからも回答可能とし、忙しい従業員でも参加しやすい環境を構築した。



- 回収した回答データより、BJSQ結果と女性の健康課題に関するアンケート情報を統合し、両者の関係性を把握するための統合分析・相関分析を実施した。

※男性の回答は補助的な参考データとして、全体傾向の把握に活用する。

02 | 個別支援および集団介入の提供

目標



分析結果を踏まえ、対象者に
応じた支援を提供できる支援
導線を構築する。

計画・実施内容

統合分析の結果を踏まえ、高ストレス者、健康課題が見られた方、
支援希望者を対象に、医療専門職による支援を提供

- アプリを通じて、匿名のまま利用可能なオンライン個別支援（チャット・ビデオ通話）を実施し、24時間体制で相談できる環境を整備した。
- あわせて、月経・更年期・産前産後・子育て・メンタルヘルス等のテーマでeラーニングを配信し、アプリを活用して自由なタイミングで視聴できる集団介入を実施した。
- 個別支援と集団介入を組み合わせることで、対象者の状況に応じた柔軟な支援を行った。

03 | 効果測定とフィードバック

目標



介入対象者において、WHO-HPQスコアが改善した者の割合50%以上を目指す。

計画・実施内容

介入後の変化を把握するため、
就業パフォーマンス・行動変容・支援満足度を多面的に測定

- 全従業員を対象に、事後アンケートをアプリ上で実施。介入前と同様に、スマートフォンからも回答可能とした。
- 事後アンケートでは、WHO-HPQを用いた就業パフォーマンスの評価に加え、主観的な変化の実感、制度利用状況、支援満足度などを確認し、支援前後の変化を多面的に把握した。
- 回収した回答データについて、介入対象者におけるWHO-HPQスコアの変化を分析するとともに、行動変容や満足度の結果を整理し、各企業へのフィードバックとして活用

本アンケートは計506名へ実施し、分析に適した対象者が確保できた

● アンケート実施人数



- 女性の参加者はKPIを大きく上回り、女性特有の健康課題を扱う本実証に適した母集団となっている。
- 健康課題、生活習慣、働き方、ストレス要因など、実証評価に必要な項目を網羅。
- 今後の実証を進めるための対象者層が十分に確保され、適切なフィールドが設定できた。

● 実施内容

任意：健康アンケート＋職業性ストレスチェック（57項目）

● 健康課題アンケート

- 基本属性：年代、性別、働き方
- 身体的健康：睡眠、疲労感、慢性疾患、既往症の有無
- 女性特有の健康（女性のみ）：月経、PMS、更年期など
- 男性特有の健康課題（男性のみ）：男性更年期、泌尿・生殖など
- 生活習慣：食事、運動、休養、生活リズム
- 健康行動：セルフケア、相談先

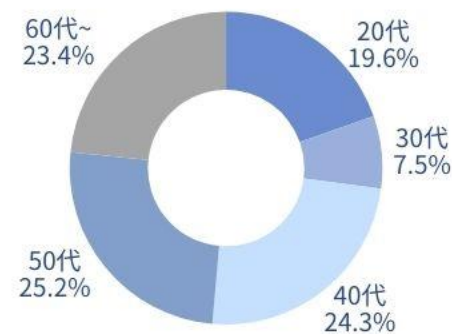
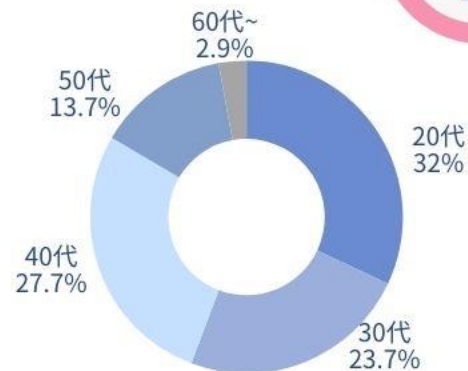
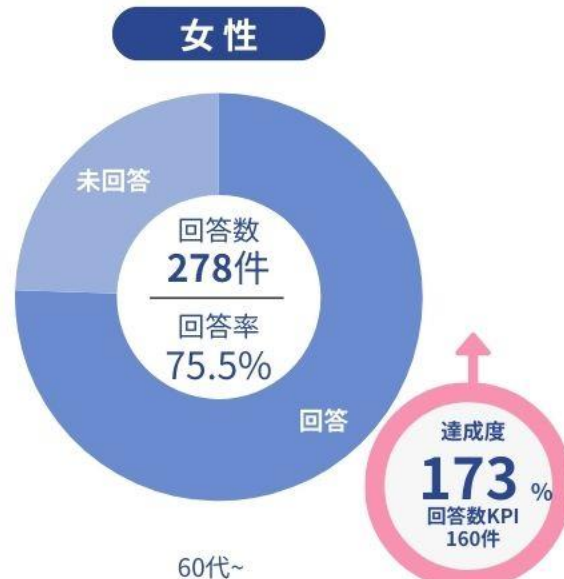
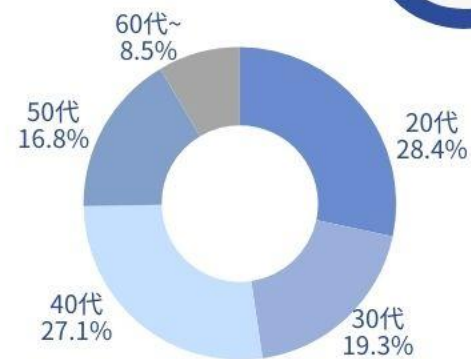
● 職業性ストレスチェック（57項目）概要

- 仕事のストレス要因：業務量、人間関係
- 心身のストレス反応：疲労感、気分の落ち込み
- 周囲のサポート：上司の支援、同僚の協力
- 働きやすさ：仕事満足度、職場適応感
- 判定指標：ストレス反応の強さ、負荷バランス

女性の回収が大幅に伸び、年代も含めた傾向分析に十分な回答が集まった。

回答数

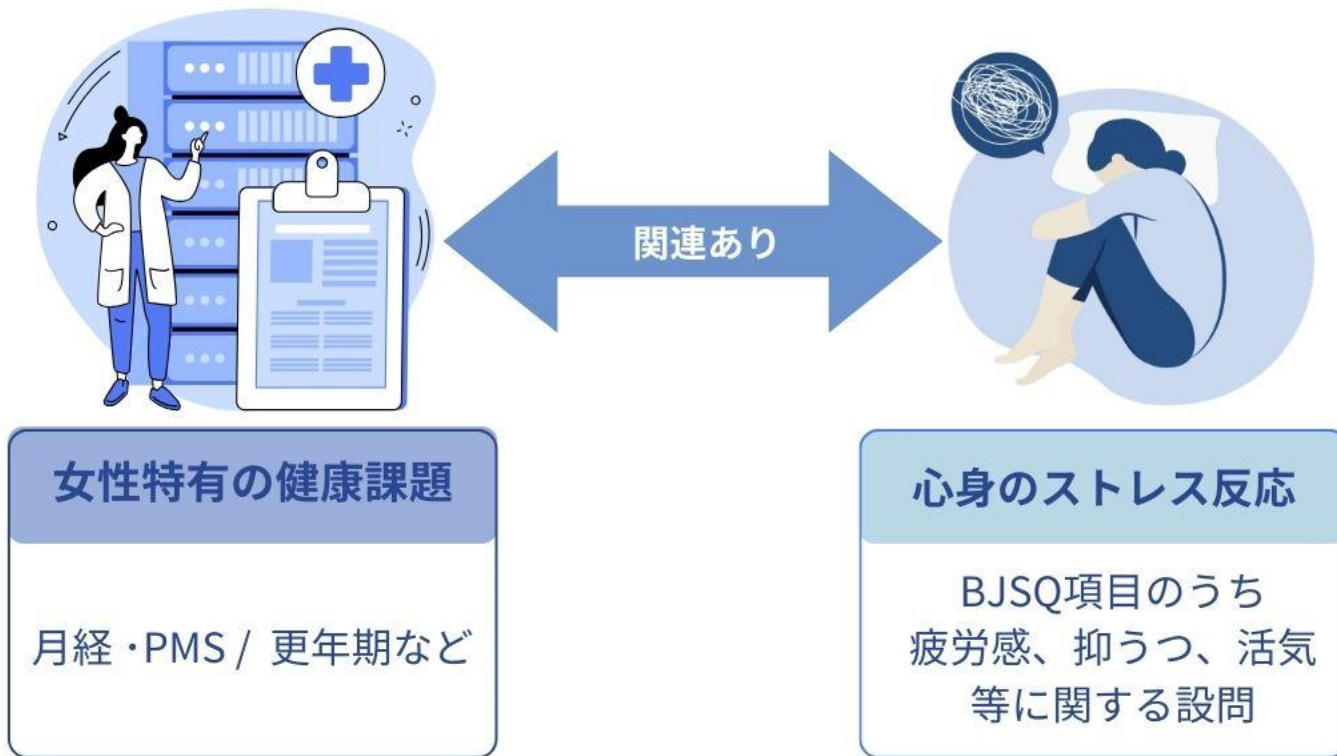
年代内訳



- 回答率は全体で76.1%となり、ストレス要因の分析に必要な回答が十分に確保された。
- 女性は参加者数が予定より多かったため、回答率は未達成となったが、回収数は目標を上回り、女性特有の健康課題との関連分析に必要なデータが多く集まった。
- 回答は20~50代の幅広い年代から得られ、ライフステージによる傾向比較も可能である。
- 男性の回答は補助的な参考データとして、全体傾向の把握に活用する。
- 回答数は、前項に示す2種類のアンケート双方に回答した件数を指す。

BJSQにおける「心身のストレス反応」を示す指標と、女性特有の健康課題との間に、一定の関連性が示唆された。

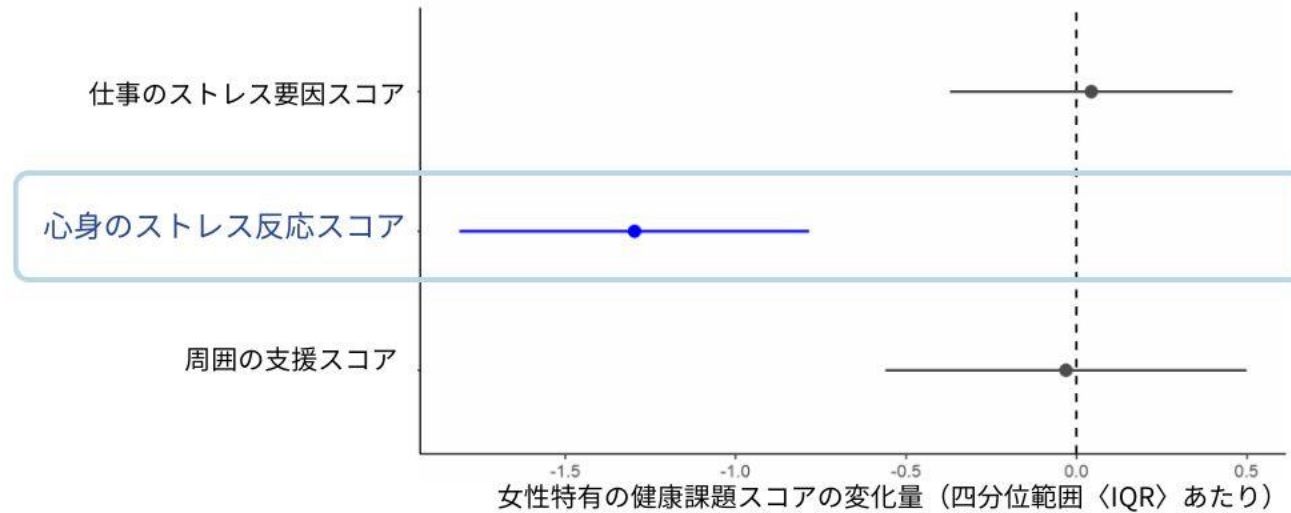
「心身のストレス反応」が高い層では、低い層と比較すると健康課題を抱えている傾向が見られた。



分析のポイント

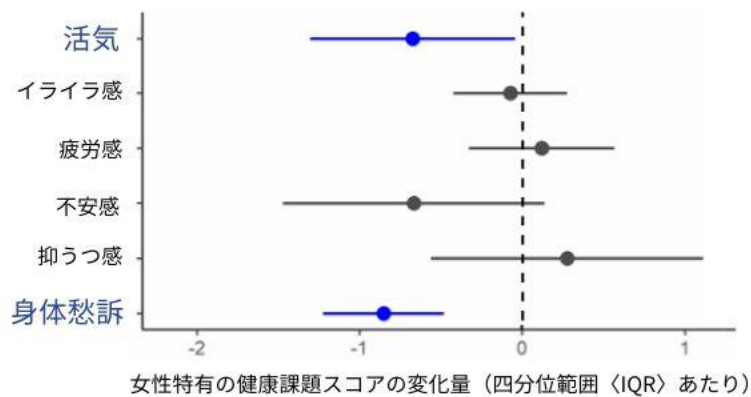
- ✓ 複数のストレス指標について、女性特有の健康課題との関係を比較検討した。
- ✓ スコア分布に基づき層別化を行い、関係性を確認した。
- ✓ その結果、BJSQにおいて「心身の反応」を示す指標においてのみ、一定の関連が示唆された。
- ✓ 同じくBJSQにおける、「仕事のストレス要因」や「周囲の支援」を示す指標では同様の関連は確認されなかった。

女性特有の健康課題と「心身のストレス反応」との関連が示唆された



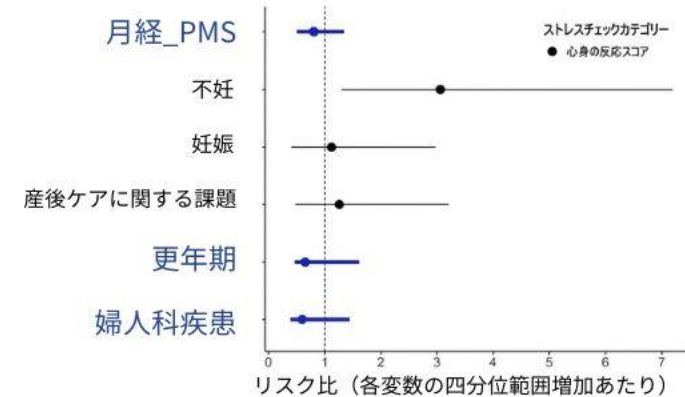
心身のストレス反応スコアの内訳

- ✓ 活気、身体愁訴の一部の評価項目で関連を示す傾向が見られた



健康課題の分析

- ✓ 月経_PMS、更年期、婦人科疾患の項目で関連を示す傾向が見られた



一定数の数値改善に加え、行動変容および高い満足度が確認され、
支援設計としての有効性が示唆された。

● 事後アンケート概要

- 回答数：217件/506件
- 事前アンケート同様、アプリを活用して回答
- 個別支援および集団介入を受け、WHO-HPQの変化、制度利用の有無、支援満足度などを確認

● 効果測定の概要

事後アンケート回答数217件のうち、
「THE CARE」を活用したと回答した **62** 名を対象に分析。
※62名のうち、女性は56名

01 WHO-HPQの改善割合

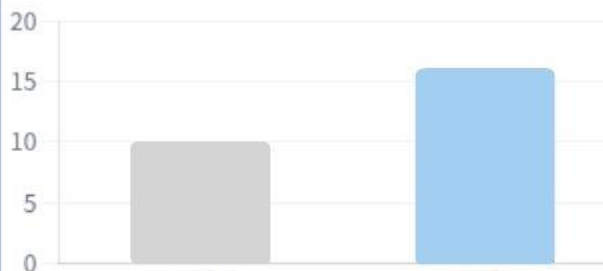


目標 50%以上

✓ 改善が見られた対象者は一定数確認

02 制度利用・支援行動への接続

通院、制度申請、産業医面談などに至った、
または予定している人数



目標

実績

16名

03 支援満足度

高評価（4段階評価：3以上）

チャット・ビデオ通話相談 **95.7%**

eラーニング（5テーマ平均） **94.3%**

目標 80%以上

課題の可視化から支援提供までを実装し、行動変容と効果の兆しを確認

統合分析の実施

対象者の抽出と課題の特定

BJSQの回答率（男女合わせて）

目標 80%以上（400名）

結果 **76.1% 385名**

女性特有の健康課題に関するアンケートの回答率

目標 80%以上（160名）

結果 **75.5% 278名**

BJSQ結果と女性の健康課題に関するアンケート結果の統合分析

目標 相関が得られる

結果 **相関が得られた**

※ 女性特有の健康課題スコアとBJSQ「心身の反応」スコアとの関連について多変量線形回帰分析を実施した結果、統計学的に有意な関連が確認された（Df/IQR=-1.29、95%信頼区間：-1.80~-0.78）。

個別支援および集団介入

アプリを通じた伴走支援の実施

伴走支援者数（男女合わせて）

目標 50名以上

結果 **63名**

伴走支援者数（女性）

目標 伴走支援者の80%以上
（40名以上）

結果 **77.8% 49名**

eラーニング視聴者数

目標 100名以上

結果 **193名**

効果測定とフィードバック

WHO-HPQスコアなどの効果検証

WHO-HPQスコアが改善した割合
（介入を受けた女性のうち）

目標 50%以上

結果 **26.9%**

介入後に制度利用に至った
（または予定）の人数

目標 10名以上

結果 **16名**

支援満足度が高いと回答した割合
（4段階で3以上）

目標 80%以上

結果 **94%**

01 本実証でできたこと

BJSQと女性特有の健康課題アンケートを組み合わせ、働く女性の健康課題とメンタルヘルスに関する情報を把握・分析できるデータ基盤を構築した。

02 明らかになったこと

本実証により、女性の約7割が何らかの健康課題を有している実態が明らかになった。また、**BJSQの「心身のストレス反応」スコアと女性特有の健康課題との間に、一定の関連が示唆された。**特に、「活気」「身体愁訴」といった項目や、「月経・PMS」「更年期」「婦人科疾患」などの健康課題において、関連を示す傾向がみられた。

03 支援を通じて確認できた変化

データに基づき抽出した、高ストレス者の男女、健康不調のある女性を中心に、医療専門職による個別支援およびeラーニングによる介入を実施したことで、行動変容や制度利用につながる事例を確認した。

04 今後への示唆

今後義務化されるBISQを起点に、健康課題やストレス状況の把握から支援、変化の確認までを一連で実装した点に、本実証事業の意義があると考えられる。また、ストレスチェックを把握にとどめず、支援設計やフィードバックに活用する視点の重要性が示された。

課題

01 THE CARE の利用にばらつきがみられた
支援の利用を任意としたことから、活用の広がり方に差が生じた。

02 実証結果を施策に活かす整理が必要
分析結果そのものは有用である一方、企業が
施策検討に活用するためには、結果の解釈な
どを整理して提示する必要があった。



今後の対応策

今後は、初回案内時の情報提供の工夫、集団介入やeラーニングを入口とした段階的な支援導線的设计などにより、対象者が支援を選択しやすい環境づくりを行う。

企業ごとの課題に応じたレポート構成、改善提案を含めたフィードバックの標準化を行うことで、実証結果をより実践的に活用できる仕組みづくりが求められる。

データの精緻化

本実証事業ではBJSQと女性特有の健康課題の相関関係について示唆が得られたが、事業内で取得できたデータ数は限られていることや民間企業内調査であり懸念されるバイアスもある。今後はさらに学術的にも価値ある研究デザインを再設計し、多くのサービスで活用される形態をめざす。

支援最適化

今回は、そもそもBJSQと女性特有の健康課題の相関が確認できるかが不明な中で、BJSQ高得点者（ストレスが高い者）および女性特有の健康課題における不調者に支援が届く仕組みを設計していた。一方、両者のデータを掛け合わせることでより要支援者が鮮明にあぶり出せると想定している。今後はデータ活用しながら、さらに支援最適化させるための創意工夫を行っていききたい。

ユーザビリティの改善

上記に示した点に加え、アプリケーション自体のUI/UX改善や、より利用者に有益な機能追加（福利厚生が確認できる/健康診断結果のカルテ機能など）も今後想定している。昨今健康とライフイベントは密接に関わっており、その両者を同時に支援することで「望まないキャリア断念を起こさない」仕組みをより強化していく。

株式会社Melon



成果報告資料

更年期女性に対する

マインドフルネスプログラムの効果検証

代表団体：株式会社Melon

令和7年度 フェムテック等サポートサービス実証事業費補助金

©2025 Melon Inc. All Rights Reserved.



自走できる人財を育む組織へ。



更年期女性に対するマインドフルネスプログラムを開発し効果検証を実施した事業

主なテーマ	更年期	
事業名	更年期女性に対するマインドフルネスプログラムの効果検証	
代表団体名	株式会社Melon	中小企業
活用するフェムテック製品・サービス		

MELONオンライン（申込者全員）

MELONオンライン：更年期症状にセルフケアで効果を出す

SCIENTIFIC MEDITATION SALON MELON

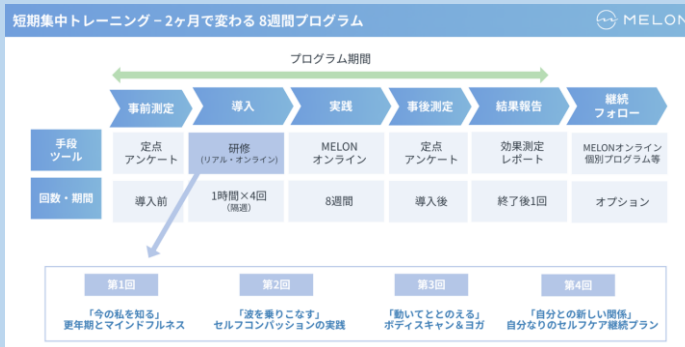
不調を可視化し、予防・改善へ

MELONオンラインは自身の不調をセルフチェックで可視化し、セルフケアプログラムで予防・改善するワンストップサービスです。状態が悪化する前にマインドフルネスでセルフケアすることで、不調を防ぎます。

オンラインクラス

クラススケジュール

8週間プログラム（申込者全員）



更年期症状は労働パフォーマンスやメンタルヘルスに影響を与えるが、企業での支援体制は十分ではない。
更年期に差し掛かる女性従業員に対してマインドフルネスプログラムを提供した。

背景

- 40代以降の女性は更年期に差し掛かり、ホルモン変動による不調を抱えやすい一方、症状の個人差や周囲の理解不足により適切な対応が遅れがちである。
- 更年期症状は労働パフォーマンスやメンタルヘルスに影響を与えるにもかかわらず、企業での支援体制は十分とは言えない。
- 近年、マインドフルネスがホットフラッシュ、不安、睡眠障害など更年期症状の緩和に効果があることを示す海外研究(*)も報告され、心理的柔軟性を高める手法として注目されている。

事業目的

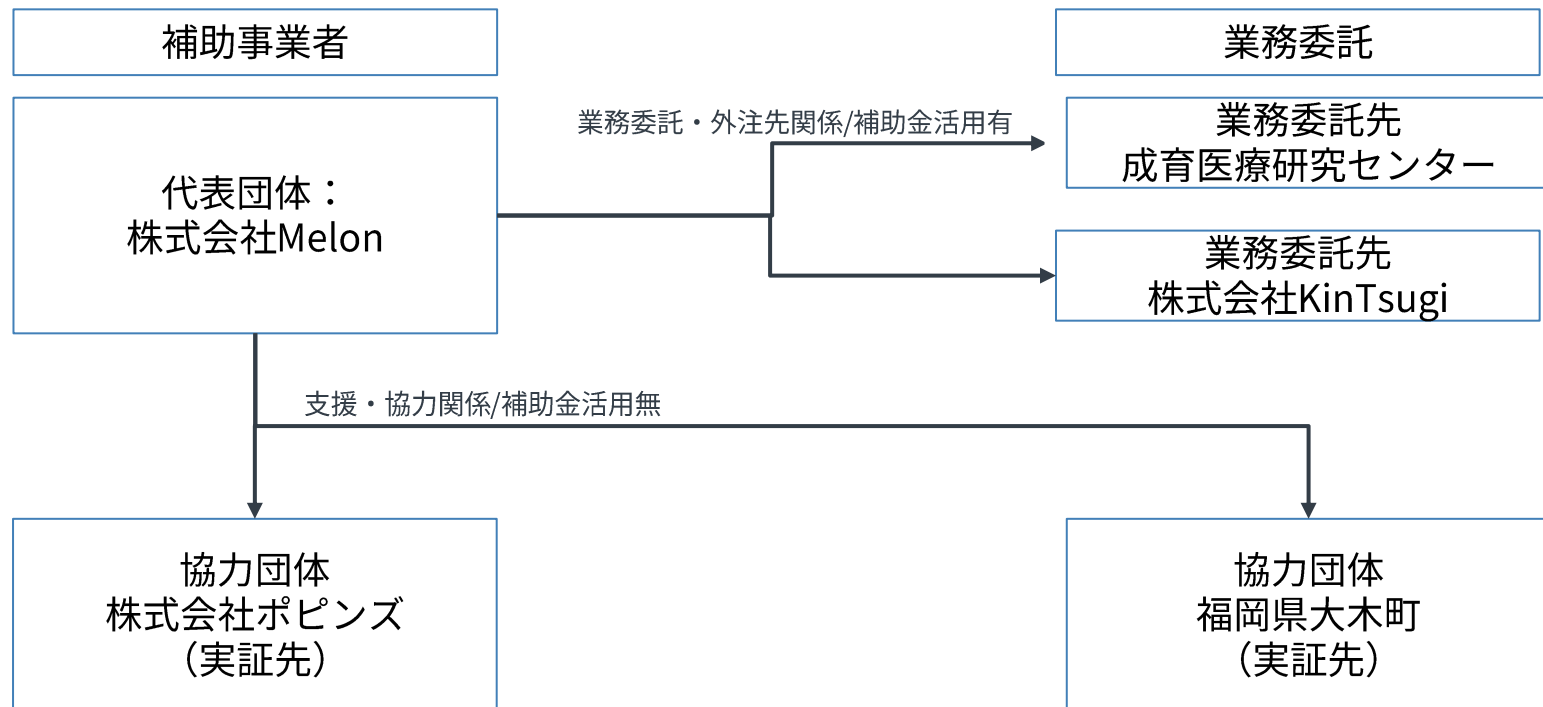
- 本事業では、企業内で更年期のセルフケアを可能にするオンラインプログラムを開発・実証し、女性の健康と生産性の両立を支援する仕組みを構築する。
- マインドフルネスは、心身の不調であるホットフラッシュ、不安、睡眠障害などの更年期症状の緩和に効果があることが知られている。セルフケアできる環境を整備することで、女性活躍の推進に鑑みた、働く女性のウェルビーイング向上を実現することを目的とする。
- 更年期に差し掛かる40歳以上の女性従業員に対して、実証先企業の協力を得て30~50名を対象にアンケートと8週間プログラム（24時間利用可能なオンラインプログラムを含む）を実施し、修了率80%以上、WHO-HPQスコアが改善した参加者の割合60%以上を目指す。

※海外研究報告一部

- MBSR参加者においてホットフラッシュの重症度が11週間で40%低下し、QOLも有意に改善。同分野の引用数多い論文。
Carmody, J., Crawford, S., & Churchill, L. (2006). A pilot study of mindfulness-based stress reduction for hot flashes. *Menopause*, 13(5), 760–769. DOI: 10.1097/01.gme.0000227402.98933.d0
<https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/16932242/>
- 不安・抑うつへの効果 MBSRは対照群を上回り、うつ・不安などの心理的症状を有意に改善（8か月フォローアップまで効果持続）。
Wong, S. Y. S., & Ho, S. C. (2018). Mindfulness-based stress reduction (MBSR) or psychoeducation for the reduction of menopausal symptoms: A randomized, controlled clinical trial. *Scientific Reports*, 8(1), 6609. DOI: 10.1038/s41598-018-24945-4 <https://www.nature.com/articles/s41598-018-24945-4>

©2025 Melon Inc. All Rights Reserved.

以下のコンソーシアム体制で、ポピンズ様、福岡県大木町様のフィールドにて検証実施



専門家監修のもと開発した8週間プログラムをもとに更年期版として開発いたしました。

時間	内容	方法
10分	オープニング・目的の共有 - 研修の目的・進め方の説明 - アイスブレイク	講義 + アイスブレイク
20分	更年期と私の心身を科学する - 更年期障害とはなにか - 更年期メカニズムを知る。更年期は心身の「アクセル（交感神経）」が過剰に働きがちな時期 - 自分の内側を整える基本（セルフケア）	講義
20分	セルフケアとしてのマインドフルネス - 自律神経ケアの基本 - マインドフルネスが広がっている背景・歴史 - マインドフルネスの科学的なエビデンス - 実践の仕方やコツ	講義+ディスカッション
20分	マインドフルネスの実践 - 自己肯定感とレジリエンスの関係 - インストラクターによる誘導と実践	講義 + グループ実践
20分	まとめ・質疑応答 - 研修の振り返り・明日からできること - 参加者の質問への回答 - 初回アンケートまだの方へのリマインド - 次回告知とMELONオンライン利用のご案内	グループトーク + 質疑応答

研修のゴール

MELON

このプログラムの目的

更年期症状に対応する「心と体のセルフマネジメントスキル」を学びます

- 自分を知る力：更年期の仕組みを正しく理解し、自分の心と体に起きてい
る変化を冷静に見つめることで、必要以上の不安から解放されます
- 自分をケアする力（セルフケア）：日々変化する心身の不調に対して、セ
ルフケア、特にマインドフルネスという「脳と心のトレーニング」を行
い、自分で自分をケアする力身につけます。続けることで確実に効果が
現れ、自分をマネジメントする力が高まります
- しなやかに乗り越える力：つらい状況にある自分を責めるのではなく、自
分を受け入れる習慣を育てます。これにより、更年期の波を上手に乗りこ
え、穏やかに充実した日々を過ごせるようになります

©2025 Melon Inc. All Rights Reserved.

そもそも更年期って何？

すべての女性が経験する時期のこと。
閉経前の5年+閉経後の5年の期間が
「更年期」とされている

閉経前の5年

更年期の前半は「ゆらぎの時期」。ホルモン（エストロゲン）
の分泌によって自律神経などのバランスが乱れ、様々な不調
が出やすくなる

閉経後の5年

更年期の後半はホルモン（エストロゲン）の分泌がほぼなくな
ることによる不調が出やすくなる。身体の乾燥、手指がこわば
るなどの症状が出やすくなる

©2025 Melon Inc. All Rights Reserved. 出典：高橋真樹「更年期—そして新しい自分になる—」(講談社出版、発行：2010)

自分の内側を整える（セルフケア）の基本

低
ケアの
難易度
高

食事

運動

睡眠

自律神経

エストロゲン減少で失われがちな栄養素や、その働きをサポートする成
分を積極的に摂る。乱れがちな自律神経や血循環のバランスを食事の摂
り方で穏やかにする

週3回30分/回の運動（特にヨガが自律神経の調整と心安定に効果的）

更年期症状だと思っていることが、
実は睡眠不足によるものであることも多い

加齢で低下する副交感神経をサポートする生活習慣を持つ

©2025 Melon Inc. All Rights Reserved. 出典：高橋真樹「更年期—そして新しい自分になる—」(講談社出版、発行：2010)

サービス開発ならびに研修講師として実施提供した講師陣



金田絵美

株式会社Melon研修講師
(企業向け研修講師、マインドフルネスインストラクターの講師を担当)

役員秘書として働く中で、過重なストレスから心身のバランスを崩す。マインドフルネスに出会い、体や心がどんどん整っていくのを実感し、ストレスの下で成果を出さなければいけないビジネスパーソンにこそ、この恩恵を受けて欲しいとの願いを持ち研修講師となる。



関口奈央

株式会社Melon研修講師
公認心理師・精神保健福祉士

心理士としてクリニックにて臨床、復職支援(医療リワーク)等で従事。心理教育やセルフケアプログラムを提供。MELONでは一般の方向けのオンラインレッスンを担当し、生活や仕事の中で活かせるマインドフルネスを提供。「自分を大切にする心の土台づくり」をサポートしていきたいため、セルフケアやストレスマネジメントを伝えている。

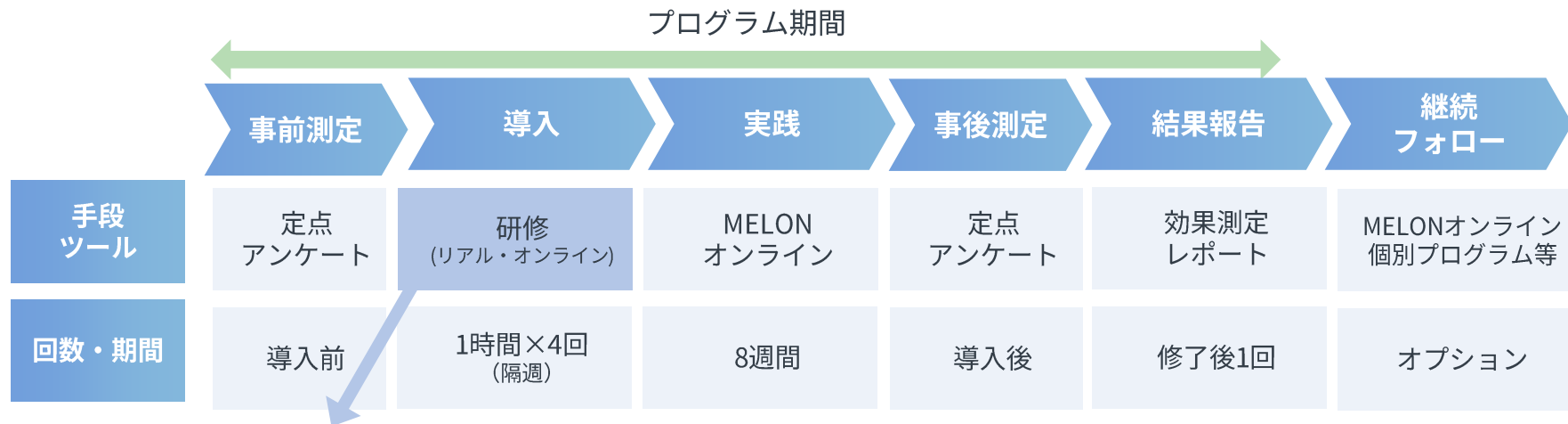


菊池大翼

株式会社Melon研修講師
青山学院大学 社会情報学部「ワークショップデザイナープログラム」修了

アール株式会社にて法人研修の営業コンサルに従事。商品開発部にて成人発達理論を活用した研修等を企画開発。組織人事コンサルタントとして、人事制度構築、成人発達理論を基にした人材・組織開発コンサルティングに従事。経営層から新入社員まで、内面の変容をパフォーマンス向上に結びつける本質的な育成支援を得意とする。

本サービスでは自分自身の症状の認知やセルフマネジメントを促し、MELONオンラインへ行動変容へ促す
本事業では更年期症状を自覚している対象者を2クールに分けてプログラムを実施



	第1回	第2回	第3回	第4回
	「今の私を知る」 更年期とマインドフルネス	「波を乗り越なす」 セルフコンパッションの実践	「動いてととのえる」 ボディスキャン&ヨガ	「自分との新しい関係」 自分なりのセルフケア継続プラン
第1クール	10/23	11/6	11/21	12/5
第2クール	11/13	11/28	12/11	12/25

更年期障害のリテラシー提供とともに、マインドフルネスでセルフケアできることを説明

このプログラムで身につくこと MELON

更年期症状に対応する「心と体のセルフマネジメントスキル」を学びます

- **自分を知る力**：更年期の仕組みを正しく理解し、自分の心と体に起きている変化を冷静に見つめることで、必要以上の不安から解放されます
- **自分をケアする力（セルフケア）**：日々変化する心身の不調に対して、セルフケア、特にマインドフルネスという「脳と心のトレーニング」を行い、自分で自分をケアする力を身につけます。続けることで確実に効果が現れ、自分をマネジメントする力が高まります
- **しなやかに乗り越える力**：つらい状況にある自分を責めるのではなく、自分を受け入れる習慣を育てます。これにより更年期の波を上手に乗りこなし、穏やかに充実した日々を過ごせるようになります



©2025 Melon Inc. All Rights Reserved.

9

マインドフルネスをわかりやすくしてみると... MELON

マインドフルネスとは感覚に意識を向けることで脳と身体を休ませる方法



マインドフルネスは更年期症状そのものを治すというより、たとえ症状が出ても上手に対処し、心穏やかに過ごすための「心のスキル」として役立つアプローチです

©2025 Melon Inc. All Rights Reserved.

25

そもそも更年期って何？ MELON

すべての女性が経験する時期のこと。
閉経前の5年+閉経後の5年の期間が
「更年期」とされている

閉経前の5年

更年期の前半は「ゆらぎの時期」。ホルモン（エストロゲン）のゆらぎによって自律神経などのバランスが乱れ、様々な不調が出やすくなる

閉経後の5年

更年期の後半はホルモン（エストロゲン）の分泌がほぼなくなることによる不調が出やすくなる。身体の乾燥、手指がこわばるなどの症状が出やすくなる

©2025 Melon Inc. All Rights Reserved.

出典：高尾美穂「更年期～そしてやりたい自分に近づく方法～」(新星出版社、第1版、2024)

15

更年期症状・更年期障害への対応 MELON

外から取り入れる		自分の内側を整える（セルフケア）	
ホルモン補充療法（HRT）	女性ホルモン「エストロゲン」を補うことで治す	心を整える	ストレスやイライラを整える習慣を持つ
サプリメント	「エストロゲン」に似た働きをするサプリ（エクオール）で治す	身体を整える	食事・運動・睡眠を整える習慣を持つ
漢方	不調に合わせた漢方薬で治す	繋がりを整える	他者や社会との関係性をつくり孤独感や不安感を和らげる

本プログラムでは「自分の内側を整える」（セルフケア）に焦点を当てます

©2025 Melon Inc. All Rights Reserved.

出典：高尾美穂「更年期～そしてやりたい自分に近づく方法～」(新星出版社、第1版、2024) を参考にMelon作成

19

以下3つの実施項目について各KPI達成に向けて、実証フィールド先の団体とともに、実証事業を実施。結果・達成状況は、P.12以降で振り返りいたします。

実施項目	対象ユーザー	実施項目	KPI
8週間プログラム	40歳以上の女性従業員（一般職～管理職） ご案内時に、自覚症状自己判断で申込者を呼びかけている	4回の研修実施 <ul style="list-style-type: none"> ● 「今の私を知る」更年期とマインドフルネス ● 「波を乗り越なす」セルフコンパッションの実践 ● 「動いてととのえる」ボディスキャン&ヨガ ● 「自分との新しい関係」自分なりのセルフケア継続プラン 	1. 更年期症状に対する自己理解・対処感が向上した割合 2. WHO-HPQSスコアが改善した参加者の割合 60% 3. プログラム修了率 約半数 4. アンケート回答率 90%以上
		MELONオンライン <ul style="list-style-type: none"> ● 心・カラダ・学びのクラスが20以上のクラス ● 朝6時～23時まで1日10クラス以上の生配信+双方向Q&Aセッション ● 月1度自身の状態を測定するパルスサーベイ。パルスサーベイ結果から優先的受講すべきクラスをオススメする機能を搭載。 	
更年期啓発セミナー開催	男性管理職（女性でも興味ある方）	<ul style="list-style-type: none"> ● 更年期の基礎知識とセルフケア手法を伝えるセミナーを企画 ● 講師陣は社内研修講師の菊池に加えて、マインドフルネスインストラクターを育成する講師を務める金田、マインドフルネスインストラクターに加えて公認心理師・精神保健福祉士を務める関口を中心に企画、講師を実施 ● 成育医療研究センターからの監修やMelon社内講師陣でコンテンツ企画し、セミナー登壇 	<ul style="list-style-type: none"> ● 更年期に関する知識が「よく理解できた」と回答した参加者の割合（70%以上） ● 参加者のうち「自身の対処法を考えるきっかけになった」と回答した割合（80%以上） ● 設計・講師選定：専門講師（産婦人科医・マインドフルネス講師）2名以上を確保 ● 各社1回以上実施（オンライン） ● 参加者数：30～50名（想定）アンケート回収率80%以上

初期の実施事項である監修担当者の選定以外は、スケジュール通り遂行できました

	担当団体	8月				9月				10月				11月				12月				1月				2月					
		28-31	4-6	11-15	18-22	25-29	1-5	8-12	15-19	22-26	29-31	6-10	13-17	20-24	27-31	3-7	10-14	17-21	24-28	1-5	8-12	15-19	22-26	29-2	5-9	12-16	19-23	26-30	2-6	9-13	16-20
実施項目1 設計準備																															
監修先生選定	株式会社Melon	[Progress bar from 8/28 to 9/29]																													
プロトコル作成	株式会社Melon	[Progress bar from 8/28 to 9/19]																													
法的確認、評価指標の確定	株式会社Melon	[Progress bar from 8/28 to 9/19]																													
実施項目2 顧客の選定																															
対象企業の選定	株式会社Melon	[Progress bar from 8/28 to 9/4]																													
対象参加者の選定および同意取得	株式会社Melon	[Progress bar from 9/11 to 10/10]																													
実施項目3 実証準備																															
実証初期設定・準備	株式会社Melon	[Progress bar from 9/11 to 10/10]																													
参加者への啓蒙活動含むオリエンテーション・実	株式会社Melon	[Progress bar from 9/11 to 10/10]																													
更年期向けセミナー研修	株式会社Melon	[Progress bar from 10/17 to 12/16]																													
対象者のマインドフルネスプログラムの提供	株式会社Melon	[Progress bar from 10/17 to 12/16]																													
事後サーベイの実施	株式会社Melon	[Progress bar from 1/13 to 1/20]																													
実施項目4 レポート																															
データ分析	株式会社Melon	[Progress bar from 2/6 to 2/13]																													
結果レポート作成	株式会社Melon	[Progress bar from 2/6 to 2/13]																													
最終報告会・報告書提出	株式会社Melon	[Progress bar from 2/13 to 2/20]																													

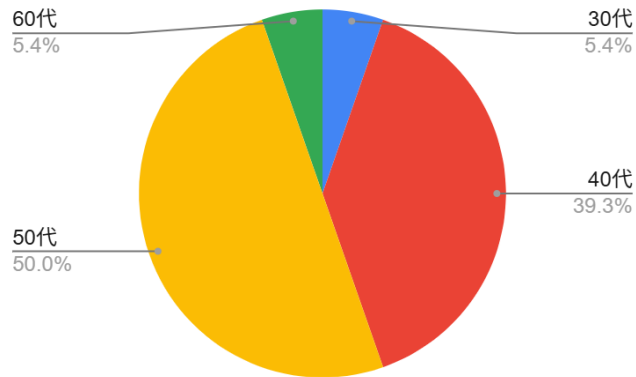
プログラム修了者約8割、事前事後両方回答いただいたアンケート回答率は53%。

プログラム修了率

計画：プログラム修了率 約半数
実績：71名中 56名 (78.9%)

計画：アンケート回答率 90%以上
実績：事前のみ含む 56名 78.9%
事前事後のみ 38名 53%

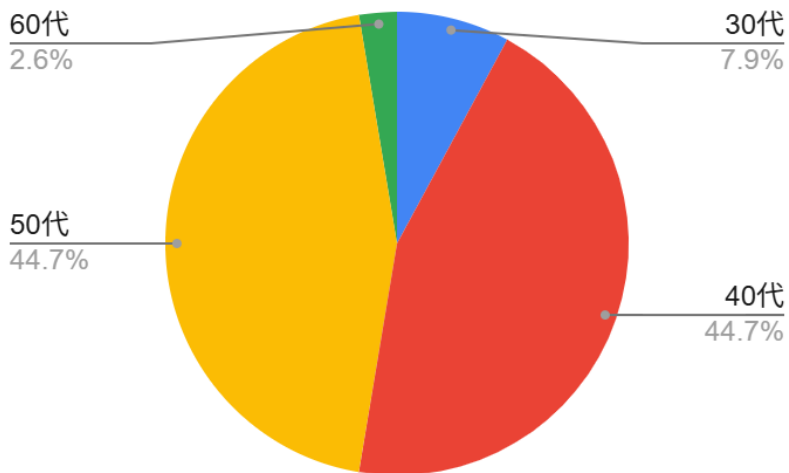
プログラム修了者情報



年代	人数	割合
30代	3	5.4%
40代	22	39.3%
50代	28	50.0%
60代	3	5.4%
合計	56	100%

プログラム修了者約8割中、事前事後両方回答いただいたアンケート回答率は53%（56名中38名）。

事前事後両方の回答者



年代	人数	割合	利用数合計 (MELON ONLINE)	一人あたり 利用回数
30代	3	7.9%	7	2.33
40代	17	44.7%	75	4.41
50代	17	44.7%	217	12.76
60代	1	2.7%	0	0.00
合計	38	100.0%	299	7.87

MELONオンラインを実践回数が多ければ多いほどSMIの改善傾向にある。プレゼンティーズムは変化なし。

SMI変化

相対的プレゼンティーズム変化

「マインドフルネス週1回以上実践した人」(30名)と「マインドフルネスを実践していない人」(8名)の比較

実践有無	事前	事後	変化率
実践あり	43.0	39.8	7.4%
実践なし	46.1	51.5	-11.7%

実践有無	事前	事後	変化率
実践あり	0.97	1.0	3.0%
実践なし	1.07	0.87	-18.7%

条件追加：更年期症状があり(28名)のみ抽出

実践有無	事前	事後	変化率
実践あり	39.1	33.6	14.1%
実践なし	23.0	34.5	-50.0%

実践有無	事前	事後	変化率
実践あり	0.99	1.02	3.0%
実践なし	1.10	1.09	-0.9%

「研修期間内に10回以上MELONオンラインを利用した人」(6名)と「利用していない人」(32名)の比較

受講回数	事前	事後	変化率
10回未満(32名)	42.5	42.3	0.5%
10回以上(6名)	49.8	41.8	16.1%

受講回数	事前	事後	変化率
10回未満(32名)	0.98	0.96	-2.1%
10回以上(6名)	1.04	1.02	-1.9%

※SMIスコア(Simplified Menopausal Index、簡略更年期指数)は、更年期症状の程度を評価するためのスケールです。身体的および心理的な症状に関する10個の質問項目について、自身で症状の程度を「強・中・弱・無」のいずれかで回答。出展：厚生労働省：更年期症状・障害に関する意識調査(結果概要)(2024年8月19日閲覧) <https://www.mhlw.go.jp/content/000969136.pdf>
 ※特定の年齢におけるサンプル数が少なく、統計的有意差はございません。SMI・プレゼンティーズムについては次頁で説明しています。

MELONオンラインを週1回以上実践していた群はプレゼンティーズムもSMIスコアも前後アンケート比較で改善傾向がみられる。計画時プレゼンティーズムを60%改善を計画にしていたが、未達。

相対的プレゼンティーズムスコアが改善した参加者の割合

無効群の大幅悪化に対し、週1マインドフルネス実践群は改善。プレゼンティーズムにも効果的であると考えられる

	事前	事後	変化率
マインドフルネス実践なし	1.07	0.87	-18.7%悪化
週1以上マインドフルネス実践	0.97	1.00	3.1%改善

SMIスコアが改善した参加者の割合

有効群ではSMIが低下したのに対し、無効群では数値が上昇。マインドフルネスの継続実践がSMI悪化を防ぐ役割を担ったと考えられる

	事前	事後	変化率
マインドフルネス実践なし	46.1	51.5	-11.7%悪化
週1以上マインドフルネス実践	43.0	39.8	+7.4%改善

- SMIスコア (Simplified Menopausal Index、簡略更年期指数) は、更年期症状の程度を評価するためのスケールです。身体的および心理的な症状に関する10個の質問項目について、自身で症状の程度を「強・中・弱・無」のいずれかで回答。出展：厚生労働省：更年期症状・障害に関する意識調査（結果概要）（2024年8月19日閲覧）
<https://www.mhlw.go.jp/content/000969136.pdf>
- プレゼンティーズムとは、WHO（世界保健機関）によって提唱された健康問題に起因したパフォーマンスの損失を表す指標の一つであり、欠勤には至っておらず勤怠管理上は表に出ないが、健康問題が理由で生産性が低下している状態を意味している。今回は相対的プレゼンティーズムとして、健康な状態と比較して、どれだけパフォーマンスが低下しているかを比較したものです。
https://www.meti.go.jp/policy/mono_info_service/healthcare/downloadfiles/kenkoikeiooffice_report.pdf
<https://www.hcp.med.harvard.edu/hpq/ftpd/absenteeism%20presenteeism%20scoring%20050107.pdf>

同セミナーは「女性に起こる更年期症状とそのメカニズムを理解し、適切な判断や対応が行えるようになる」を目的に実施した。業務時間内での実施は実現できなかったことや繁忙期の時期での開催を実施したこともあり、参加者数は伸び悩んだ。

達成状況

1. セミナー設計・講師選定：専門講師
計画：2名
実績：2名（非登壇の講師3名で登壇内容開発）
2. セミナー実施：
計画：各社1回以上実施（オンライン）
実績：1回（オンライン＋アーカイブ実施）
3. 参加者数：
計画：30～50名想定
実績：14名
4. アンケート回収率
計画：80%
実績：35.7%

考察

- 協力団体との調整の中で、お昼の時間での開催（12:00～13:00）となった点と、業務時間外扱いという点の2点が大きな要因と推察。
- 開催月としても12月が協力団体先にとって人事評価等で繁忙期だったことが後から判明。
- 今後の開催日時において、十分に考慮して実施していきたい

マインドフルネスを実践した方はSMIスコアの改善傾向がみられる一方で、事業主の理解を高め業務時間内での受講受け入れを依頼する必要がある。「更年期女性」を訴えすぎず、男女関係なく参加しやすい利用促進策が必要であることがわかったため今後のサービス提供に活かしていきたい。プレゼンティーズムの実証には、関連する他の要因を含めた幅広いデータでの検証も必要であることも改めて認識。

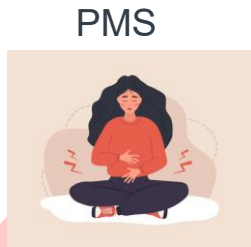
課題

- 利用促進
 - 利用者への効果性は一定検証できたが時間がとれないため、マインドフルネス利用回数が少ない。早くから活用イメージや具体事例の掲示すべきだった。
 - 参加者からの声：「20～30代の女性同僚からバカにされている感じ」
→ 「更年期」という名称そのものが、参加への心理的障壁となっていた（監修医師もこの状況を残念として指摘）
- 効果検証
 - 更年期やプレゼンティーズムには参加者の家族構成や職種、階級、生活習慣病などの背景情報も大切

今後の方向性

- 利用イメージのさらなる訴求
 - 更年期障害×マインドフルネスでの具体事例・先行研究等具体的に提示
 - 参加者募集の際に、更年期障害と訴えずに「Women's Healthのプログラム」や「男性も女性も参加歓迎」にもしていきたい
 - 事業主／従業員（デスクワーク中心の職種がサービス受容性高い）に向けて参加による投資対効果を訴求
- 効果検証
 - 今回を初期的な実証事業と捉えて、次回以降はプレゼンティーズムに寄与する可能性のあるデータで確認していきたい

- 今回の実証により、リテラシー向上と研修時の実践、一定程度複数回のMELONオンライン利用された方は、更年期障害の改善されたことが実証された。
- 更年期女性にかかわらず、女性の健康への対処を業務時間内で提供していくことを投資と捉えてサービス提供を訴えていきたい。
- すでに提供している産後うつ病やPMSに加えて、更年期障害のコンテンツが一定完成したことを受けて、将来的には、「マインドフルネス×女性」へのあらゆる女性の提供可能性を検討していきたい。



PMS

提供中
MELONオンラインで
ペインコントロール



産後うつ病

提供中
自治体経由で
新任お母さんへ拡張中

乳がん患者
のQOL改善



検討中
mammaria tsukiji（聖路加国際病院）で
乳がん患者のQOL改善の共同研究



不眠症

提供中
企業・健保・労働組合
を経由して拡張中



提供
開始
予定

更年期症状
のSMI改善

開始予定
本実証事業きっかけに提供開始
男性にも発展していきたい

「マインドフルネス×女性」へのあらゆる女性の提供
(検討中)



THANK YOU

HerLifeLab株式会社

令和7年度
フェムテック等サポートサービス実証事業費補助金
最終報告資料

AIとデータ活用で実現する、 パーソナル更年期ケアの実証



【目的】

更年期障害による労働生産性低下の抑制を目的とし、医療アクセス改善モデルの有効性を実証する。

【事業の内容】

本事業では、以下の3つの革新的要素を既存サービスに追加することで、更年期障害の継続的な医療アクセスの向上を目指す。

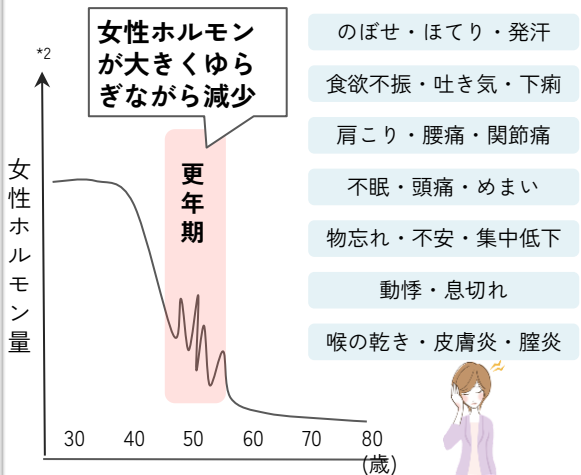
- AIチャットボットによるプレカウンセリングにより初回相談率向上
- 医療者の問診取りまとめ作業削減
- PHRを活用した治療効果の可視化による治療効果の改善

【目指す変容】

- 個人：更年期の不調を我慢せず、気軽に専門家に相談できる環境の醸成
- 組織：専門家のアドバイスを通じた周囲との適切なコミュニケーションスキルの獲得と、職場・家庭の理解促進
- 社会：症状の可視化と成功体験の共有による、更年期ケアに対する前向きな社会認識の構築

更年期障害とは？*1

閉経前後10年間（おおよそ45～55歳）に、女性ホルモンの急激な減少により、ほてり・不眠・動悸などの身体症状に加え、イライラ・不安・抑うつなど多様な不調が現れる。



社会的・経済的影響は莫大

女性の社会進出が進む中、**更年期不調をきっかけに離職やキャリア断絶が生じる**ことで、日本国内だけで経済損失は年間1.9兆円*3にもものぼる。（2024年調査）

5人に1人が更年期不調により退職や雇用劣化を経験・検討したことがある*4



85%の女性が更年期症状を我慢していつも通り仕事や家事を行うことがある*5



ホルモン補充療法の普及率

世界的に更年期ケアの普及率は依然として低い。中でも日本は2.5%という低い水準。（2023年調査、日本の数値は1992年取得）*6

国 / 地域	実使用率
イギリス	約30%
アメリカ	5%未満
イタリア	4～7%
日本	2.5%
シンガポール	19%
中国	2%
台湾	10%
マレーシア	16.6%

※ 英国ではNHS（国民保健サービス）が無料で提供するなど、国をあげた取り組みによって普及率が改善

*1: 公益社団法人 日本産科婦人科学会。更年期障害。日本産科婦人科学会公式サイト(最終更新 2025年) <https://www.jsog.or.jp/citizen/5717/>
*2: 花王株式会社。フェムケアLAB。「これって更年期症状？知っておきたい閉経前後の変化と早期ケア」。2023年5月31日。参照 2026年2月26日。 <https://www.kao.com/jp/femcarelab/useful-info/info01/> (図参照)
*3: 経済産業省。女性特有の健康課題による経済損失の試算と健康経営の必要性について。令和6年2月。経済産業省ヘルスケア産業課 https://www.meti.go.jp/policy/mono_info_service/healthcare/downloadfiles/jyosei_keizaisonshitsu.pdf

*4: 株式会社KiteRa。「更年期症状を抱える女性の働き方実態調査」2024年 <https://www.kitera.co.jp/news/20240229pressrelease/>
*5: 株式会社パーソル総合研究所。更年期の仕事と健康に関する定量調査（2024年） <https://rc.persol-group.co.jp/assets/files/202412040001.pdf>
*6: Lanfranchi et al. (調査論文) "Menopausal Hormone Therapy ...", PMC, 2023

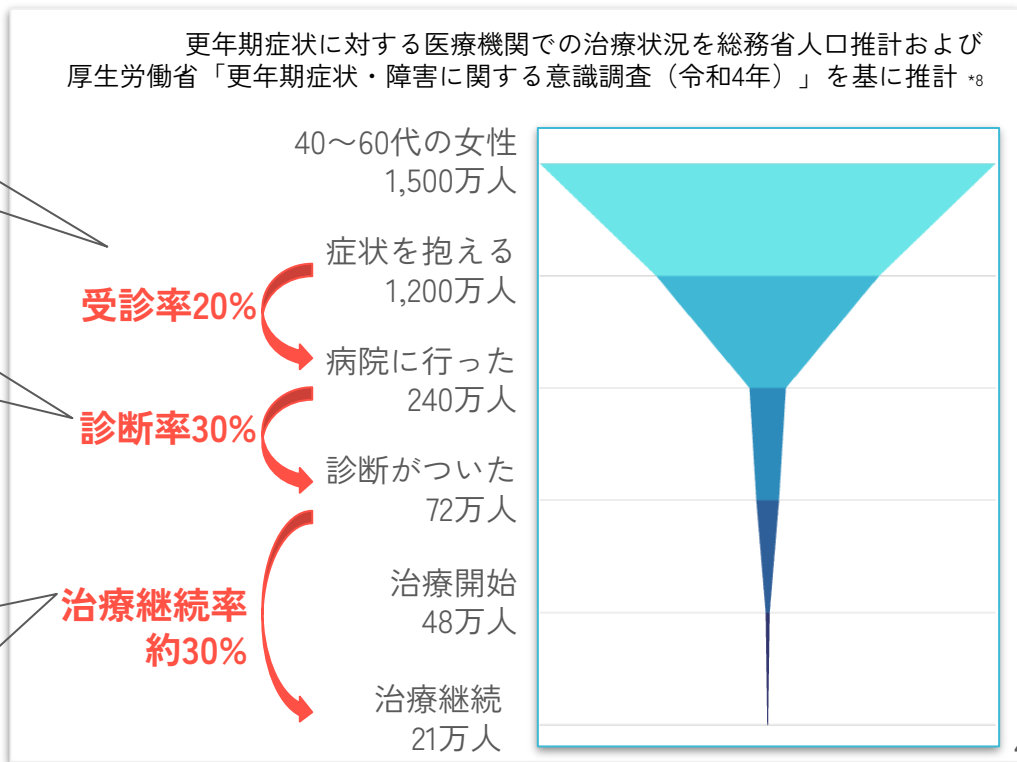
解決すべき課題

40～60代の日本人女性は1,500万人^{*7}いるが、更年期障害を疑う症状を抱える人は1,200万人^{*8}、治療を受けているのはそのうち約2%の21万人程度と推定される。

ハードル① そもそも相談のハードルが高い
「更年期＝恥ずかしい」「我慢するもの」

ハードル② 診断がつきづらい
「病院で“更年期じゃない”と言われた」

ハードル③ 症状も対策も多様で、自分に合ったものを見つけるまで時間がかかる
「処方薬を1週間服用したが、やめてしまった」
「症状に波があって、薬が効いてるのか不安」



実施目的

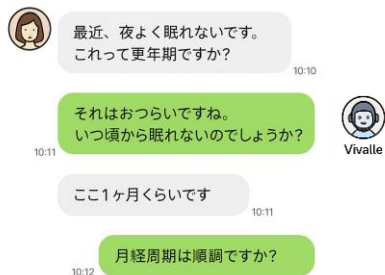
更年期障害の適切な医療アクセスを改善し、女性がキャリアを持続できる社会を実現する。それぞれの課題に対してそれぞれのアプリ開発とサービス提供を行う。

#	課題	目的
1	相談のハードルが高い	<ul style="list-style-type: none">「これって更年期？」と感じた時に、気軽に自身の症状についての相談や自己チェックが可能な環境を整備する「更年期は我慢しなくていい」「不調のときは周囲に相談を」といったメッセージを発信することで、無理をしがちな働く女性たちの思考や行動に変化を促す
2	診断がつきづらい	不調を感じ始めたら、 早期に専門医にアクセスできる環境を整備 する
3	症状も対策も多様で、自分に合ったものを見つけるまで時間がかかる	<ul style="list-style-type: none">治療開始後に体調の変化の記録をつけ、可視化されることで、治療効果を可視化する医師が診療の補助データとして活用することで、治療効果の科学的検証と、個別最適化されたケアを提案することを可能にする

協力企業で働く35～65歳の女性に#1～3を利用してもらう。

#1 AIチャットボット 「これって更年期？」を 気軽にLINEで相談

悩んでいる症状や日常の困りごとをチャット形式でヒアリング。
AIチャットボットで、
24時間365日相談が可能。



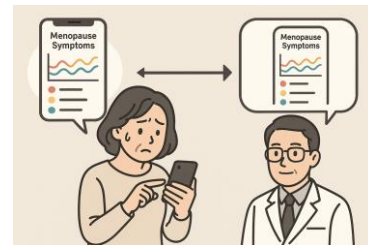
#2 問診AI 不調の程度によって カウンセリング・診察

AIチャットの結果によって、
カウンセリングまたは診察を提案。
ユーザーが希望すれば、
専門の医療従事者との診察行う。



#3 症状トラック アプリで症状記録 パーソナライズ治療

治療中に症状を
ユーザー自身が記録。
ユーザーが閲覧できるだけでなく、
診察する医師とのデータ共有も行う



主団体

HerLifeLab (株)

協力団体 (診療実施・医学監修)

Naoko女性クリニック

沢岷美奈子女性医療
クリニック

医療法人Leading girls
(LUNAクリニック)

実証パートナー (モニター (35~65歳の働く女性) 募集)

事業者A 女性社員

自治体B 女性社員

一般応募 働く女性

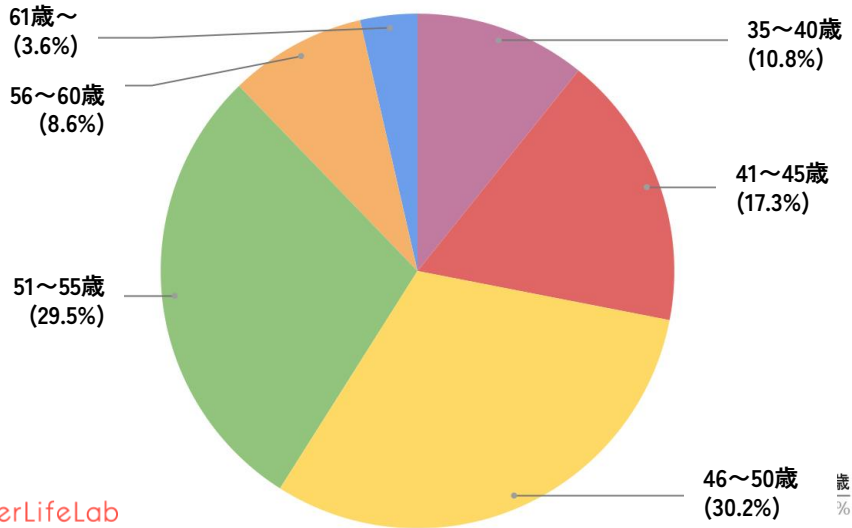
スケジュール

	2025年						2026年		
	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	
AIチャット ボット開発	AI共通 基盤実装	カルテ・ LINE連携 機能開発	プロンプト 作成	不具合修正 本番環境実装	運用・不具合FIX・改善				
症状トラッ クアプリ開 発			DB整備	UI実装	運用・バグFIX・改善				
実証・サー ビス提供					被験者利用期間 (最大2ヶ月間)				レポート 取りまとめ

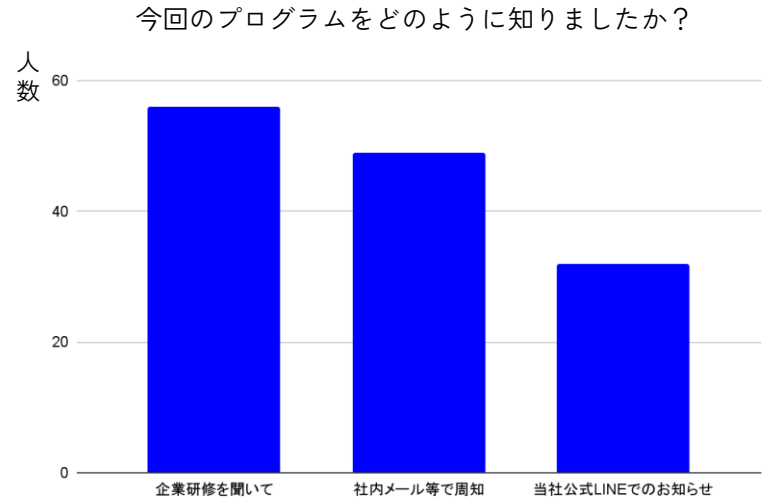
参加者分析

- 参加者の年齢層は46～50歳が最も多く、次に51～55歳だった。この2つの層で全体の59.7%を占め、典型的な更年期症状が強く出やすい層にアプローチできた。
- 「企業研修」を行った後の申し込みが最も多く56名。沖縄県内閣府より沖縄県各社に「社内メールで周知」をみたことによって応募した人が49名と続いた。当社の公式LINE登録者への案内も行ったが、申し込み数は32件で数はあまり多くなかった。「企業からのお墨付き」「自治体が支援している」と言ったことが利用者に安心感を与え、試してみるきっかけになったと想定される。

参加者の年齢層 (n=137)



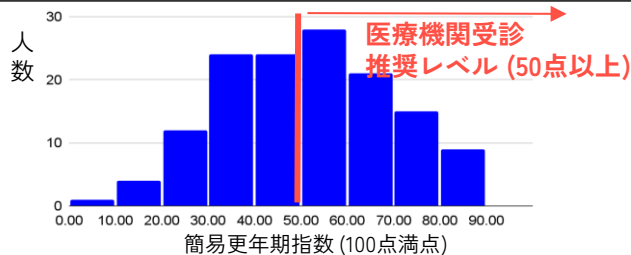
申し込み経路 (n=137)



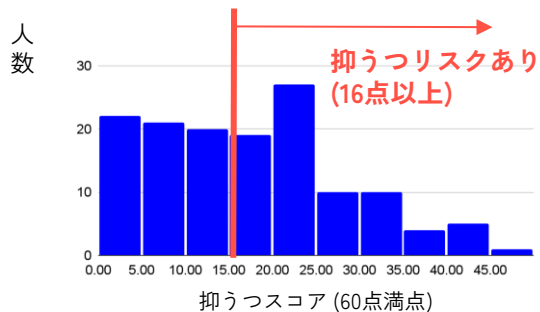
受診前の状態、治療方針

- 受診前の状態
 - 更年期症状の程度を示す更年期簡易指数 (SMIスコア) は半数以上が医療機関受診推奨レベルの50点以上だった
 - 抑うつスコアも約半数がリスク層の16点以上だった
- 治療方針はホルモン補充療法 (HRT) が46%、漢方が42%とほぼ同等であった

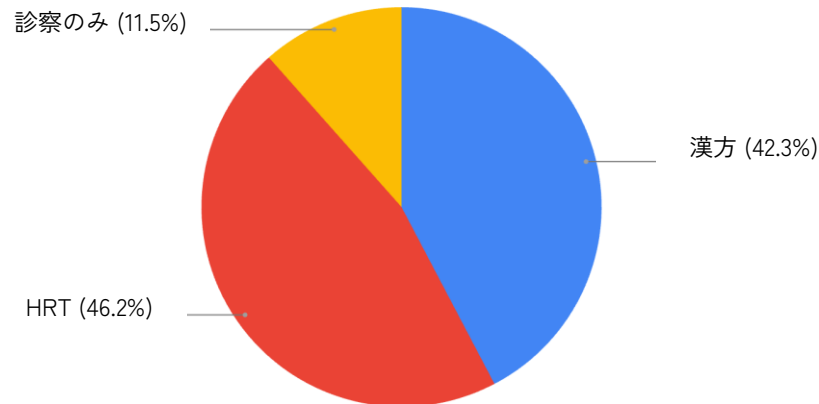
受診前の更年期簡易指数の分布 (n=137)



受診前のうつスコア(CES-D)の分布 (n=137)



治療方針 (n=137)



初診時の問診で訴えがあった症状例（一部）

メンタル・精神症状
「不安感や恐怖心が常にあり、文章を打ったり話したりするだけで息苦しくなってしまう」
「ちょっとした事で心配になり、寝付けない。心配になると胸がドキドキする」
「些細なことでもイライラしたり、様々な場面でやる気が上がらないことが増えている。」
仕事・生活への影響
「このまま仕事が続くか不安」
「9月からは外出も出来なくなった。リモートワークでなんとか続けている」
「仕事においても、柔軟性に欠けてきたような気がする。気が滞っている感じがする」
「焦燥感と気分の悪さが急に起こり、仕事に集中できなくなる」
不眠・睡眠障害
「寝入りは比較的スムーズだが3時間後くらいにほぼ目が覚める」
「寝汗をかいて、夜中に目が覚めて、眠れなくなる」
「眠りが浅く、昼間に眠気が出る。布団に入ると手足が暑くなり寝つきが悪い」
身体症状（ホットフラッシュ・疲労・関節痛）
「天気が悪い日に、動悸と浮遊性のめまいが出る」
「肩や背中など関節の凝りや痛み、些細な事でもイライラ、やる気が上がらない」
「疲れやすく階段が辛い。忘れっぽく記憶力に自信がない」
「汗の量・匂い、むくみ、疲れが取れない」
「胸がつかえる感じ」

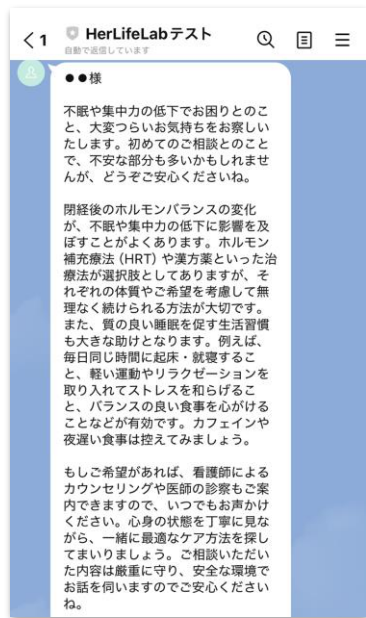
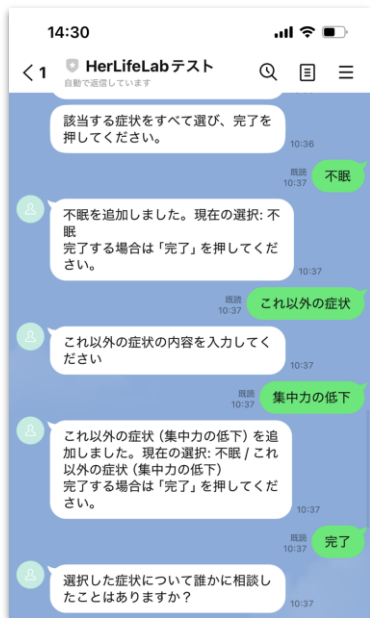
実証の詳細① - AIチャットボットの詳細と結果

公式LINEから予約前に相談ができる。チャット形式で「症状」や「年齢」、「日常で困っていること」を入力すると、AIがパーソナライズしたケアガイドを作成。来院前の不安を解消し、受診へと繋げる。

STEP1: 悩んでいる症状
や年齢、治療状況を入力

STEP2: AIがパーソナライズしたケアガイドを提示

検証結果

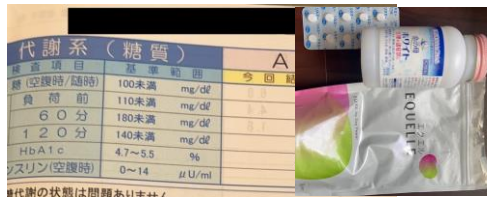


- 利用拡大効果が確認できた
 - **利用者：101名（従来LINE比 約10倍）**
→ 潜在層の掘り起こしに成功
- 医療接続へと繋がった
 - 受診率：11%（11名）
 - 旧来の人による運用：予約率 約30%
 - **ただし 受診者の実数は増加**
→ 母数拡大により接続総量は増えた
- 予約者の傾向：
 - 更年期簡易指数 (SMIスコア) 60以上：8割
 - 抑うつ状態 (CES-Dスコア) 16点以上：6割
→ しかし7割以上の顧客が「不調はあるが更年期なのか分からない」を選択し予約に至っている。つまり、医療的には重症だが、本人の自覚は未自覚の存在が可視化された。

実証の詳細② - 問診AIの詳細と結果

蓄積された患者データをAIが学習し、初診患者の属性や症状から、聞くべき質問や確認事項を整理した。これにより、医療者ごとの問診項目の抜け漏れや症状解釈の差異を抑制し、診療品質の標準化につながる可能性が示唆された。

① お薬手帳や健診結果の画像認識でテキスト化



代謝系 (糖質)			
検査項目	検査結果	単位	今回結果
空腹時(随時)	100未満	mg/dl	
食前	110未満	mg/dl	
60分	180未満	mg/dl	
120分	140未満	mg/dl	
HbA1c	4.7~5.5	%	
クレアチニン(空腹時)	0~14	μU/ml	

代謝の状態は問題ありません。

プロチゾラム錠 0.25mg 「0.5錠,
1日1回 就寝前服用, 10時半に服用
ツムラ72 甘麦大棗湯エキス顆粒
1日3回 毎食間服用

検証結果

- 診療準備の効率化
 - 30分 → 5分に短縮 (▲83%)
→ 診療前準備の大幅効率化を確認
- 臨床現場の定性評価
 - 「情報処理が容易になった」
 - 「質問の取りこぼしがなくなった」
- 変化の具体例：不安感を主訴とする患者に対し、AIが「過去1~2年の職場環境の変化」「役割や責任の増加」「家族構成の変化」の確認を推奨することで、症状の背景にある心理社会的要因を早期に把握できた

② 問診票からバイオ・サイコ・ソーシャルを整理し、初回の看護カウンセリングのリフレーミング例を提案

Bio (身体)

・ほてり(強)、発汗(中:手)、動悸/息切れ(中)、デリケートゾーン乾燥/ヒリヒリ・性交痛/性交後出血あり。

Psycho (心理)

・抑うつ関連スコアが高く、睡眠不良や「恐ろしい気持ち」「周囲がよそよそしい」等が週の大半(5-7日)で出現している回答がある。

Social (生活・環境)

・既婚で同居は配偶者、職業は主婦;直近の環境変化として引越し・子どもの巣立ち・親の介護が重なっている。

リフレーミング例

・今のつらさは、弱さではなく、これまで無理を重ねてきた体と心が出している反応
・その中でも生活や仕事を続けてこられたことは、・・・

PHRアプリの詳細と結果

受診後の経過をLINE上のアプリから記録。「身体症状」「気分」「薬の服薬状況」「効果の感じ方」「メモ」などを入力。医療者が再診時に確認し、経過を正確に把握できる。

患者画面



検証結果

- うつ改善効果
 - 40% (利用者) vs 31% (非利用者) → 約130%の改善効率
 - 利用者の特徴として、精神症状がより強い層が利用していた
 - 開始時うつスコアの中央値：利用者20 vs 非利用者16
 - → 精神症状の重症層ほどニーズあり

医療者画面



		アプリ利用者 (n=56)	アプリ非利用者 (n=78)
うつスコア	事前 (中央値)	20	16
	事後 (中央値)	12	11
	変化率平均	40%	31%

実証成果サマリー（KPI達成状況）

本実証において、AI相談機能・医療接続・治療継続支援の3領域で、設計したKPIを概ね達成し、社会実装に向けた有効性を確認した。

① AIチャットボットの実装・利用・精度検証 (n=101)

指標	実績	目標
回答精度	100%	90%
相談実施率	65%	70%

② 医師診察との連携実証

指標	実績	目標
診察受診数	137名	150名

③ PHR記録による治療継続支援

指標	実績	目標
記録実施率	72%	70%
継続率	79%	80%
納得度向上	25%改善	-

▼
更年期不調に対する
初期相談支援ツールとしての
実用性を確認

▼
医療接続モデルとしての
運用可能性を確認

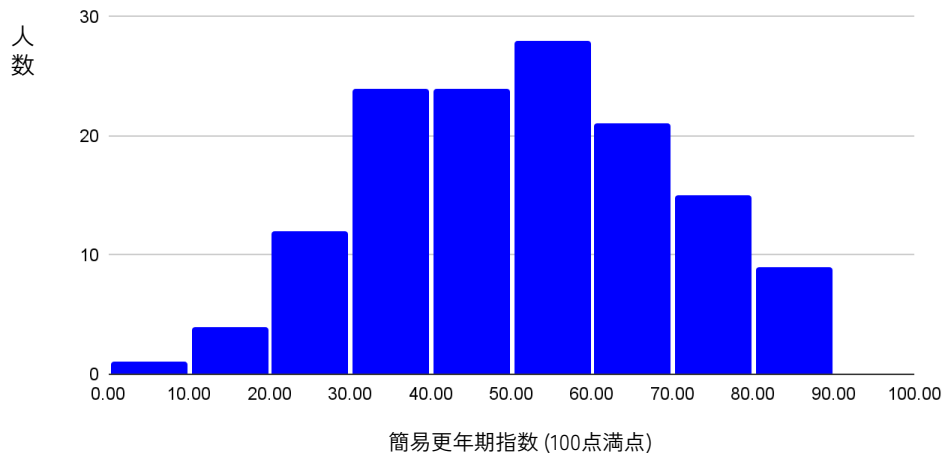
▼
データ可視化による治療継続
支援の有効性を確認

92%の参加者の更年期簡易指数 (SMI)が改善

中央値 51 → 34 (-17)

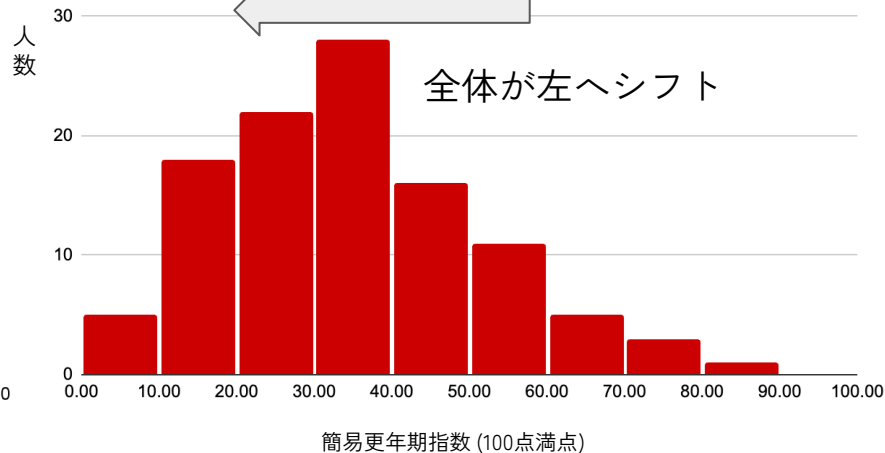
Before

「[初診]SMI」のヒストグラム



After (2ヶ月後)

「[再診]SMI」のヒストグラム



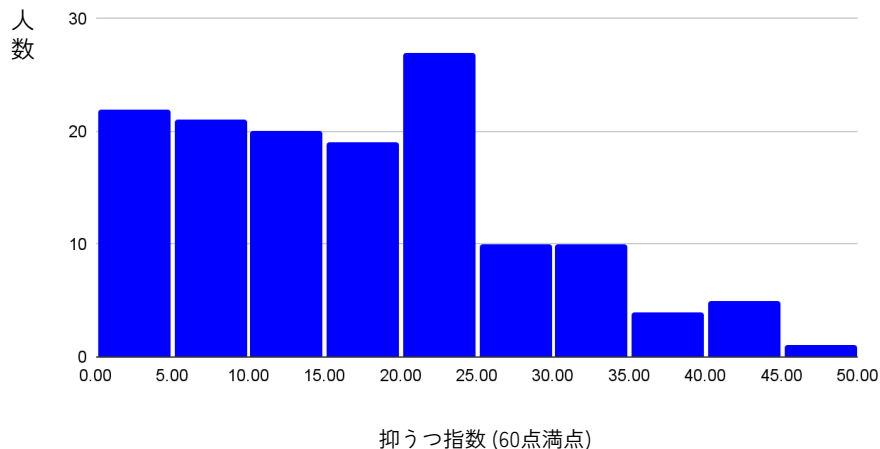
68%の参加者の抑うつ指数 (CES-Dスコア)が改善

中央値 17 → 12 (-5)

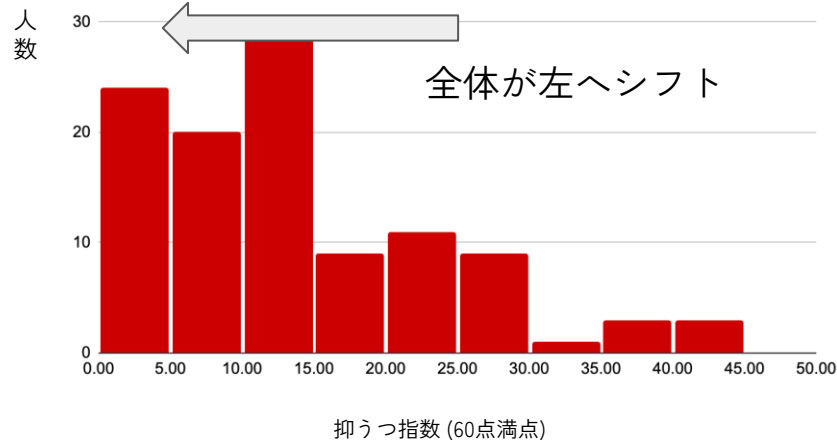
Before

After (2ヶ月後)

「[初診]うつ」のヒストグラム



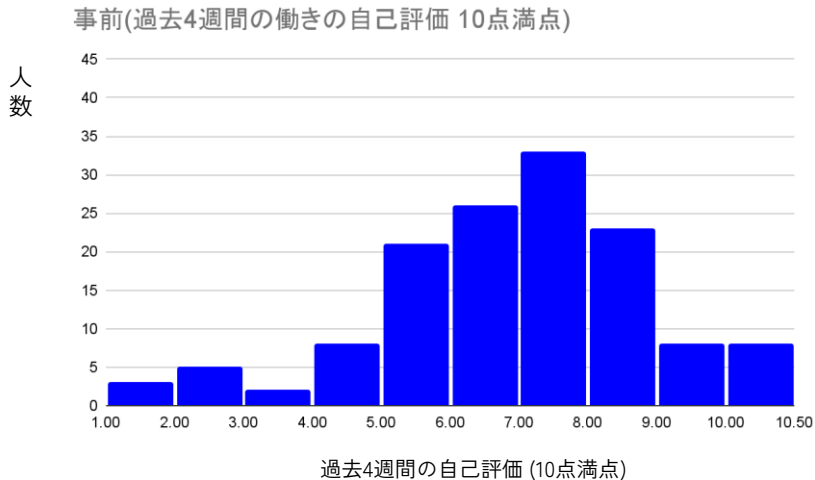
「[再診]うつ」のヒストグラム



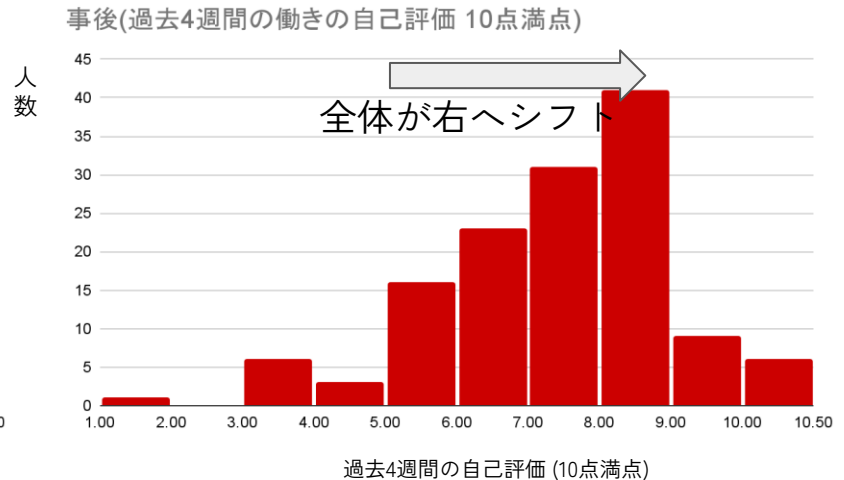
過去4週間の働きに対する自己評価が 受診前に5点以下だった深刻層の70%が改善 中央値 5 → 6 (+1)

(あなたの仕事において、0が誰でも達成できるような仕事ぶり、10が最も優れた勤務者の仕事ぶりとしたとき、過去4週間(28日間)の間の勤務日におけるあなたの総合的な仕事ぶりを、あなたはどのように評価しますか。)

Before



After (2ヶ月後)



1. 企業における潜在的な離職リスク

本実証を通じて、企業内で通常通り業務に従事している従業員の中にも、深刻なうつスコア（CES-D）を示す層が一定数存在することが浮き彫りになった。今後はこれらのリスクを早期に顕在化させ、企業側へ適切なフィードバックを行うかが更年期離職減少のために重要である。

2. AIの活用と相談窓口への誘導ハードル

AIチャットボットは、24時間の即時対応や受診ハードルの低減、データによる効率化において極めて高い効果を発揮した。一方、そもそもボットを利用開始する数は一定数に留まっており、利用開始までのハードルが存在する。

3. PHRによる可視化と精神症状改善

アプリによる症状のトラッキング（PHR）や、自分自身の状態を言語化・可視化するプロセスが、特に精神症状の改善に寄与する可能性が示唆された。しかし、既存の保険診療ではこのようなジャーナリングなどの手法は点数化されておらず自費診療が前提となり利用ハードルが一定存在する。

1. 更年期以降の女性の健康研修のBtoB展開の加速

今回の実証で、企業や自治体経由の周知が利用者の安心感に繋がり、利用申し込みが進んだ。当社ではこれまでToCのビジネス展開をしてきたが、企業経由でのオンライン診療の利用周知の協業を進める。

2. オンライン診療の「入り口」としてチャットボット利用

今回の実証で、利用者の7割以上が「自身の不調が更年期によるものか判断できない」潜在層であることが判明した。今後もAIチャットボットをオンライン診療の入り口として位置づけ、24時間体制でユーザーの不安に答える場とし、適切なケア（オンライン・対面問わず）へと誘導するものとして利用する。**医療機関向けSaaSとしての展開**

問診AIによる診療準備時間の83%削減（30分→5分）という成果を基に、医療者の診療を支援するSaaS展開を進める。

3. データ利活用によるパーソナライズの深化

蓄積されたPHRデータを活用し、オンライン診療サービス内での「セルフマネジメントプラン」を実装、2026年2月より提供開始を行った。

(参考) SMIスコア

更年期簡易指数 (SMIスコア)

更年期症状10項目について重症度を自己評価し、
重み付けを加味して総合点を算出する指標

Koyama T. Simplified Menopausal Index and its clinical application.
Obstetrics and Gynecology Practice (Japan), 1992.

症状	強	中	弱	無
顔がほてる	10	6	3	0
汗をかきやすい	10	6	3	0
腰や手足が冷えやすい	14	9	5	0
息切れ、動悸がする	12	8	4	0
寝つきが悪い、または眠りが浅い	14	9	5	0
怒りやすく、すぐイライラする	12	8	4	0
くよくよしたり、憂うつになることがある	7	5	3	0
頭痛、めまい、吐き気がよくある	7	5	3	0
疲れやすい	7	4	2	0
肩こり、腰痛、手足の痛みがある	7	5	3	0

■ 判定基準 (合計点)

- 0~25点：上手に更年期を過ごしています。現状の生活を継続しましょう。
- 26~50点：食事・運動など生活改善を心がけましょう。
- 51~65点：医師の診察を受け、生活指導や治療を検討しましょう。
- 66~80点：長期的な治療が必要な可能性があります。
- 81~100点：精密検査を受け、専門医での対応が望まれます。

CES-D (Center for Epidemiologic Studies Depression Scale)

CES-Dは、うつ症状の頻度を評価する自己記入式質問票です。

- 1 普段は何でもないことがわずらわしく感じた
- 2 食欲がなく、あまり食べられなかった
- 3 家族や友人が励ましてくれても気分が晴れなかった
- 4 他の人と同じくらい仕事ができなかった
- 5 物事に集中できなかった
- 6 気分が落ち込んでいた
- 7 何をするのもおっくうに感じた
- 8 将来に希望が持てた
- 9 自分は失敗した人間だと思った
- 10 何となく恐ろしかった
- 11 よく眠れた
- 12 幸せだと感じた
- 13 ふだんより口数が少なかった
- 14 さびしいと感じた
- 15 みんなが自分に冷たいと感じた
- 16 生活を楽しんだ
- 17 急に泣き出すことがあった
- 18 悲しいと感じた
- 19 人から嫌われていると感じた
- 20 何も手につかなかった

■ 回答方法 (各項目)

過去1週間の頻度を選択：

- 0点：ほとんどない (1日未満)
- 1点：ときどきあった (1~2日)
- 2点：しばしばあった (3~4日)
- 3点：ほとんどいつもあった (5日以上)

■ 合計点と判定目安

合計点 (0~60点) で評価

0~15点：抑うつ傾向なし

16点以上：抑うつ状態の可能性あり

23点以上：中等度以上のうつの可能性

株式会社コスミックコーポレーション

「女性特有の健康課題（プレゼンティズム）による経済損失」解消

AIラボ: WaISE (ワイズ) × AITS (アイツ)

— 自覚症状 × 職場健診データから甲状腺検査への推奨度を示す —

代表団体 株式会社コスミックコーポレーション 菊池 唯史

参加団体 国立大学法人 政策研究大学院大学 片井 みゆき

参加団体 医療法人社団 ミッドタウンクリニック 吉形 玲美



事業概要

事業名

「女性特有の健康課題（プレゼンティズム）による経済損失」解消AIコラボ: **WaiSE**(ワイズ)×**AITIS**(アイツ)
— 自覚症状×職場健診データから甲状腺検査への推奨度を示す —

代表団体名

株式会社コスミックコーポレーション

参加団体:立案/監修

国立大学法人 政策研究大学院大学

参加団体:実証

医療法人社団 ミッドタウンクリニック

実施概要

実施項目 1.
WaiSE×**AITIS** 共通ユーザーインターフェースの仕組みの検討と構築

- 1) 今回の前向き実証ナビゲーションアプリの作製
- 2) **WaiSE**×**AITIS** サイロ・スコアのユーザーインターフェース構築 (AITISのAPI開発含む)
- 3) 提供体制の検討

実施項目 2.
AITISの甲状腺検査推奨度(サイロ・スコア): 働く世代の女性にカスタマイズ【後向き実証】

性差・ライフステージ(交差性)を考慮したロジック構築: 仮説の設定、データ収集、仮説の検証

実施項目 3.
WaiSE/**WaiSE WORK**によるヘルスリテラシー向上・行動変容の検証【前向き実証】

今回実証用**WaiSE WORK**アプリによるヘルスリテラシー向上・行動変容の検証

背景・事業目的

背景

- **更年期症状と甲状腺疾患：症状が類似し見分け難い**
女性は50歳前後の閉経を境に計10年間の更年期を過ごし、倦怠感・動悸・めまい・不眠・不安など多様な症状を複数自覚し、生活の質や労働力を損なう。また、**更年期に他疾患が存在しても更年期障害とされやすく診断が遅れやすい「性差」**が存在する。**甲状腺疾患は閉経前女性で最も頻度が高い内科疾患**だが、更年期症状と類似し見逃されやすい。片井らの先行研究では、更年期症状で受診した女性の15%が実際には甲状腺機能異常、その他を含めると27%が内科疾患を原因であった（東女医大誌，89巻3号，2019年）。
- **甲状腺機能が未検査のまま未診断のケースが多い**
甲状腺検査は一般検査に含まれず、医師が必要と考えたら追加。甲状腺検査は専門性が高く、検査費用が高いことから、甲状腺検査が実施されず、甲状腺疾患が未診断の更年期女性が多い状況。
- **更年期症状に紛れている女性の甲状腺疾患による経済損失は年間2850億円と推定**
女性特有の健康問題のうち更年期症状による経済損失 約1.9兆円×15%(甲状腺疾患の割合)
=2850億円（経産省令和6年度試算）

目的

- **「プレゼンティズムに隠れた疾患の早期発見サポート」という社会的意義を持つ新しいタイプのフェムテックの開発を目的**とします。
- **「更年期症状・月経随伴症状に隠れた疾患」の早期発見を促す**ことで、プレゼンティズムを解消し、働く女性のウェルビーイング向上に大きく貢献し、**更年期を含む女性のライフイベントとキャリアの両立の実現**を目指します。

サービス・製品

WaiSE : 自覚症状の把握 + 甲状腺検査の推奨度をAIが推定



WaiSE はAMED 2019-21年度「女性の健康の包括的支援実用化研究事業」で研究開発。

女性専門外来での外来受診者（18-84歳：5,241名、61,983件）症例に基づいた「女性に特化した診断アルゴリズム」を搭載し、「性差医学に基づくアプローチ」により判定。

女性は月経や更年期に伴う女性ホルモン分泌の変化により、多様な自覚症状を同時に経験するが、数ある自覚症状を医師へ伝えきれず、的確な診断がつかぬまま悩む女性も多いのが現状である。WaiSEは女性が診察の際によく用いる単語・表現をリアルに提示する（例：イライラする、胸がドキドキする、頭にお釜を被せられたような圧迫感等）。使用者が選択肢をタッチすることで、自覚症状を詳細かつ的確に収集することが可能である。

AITS 一般検査値から甲状腺検査の推奨度をAIが推定

生化学検査項目
クレアチン
尿素窒素
尿蛋白
尿潜血
尿糖
空腹時血糖
HbA1c
尿酸
白血球
赤血球
ヘモグロビン
ハマトクリット
LDL-C
中性脂肪
HDL-C
T-CHO
GOT
GPT
γ-GTP
ALP
ZTT

株式会社コスミックコーポレーションと一般社団法人日本甲状腺学会の協力で開発した機械学習システムであり、その成果を論文発表している。

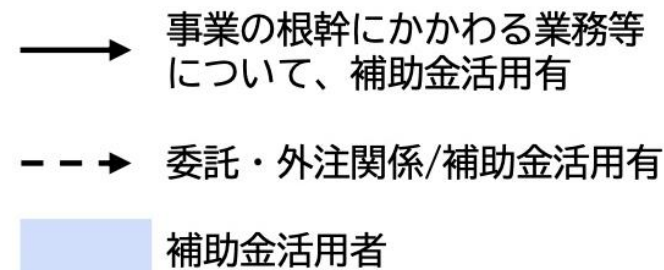
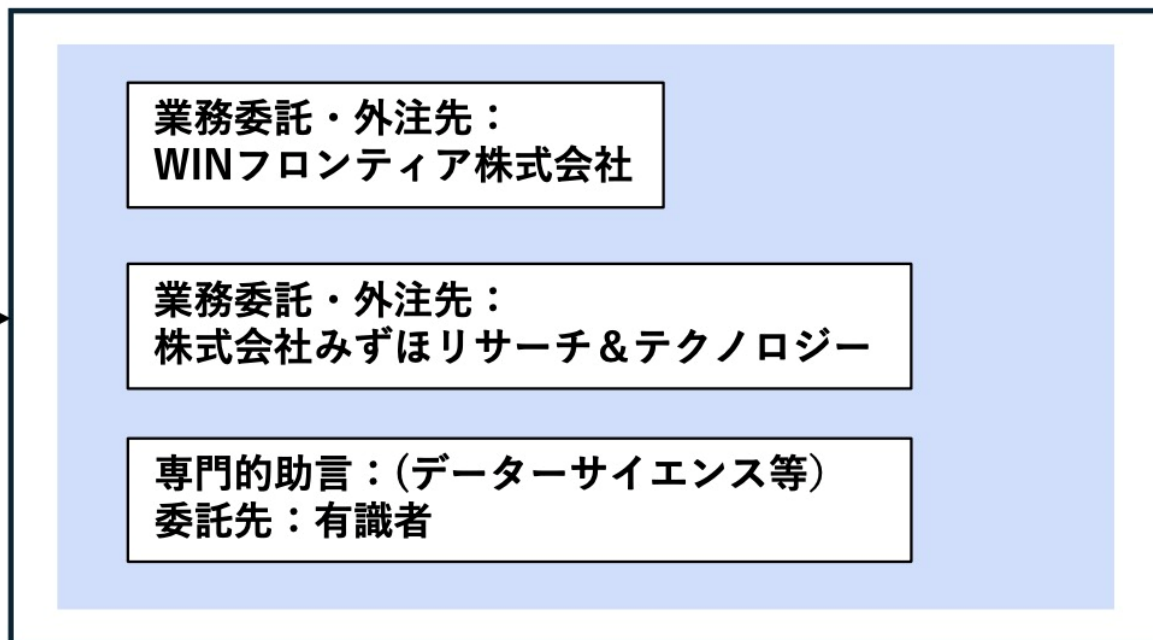
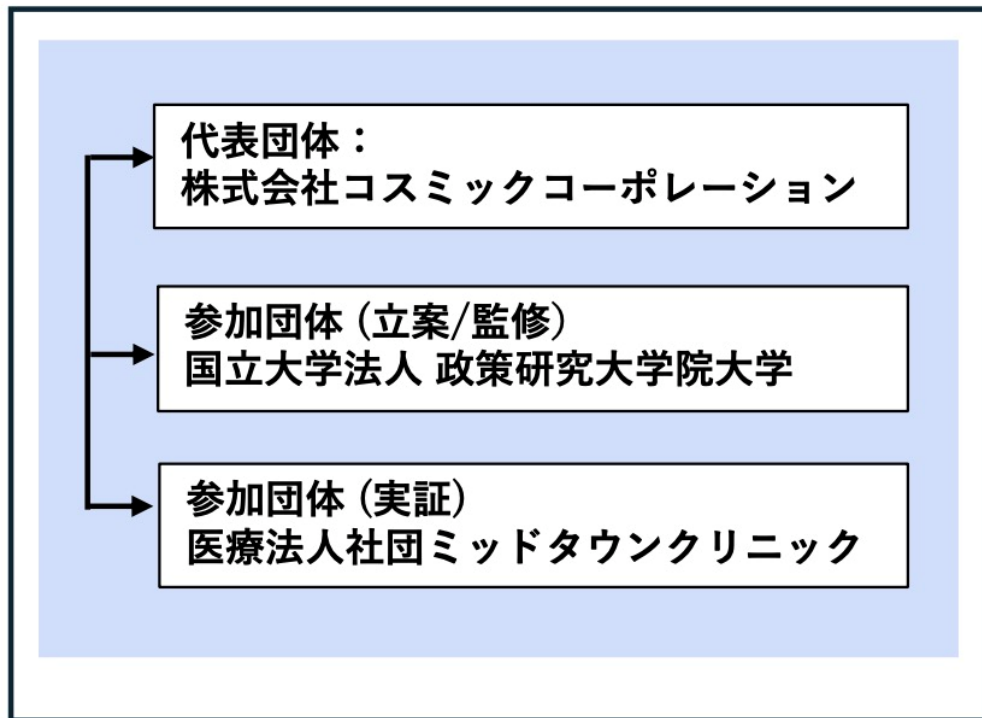
生化学・血液検査の情報からホルモン値などを推定することで、罹患の可能性を推定する技術である。内分泌疾患の早期発見を目的とした、新たなスクリーニング手法として期待されている。



実施体制

補助事業者(コンソーシアム)

業務委託：外注先



スケジュール

WaiSE×AITS 共通ユーザーインターフェイスを構築し、働く世代の女性にカスタマイズしたAITSの検証、WaiSEによるヘルスリテラシー向上・行動変容の検証を実施した

	実施事項	2025年		2026年				
		8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
実施項目1 WaiSE×AITS 共通ユーザーインターフェイスの仕組みの検討と構築	1)今回の前向き実証ナビゲーションアプリの作製							
	①今回の前向き実証ナビゲーションアプリの作製							
	②実証ナビゲーションアプリの稼働							
2)WaiSE×AITSサイロ・スコアのユーザーインターフェース構築(AITSのAPI開発含む)	WaiSEとAITSをワンストップ利用するユーザーインターフェース構築の検討							
	3)提供体制の検討							
実施項目2 AITSの甲状腺検査推奨度(サイロ・スコア):働く世代の女性にカスタマイズ【後向き実証】	1)性差・ライフステージ(交差性)を考慮したロジック構築:仮説の設定、データ収集、仮説の検証							
	①性差・ライフステージ(交差性)を考慮したロジック構築							
	②人間ドックで性別、年代別サイロ・スコアを比較検証							
③仮説の検証								
実施項目3 WaiSE/WaiSE WORKによるヘルスリテラシー向上・行動変容の検証【前向き実証】	今回実証用WaiSE WORK アプリによるヘルスリテラシー向上・行動変容の検証							
	①-1実証機関1の受診女性でWaiSE WORK実証の検証							
①-2 WaiSE WORK実証後Googleフォームでヘルスリテラシー検証								

目標

令和7年度 インプット (本実証で実施する内容)	令和7年度末時点 アウトプット (本実証で獲得する成果 等)	令和7年度末時点 短期アウトカム	令和9年度 中期アウトカム	令和11年度 長期アウトカム
1. WaiSE × AITS 共通ユーザーインターフェースの仕組みの検討と構築	<ul style="list-style-type: none">・前向き検証ナビゲーションアプリの作製・統合型ユーザーインターフェース（プロトタイプアプリケーション）の仕様検討及び構築・提供体制について検討	WaiSE × AITS ユーザーインターフェースの検討と構築	ユーザーインターフェース（アプリケーション）の完成	ユーザーインターフェースの社会実装の実現化
2. AITS の甲状腺検査推奨（サイロ・スコア）：働く世代の女性のカスタマイズ【後ろ向き実証】	AITS で甲状腺疾患予測（サイロ・スコア）の性別・年代別4群比較【後ろ向き実証】	AITS で甲状腺疾患予測（サイロ・スコア）の性別・年代別4群比較【後ろ向き実証】	<ul style="list-style-type: none">・性差・ライフステージ（交差性）を考慮したロジック構築・性差とライフステージを考慮したロジック検証・異常の結果をユーザーインターフェースに反映	AITS の甲状腺検査推奨度の更なる向上
3. WaiSE / WaiSE Work によるヘルスリテラシー向上・行動変容の検証【前向き検証】	WaiSE / WaiSE Work によるヘルスリテラシー向上・行動変容の検証【前向き実証】	WaiSE / WaiSE Work によるヘルスリテラシー向上・行動変容の検証【前向き実証】	<ul style="list-style-type: none">・WaiSE Workアプリによるヘルスリテラシー向上・行動変容の検証ができユーザーインターフェースに反映できる・令和7年度からのWHO-HPQスコアがスコア向上	<ul style="list-style-type: none">・中間アウトカムからの行動変容（甲状腺疾患の受診行動した人、ヘルスリテラシー）が向上・中間アウトカムから、WHO-HPQスコアが向上

本事業の成果

本実証事業において定めた提供価値の定量的指標であKPIの成果は下記の通りである

	KPI項目	達成率	KPI目標	成果
実施項目 1	アプリの完成度	100%	100%	前向き実証ナビ外—ションアプリの作成内容の操作が実現達成100%
	UI仕様進捗	100%	70%	ユーザーインターフェイス仕様の検討70% ユーザーインターフェイス構成の検討70% 提供体制の検討70%
実施項目 2	AITS検証	100%	4群比較	甲状腺機能検査結果との一致率を男女別、年代別（若年層/中年層）の全4群で比較検証100%
実施項目 3	WHO-HPQ改善	100%	5割改善	絶対的プレゼンティズム 5割改善達成 相対的プレゼンティズム 5割改善達成
	甲状腺理解度向上	100%	5割改善	甲状腺疾患の理解度 5割改善達成
	健診受診の関心向上	100%	5割改善	健診結果の関心度/行動変容 5割改善未達

実施項目 1 実施内容及び成果

前向き実証ナビゲーションアプリの完成度 / UI仕様進捗

前向き実証ナビゲーションアプリ完成度	KPI 100%	判定	達成率100%
	100%	達成	

前向き実証ナビゲーションアプリを完成した。実証と同時に行う事業評価指標などのアンケートを、WaiSEアプリ画面からGoogleフォームに連動した。



前向き実証ナビゲーションアプリイメージ図

ユーザーインターフェイス（プロトタイプアプリケーション）の仕様検討と構築の進捗	KPI 70%	判定	達成100%
	70%	達成	

WaiSE×AITSサイロ・スコアのユーザーインターフェースの仕様検討・構築（AITSのAPI開発含む）について、該当機関と、定期的に会議を行い検討を予定通り進めた。今後の提供体制についても検討を実施。



実施項目 1-(2) 実施内容及び成果

達成率100%

ユーザーインターフェイス（プロトタイプアプリケーション）の仕様検討と構築の進捗

甲状腺機能異常症AI予測システム

Python AITS APIによる予測

この機能は株式会社コスミックコーポレーションのPython AITS APIを使用しています。血液検査データを入力すると、AIが甲状腺機能異常のスコアを予測します。
※ 未入力項目は学習済みの代表値で保管されます

医療施設情報

肝機能・腎機能

AST(GOT) [U/L]	ALT(GPT) [U/L]	γ-GTP [U/L]	ALP [U/L]
35	28	45	250
LDH [U/L]	総蛋白量 [g/dL]	クレアチニン [mg/dL]	尿酸窒素[mg/dL]
220	6.8	0.7	18

その他検査項目

総コレステロール値 [mg/dL]	総ビリルビン [mg/dL]	尿酸 [mg/dL]	アルブミン [g/dL]
210	1.1	4.2	4.1
A/G比	C反応性蛋白 [mg/dL]		
1.3	0.2		

クリア AI予測を実行



実施項目 2

実施内容及び成果

達成率100%

AITSで甲状腺疾患予測（サイロ・スコア）の性別・年代別4群比較後ろ向き実証

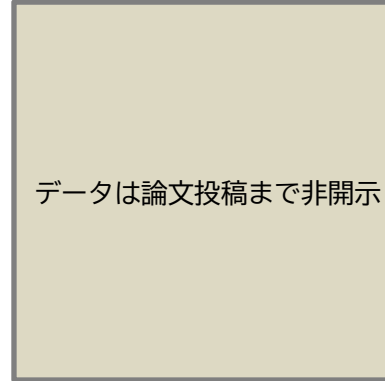
女性の閉経前後では、エストロゲン値が減少することに伴い、内分泌ホルモン分泌が影響を受けると考えられるため、55歳以上を閉経群と考え、教師データの構成を6つのパターンに変えて、それぞれで甲状腺機能亢進症モデル/低下症モデルを作製した。

年齢・性別区分	機能正常	顕性亢進	顕性低下
女性(≧55歳)	289	20	9
女性(<55歳)	733	25	13
女性(全年齢)	1,022	45	22
男性(≧55歳)	465	17	11
男性(<55歳)	1,857	27	3
男性(全年齢)	2,322	44	14

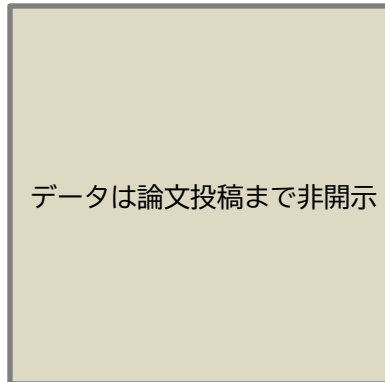
(データ提供：ミッドタウンクリニック)

<女性>

≧55歳
Vs
全年齢

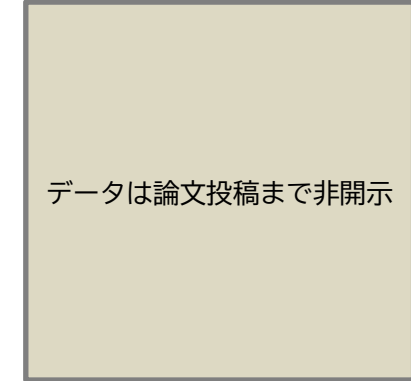


<55歳
Vs
全年齢

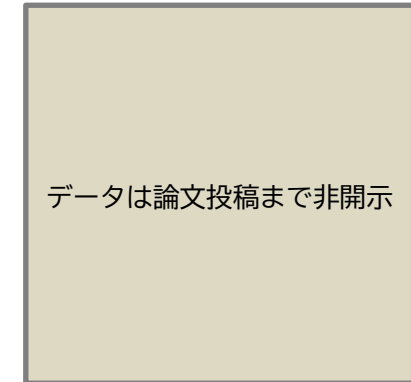


<男性>

≧55歳
Vs
全年齢



<55歳
Vs
全年齢



横軸：偽陽性率（疾患なしの患者）を誤って陽性と判定する割合 / 縦軸：疾患ありの患者を正しく検出できる割合
理想的なモデルは、左上（高感度・低偽陽性）に近づく形となる

本研究では年齢層別化により感度、AUC、真陽性検出の改善が示唆され、特に女性<55歳群で著明であった。

「全年齢一律モデル」から「ライフステージ最適化モデル」への転換の重要性が示された

実施項目3-(1) 実施内容及び成果

達成率100%

WHO-HPQスコアが介入後に改善

実証施設： 医療法人社団 ミッドタウンクリニック

プレゼンティズム	WaiSE試用前 n = 56	WaiSE試用後 n = 56	変化	KPI 50%以上	判定
絶対的プレゼンティズム	66	68	+2	達成	上昇
相対的プレゼンティズム	1.0	1.04	+0.04	達成 (1が到達ライン)	基準越え



プレゼンティズム指標（WHO-HPQ）は、絶対的・相対的いずれも介入後に改善した。

絶対的プレゼンティズムは50%の機能到達ラインを維持した上で向上し、相対的プレゼンティズムも同僚平均を上回った。したがって本介入は労働パフォーマンスの向上に寄与したと判断され、若干ではあるが、介入後の改善が認められた。**WaiSE WORK**で、甲状腺・更年期症状の理解が深まり、自身の体調を把握できたことが、働く女性の健康課題の改善に繋がったと考える。

絶対的プレゼンティズム…過去4週間の総合的なパフォーマンスを評価

相対的プレゼンティズム…絶対的プレゼンティズムを似た仕事の同僚のパフォーマンスのスコアで割ったもの

実施項目3-(2)

実施内容及び成果

達成率100%

甲状腺疾患への理解が深まった

実証施設：医療法人社団 ミッドタウンクリニック

甲状腺理解度テスト項目	介入前 正答率% n=88	介入後* 正答率% n=88	変化量 (%ポイント)	KPI 50%以上	判定
①甲状腺の部位	98.9	100	+1.1	達成	維持
②甲状腺のホルモンの働き	34.1	50	+15.9	達成	改善成功
③甲状腺機能亢進症の症状	80.7	87.5	+6.8	達成	改善
④甲状腺の検査	69.3	76.1	+6.8	達成	改善
⑤甲状腺の治療	97.7	92	-5.7	達成	高値維持

本研究では、同一試験の前後比較により教育効果を評価した。結果：項目①-④で正答率は上昇し、項目5は高い正答率を維持した。介入前正答率が特に低かった②を含め、全項目で正答率50%を超えた。したがって本介入は、**知識向上と理解水準到達の両面から有効と判断した。**

※WaiSEでスマホ画面で甲状腺説明コンテンツを提示する教育介入

介入後 「甲状腺」に関する感想 n=79

- 更年期が原因と思っても、甲状腺などの疾患が隠れているかもしれない事が分かった **58.2%**
- 甲状腺についての知識、関心が高まった **32.9%**

実施項目3-(3) 実施内容及び成果

WaiSE介入による健診結果活用・行動変容KPI評価



【評価設計】

本対象は既にハイクオリティ人間ドックの受診者であるため、「受診率向上」ではなく、健診結果の活用および行動意図への到達率をKPIとして評価した

行動変容指標	到達率	KPI基準	判定
健診結果をより確認しようと思った	43%	≥40%	達成
睡眠・食事などセルフケアを強化しようと思った	64.6%	≥50%	達成
必要時は受診しようと思った	24.1%	参考指標	—

平均 54%

※本評価は単純前後比較ではなく、測定設計変更に基づく「行動意図到達率KPI」として算定

【総合評価】

- ✓ 健診を「受ける」から「活用する」への質的転換を確認
- ✓ セルフケア強化意図 6割超
- ✓ 行動変容ステージ（意図レベル）への移行を確認

【意義】

- ・ 健診データの二次活用促進モデル
- ・ プレゼンティズム改善の基盤形成

全体結果と考察

【総合達成状況】

- KPI目標 6項目で100%達成（全体達成率**100%**）

【主要成果】

- 性差・年代別ロジック(**ジェンダード・イノベーション**)による**AI予測精度を検証**
- **ヘルスリテラシー向上と行動変容**を確認
- WHO-HPQ改善により**労働パフォーマンス向上**を示唆

【意義】

- **「更年期症状に隠れた疾患の可視化モデル」**を提示
- **「プレゼンティズムによる経済損失軽減」**の可能性を示唆
- **「“性差医療”と 攻めの予防医療”に整合する予防医療基盤」**を提示

本事業は「**性差とライフコースを考慮したデジタル予防医療・疾患の早期スクリーニングモデル**」の先行事例として位置づけられる

今後の事業に関する課題と対応

今後の発展に向けた課題	対応・方向性
① 社会実装フェーズへの移行	SaMD(プログラム医療機器)化を視野に入れて医療機器の公募型研究・開発枠組みへの展開を検討
② エビデンスの更なる強化	医療機関・健保組合・企業等との連携を拡大し、多施設・大規模検証へ発展させる
③ 経済価値の可視化	プレゼンティズム改善効果の医療経済評価を深化
④ 適用領域の拡張可能性	性差×ライフコース視点のAIモデルを段階的に拡張
⑤ 国家政策との整合	「攻めの予防医療」政策と連動した予防医療モデルへ発展

今後の事業活動について

【技術・研究発展】

- ・ SaMD(プログラム医療機器) を目指し、医療機器公募研究へ展開
- ・ 医療機関・健保組合・企業等との連携を拡大し、大規模検証へ発展
- ・ プレゼンティズム改善の費用対効果を定量化
- ・ 性差・ライフコース反映AIへ段階的拡張

【社会実装・政策連動】

- ・ 「攻めの予防医療」政策の連動モデルとして展開
- ・ 企業健診・産業保健現場への実装モデル構築
- ・ 健康経営・女性活躍施策と連動した導入モデル具体化
- ・ 匿名化データ蓄積によるAI精度向上・基盤強化

事業参加者一覧

株式会社
コスミックコーポレーション

総括事業代表者
菊池 唯史

事務管理責任者
小林 啓寿

AI検証
瀬間 良輔
浅見 親志

国立大学法人
政策研究大学院大学

副総括事業代表者
片井 みゆき

研究員
木下 千栄子

永野 拓紀子

加藤 透子

柴田 美奈子

医療法人社団
ミッドタウンクリニック

実証担当者
吉形 玲美

野村 愛

國枝 真理

岩波 克

情報システム
鈴木 利昭
石田 直

札幌医科大学医学部
ゲノム予防医学講座
臨床ゲノム学分野


専門的助言（研究助言）
櫻井 晃洋

玉川大学工学部
マネジメントサイエンス学科

専門的助言（データサイエンス）
原 洋平

医療者 7名参加

 医師 4名

 看護師 3名

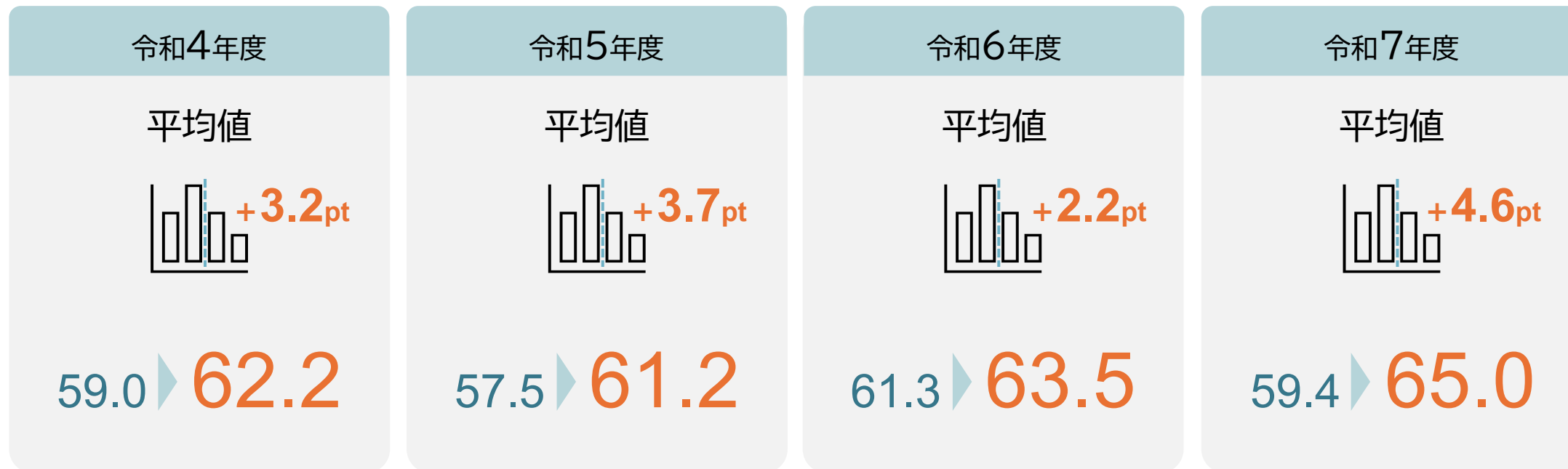
V. 令和3年度～令和7年度の総括

V. 令和3年度～令和7年度の総括

(1) 事業評価指標横断分析

WHOの指標を活用して、最高を100%とした場合、フェムテック活用前の4週間と活用後で、参加女性のパフォーマンスがどう変化するかを測定

結果、**フェムテックの活用によりパフォーマンスが上がる**ことを確認



※令和3～7年度フェムテック等サポートサービス実証事業のうち事業評価を行った令和4～7年度の実績を示す 出所：令和4～7年度フェムテック等サポートサービス実証事業報告書

WHO-HPQを用いて評価を行った 絶対的プレゼンティーズム=①×10

① 同じ0から10までの尺度上で、過去4週間(28日間)の間のあなたの勤務日におけるあなたの総合的なパフォーマンスをあなたはどのように評価しますか？

V. 令和3年度～令和7年度の総括

(2) 採択事業者マップ

■ : 経産省補助事業採択実績のある製品・サービス

■ : 採択以外の主な製品・サービス

- 下記マップは経済産業省補助事業に採択された事業をマッピングし作成した類型マップであり、テーマとなる健康課題×提供類型に応じて様々な製品・サービスが開発、提供されている。

健康課題	類型	知識向上	意識向上	セルフケア向上			プロケア			
		教育・研修	トラッキング・モニタリング	セルフケア提案	症状介入	リテラシー＋フェムケア	オンライン健康相談	医療連携		
月経・PMS		ウェアラブルデバイスによる基礎体温等測定＋研修等 月経痛体験デバイスを用いた研修 アスリート向けセルフケア研修	ウェアラブルデバイスによる痛み の緩和等 月経周期記録・ 排卵予測アプリ	マインドフルネス + 月経痛予測		月経カップ 吸水ショーツ ナプキン 配布デバイス	オンライン ピル処方 低周波治療 デバイス			
妊娠・不妊		研修 (オンライン相談等他領域 も含む)	子宮頸管粘液モ ニタリングによる妊 活サポート 遠隔胎児／在 宅妊婦モニタ リング 妊娠期体調記録・管理	健康デ ータ解 析・ ケア 提案 + 排卵予測		デリケート ゾーンケア用 オイル・ソープ	カップル カウンセリング 妊活相談 妊婦相談	プレコン健診 医療機関 データ連携		
産後ケア				+ 産後ケア	骨盤底筋 トレーニング サポート機器			産後相談 (母体、産後うつ等)		
更年期				症状記録・解析・セルフケア提案	マインド フルネス 睡眠計測・ セルフケア		尿漏れ検知機器		更年期相談	オンライン 診療 更年期症状や甲状腺疾患の識別疾患
婦人科疾患								乳房再建後の専 用ブラジャー		検査・診断 サービス
									健康課題横断型専門家相談パッケージ	

V. 令和3年度～令和7年度の総括

(3) 採択事業 令和3年度概要

- 令和3年度は、20事業者を採択した。女性の健康課題解決に向けた多様な取組が実施された。また、自治体との連携を見据え、全国すべての自治体を対象とした実態調査を実施し、今後の協働に向けた基礎的な情報収集を行った。
- なお本年は共通指標による事業評価指標の調査は行っていない。

令和3年度事業概要

事業数	20事業
関与数	<ul style="list-style-type: none">55の企業、10の自治体、25の医療機関が提供に関与5,240人の利用者、229の企業、86の自治体、23の医療機関に提供
主な実施項目	<ul style="list-style-type: none">採択事業者への伴走支援自治体向け調査

特徴

- 本年度の特徴として、自治体向け実態調査を通じ、女性活躍推進に向けた健康課題への取組状況やフェムテックの認知度・活用意向を全国規模で把握した点が挙げられる。
- 自治体向け調査では、多くの自治体が複数課を回覧する形で回答し、担当部署は男女共同参画、政策企画、健康関連課など多岐にわたった。現在の取組は「情報提供・普及啓発」が中心であり、妊娠・出産関連分野の実施率が高い一方、企業の職場環境改善や両立支援は低調であることが明らかとなった。

主な結果概要

- 実証事業初年度として、多様な事業テーマに取り組む実証事業者を採択、伴走支援を行った。
- 実証事業および実態調査を通じ、自治体におけるフェムテック活用の現状と課題が整理された。

V. 令和3年度～令和7年度の総括

(3) 採択事業 令和4年度概要

- 令和4年度は、多様なテーマに取り組む19事業者を採択した。本年度より全事業者が、共通の指標としてWHO-HPQ及び独自に設定した指標を調査し、フェムテックが及ぼす効果を調査した。
- フェムテック拡大に向け、導入事例提示が重要という前年度からの示唆を踏まえユーザーインタビューを実施、公表した。

令和4年度事業概要

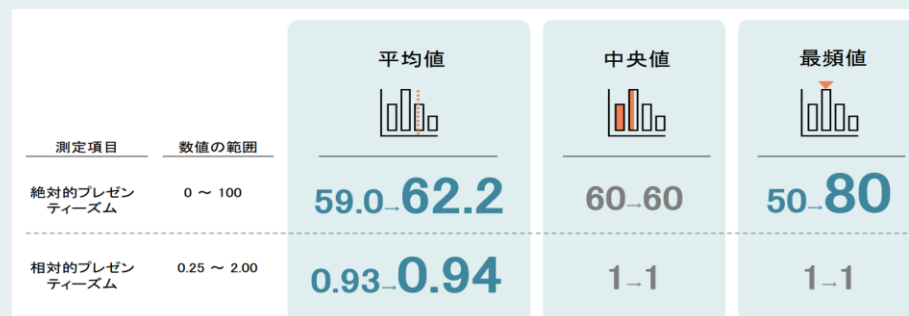
事業数	19事業
関与数	・98の企業、7の医療機関が提供に関与 ・14,821人の利用者、98の企業、2つの医療機関に提供
主な実施項目	・採択事業者への伴走支援 ・事業評価指標（共通指標） ・ユーザーインタビュー

特徴

- 採択事業者についてフェムテック等製品・サービスのバラエティを拡充し、月経・PMS、妊娠・不妊、ヘルスリテラシー等、多様な健康課題を対象とした実証事業を実施した。
- 事業横断で共通指標を用いた事業評価指標を初めて設定・取得し、19事業を通じた効果の比較・分析を行った。

主な結果概要

- 19事業全体で、フェムテック等サポートサービス利用前後のアンケート回答データを用い、9つの測定項目について単純集計、クロス集計、ヒストグラムによる分析を実施。
- 回答者は20～40代が中心で、子どもを持たない層が約3分の2を占め、健康課題は月経・PMSが最多であった。
- 共通指標①では、**絶対的・相対的プレゼンティーズムともに平均値が上昇し、損失割合が減少した。**



- 共通指標②では、**健康課題がキャリアに及ぼす影響について、従来意識していなかった層を含め、認知が広がる傾向が確認された。**

V. 令和3年度～令和7年度の総括

(3) 採択事業 令和5年度概要

- 令和5年度は、これまでの実証成果を踏まえ、実証事業者の公募設計の見直しを行い、実行性の高い実証の支援を行った。
- 共通指標による分析に加え、フェムテックに関する様々なステークホルダー（投資家、開発事業者、導入事業者）が参考となるレポートを作成、公表した。

令和5年度事業概要

事業数	18事業
関与数	・101の企業、14の自治体、11の医療機関、39の学校・個人等が提供に関与 ・1,865人の利用者、27の企業、9の自治体、1つの医療機関に提供
主な実施項目	・採択事業者への伴走支援 ・事業評価指標（共通指標） ・フェムテック市場動向、開発事業者・導入企業の事例整理・公表

特徴

- 実証の質向上を目的に、実証先の事前確保や実証期間の延長等、実証制度の運用改善を実施した。
- 実証成果を外部に展開するための情報整理・発信（調査、ヒアリング等実施とレポートの作成）にも注力した。

主な結果概要

- フェムテックサポートサービス等の利用により、**意識変容への一定の効果が見られた。**
- 意識変容ほどの大きな効果は見られなかったものの、実証を機会に行動変容につながっていた。
- フェムテックサポートサービス等の利用前に相談者がいないとしていた者の約半数が、実証後に相談者を持っていた。
- プレゼンティーズムについて全体では顕著な変化が見られなかったが、**若い世代等、ヘルスリテラシーや月経・PMS、症状や状態等の可視化・把握のサービスにおいてプレゼンティーズムの上昇が他と比べて大きかった。**
 - 若い世代の上昇の理由として、サービス提供前のスコアが相対的に低く、サービス利用によって改善しやすい状況にあったと考えられる。
 - 月経・PMSの領域でスコアが上昇した理由として、回答者のうち自身が抱える女性特有の健康課題に月経・PMSをあげたものの割合が多かったことから、課題に応じたサービス提供による改善が影響したと考えられる。

V. 令和3年度～令和7年度の総括

(3) 採択事業 令和6年度概要

- 令和6年度は、採択事業者13件への伴走支援に加え、新たに研究開発動向調査を実施し、エビデンスに基づく安全で質の高いフェムテック創出に向け、研究開発・産業創出段階の現状・課題を可視化。

令和6年度事業概要

事業数	13事業
関与数	•42の企業、4の医療機関、8の学校・個人等が提供に関与 •1,849人の利用者、26の企業、17の自治体、2つの医療機関に提供
主な実施項目	•採択事業者への伴走支援 •事業評価指標（共通指標） •研究開発動向調査の実施

特徴

- 応募事業者の数・質の変化を踏まえ、研究シーズや課題を調べる「研究開発動向調査」を実施。
- 不妊・生殖補助および更年期領域を中心に、エビデンスに基づく安全で質の高いサービス創出に向けた研究開発の動向と課題を体系的に整理した。

主な結果概要

- フェムテック等サポートサービスの利用により、**日頃の女性特有の健康課題に対する意識変容**が見られた。
- サービスの利用後、**適切な情報選択や適切なケアの選択ができるようになった者**が増加した。また、サービスの利用をきっかけに、関連知識の獲得や医療機関における各種治療等を実施する者が増加した。
- サービスの利用は、女性の健康課題とキャリア等のアウトカムへの一定の効果が見られた。具体的には、女性特有の健康課題によって業務に影響が生じる場合にも**目標をもって前向きに働くことができるという自信**や、**健康課題を自己管理しながらキャリアを築いていくイメージ**を持つことにつながっていた。
- サービスの利用により、職場の同僚等への配慮や支援への効果も見られ、特にその効果は男性で高かった。
- サービスの利用により、プレゼンティーズムの上昇効果が見られた。特にその効果は、**若い世代、個別型の健康相談・キャリア相談、症状等の改善のサービス**で高かった。

V. 令和3年度～令和7年度の総括

(3) 採択事業 令和7年度概要

- 令和7年度は、9事業者を採択した他、令和3年度以降5年間にわたり実施してきたフェムテック等サポートサービスの実証・調査成果を総括した。
- あわせて、企業・自治体による導入判断を支援するガイダンスの作成や全国各地での導入促進イベントの開催を通じ、フェムテックの全国展開と社会実装を見据えた基盤整備を推進した。

令和7年度事業概要

事業数	9事業
関与数	・24の企業、24の自治体等、47の医療機関、8の学校・個人等が提供に関与 ・1,187人の利用者、28の企業、4の自治体sに提供
主な実施項目	・採択事業者への伴走支援 ・事業評価指標（共通指標） ・5年間の成果とりまとめ、導入ガイダンスの作成 ・全国5か所でのイベント開催

特徴

- 採択事業者への伴走支援、事業評価指標等については継続しつつ、5年間の実証成果を整理した。
- 導入ガイダンスの作成や全国各地でのイベント開催を通じて、横展開を意識した取組を強化した。


主な結果概要

- サービス等の利用をきっかけに、女性特有の健康課題への「具体的な取組」を開始・継続する人が増加した。
- サービス等の利用をきっかけに、**女性特有の健康課題に関して「適切な情報を選択できる」ようになった人、適切なケアを「実行できている」と感じる人が増加した。**
- フェムテックサポートサービス等の利用は、**女性の健康課題とキャリア等のアウトカムに対して一定の効果**が見られた。具体的には、女性特有の健康課題によって業務に影響が生じうる場合にも、目標をもって前向きに働くことができるという自信や、健康課題を自己管理しながらキャリアを築いていくイメージを持つことにつながっていた。
- フェムテックサポートサービス等の利用により、プレゼンティーズムの上昇効果が見られた。**年代別分析では、ほぼすべての年代で絶対的プレゼンティーズムが改善しており、特に若い世代ほど改善幅が大きかった。**

V. 令和3年度～令和7年度の総括

(4) イベント開催概要

- 令和5年度から7年度※にかけ、フェムテックに関する理解促進からはじまり、意見交換などを通じたフェムテックの導入に関する取組事例を共有した。そして、全国展開に向けて5地域でイベントを開催するなど、段階的に取組を進めることで、働く女性が、いきいきと活躍できる環境整備の一環として、フェムテックの全国的な普及拡大を目指した。

	令和5年度	令和6年度	令和7年度
目的	企業における女性従業員の健康課題への理解を促し、フェムテック等の製品・サービスの活用について考えるきっかけとする	企業においてフェムテック等の製品・サービスを導入する際の課題やニーズ、導入に至った具体的な事例を企業横断的に共有し、理解を深める	誰一人取り残さない社会の実現を目指し、全国的なフェムテックの普及に向けて、5地域でイベントを開催し、地域特性に応じた情報提供や意見交換等を通じて、リテラシーの向上等を図る
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> セミナー 女性の健康対策、フェムテックの動向、フェムテック提供・導入事例 フェムテック製品/サービスのネットワーキング 	<ul style="list-style-type: none"> セミナー フェムテック導入事例、健康経営等 意見交換会 提供事業者、導入企業同士で、取組み事例や課題、先行事例（導入事例）を共有 フェムテック製品/サービスのネットワーキング 	<ul style="list-style-type: none"> セミナー・パネルディスカッション 各開催地の特性に応じて情報を提供 意見交換会 提供事業者、導入企業同士で、取組み事例や課題、先行事例（導入事例）を共有 フェムテック製品/サービスのネットワーキング
			
	東京開催 セミナー	東京開催 意見交換会	大阪・関西万博開催 パネルディスカッション

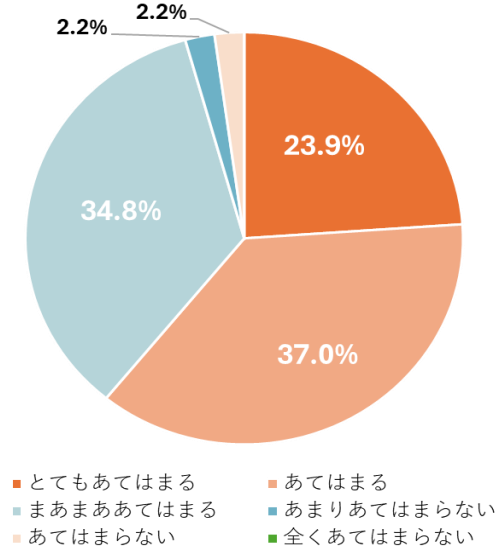
V. 令和3年度～令和7年度の総括

(4) イベント開催概要

- 各年のイベントでは満足度や理解度などを問うアンケートを実施。前向きな取組への参考とするといった声が上がった。

令和5年度

事例紹介は、御社におけるフェムテックの活用に役立つ内容だったか。(SA) (n=46)



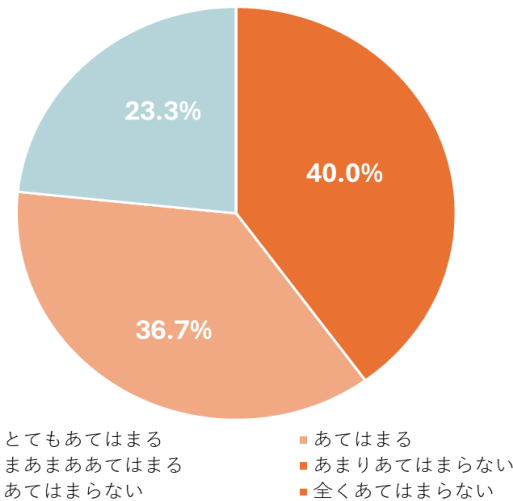
参加者の声※2

- フェムテック導入に関する理解
最新の市場動向やデータ、数値を伴う導入事例より、フェムテックの導入が女性活躍に果たす役割が具体的に理解できたとの声があった。
- 今後の展開に向けた期待と課題
新たに取組みたい製品・サービスとの出会いがあった一方で、地域による情報格差や、企業が具体的に取るべき行動の分かりにくさ、導入事例のさらなる共有を求める声があった。

令和6年度

「意見交換会※1」の内容は、貴社における健康経営、女性の健康支援サービス、フェムテックサービス等の活用に役立つ内容でしたか。

(SA) (n=30)



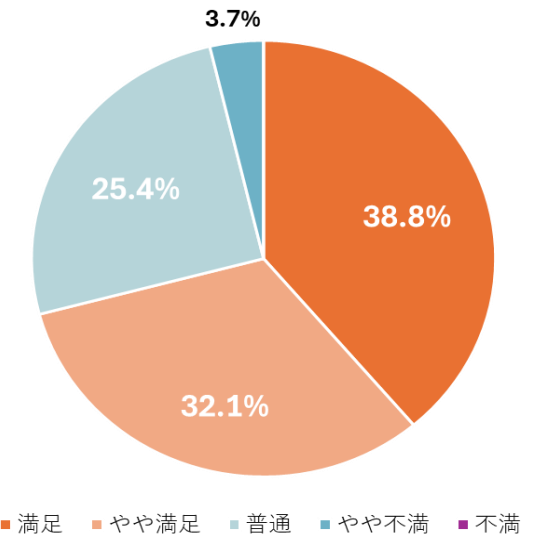
参加者の声※2

- 他社との情報共有、ネットワーキング
他社との情報共有や意見交換が有意義であったとの声が多く見られた。また、業種を横断して各社の取組状況や課題を把握でき、今後の取組みの参考になったとの声もあった。
- 事例紹介、製品体験
各社の具体的な取組みや考え方を知ることができ、参考になったとの意見が多く見られた。また、製品紹介や体験を通じ、健康経営や生産性向上との関係を具体的にイメージできたとの声もあった。

令和7年度

本イベント全体の満足度を教えてください。

(SA) (n=134)



参加者の声※2

- フェムテック・性差医療に関する理解促進
専門家の講演や多様な事例紹介を通じて、フェムテックや性差に関する医療・社会的背景への理解が深まり、新たな気づきや学びを得たとの声があった見られた。
- 企業・自治体の関心
企業や自治体による取組事例が参考になったとの声が多く、職場での導入等を前向きに検討したいとの声があった。一方で、より具体的で真似しやすい事例や、中小企業向け情報を求める声もあった。

※1 導入企業・自治体間での情報共有・意見交換

※2 参加者の声を事務局にて整理・抽象化のうえ、一部を抜粋して記載

V. 令和3年度～令和7年度の総括

(5) アンケート調査 概要

- 令和3～6年度に採択された全70事業者（複数年度採択事業者を含む）を対象に、実証事業の成果およびその後の取組状況を把握する追跡アンケート調査を実施した。

目的

令和3～7年度に採択された実証事業について、事業終了後の状況や成果の定着・発展状況を把握するため、過年度採択事業者を対象とした追跡調査を実施単年度では把握しきれない実証成果の活用状況事業継続・社会実装の進展課題や今後の展望を把握し、事業全体の成果を総括することを目的とするあわせて、今後のフェムテック分野における施策検討・事業設計への示唆を得ることを目的とする

対象

令和3年度～令和6年度に経済産業省フェムテック等サポートサービス実証事業に採択された代表団体。
70事業者のうち8事業者が複数年度に採択されており、対象事業者数は62事業者。

調査方法

期間：2025年10月～2026年3月
方法：ウェブアンケート

回答数

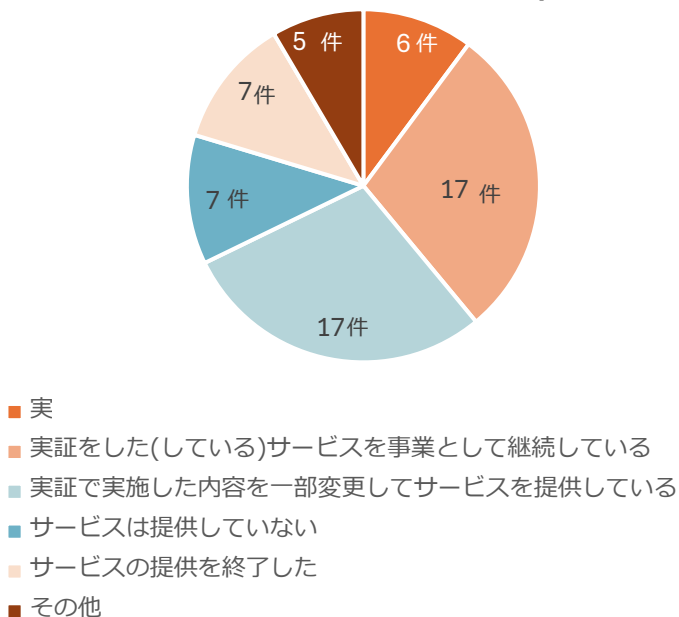
59件（未回答3事業者のうち2事業者は事業終了）

V. 令和3年度～令和7年度の総括

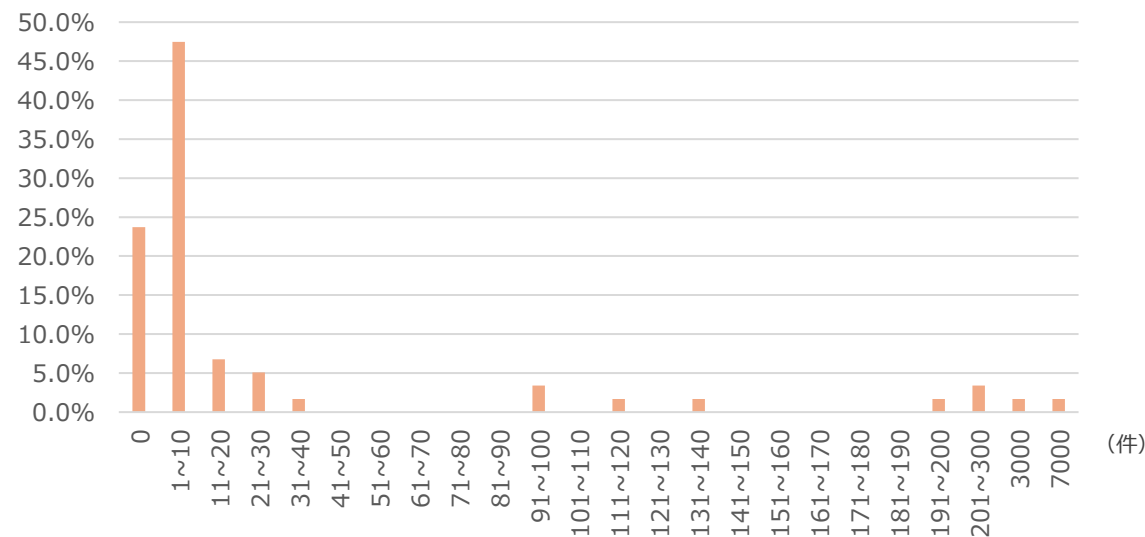
(5) アンケート調査 結果概要：実証事業の成果

- 追跡調査の結果、令和3～令和7年度までの累計79事業採択事業者うち61事業*が事業を継続・展開していることが明らかとなった。小規模段階が多いものの、導入実績も確認されており、本補助事業がフェムテック等サポートサービスの市場創出に寄与したと考えられる。

サービス実施状況 (n=68)



事業の導入数 (n=59)



結果ポイント

- 実証後もサービスを継続・展開している事業者は全体の約7割強（77.2%）を占め、多くの事業が事業化に向けて前進している
- 導入実績は1～10件の小規模段階が約半数（47.5%）を占める一方、3,000件・7,000件といった大規模導入に成功した事業も一部存在する。導入数100以上の団体（9団体）は「妊娠・不妊」が最も多く（33.3%）、次いで「月経・PMS」（22.2%）であった。導入数100未満の団体（50団体）は「月経・PMS」が最多（28.0%）で、「更年期」（20.0%）、「妊娠・不妊」（18.0%）が続いた。

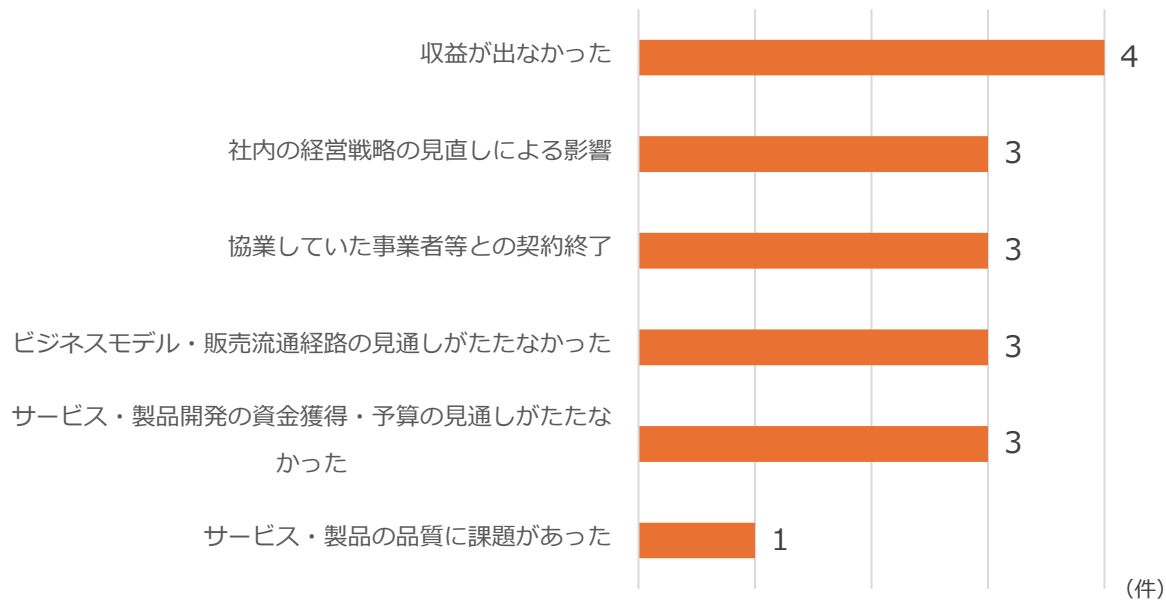
*継続扱い（61事業）の定義：令和3～6年度の事業者のうち「事業終了」を除く52事業に、R7年度採択9事業を加算。「提供していない」は詳細回答の確認により一時的な停止等を含む場合は継続扱いとして整理（事務局集計）。

V. 令和3年度～令和7年度の総括

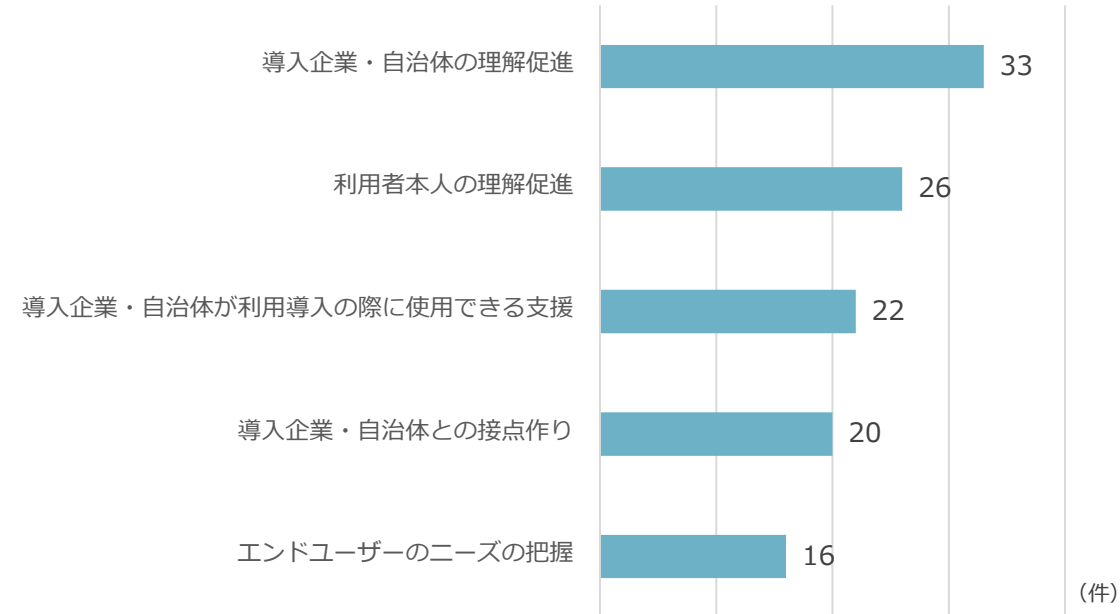
(5) アンケート調査 結果概要：展開・導入に向けた課題

- 追跡調査では、多くの事業が継続・展開に至る一方、7事業者が収益性や資金獲得などを課題にサービスの提供を終了している。
- サービス提供事業者からの意見として、フェムテック普及拡大に向けては、導入先や実際に利用する人々の理解促進が重要との意見を得た。

サービス終了理由 (n=7、複数回答)



フェムテック普及に向けて必要な支援 TOP5 (n=59)



結果ポイント

- 令和3～6年度採択事業者を対象としたアンケート回答事業者59件のうち7事業者が事業を終了しており、その主な理由として収益性等の課題が挙げられた。また、フェムテック普及に向けて必要な取組としては、「導入先」と「利用者」の理解促進が上位を占めた。
- このことから、製品・サービス開発後も導入・理解が進まず、事業継続に至らないケースがあることが示唆される。

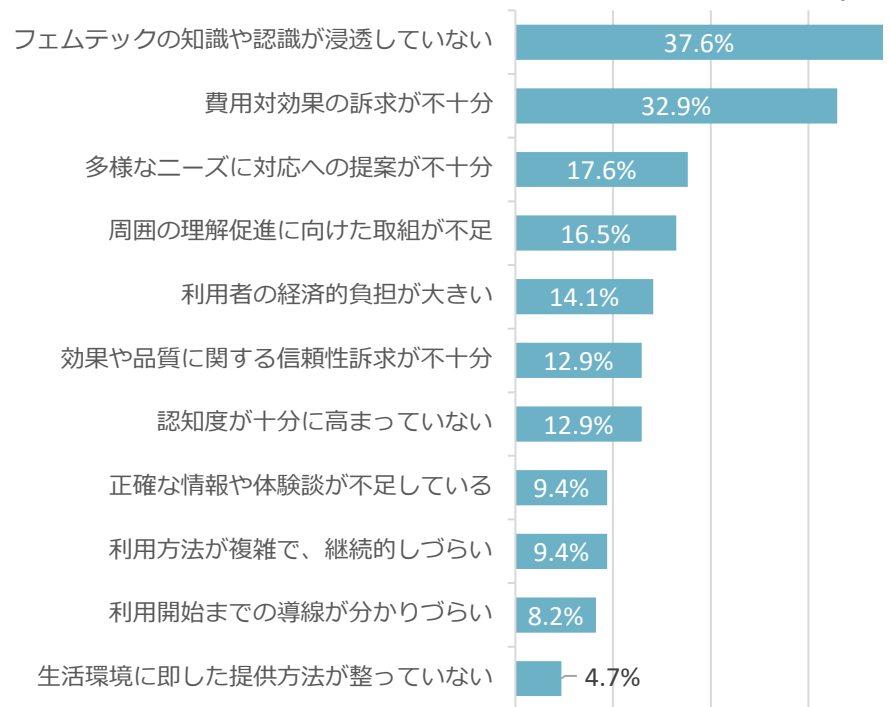
V. 令和3年度～令和7年度の総括

(5) アンケート調査 結果概要：展開・導入に向けた課題

- 追跡調査及び令和7年度に実施したイベント等で実施したアンケートから、フェムテックの普及に関する課題について、サービス提供事業者及び利用者（導入企業、利用者）から回答を得た。
- 信頼性のある情報を市場に提供することが提供側・利用者双方から求められていることが明らかになった。

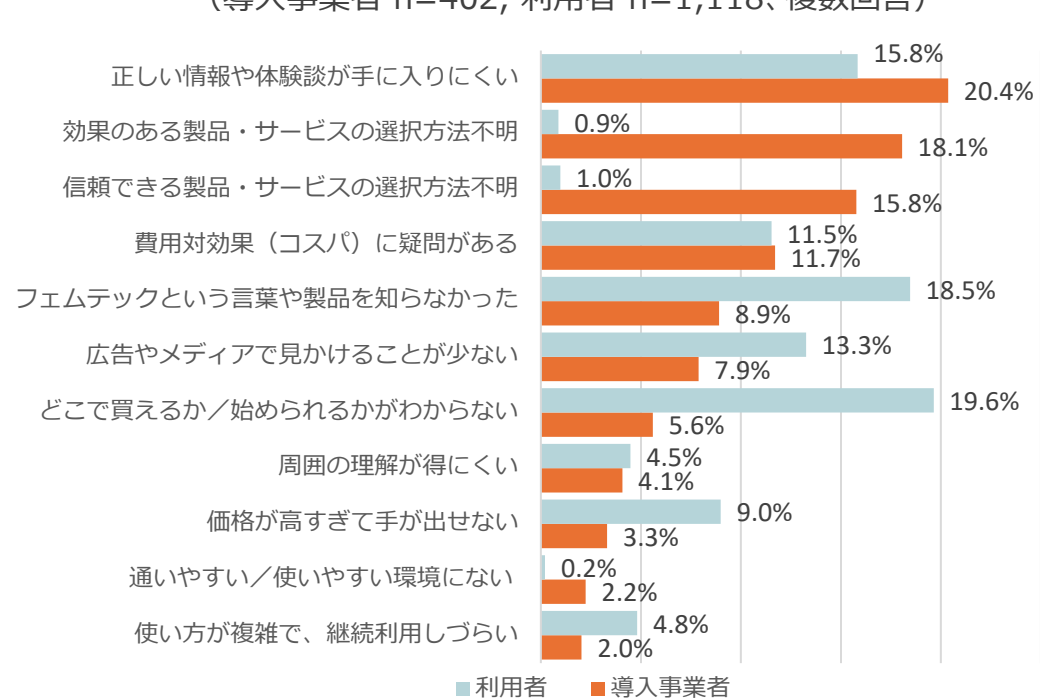
サービス提供事業者の意見

(n=59、複数回答)



導入事業者/利用者の意見

(導入事業者 n=402, 利用者 n=1,118、複数回答)



結果ポイント

- 提供事業者側は、フェムテックの普及が進まない主な要因として、利用者側における知識や認識の不足を最も多く挙げている。
- 一方で、利用者側の回答を見ると、導入企業においては正確な情報や判断材料の不足に関する指摘が多く、個人利用者においては、アクセスのしにくさや価格を含む利用のしやすさ（アベイラビリティ）に関する課題が多く挙げられている。

V. 令和3年度～令和7年度の総括

(6) ヒアリング ① 開発事業者 一覧

フェムテック開発企業の参考となるように、企業規模と事業分野が異なる6事業者について、事業開発経過と工夫、導入に向けた工夫を取りまとめた。本頁では実証概要を示し、次ページ以降各社の事例を紹介する。

代表団体	メロディ・インターナショナル株式会社	株式会社BRING	丸紅株式会社
事業名	出張妊婦健診による遠隔胎児モニタリング、在宅妊婦モニタリング	アバターを活用した専門家による働く女性のウェルビーイング支援実証事業	働く女性の健康課題改善を支援する法人向け総合フェムテックサービス実証事業
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> 小型モバイル胎児モニターを活用した、出張妊婦健診による遠隔胎児モニタリング、在宅妊婦モニタリング実証事業。 	<ul style="list-style-type: none"> アバターを介したオンラインコミュニケーション技術を活用し、助産師による個別相談やセミナーを提供。顔出し不要の環境により、女性特有の健康課題について相談しやすい仕組みの有効性を検証する実証事業。 	<ul style="list-style-type: none"> 職場アセスメント、啓発セミナー、オンライン診療等を組み合わせ、月経・妊娠・更年期などライフステージに応じた健康課題への包括的な支援モデルを構築・検証する実証事業。
規模	従業員：約20人	従業員：50人	従業員：4,304人 (グループ連結の従業員数 約51,800人)
業種	情報通信業	小売店舗支援事業	総合商社
活用した製品・サービス	<ul style="list-style-type: none"> 周産期遠隔医療プラットフォーム「Melody i」 モバイル型胎児モニター「iCTG」 	<ul style="list-style-type: none"> アバターを活用したオンライン相談サービス 助産師による個別相談 オンラインセミナー（健康・ライフイベント関連） 	<ul style="list-style-type: none"> 職場アセスメント 健康・ヘルスリテラシー向上セミナー オンライン診療・医療相談サービス
主な対象	<ul style="list-style-type: none"> 医療機関等 	<ul style="list-style-type: none"> 企業の従業員（男女双方を含む） 法人（企業・団体） 労働組合 	<ul style="list-style-type: none"> 企業の従業員（男女双方を含む） 企業の人事・健康経営担当部門
展望	実証結果を踏まえ、産科過疎地域の格差解消と女性の働き方改革支援。また切迫早産などでの長期入院を回避し、妊婦とその家族の経済的・精神的負担を緩和する。	実証結果を踏まえ、企業における健康支援施策の一環としての導入拡大や、ヘルスリテラシー向上に資するサービス展開を目指す。	実証で得られた知見を活かし、企業の健康経営・女性活躍推進施策としての普及・展開を進める。

V. 令和3年度～令和7年度の総括

(6) ヒアリング ① 開発事業者 一覧

※インタビューを実施した令和6年1月時点の情報。

代表団体	豊田通商株式会社	Lasiina株式会社	株式会社YStory
事業名	日本・ベトナムにおける「製造IoT」×「女性の健康管理」による生産性の見える化で女性のパフォーマンス改善を実現	働く女性の尿モレ（軽失禁）不安解消・ウェルビーイング向上を図るサービスの開発と実証	更年期デジタルヘルスケアアプリ
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> 製造現場で働く女性従業員の健康課題や雇用主側が抱える生産性向上や労働環境改善に向けた課題の解決を目指す 従業員向けに、セルフケアや職場でのコミュニケーションに関するセミナー開催、フェムケア製品の配布等を実施。また独自の生産性と女性の体調スコア分析により、女性の体調による生産性変化を可視化 	<ul style="list-style-type: none"> 軽失禁の不安解消・QOL向上を目的に、尿モレ検知デバイスと連動したセンサー搭載吸水ケア専用品を用いたモニターテストを実施。尿モレを検知するとスマホ経由でパッドの交換のタイミングを利用者に通知する 参加者から得られたデータとアンケート結果を分析し、女性のキャリアに与えた影響や他の要因との関連性を検証 	<ul style="list-style-type: none"> デジタルヘルスケアアプリ活用し、更年期症状がある方を対象に、利用者ごとに個別化したヘルスケアアドバイスの提供などのサポートサービスを提供 アプリ内で症状の記録や医学的エビデンスに基づく症状管理アドバイスやセルフケア提案、医師とのデータ共有を通じた効果的な診療支援を行う
規模	従業員：3,251人 (グループ連結の従業員数 約69,100人)	(富士通株式会社の社内出向として企業したスタートアップ)	(2023年創業のスタートアップ)
業種	総合商社	フェムテックIoT開発・コンサル等	ヘルスケア
活用した製品・サービス	<ul style="list-style-type: none"> プラットフォームアプリ 月経/更年期のスコア化システム×製造IoTのシステム連携によるパフォーマンスレポート 	センサー搭載の吸収パッド	ヘルスケアアプリ
主な対象	製造現場で働く女性	軽失禁に悩む働く女性	35歳以上の働く女性
展望	<ul style="list-style-type: none"> 女性の健康データ×ものづくりデータでビックデータ基盤を構築 製造業の企業・女性従業員に対してAIによるパーソナライズした施策を提供し、女性が我慢をしない環境整備に貢献 	<ul style="list-style-type: none"> 尿モレの問題を社会に広く啓発 幅広い年代の女性が抱える軽失禁の悩みに応え、生活の質・QOLの向上に貢献 	<ul style="list-style-type: none"> 効果的なセルフケアにより、医療機関の医療負担の軽減や、女性従業員の健康促進を通じた労働生産性の向上に貢献

V. 令和3年度～令和7年度の総括 (6) ヒアリング ① 開発事業者

メロディ・インターナショナル株式会社 ※インタビューを実施した令和7年12月時点の情報。

地域差を越えて妊産婦を見守る— 周産期遠隔医療プラットフォームの社会実装事例 —

創業	2015年7月
事業紹介	遠隔医療サービスにかかるプラットフォームと医療機器の製造、開発および販売
住所	香川県高松市林町2217-44ネクスト香川304
企業サイト	メロディ・インターナショナル株式会社 https://melody.international/

製品・サービス

小型モバイル胎児モニター（iCTG）× 遠隔医療プラットフォームにより、「どこでも安心して出産できる環境」を実現

何ができるか

- ↳ 在宅・遠隔で胎児心拍やお腹の張りをモニタリング
- ↳ 医療機関とリアルタイムで情報共有

どんな課題を解決するか

- ↳ 産科過疎地域における医療アクセス格差の解消
- ↳ 妊婦の通院負担・長期入院リスクの軽減

利用者価値（妊婦・家族）

- ↳ 切迫早産等による長期入院の回避
- ↳ 経済的・精神的負担の軽減
- ↳ 胎児の状態（心拍等）を把握できることによる安心感

社会的意義

- ↳ 地域によらない出産環境の実現
- ↳ 女性の就労継続・働き方改革への貢献



分娩監視装置iCTG

普及に向けた取組

導入時の工夫

- 学会等を通じた医師への情報提供により関心を喚起
- 助産師・看護師など現場職員への丁寧な説明を重ね、実運用を意識
→ 意思決定層と現場の双方の理解を重視

実証成果の活用

- 本補助事業で得られた実証成果・具体事例を自治体・医療機関との合意形成の根拠として活用
- 地域医療連携や災害時対応など、公共性の高い文脈で有効性を提示

今後

実証事例の蓄積を生かした地域別提案や海外展開を含む多様なモデル検証を進めていく方針

実証後の展開・成果

本補助事業での実証を経て、メロディ・インターナショナル株式会社のサービスは、周産期医療における具体的な課題解決手段として、自治体・医療機関を中心に導入が拡大している。特に、地域ごとの医療体制や課題に応じて柔軟に活用されている点が特徴である。

①石川県：災害時・非常時での活用

- 県立中央病院を中核に、複数の病院・クリニック間で妊産婦データを共有する周産期医療連携の仕組みとして導入。
- ハイリスク妊娠への対応や搬送判断に活用され、地域全体で妊産婦を見守る体制づくりに寄与。
- 平時の利活用を通じ、病院間での情報共有や連携運用が定着。
- 2024年の能登半島地震の際には、既存導入機器を活用し、産科病棟が使用できない状況下でも分娩対応を継続。
- 医療機関同士が機器を融通し合うなど、利活用で培われた連携が非常時にも機能した。

②伊豆地域：分娩集約下の地域連携

- 分娩を扱う医療機関が減少する地域において、地域全体で妊婦を見守る体制づくりの一環として導入検討が進行。
- 分娩機能は集約しつつ、妊婦健診は地域内で継続するための補完手段として活用が期待されている。
- 医療機関間で妊婦データを共有することで、分娩施設との連携を強化。
- 妊婦の状態を継続的に把握することで、安心感の確保と適切な医療判断を支援。
- 自治体が主体となり、医療・保健関係者と協議しながら導入検討が進められている。

③千葉県：周産期医療の在宅化モデル

- 県内の複数の総合周産期センターを中心に、妊婦の在宅モニタリングを行う体制を構築するために導入。妊婦が自宅で計測したデータを、かかりつけ医療機関と搬送先医療機関で共有。
- コロナ禍において感染妊婦が別室でiCTGを用い計測することで、妊婦と医療従事者の接触を抑え、感染リスクを抑えながら妊婦の状態を継続的に把握。
- 妊婦の状態に応じた計画的な搬送判断が可能となり、医療現場の負担軽減にも寄与。
- ハイリスク妊娠においても、入院や頻回通院を減らし、妊娠期の生活や仕事との両立を支えた。

④海外：医療格差を補う周産期支援

- JICA等の公的事業を通じ、医療資源が限られる地域での妊産婦支援手段として導入。
- 医師や医療施設が不足する地域において、遠隔モニタリングにより医療体制を補完。
- 通信インフラを活用し、地域間の医療格差を是正する手段として活用されている。
- 一部の国・地域では、富裕層向け病院において自宅での妊婦管理サービスとして提供。
- 日本とは異なる医療制度・文化の中で、多様なビジネスモデルの可能性が検証されている。

V. 令和3年度～令和7年度の総括 (6) ヒアリング ①開発事業者

株式会社BRING

※インタビューを実施した令和7年12月時点の情報。

直接相談しづらい健康課題に対応する、アバター型オンライン相談の実証導入

創業	1975年3月
事業紹介	小売店舗支援事業、店舗のコンディション支援サービスの提供
住所	大阪府中央区瓦町2丁目6番6号 ミラータワービル
企業サイト	株式会社BRING https://bring-corp.jp/

製品・サービス

アバターを活用したオンラインコミュニケーション技術を応用し、フェムテック領域におけるオンラインサロン（セミナー）および個別相談サービスを提供

何ができるか

●オンラインサロン（セミナー）：

月経、妊娠・出産、更年期などをテーマに、助産師等が情報提供を行う。昼休み開催やアーカイブ配信により、業務の合間でも参加しやすい設計としている。

●個別相談：

アバターを介した顔出し不要の1対1相談により、言いづらい悩みでも安心して相談できる環境を提供する。

利用者価値

●導入企業・団体側：

設備やアプリ導入が不要で、男女問わず提供できるため、スモールスタート可能な施策として導入しやすい。

●利用者側：

顔出し不要のアバター相談とセミナーを通じ、健康やライフイベントの悩みを安心して学び、必要に応じて気軽に相談可能。



立ち上げ

- 株式会社BRINGは、もともと小売業向けの販促・プロモーション支援を主軸とし、一環としてアバターを活用したオンラインコミュニケーション（遠隔接客）の取組を進めてきた。
- コロナ禍や人手不足を背景に、接客以外の領域で、ハードルを低くコミュニケーションできるアバター技術の活用可能性を模索。健康やライフイベントに関する悩みは「対面・顔出しでは相談しづらい」領域であることに着目し、新規事業として取組を始めた。
- フェムテックやヘルスケアは専門性の高い領域であることから、自社技術の活用だけでなく、専門性・信頼性が担保されたサービス構築を重視。アバターによる相談の“場”はBRINGが担い、助産師ネットワークを有する一般社団法人女性の健康推進協会と連携することで専門性を補完。自社技術と専門家の役割分担による信頼性のあるサービスを構築することができた。

普及に向けた取組

サービス展開や導入企業からの反応を踏まえ、普及に向けて特にポイントとなった点として、**段階的な導入を可能とする設計**や、**組織全体で理解を得るための工夫**、**導入後の活用・定着を見据えた支援**が挙げられた。

企業が導入の意思決定しやすい設計

- **課題可視化を起点とした導入**：職場アセスメントにより健康課題や意識を数値で把握。導入の必要性を社内で説明しやすくした。
- **公平性を意識した全体設計**：女性特有の課題に限定せず男女双方を対象とし、「一部の人間向け施策」になることを避けた。
- **継続判断を支える仕組み**：QOLや業務パフォーマンス等の変化を把握する仕組みを組み込み、人事部・健保組合が継続可否を判断できる材料を提供した。

導入後、利用者が活用しやすい設計

- **行動につながる一体型支援**：セミナー等による理解促進に加え、オンライン相談を通じ受診・治療への導線を設けた。
- **ライフステージ横断型の構成**：特定の健康課題に限定せず、入社からリタイアまでを見据えた支援とした。

実証事業採択によるエビデンス構築の意義と効果

- **エビデンスの獲得**：アバター有無による比較実証や利用者アンケートを通じ、顔出し不要のアバター相談が相談のしやすさに寄与すること、またオンラインサロン（セミナー）を入口に個別相談へつなげる支援モデルが有効であることを確認できた。
- **活用の広がり**：これらの実証結果は、導入検討時の説明資料や、サービス設計を検討する際の根拠として活用されている。企業からも、エビデンス、信頼性のあるサービスであることが評価され、導入につながっている。

課題と今後の展望

- **導入企業側の課題**：企業担当者がフェムテックの必要性を認識しても、フェムテック自体の認知度が低いことなどが影響し組織全体としての理解や合意形成には依然としてハードルがある。また費用対効果や利用実態が見えにくいことが、企業・団体にとって導入判断の障壁となる場合がある。
- **今後の展望**：フェムテックに限らず、健康全般や未病・早期対応の入口として、日常的に「ふらっと立ち寄れる相談」としてサービスの普及・定着を目指している。

V. 令和3年度～令和7年度の総括 (6) ヒアリング ① 開発事業者

丸紅株式会社

※インタビューを実施した令和7年12月時点の情報。

職場アセスメントと医療支援を組み合わせた働く女性の健康課題への包括的アプローチサービスの提供

創業	1858年5月（創業）※現在の丸紅株式会社としては1949年12月設立
事業紹介	国内外で多角的な事業投資・トレーディングを行う総合商社。
住所	東京都千代田区大手町一丁目4番2号
企業サイト	丸紅株式会社 https://www.marubeni.com/jp/

製品・サービス

入社からリタイアまでの幅広いライフステージを対象に、働く女性の健康課題と職場環境の改善を支援する法人向け総合フェムテックサービス。

何ができるか

● 実態把握から施策実行までの一体提供

男女双方を対象とした職場アセスメントにより課題を可視化し、結果を踏まえセミナーやオンライン診療・処方導入を検討。

● 医療アクセスを含む実行支援

ルナルナオンライン診療を活用し、婦人科受診や薬剤処方につながる機会を提供。

● 導入効果の可視化・検証

専門家監修の手法により、社員の不調や業務パフォーマンス等の改善を把握し、人事部・健保組合向けに導入効果の検証を支援。

利用者価値

従業員（利用者）：ライフステージに応じた健康課題の知識提供から婦人科受診・治療につながる支援までを一体的に受けられ、無理なく健康管理に取り組みやすくなる。

企業・人事／健保：健康課題の実態把握から施策実行、効果検証までを一連の仕組みとして導入でき、健康経営や女性活躍施策を根拠をもって処方・改善。



普及に向けた取組

サービス構築時の工夫や、導入先の反響等から、普及に向けて特にポイントとなった点として、大企業以外でも利用できるサービス規模や、提供形態のカスタマイズの柔軟性などが挙げられた。

企業が導入の意思決定をしやすい設計

- **提供内容の柔軟性**：啓発セミナーとオンライン診療・処方をも必ずセットにせず、必要な機能から導入できる形とした。
- **スモールスタート設計**：当初の大企業向けサービスから、中小企業にも利用いただける設計とした。
- **導入・運用負担の軽減**：人事担当者のサポートとして、従業員向け配信メールテンプレや利用者募集ポスターなども提供。

導入後、利用者が活用しやすい設計

- **行動につながる一体型支援**：セミナー等による理解促進に加え、オンライン診療を通じて受診・改善への導線を設けた。
- **ライフステージ横断型の構成**：特定のライフステージに限定せず、入社からリタイアまでを見据えた支援設計とした。

サービス導入・展開の広がり

- **導入実績の広がり**
 - ・実証したサービスの導入実績は約120社に上る（※実証後に一部製品・サービス内容を変更したものを含む）。
 - ・導入先は、JAL、ブリヂストン、前田建設、ポーラ・オルビス、ニチレイなど女性社員の多い企業から男性が多い企業まで多様である。
- **事業展開上の成果**
 - ・実証を通じて、サービスのビジネスモデルが具体化・確立され、サービスの質向上につながった。

実証事業採択による効果と展望

- **補助事業を通じた意義・効果**
 - ・経産省補助事業への採択実績により、社外からの信頼を得やすくなった。
 - ・実証を通じ、製品・サービスの質や提供体制を見直す機会となった。
 - ・外部向けにサービスを広く知っていただく機会となった。
- **今後に向けた方向性**
 - ・導入企業・自治体の理解促進に加え、公的な信頼性・安全性向上につながる制度等の充実が求められる。
 - ・利用者・導入側の双方にとって長く利用し続けられる形での提供方法や支援の整備が期待される。

豊田通商株式会社

※インタビューを実施した令和6年1月時点の情報。

創業	1948年7月		
事業紹介	<ul style="list-style-type: none"> • 化学品・エレクトロニクス、機械・エネルギー・プラントプロジェクト、自動車事業などを展開するトヨタグループの総合商社 • テクノロジーを通じて女性のパフォーマンス向上や自発的な社会進出等を目指す株式会社Flora（以下、Flora）に出資して事業展開 • 製造現場に寄り添った女性パフォーマンスの改善のため、日本・ベトナムの製造現場における女性特有の健康課題による生産パフォーマンスの見える化と、製造現場で働く女性の働きやすさ・働き甲斐の改善を目指す 		
企業サイト	豊田通商株式会社（以下、豊田通商）	https://www.toyota-tsusho.com/	
	株式会社Flora（以下、Flora）	https://www.flora-tech.jp/	※参加団体

立ち上げ：経済的メリットを打ち出すことで周囲の理解を得て事業推進

豊田通商社内で、2050年に向けた新規ビジネスが検討された。インキュベーショングループリーダーの佐藤氏と豊田通商のグループ会社である Toyotsu Safety & Automotive Components Vietnam Co., LTD.（以下、TSAV）に出向していた安達氏はフェムテック市場の拡大に着目した。世界の労働人口の約8割である約27億人は製造業で働いており製造現場に寄り添った女性パフォーマンスの改善を喫緊の課題として捉えたこと、安達氏が縫製業に関わっていたことから、縫製業における女性のパフォーマンスを改善するためのフェムテックサービスに立ち上げに取り組むこととした。

全くの新規事業のため、立ち上げ当初は社内の意思決定層から理解が得づらかった。しかし「フェムテックは女性目線で女性のためのもの」という捉え方ではなく、業界課題に着目して事業の意義を再設定したことで理解を得られるようになった。具体的には、**女性の働く環境整備による経済損失の減少や生産性向上といった経済的メリットを強く押し出すことで各ステークホルダーにあった意義付けを行った**という。



トヨタケ工業での現場打ち合わせの様子

スタートアップ企業との連携：相手の立場に立って二人三脚で進める

同社は本事業で、製造現場で働く女性の健康課題の改善に資するフェムテック等製品の提供を検討する中で、女性の健康と働きやすさを推進するサービス開発・展開を目指していたFloraとのコネクションを得た。関わり合いを通じ、自社とは異なるノウハウやリソースを持っていることを確認し、資本業務提携に至った。現在は事業の成長を目指しFloraと二人三脚で事業を展開している。フェムテックサービスのプロバイダーではない豊田通商が、フェムテックサービスを提供するスタートアップ企業であるFloraとパートナーシップを結び事業を推進するにあたり、**KPIを決めてPDCAを回すスタイルではなく、アジャイルに事業を推進するFloraのスタイルを尊重して、密にすり合わせながら進めている。**



フェムケアグッズの一例

海外実証：ベトナム工場で展開する工夫と課題

本実証は、TSAVのベトナム工場で行われた。ベトナム工場は**従業員の7割以上が女性**であり、宗教的タブーもないため、月経や性についてもフランクに話ができる環境という導入に向けた利点があったという。

しかし、フェムテックアプリの導入は初めてで、従業員は誰も月経カップや吸水ショーツの存在を知らない状況からのスタートとなった。そこで、**フェムテックとは何かを伝えることから始め、吸水ショーツ等の実物を見せて説明をした**。また、女性のカラダの基礎知識（月経・更年期）やセルフケア、職場内コミュニケーションに関するセミナーを開催し、ヘルスリテラシーを高められるよう構成を工夫した。

健康データというセンシティブな情報を取得するため、データを日本に持ち込んで解析等を行っても問題ないかを、ベトナムの顧問弁護士に確認しながら、丁寧に対応を進めた。現地の個人情報保護法改正状況を踏まえ、個人情報のデータの取り扱いに留意しながら、今後もベトナムで事業を推進する予定だ。



TSAVベトナム工場での商品説明会の様子



TSAVベトナム工場でのセミナーの様子

実証事業と今後：成果を可視化し、法人導入やグローバル展開を目指す

今回の実証では、「製造現場で取得されるデータ」と「独自の自動ツールを用いて取得される女性従業員の健康や生活習慣に係るデータ」を統合し、女性特有の健康課題による業務への支障を客観視できるようデータ化した。分析の結果、KPIとしていた各項目では、**サービス利用前後の絶対的プレゼンティーズムは平均約18%改善、サービスを使用した職員のヘルスリテラシーは平均約96%改善、実証開始前後で労働生産性損失額は約11%減額したことが確認された**。製造業は従業員の生産量が数%変化するだけでも会社全体に大きな影響を及ぼすため、成果を可視化することで法人へのフェムテックサービス導入に繋がる可能性が示唆された。

今後は、ICTとの連携を行い、製造業の企業が導入・運用しやすく結果にもコミットするデータドリブンなフェムテックサービス開発を追求していく。さらに、日本だけでなく**ベトナムやインドなどアジア進出を目指し**、ビジネスを広げる方針だ。

Lasiina株式会社

※インタビューを実施した令和6年1月時点の情報。

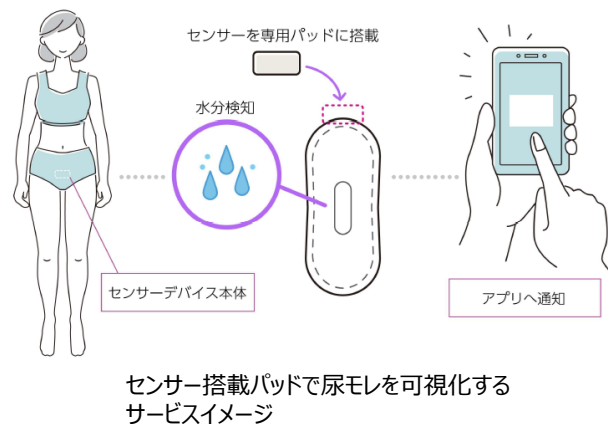
創業	2022年12月
事業紹介	<ul style="list-style-type: none"> 日本製紙クレシア株式会社（以下、クレシア）と共にAI・IoT技術を活用した軽失禁向けサービスを提供 センサー搭載パッドに検知デバイスを装着し、尿モレ量と時間を自動記録してアプリへ通知 世界中の女性を軽失禁の煩わしさから解放し、「私らしい」生活を送る社会の実現を目指す
企業サイト	Lasiina株式会社 https://lasiina.com/ 日本製紙クレシア株式会社 https://www.crecia.co.jp/ ※参加団体

立ち上げ：多くの女性に行動変容を起こすため、日用品にイノベーションを

Lasiina株式会社（以下、Lasiina）は代表取締役の野正氏が富士通株式会社に在籍しながら、出向起業という形態で立ち上げたスタートアップである。尿モレパッドを製造する日本製紙クレシア株式会社に対して、ヘルスケア分野でDX協業提案を行ったことが起業のきっかけとなったという。尿モレパッドや生理用品などの日用製品において、製品そのものの性能向上や、肌触りの良さやマーケティングにおける工夫といった改善は、業界では既に十二分に試行錯誤を重ねられている。そこで、**日用品とIoT・AIを融合させて、多くの女性の行動変容につながるような革新的な製品の開発を目指すアプローチを選んだ**。具体的な事業内容としては、調査を通じて大きなニーズが見込まれる「女性向け軽失禁」の領域にフォーカスを当てることとした。

ニーズの特定：軽失禁に焦点を当て、未知の市場を切り開く

ターゲットを検討する際は、大人用おむつ・尿モレケア専用品等の中で、失禁レベルや年齢、性別等で検討軸を設定した。女性向け製品の販売ボリュームが大きいこと、40歳以上の女性の4割以上が軽失禁を経験していることから、女性の軽失禁に焦点を絞って開発することとした。先行特許の調査結果から、おむつセンサー（おむつの中に敷設して被介護者の排せつを検知するタイプのセンサー）は500件以上出願されており、既に多くのベンダーが参画していることが分かった。「女性向けの軽失禁」の領域については、女性のライフスタイルやニーズにフォーカスした、サービス開発とマーケティングを行えば、収益をもたらす新たなビジネスモデルを確立できるのではないかと考え、取り組むことにしたという。



事業展開：女性が多いフェムテック事業で、男性起業家として活躍

フェムテック事業は女性経営者が自身の困りごとを起点としてサービスを立ち上げるケースが多い中、Lasiinaは男性である野正氏が代表取締役を務める。女性を代表に据えることも一時期検討したが、**男性である自分が女性の健康課題に挑戦することこそが、ジェンダーギャップ解消に必要だと考えるようになり、現在も代表取締役として事業を推進している。**

野正氏は、今後、フェムテックの取り組みを社会で広げるためには、男性もビジネスとして参画してゆく必要があると話す。男性が女性の困りごとに関心を持ち、理解をすすめることや、どうしたら不安や負担を軽減できるのか、共に考え、行動することが重要という。また、男性がフェムテック事業を円滑に進める工夫として、「生理」「尿モレ」といった女性特有の健康課題について、自身は判らないということを前提に、女性との丁寧なコミュニケーションを心掛けることがポイントの一つと振り返る

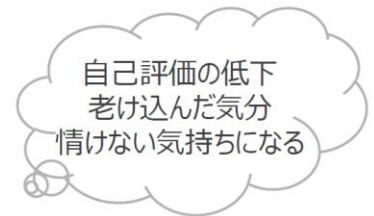
軽失禁を抱える女性の悩み...

いつもトイレが気になる、
トイレに自由に行けない
状況が不安

「すぐにトイレに行けない職場環境だから、
精神的脅迫もあるかも」

においやシミが気になり、
コミュニケーションに影響
が出てしまう

「工作中に漏らして早退した。
みんなにバレてたかも。情けない」



実証事業と今後：センシング精度向上と販売体制の確立を目指す

今回の実証では、検知デバイスと連動したセンサー搭載吸水ケア専用品を用い、スマホ経由でパッドの交換のタイミングを利用者にお知らせする「軽失禁向けフェムテックサービス」のモニターテストを、働く女性に対して実施した。モニターテストの結果、**58%の尿モレを可視化できた**。尿モレを検知できなかった原因としては尿モレの少なさが一因に考えられるが、わずかな量でも検知する必要があるのかについては今後の検討課題である。また、41%が尿モレの可視化により不安が軽減し、25%がアクティブに活動できるなどの行動変容に繋がったことが確認された。

今後は、尿モレセンシング検知精度を向上させ、小型化した販売用デバイスの設計・開発・製造・各種認証への対応や、尿モレセンサーサービスの販売体制の確立、**尿モレセンシングデータを起点としたオープンイノベーションビジネスの推進を目指す。**



試作機の検知デバイスを展示している様子

株式会社YStory

※インタビューを実施した令和6年1月時点の情報。

創業	2023年1月
事業紹介	<ul style="list-style-type: none">AI・メディカルサイエンスを活用した35歳以上の女性へのパーソナライズヘルスクアを提供更年期症状がある方向けのデジタルヘルスクアアプリ『JoyHer (旧HerLife)』では、症状の記録および、医学的エビデンスに基づく症状管理アドバイスやセルフケア提案、医師とのデータ共有を通じた効果的な診療支援等を提供より多くの女性たちの身体的・心理的症状の改善と、一層ポジティブで健康的な生活の実現を目指す
企業サイト	https://www.YStoryfemtech.com/

立ち上げ：原体験から市場に不足する更年期支援の必要性を実感

株式会社YStory（以下、YStory）は共同創業者のSherry氏が更年期の症状に直面した際、更年期は女性が誰でも経験するプロセスであるにも関わらず、医薬品を含めて、市場に適切な解決策がないことを実感したことが立ち上げのきっかけとなった。**更年期の治療法を模索する中で、デジタルヘルスの可能性に着目**。共同創業者のJanet氏と共に、コンサルティングやマーケティングの専門知識と経験を活かし、更年期に関するサービスが不足している現状に対する解決策としてYStoryを立ち上げた。

YStoryのサービス構築では、AI解析を駆使して**更年期に関する国際学会のデータを解析し、更年期の動向や効果的な介入を理解**することから始まった。現在ではデータに基づくAI技術を活用し、ユーザーに最適なプログラムを提供する事業をスタートさせている。



共同創業者のSherry Shi氏
(左)とJanet Yu氏(右)

専門機関との連携：質を担保したサービス開発に向け専門家と関係構築

フェムテック事業では、エビデンスに基づくサービス開発に向けた専門家との連携が重要となる。YStoryは、医療の専門家との連携策を模索する中で、専門知識と豊富な臨床経験のある京都大学助教の江川美保氏の研究活動に注目。更年期のホルモン低下だけではなく、包括的なヘルスクアを作りたいという思いや、効果的な介入方法のエビデンス構築をすべく、臨床研究やビッグデータ解析を行うといった多様なアプローチをについて熱心に伝え、賛同が得られたという。

連携により、YStoryは更年期に関するエビデンスに基づいた更年期特化プログラムを開発することができた。また江川氏自身も同社との連携は、研究成果を実用的な形で活かす機会となり、双方への好循環を実現し、更年期に関する研究とケアに新たな展開をもたらしたという。



京都大学の江川氏と連携して実施した
更年期支援に向けた実証の様子

資金調達：科学的根拠に基づく説明で投資家の理解獲得

YStoryはシードラウンドで2社から資金を調達するなど、資金調達面でもフェムテック業界で注目を集めている。調達に向け同社では、フェムテックやヘルスケアなど関連分野の投資ポートフォリオを既に持っているかどうかといった情報を踏まえ、候補となる投資家をリスト化し、各投資家への個別メールの送信など徹底的なアプローチを行った。関心を得た投資家との面談を重ね、出資条件や支援内容について具体的に交渉を進めたという。

投資家への説明では、更年期の知識と理解が不足から「体の問題ではなくメンタルに不調がある状態」という誤った認識をされることも多かったという。しかし更年期のメカニズムや顧客インタビューによる更年期世代のペインポイントや更年期医療の問題点を説明をすると男性の投資家から理解が得られるようになった。

同社は単なる資金提供だけでなく、投資家との継続的な関係構築にも力を入れている。投資家から提供されるリソースやサポートを最大限に活用し、事業の成長につなげた。資金調達を得たANRI株式会社からはオフィスの提供や弁護士、弁理士の紹介といった支援も得ている。株式会社DeepCoreからはハイスpek人材紹介などの支援も得ている。



同社が提供する更年期アプリ「JoyHer」のサービスイメージ

実証事業と今後：技術を生かして、グローバル展開も視野にいたした挑戦を



今回の実証では、更年期症状に悩む就労世代の女性に向け、最大6か月の実証試験プログラムを提供し、アプリを通じた個別のケアにより、健康と生活の質を向上させられるか、検証を行った。実証では、72名（92名中）に更年期症状の改善がみられ、26名が治療介入不要レベルまでの改善が確認された。また、プレゼンティーズムの向上（介入前後で+6.8%改善）という成果が得られた。今回の実証結果・蓄積したデータを基に、①一貫したプラットフォームを活用して、セルフモニタリングより症状の早期発見し、重症化前に医療機関へつなぐ、②治療中の患者に対して、医療現場に負担を軽減できるようなデジタルソリューションソリューションを提供し、医療現場の診療効率を高めることの2点を目指す。また、中長期的にはアジアを皮切りに、世界市場に出てグローバル市場も視野にしている。更年期症状には人種間で違いが認められることを踏まえ、まずはアジアの女性に寄り添ったソリューションの開発を目指す。

今後は京都大学との臨床研究で得られた成果を活かして、治療・診断の革新的なソリューションの開発に意欲を見せる。テックカンパニーとして、AIやデータサイエンスを活かした研究をさらに加速させる方針。

2. 5年間の成果総括 (3) ヒアリング ②導入事業者

採択事業者のフェムテック『導入』好事例集 掲載企業一覧

- 経済産業省フェムテック等サポートサービス実証事業で採択された団体の製品・サービスを導入した企業、医療機関の事例から、導入に向けたステップや効果を紹介する。

企業名	(1) 三菱食品株式会社	(2) InMuSE合同会社	(3) 国民健康保険小松市民病院
本社所在地	東京都	千葉県流山市	石川県小松市
従業員規模	3,298名 (2025年4月1日現在) (女性比率 (2024年度) 従業員 : 30.1% 管理職 : 3.8%)	4名 (2026年3月現在) (女性比率 : 100%)	— (病床規模 : 340床)
対応した健康課題	ヘルスリテラシー	産後ケア (骨盤底筋トレーニング)	妊娠
業種	食品製造業	ヘルスケア事業	病院
導入サービス	<p>提供事業者 : 株式会社BRING</p> <p>サービス名 : flat.</p> <p>サービス概要 : アバターを活用して助産師にオンライン健康相談ができるサービス。 実際の顔が映らず、心理的安全性が保たれ、本音で話しやすいのが特徴。また専用アプリや会員登録は不要で、お手持ちのスマホ・PCから予約時間に専用URLにアクセスするだけで利用できる。相談内容に合わせ、助産師が身体に関する豆知識やアドバイスを行う。病院に行く時間が取れない、行くことに抵抗がある、行くほどの症状ではないが気になる等あらゆる方に情報提供可能なため、利用者の健康への関心やリテラシー向上にも寄与できる。</p>	<p>提供事業者 : アルプスアルパイン株式会社</p> <p>サービス名 : ペリノス</p> <p>サービス概要 : 骨盤底筋トレーニングの継続を理学療法士による指導と、セルフトレーニングをサポートする「ペリノス™」を用いるサービス。 ペリノスは、筋電センサで骨盤周辺の筋肉の動きを感知し、リアルタイムに力の入れ方や回数をアドバイスできるデバイスである。トレーニング時に骨盤周辺に装着し、筋肉の動きをリアルタイムにフィードバックできる。女性に多いとされる骨盤底筋群が弱ることで引き起こされる体の不調や悩みを解消するために、運動の継続性向上と効果の最大化を目指す。</p>	<p>提供事業者 : メロディ・インターナショナル株式会社</p> <p>サービス名 : iCGT</p> <p>サービス概要 : メロディ・インターナショナル株式会社 小型モバイル胎児モニターを活用した、出張妊婦健診による遠隔胎児モニタリング、在宅妊婦モニタリングを通じた、産科過疎地域の格差解消と女性の働き方改革支援を行うサービス。 また切迫早産などでの長期入院を回避し、妊婦とその家族の経済的精神的負担を緩和する。 妊婦自身もお腹の張りの状態を自覚しやすくなり、心拍が聞こえて「赤ちゃんが元気」ということがわかることで安心に繋げる。</p>

2. 5年間の成果総括 (3) ヒアリング ② 導入事業者

採択事業者のフェムテック『導入』好事例集 掲載企業一覧

企業名	(4) 株式会社ディー・エヌ・エー	(5) 明治安田生命保険相互会社	(6) パナソニック株式会社 くらしアプライアンス社
本社所在地	東京都	東京都	東京都
従業員規模	1,326人 (女性従業員比率25.5%)	47,216人 (女性従業員比率約9割)	5,100名 (うち、実証事業を実施したビューティ・パーソナルケア事業部：1,100名)
対応した健康課題	月経・PMS、更年期	ヘルスリテラシー他	ヘルスリテラシー他
業種	情報・通信業	保険業	家電製造業
導入サービス	<p>提供事業者：政策研究大学院大学</p> <p>サービス名：WaiSE Work</p> <p>サービス概要：</p> <p>女性のライフステージに応じた様々な心身の症状を把握し、必要に応じた受診やセルフケアをお勧めする性差医療アプリWaiSE。令和5年度は女性のコンディションが見える化、ヘルスリテラシーを向上する性差医療アプリ「WaiSE」を進化させた「WaiSE Work」を実証。更年期や月経随伴等の症状と他の疾患の症状の見分けが困難という課題を踏まえ、健康経営、セルフケア等に活用できWaiSE Workサービスを検証した。アプリではさらに、可能性がある病気等を示し、医療機関や健診の受診を支援する。</p>	<p>提供事業者：TOPPANエッジ株式会社</p> <p>サービス名：わたしの温度</p> <p>サービス概要：</p> <p>つけて寝るだけで誰でも、手軽に、簡単に高温期と低温期といった女性特有の温度リズムを自動計測できるヘルスケアデバイス&アプリ。あわせて行動変容研修、オンライン医療相談サービス（任意）も提供。</p> <p>実証では、企業における月経随伴症状に伴う労働損失への影響を可視化を目指し、ヘルスケアIoTサービス「わたしの温度」を用いた実証や、各種セミナー等の複合プログラムを実施。労働パフォーマンスの分析・効果測定と女性従業員の労働パフォーマンス改善により、「導入費用」<「労働損失削減効果額」となるエビデンス獲得に向け検証を行った。</p>	<p>提供事業者：株式会社carefull (旧株式会社nanoni)</p> <p>サービス名：crefull</p> <p>サービス概要：</p> <p>フェムテック福利厚生プラットフォーム「carefull」で以下の機能・サービスを提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ・セミナー ・匿名コミュニティ ・従業員特典 ・コンサルティングミーティング <p>企業が女性特有の健康課題に取り組みやすくするため、人的資本経営に及ぼす影響を分析することで、企業によるフェムテック活用の促進を目指す実証を実施。具体的にはフェムテック福利厚生プラットフォーム「carefull」を提供し、有用性を検証した。</p>

2. 5年間の成果総括 (3) ヒアリング ②導入事業者

(1) 三菱食品株式会社

従業員がいきいきと活躍できる機会提供の一環としてフェムテックを提供。仮説検証型で利用や納得感醸成にも取り組む。

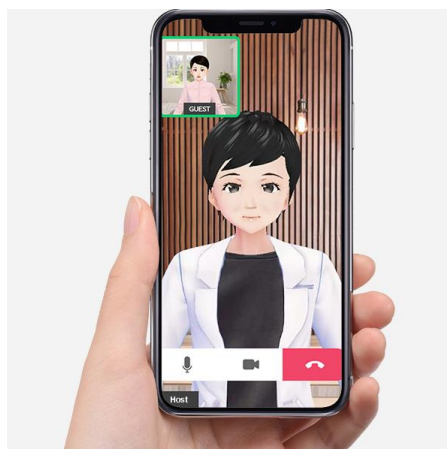
導入前：アンケート調査で社員の関心傾向を把握し、実証に向けた仮説を設計

三菱食品では、従来より従業員の健康増進サポートを推進。健康経営優良法人の取得を見据え、より体系的・継続的な取組へと移行する必要性を感じており、フェムテックサービスの導入の検討に至った。

同社は、従来男性社員の比率が高い組織であり、近年女性比率は上昇しているものの、上司や管理職が男性であるケースも多く、**女性特有の健康課題について理解が十分に広がっていない可能性**があるとの仮説を持っていた。実際に、2021年に女性の健康に関する社内セミナーを試行したが、参加率は低調であった。毎年実施している健康に関するアンケートにおいても、女性の健康に関する設問への関心は高くなかったといった結果が見られた。これらを通じて、**女性自身も正しいヘルスリテラシーを十分に持っていないのではないか**という課題認識に至った。これを踏まえ、男性、女性の双方がヘルスリテラシーを高めることが組織にとっても良い効果が期待できると仮説を持ち、実際の導入に向けた検討を進めた。

Step1:課題の認識

実態調査で課題を把握→対応する課題の仮説を持つ



株式会社BRINGが提供する「flat.」

導入検討：健康施策は即効性はないが効果があることを社内で共有

こうした背景のもと、2022年には、女性の健康に関するリテラシー向上を目的とした新たな取組を検討した。その際に着目したのが、株式会社BRINGの**アバターを活用した相談サービス**である。同社とは以前より営業部門が取引をしており、その際、アバターを介した匿名性の高いコミュニケーションが心理的ハードルを下げることに有効であるとの手ごたえを得ていた。性や身体に関するテーマは、依然としてタブー視されやすく、対面での相談や実名での参加に心理的ハードルがあることを踏まえ、アバターを介した形式であれば、利用しやすいのではないかと期待し、導入を検討した。

社内調整の面では、経営層からの理解は比較的得やすい環境にあった。ただし女性特有の健康課題というテーマについては改めて施策の効果や意義を丁寧に説明。特に、**健康増進に関する施策は短期的に成果が出るものではない**という点を共有し、中長期的な視点での理解を得ることを意識した。

Step4:組織内調整

社内で上層部も含めた課題とゴールの認識共有を行う

2. 5年間の成果総括 (3) ヒアリング ② 導入事業者

(1) 三菱食品株式会社

導入中：セミナーに参加しやすい時間帯を検討・試行。今後のPDCAに活用

導入にあたっては、株式会社BRINGが提供するサービスが複数テーマ（例：月経、産前産後、リテラシー、更年期等）をセットのセミナーを提供している点も評価された。従来、三菱食品株式会社が導入したセミナーでは、人事担当者がテーマ設定を一から考えており、包括的な設定となっていないのではないかと懸念や、検討負担の大きさがあり、BRINGのパッケージ形式が課題の解消につながった。一方で、運営面では試行錯誤もあった。就業時間中の実施については、性に関するセミナーを「勤務時間中に視聴することへの心理的抵抗」が生じる可能性を懸念し、夜間開催とした。結果として、家庭や育児との両立の観点から参加者数は少数にとどまったが、参加者からは「有意義だった」との声が寄せられた。またPDCAの一環として、今後のセミナー開催の際の時間帯検討に生かせる経験となった。

また、これらの取組を通じて、人事部門としても**各テーマにどうアプローチすべきかの気づき**を得ることができた。加えて、キャリア相談窓口の設置など、「何をすべきか」が具体化された点も大きな成果であった。

Step5: 試験導入・評価

試験的な導入を通じて、導入形態や規模を検証。PDCAを回し、今後の施策に生かす

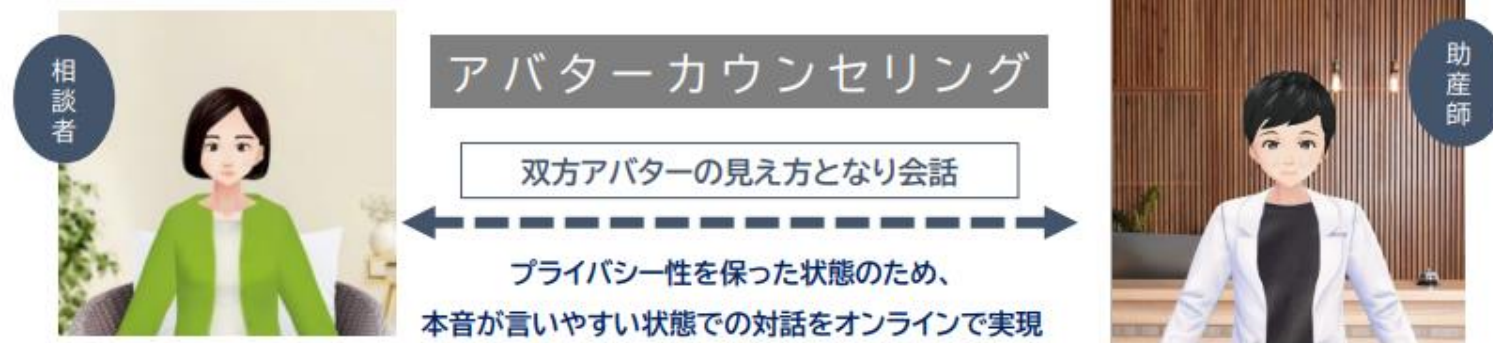
今後：導入経験を踏まえ、リテラシー向上等の新プロジェクトを推進予定

三菱食品株式会社では今後、**まずは男性社員のリテラシー向上を進めつつ、女性については個別の課題に対応していく**という方針を掲げている。具体的には、次年度に向けて月経関連の課題に対応するため、ピルのオンライン診療・処方試験導入約100名規模で実証を行い、課題や効果を検証することを検討している。こうした試験導入については、小規模・手頃な規模で始められること効果検証がセットになっていることが導入の決め手になりやすいと感じている。

また、フェムテック導入においては、**対象外と感じる従業員をどう巻き込むか**という点を非常に重視している。過去には、女性のみが対象となる施策への違和感「なぜ自分は対象外なのか」という声もあったため、男性向けの指標やテーマを併せて設計するなど、全社員に

とって納得感のある形を意識してきた。同社が大切にしているのは、「個人の問題解決を押し付ける」のではなく、従業員にとって自然に受け入れられ、ありがたいと感じられる機会提供である。

価値観を一方的に変えさせるのではなく、環境を整え、さりげなく生活や働き方に溶け込む形で支援する。その**積み重ねが、働きやすく、働きがいのある職場づくりにつながる**と考えている。



2. 5年間の成果総括 (3) ヒアリング ②導入事業者

(2) InMuSE.合同会社

理学療法士が使用するセンシングデバイス型フェムテック製品を活用。データで効果を可視化し利用者の理解促進に効果！

導入前：理学療法士による女性のケア施設で、エビデンスを重視したサービス提供

千葉県流山市で女性と子どもを対象に、理学療法士が中心となって産前産後の身体ケアを提供する施設「女性とこどもの保健室」を運営するInMuSE.合同会社は、産後の骨盤ケア等のサービスを提供してきた。代表者自身は、病院の産婦人科で産前産後リハビリに携わった経験を持つほか、研究機関との共同で出産による身体変化と心理面の関係について、身体機能評価や心理指標を組み合わせた研究を実施し、学会発表に取り組んできた実績などから、同社では医学的根拠やエビデンスを重視した上でサービス提供を行ってきた。「ペリノス」導入以前から、産前産後ケアにおいても、経験則だけに頼らず、データで効果を確認できる手法を取り入れる必要性を感じていた。



InMuSE.合同会社が運営する「女性とこどもの保健室」

導入検討：実証事業にコンソーシアムメンバーとして参画

InMuSE.合同会社の代表が以前より研究協力等を通じた関係があった大学教員が、アルプスアルパイン株式会社の骨盤底筋トレーニングデバイス「ペリノス」をSNSで紹介しているのを目にし、信頼している研究者の紹介であったことから関心を持ったという。当時、アルプスアルパイン株式会社は「ペリノス」の試験導入に向けクラウドファンディングを実施しており、比較的ハードルを低く導入ができる機会であったため、賛同した。クラウドファンディングでつながりを得た2社は、令和4年度の経済産業省「フェムテック等サポートサービス実証事業費」にコンソーシアムを組んで参加することとなった。InMuSE.合同会社としては、**実証を通じて製品・サービスを利用できる点に意義を感じた**という。また、軽量で持ち運びが可能な点が、出張ケアを行う同社の事業形態と合致していた。

実証では、「ペリノス」を用いたセンシングと、センシングデータを可視化するアプリを活用し、特に産後女性の体調コンディショニングや更年期世代の尿漏れ予防のための骨盤底筋トレーニングを3カ月間サポートし、効果を検証。InMuSE.合同会社は実証先として、産後女性に対してサービスを提供することとなった。



アルプスアルパイン株式会社が提供したウェアラブル筋電センサー「ペリノス」とサポートアプリ

Step3:製品・サービス選定

研究機関等の信頼性の高い組織の評価や、製品・サービスのエビデンスを踏まえて、導入を検討する

(2) InMuSE.合同会社

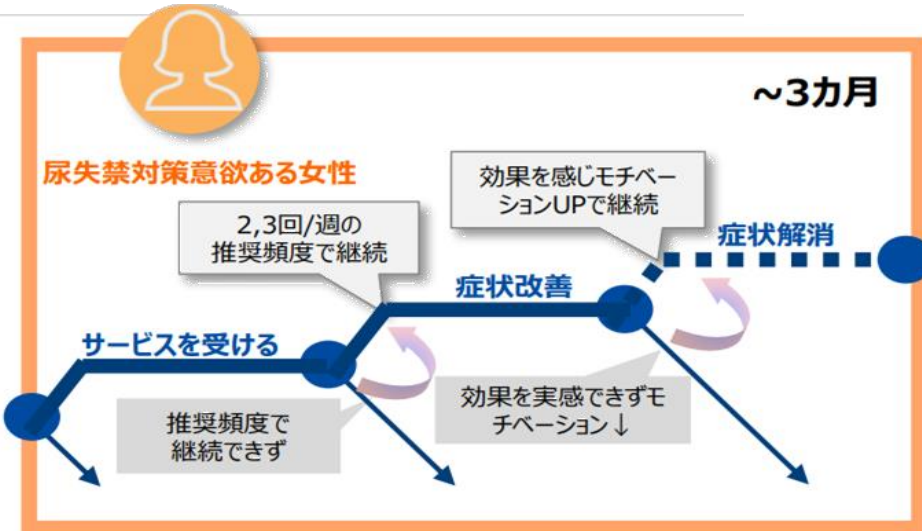
導入中：理学療法士が「ペリノス」を用いてトレーニング指導実施

実証事業では、「ペリノス」を産前産後ケアの現場で活用し、理学療法士による指導とセルフトレーニングを組み合わせた支援を行った。実証の結果、特に「ペリノス」の利用はトレーニング開始初期の動機付けに効果的であることが明らかとなった。骨盤底筋の動きを筋電センサで可視化し、リアルタイムでフィードバックできる点が、専門職による指導との相性が良いと感じられ、実際に「ペリノス」を活用してレッスンを提供したトレーナーからは「ペリノスにより上達度が可視化されることにより、指導の理解度が把握できた」「グループレッスンで行き届かない個人への指導について、データ結果を活用することでフォローできる」といった評価の声が上がった。一方で、一般利用者が自宅で単独使用する場合、装着や位置調整の難しさ、継続のハードルが課題として見えた。**実証を通じて、専門職である理学療法士が関与しながら使用することで、理解や継続性が高まりやすいことを確認した。**

InMuSE.合同会社として、実際の現場で使用することで、産前産後ケアにおける活用の具体像や、サービスとしての可能性を検討する良い機会となったという。



実証事業のビジネスモデル



実証事業のスキーム

今後：専門職が間に入るBtoBtoCモデルとしての可能性

今後は、実証を通じて得られた知見を踏まえ、産前産後ケアにおけるフェムテック活用のあり方を引き続き検討していく考えである。特に、理学療法士による専門的支援と、デバイスによるセルフトレーニング支援をどのように組み合わせるかが重要なポイントになると捉えている。

あわせて、研究機関との連携を継続し、学会発表などを通じて知見を蓄積することで、**専門職が安心して活用できるフェムテックとしての信頼性を高めていきたい**としている。将来的には、理学療法士の新たな活躍の場の創出や、産前産後から更年期までを見据えた継続的なケアにつながる形での活用可能性を模索していく。

2. 5年間の成果総括 (3) ヒアリング ②導入事業者

(3) 国民健康保険小松市民病院

平時の診療から非常時対応まで——現場に根ざしたICTG活用の実践と示唆

導入前：医師不足・感染症対応から、遠隔での胎児モニタリングの必要性が顕在化

小松市民病院では、妊婦健診や分娩時の胎児状態把握のため、従来からCTG（胎児心拍数陣痛図）を日常的に使用してきた。一方で、CTGの設置場所が病棟に限られていたことから、外来での妊婦健診時には妊婦の移動や医師・看護師の動線に負担が生じていた。また、産婦人科医の人数が限られる中、夜間・休日のオンコール対応やモニター判読をめぐっては、医師が現地に出向かなければ判断できない場面も多く、限られた人員で診療を支える体制において負担となっていた。看護師側にとっても、医師を呼び出すことへの心理的なためらいが生じる場面があり、判断や相談のハードルが高くなりやすい状況であった。こうした平時の課題に加え、コロナ禍においては感染妊婦への対応が新たな課題として顕在化し、医療者と妊婦の接触を最小限にしつつ、胎児状態を継続的に評価できる手段が求められていた。



メロディ・インターナショナル株式会社が提供する
iCTGと連動して利用するスマートフォン

Step3:製品・
サービス選定

医療機が関与（製品・サービスによっては監修）した、安全性と信頼性の高い製品を選定する



iCTGの使用イメージ

導入中：日常診療から非常時対応まで、現場主導で活用が拡大

iCTGは、当初は通常のCTGと同様に妊婦健診や分娩時のモニタリングに使用され、外来に設置することで妊婦の移動負担軽減や診療の効率化に寄与していた。さらに、モニター結果をタブレット等で即時に確認できることから、**医師が現地に赴かずとも状況を把握し、看護師と判断を共有できる環境が整えられた**。これにより、オンコール体制下においても、医師・看護師双方の心理的負担を下げながら診療を行うことが可能となった。その後、コロナ禍においては、感染妊婦が隔離病棟に滞在したまま、自身で機器を装着・送信し、医師が別室からデータを確認する運用が行われた。医師は現地に出向くことなくリアルタイムで胎児状態を把握でき、必要に応じて電話等で指示を行う体制が構築された。

(3) 国民健康保険小松市民病院

導入中：災害時にICTを機能させるには、平時からの定着が不可欠

従来より小松市民病院で導入していたiCTGに加え、県の施策や県の周産期医療体制を検討する「赤ちゃん協議会」を通じて機器が追加配備され、遠隔地医療や災害時の活用も検討された。実際、**震災時には緊急搬送中の妊婦の胎児状態をリアルタイムで共有することで、搬送先医療機関が事前に状況を把握できた事例や、二次避難してきた妊婦に対し宿泊施設で使用されるなど、限定的ながら有効に活用された場面もあった。**一方で、平時の運用や関係機関との連携が十分に定着する前に震

震が発生したことから、へき地医療全体としての本格的な活用や効果検証には至らなかった。災害時にICTを有効活用するためには、**機器配備に加え、日常診療の中で使い慣れ、運用体制や役割分担が共有されていることの重要性**が改めて認識された。



iCTGの使用イメージ



今後に向けて：平時利用を前提とした体制整備が、非常時の効果発揮につながる

iCTGの活用を通じ、**医師が現地に出向かずとも胎児モニタリングを継続できる体制は、医療者の移動負担の軽減や、限られた人員下での診療継続に寄与する可能性**が示された。また、モニター結果を共有しながら判断できる環境は、看護師が相談しやすい状況を生み、判断を一人で抱え込まない体制づくりにもつながった。こうした仕組みは、医療者の心理的負担を下げるとともに、判断の質や迅速性を保つ点でも有効である。一方、災害時にICTを有効に活用するためには、非常時専用の仕組みとして準備するのではなく、平常時の診療の中で「日常的に使われていること」、判読や連携の運用が現場に定着していることが前提条件となる。今後は、へき地や医師不在地域において妊婦個人が利用する形での運用や、遠隔判読体制を含めた仕組みを検討することで、妊婦の安心感向上と地域医療の補完につながる可能性に期待が寄せられた。

2. 5年間の成果総括 (3) ヒアリング ②導入事業者

(4) 株式会社ディー・エヌ・エー

社員の声を起点に、女性の健康課題への取組を段階的に推進。社員の納得感を重視したフェムテック導入の実践

導入前：社内アンケートで女性の健康課題を把握

社員の健康支援施策に精力的に取り組んできた株式会社ディー・エヌ・エー（以下、ディー・エヌ・エー）では、2017年より社員の健康やライフスタイルに関する課題等を把握するためのアンケート調査を実施している。アンケートの結果から、**女性社員には月経や更年期の悩み、男性社員には女性特有の健康課題を持つパートナーや女性の部下へのサポート方法がわからないといった悩みがある**ことが明らかになっており、解決に向けた施策の検討が進められていた。

そこで、以前から協業関係にあった政策研究大学院大学より、性差医療アプリ「WaiSE」を用いて女性のセルフチェックやセルフケアを促したり、可能性のある病気等を示し受診支援を行うという本実証への参加打診を受けた際、意思決定層も含め快諾したという。

実証参加への呼びかけは、女性社員だけでなく、アンケートを通じて把握した男性社員の悩みを踏まえ、社員の家族の18歳以上の女性も含めることとした。女性の健康課題解決に取り組む福利厚生等の社内施策は、「一部の社員しか享受できない」といった懸念の声が生じることもあるが、実証設計として男性の家族も対象に含めるといった工夫に加え、ディー・エヌ・エーでは以前より頭痛や肩こりといったパフォーマンスに影響のある健康課題への支援に取り組んでいた。それぞれが抱える健康課題を楽しく解決して、いきいきと働ける環境をつくろうという社内風土により、女性の健康課題への対応を始めることについて、社内からも前向きな受け止めがあり、実証の協力に至った。



政策研究大学院大学の实証担当者による
ディー・エヌ・エーでの利用案内の様子

Step1:課題の認識

アンケート調査で、社内の課題を把握

Step4:組織内調整

対象者を女性社員に限定しない等、導入に向けた理解を広げる

※インタビューを実施した令和6年2月時点の情報。

2. 5年間の成果総括 (3) ヒアリング ② 導入事業者

(4) 株式会社ディー・エヌ・エー

導入中：情報提供範囲を明確化し、心理的安全性を担保

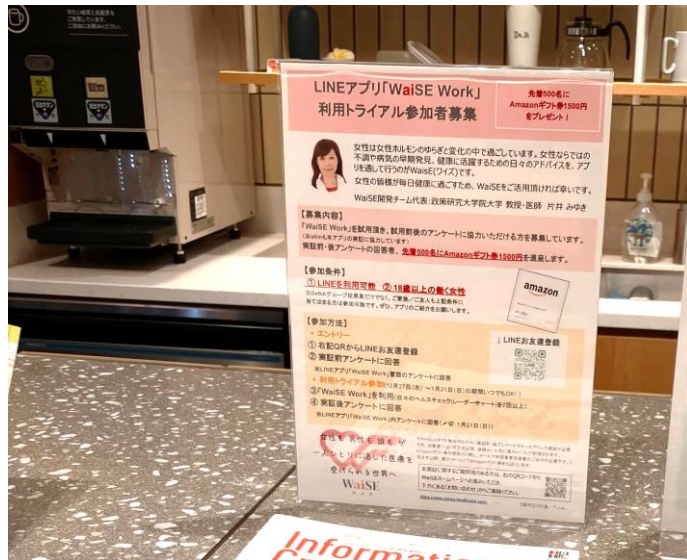
健康情報というセンシティブなデータを取り扱うことを踏まえ、参加は任意で、会社はサービスを紹介するだけであり、**ディー・エヌ・エー側に個人情報は一切伝わらない設計となっていることを利用者に申込時に説明**。利用者の心理的安全性を担保することを重視したという。

利用の呼びかけは、社内メールの他、社内のラウンジにチラシを置いたり、インフルエンザ予防接種会場に、政策研究大学院大学の担当者がブースを設置し、直接案内することでサービスへの理解増進につながり、50名程度の利用につなげることができた。

実証参加を呼び掛けたインフルエンザ予防接種会場では、女性社員から「自分が更年期ではないかと感じていたものの、どの科に受診すればよいのかがわからなかったので、まさに求めていた施策・サービスだ」といった反響があった。また男性社員からも、更年期の悩みを抱える妻に勧めたいといった声もあったという。本実証ではディー・エヌ・エー以外に所属する働く女性も含め、計435名がアプリに登録し、実証に参加した。実証の結果、ヘルスリテラシーの向上効果が認められた他、「睡眠や食事などの日々のセルフケアを、よりしっかりしようと思った」という回答が63.4%、「健診をよりしっかり受けようと思った、健診の結果をよりしっかり確認しようと思った」という回答が計54.8%となった。



性差医療アプリ「WaiSE」の案内



ディー・エヌ・エー社内での実証参加案内

Step5: 試験導入・評価

導入だけでなく、実際に利活用してもらいやすくなるような環境設定等の工夫を施す

導入中：QOL向上に向け今後も様々な施策を推進

ディー・エヌ・エーでは従業員の健康サポートを行う専門部署CHO (Chief Health Officer) 室を設置し、社員が楽しみながら健康になっていくよう取り組んでおり、本実証以外にも社員の健康課題解決を通じたQOLの向上に取り組む様々な施策を実施してきた。同社で実証の担当をしたCHO室の畑氏は「今回のWaiSEの利活用により、女性社員や男性社員の家族のQOL向上につながるきっかけとなった」と手ごたえを感じており、次年度以降の活用についても検討を進めている。

※インタビューを実施した令和6年2月時点の情報。

2. 5年間の成果総括 (3) ヒアリング ②導入事業者

(5) 明治安田生命保険相互会社

客観的データに基づく体調の見える化が促した、働き方と健康への意識変化。社員の9割を占める女性の健康支援

導入前：女性社員割合が高く、健康課題解決に積極的な風土

明治安田生命保険相互会社（以下、明治安田生命）は、生命保険企業として、女性の営業担当者を多く雇用していることなどから、**社員の約9割が女性**という特徴を持つ。社員アンケートを通じて、中年・シニア層の約半数が更年期障害に課題を感じており、その約7割が業務に支障があることや、若年層の約6割が月経関連（PMS等）に課題を感じており、その9割が業務に支障がある状況が明らかとなっている。そのため、女性の健康への対応推進を重視しており、女性がんの検診費用補助や社内のクリニックに婦人科を新設する等、様々な施策を実施している。本実証で用いたTOPPANエッジ株式会社（以下、TOPPANエッジ）のヘルスケアIoTサービス「わたしの温度」は、以前より顧客向けに生命保険のオプションサービスとして提供しており、**社員も「わたしの温度」に理解を深めつつ、社員の健康支援につなげる**目的で、実証に参加することとなった。

Step1:課題の認識

アンケートを通じ、具体的にどのような健康課題が業務に支障を及ぼしているかを調査。導入後の課題のミスマッチが無いよう事前に確認



セミナー開催の様子

導入前：参加者の勤務形態に応じて参加しやすいセミナー開催形式に

実証参加者枠は300名限定で、社内向けサイトに情報を掲載したところ予想を上回る反響があり抽選での参加となった。実証では妊娠や更年期といった、社員が企業側に知られることに抵抗がある内容に触れるため、応募意向や参加者情報は匿名で取り扱うよう工夫している。

実証に加え、ヘルスリテラシーの向上や健康増進に向け行動変容を促すためのセミナーをオンラインで開催。保険営業で外回りが多い女性社員向けに、**アーカイブ配信を提供し、参加率を高めた。**



実証に使用した「わたしの温度」

※インタビューを実施した令和6年2月時点の情報。

(5) 明治安田生命保険相互会社

導入中：体調の客観的な把握により、働き方にも好影響



明治安田生命の人事部担当者

実証を通じて参加者からは様々な好意的反響が寄せられている。また実施結果の分析からも好影響があったことが推察される。

実証参加者からは生活面の行動変化や気持ちの変化に加え、仕事面での変化についても良い効果があったと反響が寄せられている。自分の身体と向き合うきっかけとなったといった声のほかにも、これまで基礎体温を測る習慣がなかったという実証参加者からは、「**体温変化から月経周期を正確に予測できるようになり、事前にテレワーク予定日の調整がしやすくなった**」といった具体的な働き方の変化の報告もあったという。

TOPPANエッジの実証全体の成果としても、「自分自身の状態を客観的に把握できたか」という問いに対し、84%が達成した。ほかにもヘルスリテラシーの向上や改善行動の質・量の向上についても85～86%が達成しており、これまでのアンケートでは様々な健康の悩みを抱えていた明治安田生命の女性社員が、実証を通じてさらにいきいきと仕事や私生活に取り組めるようになったことがうかがわれた。

今後：実証という形態で導入ハードルが低下

明治安田生命では以前より女性社員の健康を支える取組を導入してきたが、こうした施策は全体予算との兼ね合いで、健康改善効果が高いと判断できたものを提供している。今回は**実証事業**という形式で社員向けに試験的に導入することができたことから、**今後の導入に向けても検討しやすい情報を得られた**という。

同社で実証を対応した人事担当の古瀬氏は「**女性の健康を支援する取組の結果、生産性向上といった効果は後からついてくるものであり、まずは『この会社で働いて良かった』と思ってもらえるようにすることが大切**」と話す。今後も女性が安心し、会社に愛着をもって働けるような環境づくりに向けて、フェムテック製品・サービスの活用も含め検討を進めている。

※インタビューを実施した令和6年2月時点の情報。

2. 5年間の成果総括 (3) ヒアリング ② 導入事業者

(6) パナソニック株式会社 暮らしアプライアンス社

女性の健康課題に関するオンラインセミナーで男女・上司部下、それぞれの立場からリテラシーを深め、全体としての働きやすさを促進

導入前：組織の多様性を推進する中で、実証を通じた働く女性の支援を決定

パナソニック株式会社の中で、日々の生活に密接に関わる家電を手がける暮らしアプライアンス社は、顧客の多様な生活スタイルを支援するため、ダイバーシティとインクルージョンを組織文化に根付かせる取り組みを積極的に推進することが必要と感じていた。この文脈で、フェムテックに重点を置きつつも多様な人材が活躍できる社内環境づくりを支援する株式会社nanoniのダイバーシティ推進サービス「carefull」に注目。両社の目指す価値観が一致し、nanoniからの実証実験参加依頼を受け、社員の健康意識とエンゲージメントの向上を目的にプロジェクトを開始した。

導入中：男性社員も関心を持ちやすい切り口で参加を促進

「carefull」はフェムテックを中心とした福利厚生プログラムの提供だけに留まらず、企業の具体的な課題に合わせたコンサルティングがサービスに含まれていたことがポイントになった。暮らしアプライアンス社では、従業員一人ひとりの健康と福利厚生のニーズを正確に把握することが必要であり、それに応じたプログラムの導入を実現することができた。

具体的には、健康課題の基礎知識や更年期、月経・PMSなどをテーマとしたオンラインセミナーから実施。当初は男性社員の参加をあまり得られていなかったため、課題に合わせ提供内容を検討。女性特有の健康課題について理解を深めることはマネジメントの観点でも重要であることを周知し、上司・部下間のコミュニケーションのコツ等を盛り込んだセミナーを実施していくことで、男女双方の参加増加につながられたという。

また、セミナーに業務時間中に参加することが難しいと考える社員も参加しやすくなるよう、案内はメールだけでなくスケジュールシステムを通じて案内したり、トップコミットメントにより重要性を伝えるといった工夫をし、効果的な導入に結び付けることができた。

Step5:試験導入・評価 導入中の利用率拡大に向け、トップの巻き込み、コミットメントを得る



セミナー開催の様子

(6) パナソニック株式会社 くらしアプライアンス社

導入中：社員の円滑なコミュニケーションが推進

実証を経て、男女双方の社員から好意的な反響が寄せられている。**男性社員からは「月経やPMSがとても大変なことだとは知らなかった」といった意見が、女性社員からは「今まで言うことができなかったが、男性の上司に生理でしんどいと伝えられた」という報告もあったという。**

セミナーは回を重ねるごとに興味も高まり、最後の配信イベントは半数の社員がリアルタイムで参加した。男女の社員やcarefullを先行導入した他社の社員が、女性の健康課題についてざっくばらんに話し合うセミナーや、くらしアプライアンス社の事業部長が自ら登壇し、経営視点でのトークセッションを行うセミナーなどを通じて、具体的なコミュニケーションの手法や、会社としての女性の健康課題への取組方針について理解を深めるきっかけを提供。社員にとっては帰属意識やロイヤリティ向上といった効果も期待される。

実際にnanoniの実証事業の成果としても、絶対的プレゼンティズムが改善した従業員が全体の37.7%にのぼった。

また、エンゲージメントサーベイ項目「あなたが選べるとして、あとどのくらい当社で働きたいと思いますか？」という設問について、パナソニック全体と比べサービスを導入したくらしアプライアンス社の女性社員では9ポイント高かったという結果も得られている。



パナソニックくらしアプライアンス社の担当者



セミナーの一部として開催したトークセッションの様子

今後：規模・範囲を拡大した支援策実施を検討

実証事業期間中という時限的な導入であったが、担当の東野氏は「男女の社員、経営層等会社全体だけでなく、組織のコミュニケーション活性化や働き方改革等風土づくりにも良い効果があった」と実感を持つ。今後も範囲や規模を拡大しながら、同様の事業連携を検討している。福利厚生の新規導入は通常慎重かつ長期にわたる検討が必要となるものの、本事業では実証参加というかわり方ができたため、職場コミュニケーション活性化など風土改革や社員満足度・エンゲージメントでの効果を実証し、くらし事業の更なる価値創出にもつながることを期待したいと振り返る。

※インタビューを実施した令和6年2月時点の情報。

2. 5年間の成果総括

(4) 今後に向けて 5年間の実証事業から得られた成果と今後に向けた示唆

実証事業の総括

- 5年間で約80件の実証を実施し、フェムテック活用による女性の健康課題解決の効果が確認された他、フェムテックという単語の周知や市場創出（企業による導入等）にもつながった。
- 本事業を通じ、フェムテック等サポートサービスは、女性特有の健康課題への行動変容やプレゼンティーズム改善等に一定の効果を有することが確認された。



課題と示唆

- 現時点では、**健康課題を抱える女性が積極的にフェムテックを活用し、十分課題に対応できているとは言いがたい**状況である。背景にはアクセスのしづらさや、使用しづらい周囲の環境等が影響している。
- 本実証事業は、女性特有の健康課題や妊娠・出産等のライフイベントと仕事の両立、個人のウェルビーイング実現を目的として実施してきたものである。当該目的に照らせば、「**フェムテック**」の活用に限らず、「**職場内の性差による障壁**」を広く捉え、**対応策を提示していく必要がある**と考えられる。



今後に向けて

- 5年間の実証成果を踏まえ作成した「**企業・自治体向け女性の健康課題の解決に向けた導入ガイドンス**」や好事例、評価指標を活用し、**企業・自治体による主体的な取組を支援**する。
あわせて、**健康経営・人的資本経営の文脈の中でフェムテック等サポートサービスを位置づける**ことで、女性の就業継続とウェルビーイング向上、ひいては組織全体の持続的成長につながる展開が期待される。

VI. 参考資料・付録

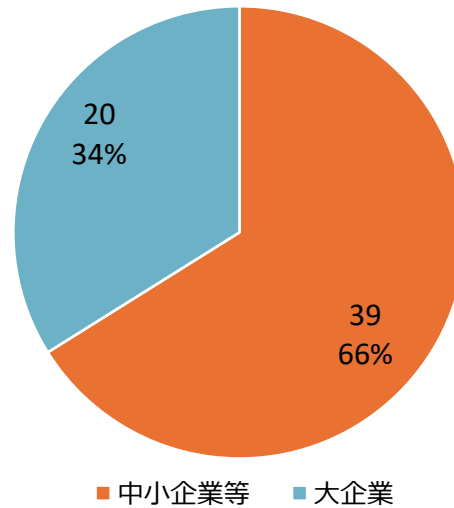
(参考資料)

(1) アンケート質問・回答

- 質問は、現在のサービス提供状況や、実証の成果、フェムテック普及に向けたご意見等、計25問。以降スライドに選択式の回答のみ記載する。

回答対象者	#	設問	回答形式	選択肢	回答数
全員	1-1	実証事業の代表団体名	FA	—	
全員	1-2	回答者情報 回答者氏名	FA	—	
全員	2	実証事業の代表団体の事業者区分	SA	中小企業等	39
				大企業	20

2 : 事業者区分(N=59)

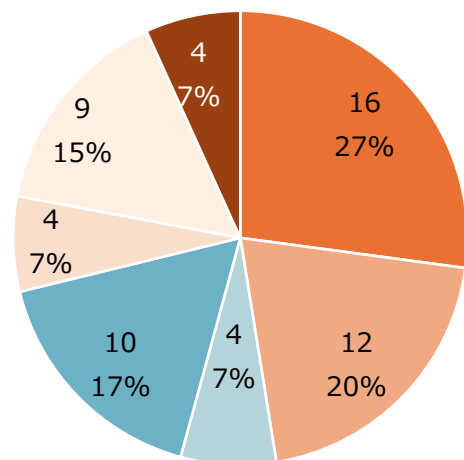


(参考資料)

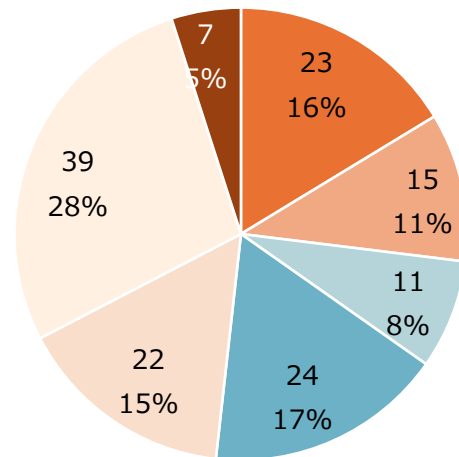
(1) アンケート質問・回答

回答対象者	#	設問	回答形式	選択肢	回答数
全員	3	実証事業で提供した製品・サービスが対象とする健康課題のうち、主な課題を1つ選んでください。	SA	月経・PMS	16
				妊娠・不妊	12
				産後ケア	4
				更年期	10
				婦人科疾患	4
				ヘルスリテラシー	9
				その他	4
全員	4	実証事業で提供した製品・サービスが対象とする健康課題のうち、副次的な課題を選んでください。複数選択可能です。	MA	月経・PMS	23
				妊娠・不妊	15
				産後ケア	11
				更年期	24
				婦人科疾患	22
				ヘルスリテラシー	39
				その他	7

3 : 主な健康課題 (N=59)



4 : 副次的な健康課題 (N=59)



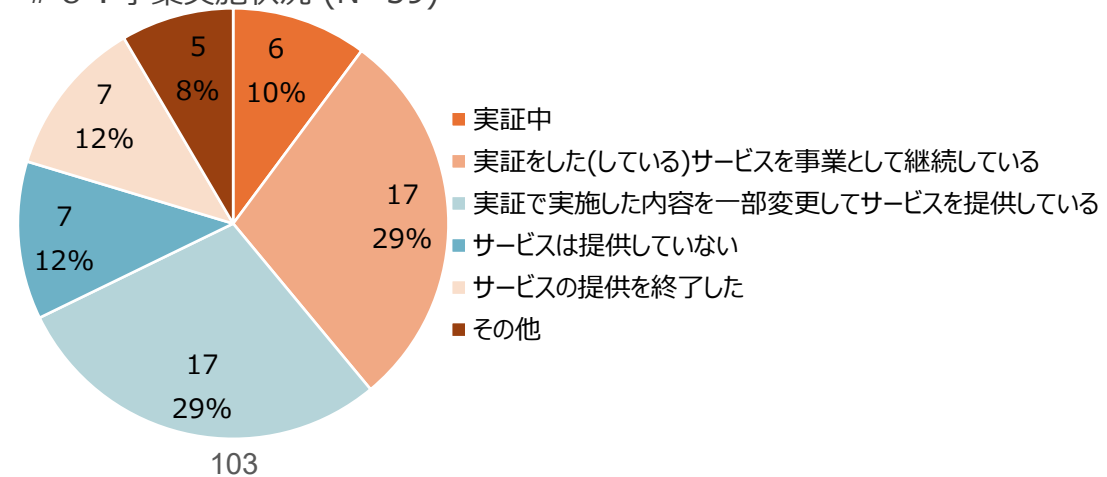
■ 月経・PMS ■ 妊娠・不妊 ■ 産後ケア ■ 更年期 ■ 婦人科疾患 ■ ヘルスリテラシー ■ その他

(参考資料)

(1) アンケート質問・回答

回答対象者	#	設問	回答形式	選択肢	回答数
全員	5	実証事業で医療機関の監修を得ている場合、監修を得た専門機関の情報をご回答ください。	FA	—	—
全員	6	補助事業ではどのようなユーザーのニーズを想定していたかを教えてください。	FA	—	—
全員	7	本事業ホームページに掲載の貴社の「現在の製品・サービスの提供状況（2025年1月時点）」について、更新はありますか	SA	変更がある	14
全員	8	ホームページ記載の「令和7年1月時点のサービス状況」の項目更新に向け、現時点でのご状況を選択してください。	SA	変更はない	45
				実証中	6
				実証をした(している)サービスを事業として継続している	17
				実証で実施した内容を一部変更してサービスを提供している	17
				サービスは提供していない	7
				サービスの提供を終了した	7
その他	5				
全員	9	前項回答を踏まえ、具体的な現在の状況をご回答ください。	FA	—	—

8 : 事業実施状況 (N=59)

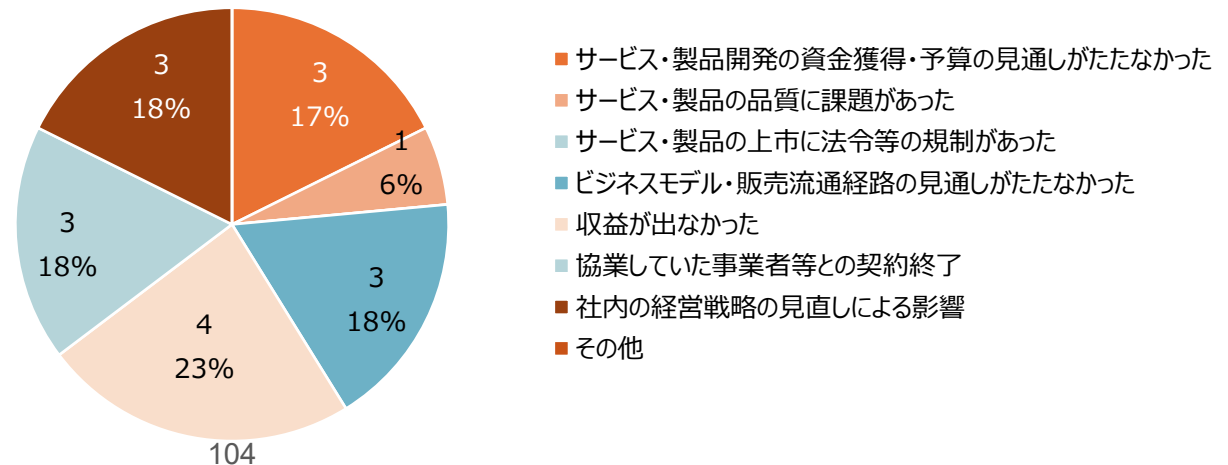


(参考資料)

(1) アンケート質問・回答

回答対象者	#	設問	回答形式	選択肢	回答数
Q8でサービスの提供を終了したを選択	10	実証した製品・サービスを終了した理由・経緯などを教えてください。	MA	サービス・製品開発の資金獲得・予算の見通しがたたなかった	3
				サービス・製品の品質に課題があった	1
				サービス・製品の上市に法令等の規制があった	0
				ビジネスモデル・販売流通経路の見通しがたたなかった	3
				収益が出なかった	4
				協業していた事業者等との契約終了	3
				社内の経営戦略の見直しによる影響	3
				その他	0
				Q7で変更があるを選択	11
実証を通じて提供しているサービス名	4				
サービス概要	9				
サービス導入先・利用者	2				
対象としている法人の性質やサービスの対象者の目安	1				
サービスのURL	6				
サービスの問い合わせ窓口となるメールアドレス	0				
Q11で「サービス提供者」を選択	12	「サービス提供者」の項目について、修正し掲載を希望する内容を記載してください。	FA	—	—

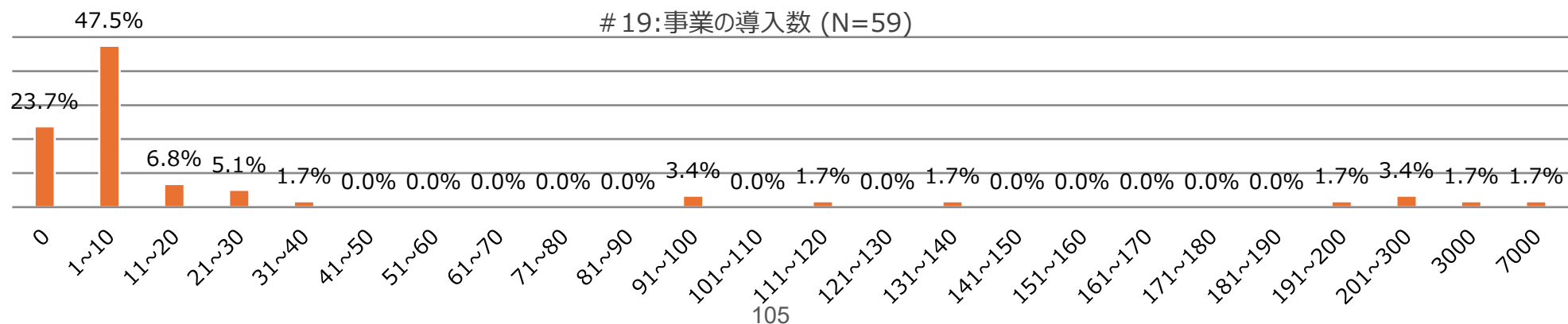
#10:事業終了理由 (N=7)



(参考資料)

(1) アンケート質問・回答

回答対象者	#	設問	回答形式	選択肢	回答数
Q11で「実証を通じて提供しているサービス名」を選択	13	「実証を通じて提供しているサービス名」の項目について、修正し掲載を希望する内容を記載してください。	FA	—	—
Q11で「サービス導入先・利用者」を選択	14	「サービス概要」の項目について、修正し掲載を希望する内容を記載してください。	FA	—	—
Q11で「サービス導入先・利用者」を選択	15	「サービス導入先・利用者」の項目について、修正し掲載を希望する内容を記載してください。	FA	—	—
Q11で「対象としている法人の性質やサービスの対象者の目安」を選択	16	「対象としている法人の性質やサービスの対象者の目安」の項目について、修正し掲載を希望する内容を記載してください。	FA	—	—
Q11で「サービスのURL」を選択	17	「サービスのURL」の項目について、修正し掲載を希望する内容を記載してください。	FA	—	—
Q11で「サービスの問い合わせ窓口となるメールアドレス」を選択	18	「サービスの問い合わせ窓口となるメールアドレス」の項目について、修正し掲載を希望する内容を記載してください。	FA	—	—
全員	19	実証した製品・サービスの導入実績数を教えてください。	SA	1~1,000	(下記グラフ参照)
Q15で1以上を選択	20	導入した事業者名で導入について外部に公表可能な事業者がいる場合、事業者名を教えてください。	FA	—	—
全員	21	導入の様子や製品・サービスに関する画像をご共有ください。	画像アップ	—	—

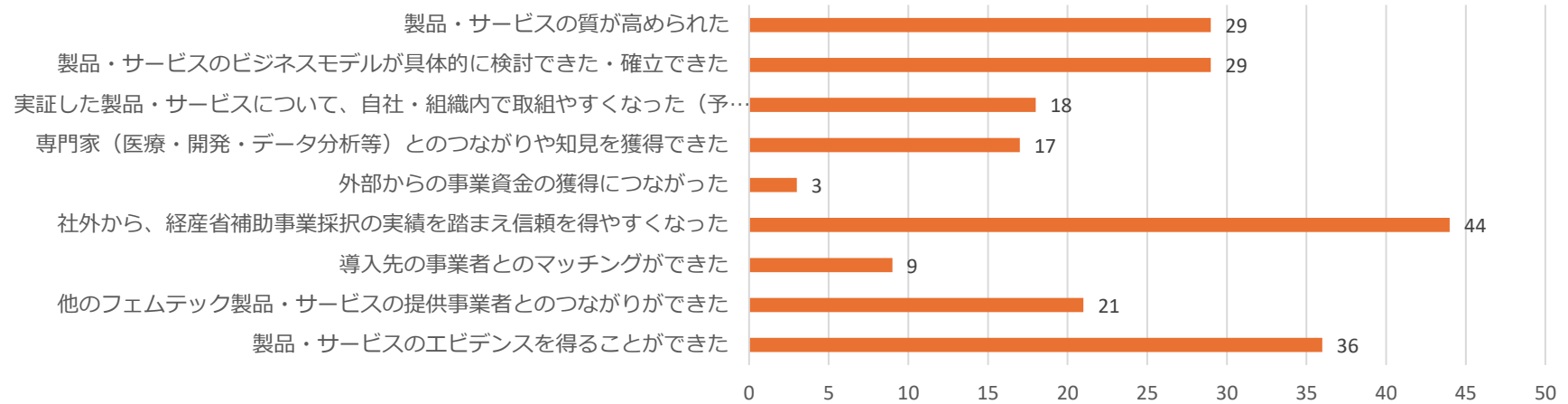


(参考資料)

(1) アンケート質問・回答

回答対象者	#	設問	回答形式	選択肢	回答数
全員	22	本補助事業の採択を受け、良かった点・成果につながった点などを教えてください。	MA	製品・サービスのエビデンスを得ることができた	36
				他のフェムテック製品・サービスの提供事業者とのつながりができた	21
				導入先の事業者とのマッチングができた	9
				社外から、経産省補助事業採択の実績を踏まえ信頼を得やすくなった	44
				外部からの事業資金の獲得につながった	3
				専門家（医療・開発・データ分析等）とのつながりや知見を獲得できた	17
				実証した製品・サービスについて、自社・組織内で取組やすくなった（予算確保、意思決定層からの推進方針等）	18
				製品・サービスのビジネスモデルが具体的に検討できた・確立できた	29
				製品・サービスの質が高められた	29
全員	23	実証した製品・サービスについてその他成果があればご回答ください	FA	—	—

#22:実証事業の成果

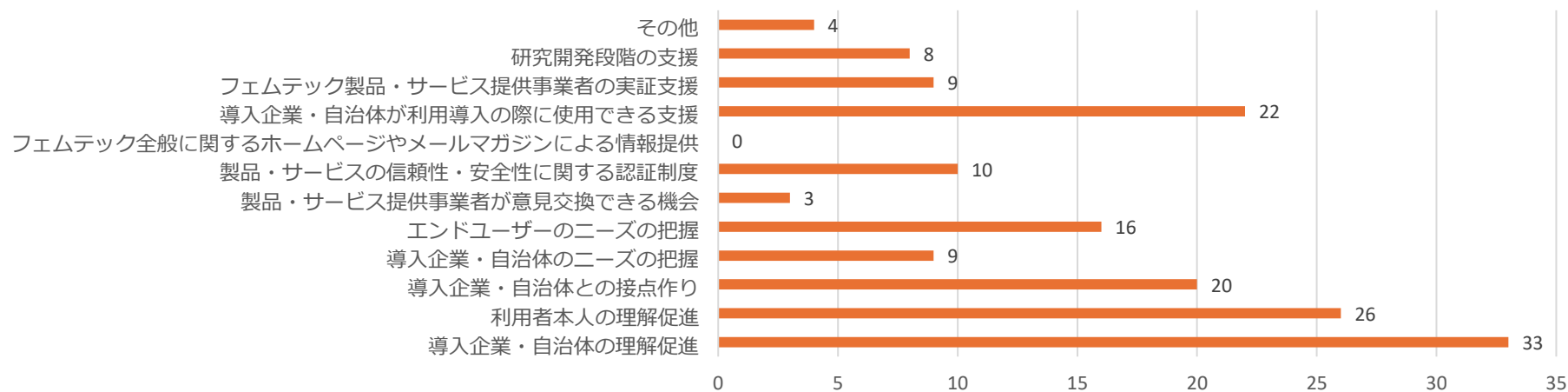


(参考資料)

(1) アンケート質問・回答

回答対象者	#	設問	回答形式	選択肢	回答数
全員	24	今後、フェムテックの普及拡大に向けて、必要だと考える内容を最大3つまでお答えください。	MA(最大3)	導入企業・自治体の理解促進	33
				利用者本人の理解促進	26
				導入企業・自治体との接点作り	20
				導入企業・自治体のニーズの把握	9
				エンドユーザーのニーズの把握	16
				製品・サービス提供事業者が意見交換できる機会	3
				製品・サービスの信頼性・安全性に関する認証制度	10
				フェムテック全般に関するホームページやメールマガジンによる情報提供	0
				導入企業・自治体が利用導入の際に使用できる支援	22
				フェムテック製品・サービス提供事業者の実証支援	9
				研究開発段階の支援	8
				その他	4

#24:フェムテック拡大に必要な内容

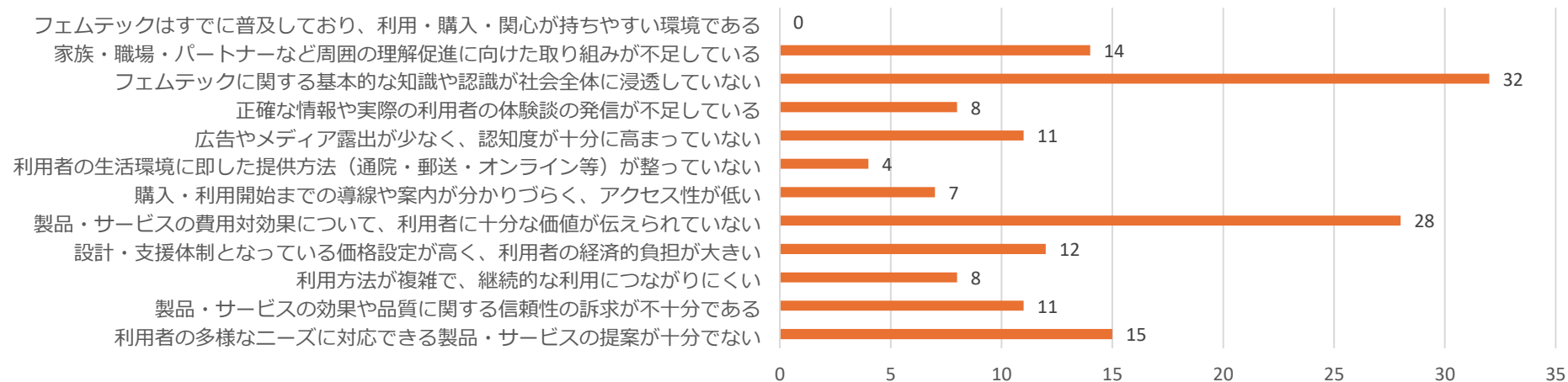


(参考資料)

(1) アンケート質問・回答

回答対象者	#	設問	回答形式	選択肢	回答数
全員	25	フェムテック等サポートサービスにの利用普及に向けて、利用者が購入・関心を持ちにくい、又は周囲で普及していないと感じる理由として当てはまる内容を最大3つまでお答えください。	MA(最大3)	利用者の多様なニーズに対応できる製品・サービスの提案が十分でない	15
				製品・サービスの効果や品質に関する信頼性の訴求が不十分である	11
				利用方法が複雑で、継続的な利用につながりにくい	8
				設計・支援体制となっている価格設定が高く、利用者の経済的負担が大きい	12
				製品・サービスの費用対効果について、利用者に十分な価値が伝えられていない	28
				購入・利用開始までの導線や案内が分かりづらく、アクセス性が低い	7
				利用者の生活環境に即した提供方法（通院・郵送・オンライン等）が整っていない	4
				広告やメディア露出が少なく、認知度が十分に高まっていない	11
				正確な情報や実際の利用者の体験談の発信が不足している	8
				フェムテックに関する基本的な知識や認識が社会全体に浸透していない	32
				家族・職場・パートナーなど周囲の理解促進に向けた取り組みが不足している	14
				フェムテックはすでに普及しており、利用・購入・関心が持ちやすい環境である	0

#25:関心を持ちづらい・普及していない理由



(2) 採択事業 一覧

経済産業省 令和3年度「フェムテック等サポートサービス実証事業費補助金」
実証事業一覧 01~04

※ 実施体制は7/21時点で確定している団体を記載
 ※ 参加団体とは、代表団体の協業者として、本事業全体の推進に当たる団体を指す
 ※ 協力団体とは、実証フィールドの提供や事業活動へのアドバイスなどにより、本事業を支援する団体を指す

01 働く女性が乳がんを経験しても変わらず働くことのできる場所の提供・雇用と、 価格・着け心地共にストレスフリーな国産パッド開発							
テーマ	月経・PMS	妊娠・不妊	産後ケア	更年期	婦人科疾患	ヘルス リテラシー	その他
					●		
実施体制	代表団体	アポワールインターナショナル株式会社				実証地域	全国
	参加団体	-					
	協力団体	・株式会社大丸松坂屋 ・加藤乳腺クリニック京都 ・水田乳腺クリニック		・京都乳がんピアサポートサロン ・NPO法人ピンクリボン大阪			
対象者	乳がん患者		実施概要 ・乳がん患者用シリコンパッドの販路拡大 ・乳がん患者用シリコンパッドの開発 ・乳がん患者および経験者の雇用創出による社会復帰支援				

02 大企業および中小企業の従業員を対象とした ライフステージを支える企業内助産師の有用性検証事業							
テーマ	月経・PMS	妊娠・不妊	産後ケア	更年期	婦人科疾患	ヘルス リテラシー	その他
	●	●	●	●	●	●	
実施体制	代表団体	株式会社With Midwife				実証地域	大阪府
	参加団体	東京慈恵会医科大学					
	協力団体	・公益財団法人大阪産業局 ・近畿経済産業局					
対象者	企業で働く全従業員		実施概要 ・ヘルスケア/メンタル/子育てなどのオンライン相談の提供 (24時間365日/専用研修を修了した企業専属の助産師が対応) ・健康やキャリアに関するセミナーの実施				

03 潜在助産師を活用した、地方における育児期の女性の職場復帰を支援する オンライン相談事業：「The CARE for Community」実証実験							
テーマ	月経・PMS	妊娠・不妊	産後ケア	更年期	婦人科疾患	ヘルス リテラシー	その他
		●	●				
実施体制	代表団体	株式会社With Midwife				実証地域	長野県松本市
	参加団体	国立大学法人信州大学					
	協力団体	-					
対象者	復職する意思を有している育児休業中の女性、その家族		実施概要 ・地域社会をモデルとした助産師サービス「The CARE for Community」を実践的に検証 ・地方における女性の仕事と生活の両立に関する実態調査、および地域の助産師によるオンラインサポートサービスの有用性を検証				

04 女性の意思決定支援サービスの構築およびライフデザインにまつわる 社会環境整備に向けた実証事業							
テーマ	月経・PMS	妊娠・不妊	産後ケア	更年期	婦人科疾患	ヘルス リテラシー	その他
	●	●	●	●	●	●	
実施体制	代表団体	一般財団法人ウェルネスサポートLab				実証地域	福岡県福岡市
	参加団体	株式会社YOUI					
	協力団体	-					
対象者	20代~50代の社会人女性		実施概要 ・オンライン相談により女性の意思決定を支援と同時に課題の抽出 ・産官学連携の検討委員会を開催し、働く女性の抱えるニーズ・課題解決のための社会的要件を整理 ・整理した働く女性のニーズ、課題を基に啓蒙啓発事業を実施				

(2) 採択事業 一覧

経済産業省 令和3年度「フェムテック等サポートサービス実証事業費補助金」
実証事業一覧 05~08

※ 実施体制は7/21時点で確定している団体を記載
 ※ 参加団体とは、代表団体の協業者として、本事業全体の推進に当たる団体を指す
 ※ 協力団体とは、実証フィールドの提供や事業活動へのアドバイスなどにより、本事業を支援する団体を指す

05 不妊治療患者を対象にした遠隔医療スキームの確立、および、不妊治療啓発の動画コンテンツ作成							
テーマ	月経・PMS	妊娠・不妊	産後ケア	更年期	婦人科疾患	ヘルスリテラシー	その他
		●					
実施体制	代表団体	vivola株式会社				実証地域	遠隔医療：中四国、九州、東北、沖縄 認知度向上：全国
	参加団体	・NPO法人フォレシア ・齊藤英和医師		・株式会社ライフサカス ・前田恵理医師			
	協力団体	・神戸元町夢クリニック ・コスモレディースクリニック		・空の森クリニック			
対象者	・不妊治療患者 ・医療機関 ・企業		実施概要	・遠隔医療スキームを確立し、患者の通院に要する時間削減および医師・患者の満足度を検証 ・動画やリーフレット等のコンテンツを制作し、不妊に関する認知度および理解度の向上を検証			

06 働く女性の健康に対するオンライン支援プログラムの効果検証							
テーマ	月経・PMS	妊娠・不妊	産後ケア	更年期	婦人科疾患	ヘルスリテラシー	その他
	●	●	●	●	●		
実施体制	代表団体	株式会社Kids Public				実証地域	東京都
	参加団体	株式会社パソナ					
	協力団体	-					
対象者	女性従業員とそのパートナーや家族(妊娠中と産休・育児中の女性を除く)		実施概要	産婦人科領域の専門職へのオンライン相談窓口やリモートでの定期面談、定期的な医療・健康情報提供を組み合わせ「オンライン支援プログラム」の効果を検証する。オンライン相談は産婦人科医、小児科医、助産師へ24時間いつでも相談が可能。			

07 産婦人科による働く女性の健康やライフイベントに伴う悩みや不安に関するオンライン相談事業							
テーマ	月経・PMS	妊娠・不妊	産後ケア	更年期	婦人科疾患	ヘルスリテラシー	その他
	●	●	●	●	●	●	●
実施体制	代表団体	医療法人葵鐘会				実証地域	愛知県 岐阜県 三重県 静岡県
	参加団体	-					
	協力団体	中部国際空港旅客サービス株式会社					
対象者	企業に勤務する女性従業員		実施概要	・助産師、看護師によるオンライン相談サービスの提供 ・サービスの受容度・満足度、健康に対する意識変容、新たな課題やニーズの発掘を検証			

08 法人向けオンライン女性健康相談サービス「フェムラインかごしま(仮称)」実証事業							
テーマ	月経・PMS	妊娠・不妊	産後ケア	更年期	婦人科疾患	ヘルスリテラシー	その他
	●			●	●		●
実施体制	代表団体	社会医療法人博愛会相良病院				実証地域	鹿児島県
	参加団体	・医療法人真栄会にいむら病院 ・医療法人浩聖会セイコメディカルビューティークリニック		・株式会社code			
	協力団体	・株式会社鹿児島銀行 ・株式会社明石屋 ・株式会社明石屋菓子店		・株式会社南日本総合サービス ・株式会社指宿白水館			
対象者	一般雇用者、雇用主、管理責任者、非正規職員を全て含む従業員		実施概要	・地域の医師にオンラインで健康相談ができる法人向けサービスを開発・提供 ・働く女性のウェルビーイング向上と女性が働きやすい企業環境の整備に寄与することを実証			

(2) 採択事業 一覧

経済産業省 令和3年度「フェムテック等サポートサービス実証事業費補助金」
実証事業一覧 09~12

※ 実施体制は7/21時点で確定している団体を記載
 ※ 参加団体とは、代表団体の協業者として、本事業全体の推進に当たる団体を指す
 ※ 協力団体とは、実証フィールドの提供や事業活動へのアドバイスなどにより、本事業を支援する団体を指す

09 生理用品の計量管理による生理周期の把握とデータを活用した健康課題の解決								
テーマ	月経・PMS	妊娠・不妊	産後ケア	更年期	婦人科疾患	ヘルスリテラシー	その他	
		●					●	
実施体制	代表団体	株式会社シャープ					実証地域	全国
	参加団体	-						
	協力団体	-						
対象者	国内の働く女性 (社内従業員、一般公募)		実施概要 ・生理用品IoT収納ケースを用いた「生理用品の在庫管理」、「生理周期の把握」による健康管理の不安や手間の軽減 ・IoT収納ケースのニーズ調査及びヘルスリテラシー向上の可能性検討 ・IoT収納ケースにより得られたヘルスデータを活用したサービスの検討及び医療機関等との連携模索					

10 働く更年期女性がキャリアをあきらめないためのヘルスリテラシー向上・相談窓口事業								
テーマ	月経・PMS	妊娠・不妊	産後ケア	更年期	婦人科疾患	ヘルスリテラシー	その他	
					●		●	
実施体制	代表団体	株式会社ジョコネ。					実証地域	全国
	参加団体	-						
	協力団体	-						
対象者	事業会社の従業員		実施概要 ・更年期女性とその周囲が知っておくべき内容に関するオンラインセミナーの実施 ・更年期症状向けのLINE等を用いたオンラインカウンセリングの実施 ・カウンセリングの上、解決策をオンラインで提供					

11 生命をつなぐ 世代をつなぐ 医療をつなぐ診療支援システム開発								
テーマ	月経・PMS	妊娠・不妊	産後ケア	更年期	婦人科疾患	ヘルスリテラシー	その他	
			●					
実施体制	代表団体	株式会社シンフォニア					実証地域	全国
	参加団体	-						
	協力団体	もりレディースクリニック						
対象者	産婦人科で健診を行う女性及びパートナーや家族		実施概要 ・赤ちゃんや母体の情報を正確に把握することで不安やストレスを解消し、出産への希望や幸福感を追求できる支援 ・診療時に可視化、電子カルテ連携ができることで診療時間の短縮が可能となり、得た時間を活用し妊産婦や患者のQOL向上に向けた手厚い産後ケアへ繋げる					

12 妊活・不妊治療と仕事の両立を支援する妊活サポート事業								
テーマ	月経・PMS	妊娠・不妊	産後ケア	更年期	婦人科疾患	ヘルスリテラシー	その他	
			●					
実施体制	代表団体	株式会社ステラ					実証地域	東京都 神奈川県 千葉県 埼玉県 大阪府 愛知県
	参加団体	・メディカルパーク横浜 ・松本レディースリプロダクションオフィス						
	協力団体	-						
対象者	企業で働く妊娠を考えている男女		実施概要 ・セミナー/ウェビナーやeラーニングを行い、社内での理解を促進 ・各企業の地域性や業務形態に合わせた制度設計のサポート ・社内のサポート人材の育成 ・オンライン相談による妊活・不妊治療を行う当事者のサポート					

(2) 採択事業 一覧

経済産業省 令和3年度「フェムテック等サポートサービス実証事業費補助金」
実証事業一覧 13~16

※ 実施体制は7/21時点で確定している団体を記載
 ※ 参加団体とは、代表団体の協業者として、本事業全体の推進に当たる団体を指す
 ※ 協力団体とは、実証フィールドの提供や事業活動へのアドバイスなどにより、本事業を支援する団体を指す

13 更年期ケアの重要性を可視化し、社会へ啓蒙@渋谷区自治体連携							
テーマ	月経・PMS	妊娠・不妊	産後ケア	更年期	婦人科疾患	ヘルスリテラシー	その他
				●		●	
実施体制	代表団体	株式会社TRULY			実証地域	東京都渋谷区	
	参加団体	-					
	協力団体	・株式会社朝日新聞社 ・宋美玄医師		・渋谷区			
対象者	渋谷区の30~50代女性およびパートナーや家族、会社の上司などの男性		実施概要	「チャット健康相談サービス」を活用した、渋谷区との実証実験			

14 女性のライフプランとキャリアの両立支援事業							
テーマ	月経・PMS	妊娠・不妊	産後ケア	更年期	婦人科疾患	ヘルスリテラシー	その他
		●					
実施体制	代表団体	株式会社ninpath			実証地域	東京都	
	参加団体	株式会社アスアス					
	協力団体	-					
対象者	・「不妊治療と仕事の両立支援制度」の導入を検討している中小企業 ・上記企業に属する従業員および家族やパートナー		実施概要	<ul style="list-style-type: none"> ・不妊治療のために利用可能な休暇制度・両立支援制度の整備コンサルティング ・女性のキャリアとライフイベントに関するセミナー・ワークショップの開催 ・希望者に妊孕性検査の実施やライフプランニング支援 ・検査結果に応じて、不妊治療に関する情報提供 			

15 個人・企業のヘルスリテラシー向上と日本の8割の雇用を支えるローカル経済圏でのフェムテック普及展開の仕組みの構築に向けた実証事業							
テーマ	月経・PMS	妊娠・不妊	産後ケア	更年期	婦人科疾患	ヘルスリテラシー	その他
	●	●	●	●	●	●	
実施体制	代表団体	株式会社陽と人			実証地域	福島県 宮城県仙台市 東京都	
	参加団体	-					
	協力団体	-					
対象者	個人、企業（女性社員、マネジメント層）		実施概要	自社製品に関連するサービスを活用し、①女性の潜在的ニーズの掘り起こし及び②東京と地方の情報・製品・サービスアクセス格差改善を実証			

16 自治体と連携した 1. 妊活・不妊治療の当事者向けサポート 2. 妊活・不妊治療を支える周囲のサポート啓蒙							
テーマ	月経・PMS	妊娠・不妊	産後ケア	更年期	婦人科疾患	ヘルスリテラシー	その他
	●	●		●	●	●	
実施体制	代表団体	株式会社ファミワン			実証地域	全国	
	参加団体	-					
	協力団体	・神奈川県横須賀市 ・株式会社Public dots & Company		・東京都杉並区 ・群馬県邑楽町			
対象者	<ul style="list-style-type: none"> ・当事者および家族やパートナー ・妊活前のカップル ・同僚、上司等 		実施概要	<ul style="list-style-type: none"> ・LINEを使った妊活・不妊治療相談の提供 ・妊活をしている方、不妊治療を受ける方、これから妊活をしようと考えている方など当事者をサポートするセミナーを自治体と連携して実施 			

(2) 採択事業 一覧

経済産業省 令和3年度「フェムテック等サポートサービス実証事業費補助金」
実証事業一覧 17~20

※ 実施体制は7/21時点で確定している団体を記載
 ※ 参加団体とは、代表団体の協業者として、本事業全体の推進に当たる団体を指す
 ※ 協力団体とは、実証フィールドの提供や事業活動へのアドバイスなどにより、本事業を支援する団体を指す

17 日常生活の中で簡便に自身の疲労度・ストレスレベルを可視化し、リアルタイムで感覚刺激を通じた解決を行うアプリ「me-fullness」による、働く女性の疲労・ストレス緩和ソリューションの実証事業								
テーマ	月経・PMS	妊娠・不妊	産後ケア	更年期	婦人科疾患	ヘルスリテラシー	その他	
							●	
実施体制	代表団体	株式会社ポーラ・オルビスホールディングス				実証地域	徳島県徳島市	
	参加団体	ポーラ化成工業株式会社						
	協力団体	徳島県徳島市						
対象者	<ul style="list-style-type: none"> ・疲労・ストレスレベルが蓄積した女性およびパートナー ・地方自治体関係者 		実施概要 アプリ「me-fullness」により、顔や肌から疲労・ストレスレベルを客観的に定量化し、自身の状態となりたい状態に合わせて、最適な状態へ導く五感刺激及びそれらを組み合わせたコンテンツの効果検証					

18 女性社員が入社からリタイアまでいきいきと働ける環境を実現する健康課題改善プラットフォーム事業								
テーマ	月経・PMS	妊娠・不妊	産後ケア	更年期	婦人科疾患	ヘルスリテラシー	その他	
	●	●		●		●		
実施体制	代表団体	丸紅株式会社				実証地域	全国	
	参加団体	・株式会社カラダメディカ ・株式会社エムティーアイ						
	協力団体	-						
対象者	<ul style="list-style-type: none"> ・女性従業員 ・男性従業員 ・管理職、女性管理職の活躍に課題意識を持つ経営層 ・従業員のパートナー 		実施概要 入社からリタイアまですべての年齢層をカバーする女性の健康課題改善サービスを福利厚生メニューとして提供 <ul style="list-style-type: none"> ・専門医師による月経・妊娠・更年期に関するセミナー（効果：本人、周囲の社員のリテラシー向上/啓蒙） ・仕事の合間時間や自宅等から医師の相談・診察等を受けられるオンライン相談・診療サービス（効果：産婦人科受診ハードルの引き下げ、通院時間・コストの削減） ・低用量ピルや漢方の服薬指導・処方（効果：薬剤受取りの時間・コスト削減、健康課題の具体的な改善） また、専門家監修による効果測定手法を用いて、人事部・健康保険組合等のための導入効果の可視化・検証サポートまでを行う					

19 周産期遠隔医療プラットフォームを活用した仕事と安全な妊娠・出産の両立にかかる実証事業								
テーマ	月経・PMS	妊娠・不妊	産後ケア	更年期	婦人科疾患	ヘルスリテラシー	その他	
		●				●		
実施体制	代表団体	メロディ・インターナショナル株式会社				実証地域	北海道（余市町、北後志地域、小樽市）	
	参加団体	・余市町	・北海道社会事業協会小樽病院（小樽協会病院）					
	協力団体	・北後志消防組合 ・小樽消防組合						
対象者	<ul style="list-style-type: none"> ・妊婦とパートナー ・医師、助産師 ・自治体職員、救急隊員 		実施概要 周産期遠隔医療プラットフォーム「Melody i」と、モバイル胎児心拍陣痛モニター「分娩監視装置 iCTG」を活用した、出張妊婦健診や在宅妊婦健診の効果検証					

20 女性従業員と企業へのワンストップソリューション伴走支援による女性の健康課題解決と就業継続促進に向けた健康相談並びにセミナー事業								
テーマ	月経・PMS	妊娠・不妊	産後ケア	更年期	婦人科疾患	ヘルスリテラシー	その他	
	●	●	●	●	●	●	●	
実施体制	代表団体	株式会社Rubans				実証地域	京都府、鳥取県智頭町	
	参加団体	一般社団法人日本産前産後ケア・子育て支援学会						
	協力団体	株式会社Spero						
対象者	<ul style="list-style-type: none"> ・女性従業員およびパートナー ・管理職 		実施概要 <ul style="list-style-type: none"> ・対象女性社員のヘルスレコードを用いた女性健康支援専門家（医療職）との健康相談による伴走支援 ・ライフステージに応じた健康セミナーや座談会として企業内保健室の設置 ・管理職向けに女性の健康を支援する労働環境整備支援 					

(2) 採択事業 一覧

経済産業省 令和4年度フェムテック等サポートサービス実証事業費補助金
実証事業一覧 01~04

※ 実施体制は7/1時点で確定している団体を記載
 ※ 参加団体とは、代表団体の協業者として、本事業全体の推進に当たる団体を指す
 ※ 協力団体とは、実証フィールドの提供や事業活動へのアドバイスなどにより、本事業を支援する団体を指す

01 最短期間で最大の効果を上げる不妊治療プロトコルを提案するA I (人工知能)サービス							
テーマ	月経・PMS	妊娠・不妊	産後ケア	更年期	婦人科疾患	ヘルスリテラシー	その他
		●				●	
実施体制	代表団体	株式会社iCaret					
	参加団体	—					
	協力団体	・システムロード株式会社		・木場公園クリニック			
実証先	・当社内 ・ご協力医療機関 ・不妊治療に取り組んでいるカップル						
対象者	<ul style="list-style-type: none"> 生殖医療関連医師と医療機関 電子カルテ事業者 不妊治療に取り組むカップル 妊娠出産を検討している女性 		実施概要	<ul style="list-style-type: none"> 大規模不妊治療データのデータ解析とA Iモデルの設計と構築 患者データを用いた不妊治療AIモデルの実証と評価 女性のライフステージにおける不妊治療AIモデル活用のインパクトの試算 			

02 セルフトレーニングをサポートするサービス「ベリノス™」とトレーナー指導の組み合わせによる骨盤底筋トレーニング								
テーマ	月経・PMS	妊娠・不妊	産後ケア	更年期	婦人科疾患	ヘルスリテラシー	その他	
			●	●	●	●		
実施体制	代表団体	アルプスアルパイン株式会社						
	参加団体	<ul style="list-style-type: none"> 学校法人 甲南女子大学 学校法人 行岡保健衛生学園 		<ul style="list-style-type: none"> In MuSE.合同会社 江川産婦人科 				
	協力団体	<ul style="list-style-type: none"> 株式会社アルプス物流 地方自治体 		<ul style="list-style-type: none"> 株式会社アルプスビジネスクリエーション(介護事業) 				
実証先	<ul style="list-style-type: none"> アルプスアルパイン株式会社(東京都) 株式会社アルプスビジネスクリエーション(東京都) 		<ul style="list-style-type: none"> 株式会社アルプス物流(神奈川県) 全国の企業・自治体 					
対象者	産後、更年期による尿失禁症状に悩む女性従業員		実施概要	セルフトレーニングをサポートするサービス「ベリノス™」とトレーナー指導の組み合わせによる骨盤底筋トレーニングにおける運動の継続性を支援する効果的な施策等の実証				

03 妊活・不妊治療におけるパートナーシップ構築を目的としたコミュニケーション促進ソリューションの効果検証							
テーマ	月経・PMS	妊娠・不妊	産後ケア	更年期	婦人科疾患	ヘルスリテラシー	その他
		●					
実施体制	代表団体	vivola株式会社					
	参加団体	帝人株式会社					
	協力団体	-					
実証先	全国の妊活に取り組んでいる、不妊治療をしている個人						
対象者	<ul style="list-style-type: none"> 妊活に取り組んでいる、不妊治療をしている夫婦およびカップル 		実施概要	<ul style="list-style-type: none"> 妊活、不妊治療における情報提供、およびカップル間の価値観の相違を可視化し、行動変容を促進するアプリの作成 上記のインプットとして、行動の阻害要因に関する調査を実施 			

04 ヘルスリテラシー向上(知識の獲得から行動改善まで)を通じた働く女性と組織の活性化をサポートする『トータルウェルネスプログラム』							
テーマ	月経・PMS	妊娠・不妊	産後ケア	更年期	婦人科疾患	ヘルスリテラシー	その他
	●			●	●	●	●
実施体制	代表団体	株式会社SRACreative					
	参加団体	<ul style="list-style-type: none"> 株式会社MYPLATE 株式会社SEVENRICH Accounting 		<ul style="list-style-type: none"> 株式会社nemuli CLINIC TEN SHIBUYA 			
	協力団体	<ul style="list-style-type: none"> 株式会社TesTee 株式会社THE COACH 		<ul style="list-style-type: none"> 株式会社BonBon 株式会社Assatte 			
実証先	全国の企業・組織						
対象者	<ul style="list-style-type: none"> 女性社員・男性社員・管理職 PMS・PMDD/生理トラブル/更年期障害に課題を抱える就業女性 		実施概要	<ul style="list-style-type: none"> 医師共同制作のヘルスリテラシーテストの実施 個人(女性社員、男性社員・管理職)/組織のヘルスリテラシー向上に向けた課題の抽出 上記課題の改善に向けたアクションの提案(対個人/対組織)、サービス導入のサポート実施 			

(2) 採択事業 一覧

経済産業省 令和4年度フェムテック等サポートサービス実証事業費補助金
実証事業一覧 05~08

※ 実施体制は7/1時点で確定している団体を記載
 ※ 参加団体とは、代表団体の協業者として、本事業全体の推進に当たる団体を指す
 ※ 協力団体とは、実証フィールドの提供や事業活動へのアドバイスなどにより、本事業を支援する団体を指す

05 働く更年期女性の睡眠を可視化したリトリートプログラム実証事業							
テーマ	月経・PMS	妊娠・不妊	産後ケア	更年期	婦人科疾患	ヘルスリテラシー	その他
				●			
実施体制	代表団体	沖縄セルラー電話株式会社					
	参加団体	株式会社ACCELStars		HerLifeLab株式会社			
	協力団体	Naoko女性クリニック					
実証先	<ul style="list-style-type: none"> 株式会社沖縄銀行(沖縄県) 株式会社沖縄海邦銀行(沖縄県) 			<ul style="list-style-type: none"> 株式会社琉球銀行(沖縄県) 沖縄セルラー電話株式会社(沖縄県) 			
対象者	不眠に悩む更年期の女性従業員		実施概要 <ul style="list-style-type: none"> 不眠症状者を睡眠データが計測できるウェアラブルデバイスを活用して特定し、オンラインとオフラインの併用によるハイブリッド型リトリートプログラムにて解決 症状に応じて婦人科によるオンライン相談が可能 				

06 あらゆるトイレの個室にて生理用品を取得可能にするなど「生理ライフ」を快適にし、生理になる人のモビリティを向上							
テーマ	月経・PMS	妊娠・不妊	産後ケア	更年期	婦人科疾患	ヘルスリテラシー	その他
	●	●			●	●	●
実施体制	代表団体	オモテテ株式会社					
	参加団体	-					
	協力団体	-					
実証先	全国						
対象者	オフィス利用者		実施概要 <ul style="list-style-type: none"> トイレ内に設置するハードウェアと在庫等を管理するアプリケーションを連動した「unfre. (アプリ)」サービスの開発 導入先企業へ、設置前後でアンケート・インタビュー調査を実施 				

07 新入社員向け「女性特有の健康課題に関するeラーニングプログラム」の開発と検証							
テーマ	月経・PMS	妊娠・不妊	産後ケア	更年期	婦人科疾患	ヘルスリテラシー	その他
	●	●			●	●	
実施体制	代表団体	株式会社Kids Public					
	参加団体	-					
	協力団体	-					
実証先	全国の新入・若手社員を抱える企業						
対象者	新卒入社1~3年目(もしくは社会人歴3年目まで)の男女社員		実施概要 <ul style="list-style-type: none"> 女性の健康課題に関するeラーニングツールの開発 対象者により上記のeラーニングを期間内に計2回実施 オンライン相談(産婦人科オンライン、小児科オンライン)を希望する参加者へ提供 				

08 オンラインコミュニティを使った「女性特有の健康課題や働き方について語り合う」プラットフォームの構築・運用と情報発信事業							
テーマ	月経・PMS	妊娠・不妊	産後ケア	更年期	婦人科疾患	ヘルスリテラシー	その他
	●	●	●	●	●	●	
実施体制	代表団体	株式会社産業経済新聞社					
	参加団体	さんぎょうい株式会社					
	協力団体	-					
実証先	全国の個人						
対象者	女性特有の健康課題や働き方の問題に関して興味関心のある女性・男性		実施概要 <ul style="list-style-type: none"> オンラインコミュニティ「フェムトーク」の構築と運用 「フェムトーク」運用により得られた知見等についてメトロポリターナで情報発信、読者アンケート企画の実施 同上の知見等について、産経新聞紙面で情報発信 同上の知見等についてのセミナー開催 				

(2) 採択事業 一覧

経済産業省 令和4年度フェムテック等サポートサービス実証事業費補助金
実証事業一覧 09～12

※ 実施体制は7/1時点で確定している団体を記載
 ※ 参加団体とは、代表団体の協業者として、本事業全体の推進に当たる団体を指す
 ※ 協力団体とは、実証フィールドの提供や事業活動へのアドバイスなどにより、本事業を支援する団体を指す

09 就労妊婦等メンタルヘルス向上と離職防止のための、 専門家「助産師」とAI(声解析)による継続的なサポート実証事業							
テーマ	月経・PMS	妊娠・不妊	産後ケア	更年期	婦人科疾患	ヘルス リテラシー	その他
		●	●				
実施体制	代表団体	株式会社じよさんしGLOBAL Inc.					
	参加団体						
	協力団体	<ul style="list-style-type: none"> ・リスク計測テクノロジーズ株式会社 ・豊島株式会社 ・株式会社メンタルサポート研究所 倉成 央博士(臨床心理士) 		<ul style="list-style-type: none"> ・江村 和世 医師(精神科医) ・やまがたてるえ (助産師・チャイルドファミリーコンサルタント) 			
実証先	全国の就労妊婦等を抱える企業、他民間企業/自治体						
対象者	従業員(就労妊婦含む)および そのパートナー、直属の上司		実施 概要	企業向けに4つの事業(①就労妊婦等向けオンライン相談、②就労 妊婦等とパートナーに向けたセミナー、③就労妊婦等の直属上司の 支援、④結果のフィードバックセミナー)を提供			

10 助産師・保育士が24時間体制で産後の親子をサポートする産後ケアリゾート「HOTEL CAFUNE」及び継続的なサポートのニーズ検証と産後ケアの社会認知度向上の実証実験							
テーマ	月経・PMS	妊娠・不妊	産後ケア	更年期	婦人科疾患	ヘルス リテラシー	その他
		●	●				
実施体制	代表団体	株式会社水星					
	参加団体	—					
	協力団体	—					
実証先	HOTEL CAFUNE(神奈川県川崎市)						
対象者	産後直後～12カ月程度の首都圏 近郊在住の女性とそのパートナー ・女性とその家族		実施 概要	<ul style="list-style-type: none"> ・宿泊型産後ケアサービスの提供とその後の継続的なサポート の構築 ・上記による女性のQOL向上への有用性検証 ・産後ケアの社会認知度向上に向けた調査と情報発信 			

11 女性特有の出産育児のライフイベントや健康課題を乗り越え能力を最大限発揮できる新しい 時代を実現する「『TOTONOERU®(トノエル)』を活用したレジリエントな企業基盤構築支援事業ver.1」							
テーマ	月経・PMS	妊娠・不妊	産後ケア	更年期	婦人科疾患	ヘルス リテラシー	その他
	●		●				●
実施体制	代表団体	株式会社天煌堂					
	参加団体	株式会社actor					
	協力団体	<ul style="list-style-type: none"> ・CICJapan合同会社 ・VentureCafeTokyo 		<ul style="list-style-type: none"> ・日本生命保険相互会社 			
実証先	<ul style="list-style-type: none"> ・CICJapan合同会社(東京都) ・VentureCafeTokyo(東京都) 		<ul style="list-style-type: none"> ・日本生命保険相互会社(成田支社) 				
対象者	<ul style="list-style-type: none"> ・女性従業員 ・男女管理職 		実施 概要	<ul style="list-style-type: none"> ・月経における課題、出産・育児におけるパフォーマンスの課題の解決に資す る起電する衣類「3e-EARTHING衣類」の提供 ・職場のコミュニケーション課題の解決に資する脳医学診断とコーチングプ ログラム「ノウセツ」の提供 			

12 未病状態のからだケア 素材～製品・サービス異業種連携でのワークショップを通じた行動変容プログラムの提供							
テーマ	月経・PMS	妊娠・不妊	産後ケア	更年期	婦人科疾患	ヘルス リテラシー	その他
	●					●	
実施体制	代表団体	東レ株式会社					
	参加団体	<ul style="list-style-type: none"> ・あすか製薬株式会社 ・株式会社ネクイノ 			<ul style="list-style-type: none"> ・プレミア・ウェルネスサイエンス株式会社 ・株式会社 東レシステムセンター 		
	協力団体	<ul style="list-style-type: none"> ・一般社団法人メディカル・フェムテック・コンソーシアム ・滋賀医科大学 北原照代特任准教授 ・昭和大学薬学部 佐藤均教授 					
実証先	<ul style="list-style-type: none"> ・東レ株式会社(東京地) ・あすか製薬株式会社(東京都) 		<ul style="list-style-type: none"> ・株式会社ネクイノ(大阪府) ・プレミア・ウェルネスサイエンス株式会社(東京都) 				
対象者	<ul style="list-style-type: none"> ・従業員(男女問わず) ・月経関連の不調を有する 20～30代の女性従業員 		実施 概要	<ul style="list-style-type: none"> ・東レ株式会社と参加企業へ被験者抽出のためのアンケート実施 ・被験者へワークショップ(①ヘルスリテラシー向上セミナーと専門家との 座談会、②製品・サービスの体験)を提供 ・デジタル・ウェルネスプラットフォーム(DWP)の社会実装 			

(2) 採択事業 一覧

経済産業省 令和4年度フェムテック等サポートサービス実証事業費補助金
実証事業一覧 09～12

※ 実施体制は7/1時点で確定している団体を記載
 ※ 参加団体とは、代表団体の協業者として、本事業全体の推進に当たる団体を指す
 ※ 協力団体とは、実証フィールドの提供や事業活動へのアドバイスなどにより、本事業を支援する団体を指す

09 就労妊婦等メンタルヘルス向上と離職防止のための、 専門家「助産師」とAI(声解析)による継続的なサポート実証事業							
テーマ	月経・PMS	妊娠・不妊	産後ケア	更年期	婦人科疾患	ヘルス リテラシー	その他
		●	●				
実施体制	代表団体	株式会社じよさんしGLOBAL Inc.					
	参加団体						
	協力団体	<ul style="list-style-type: none"> ・リスク計測テクノロジーズ株式会社 ・豊島株式会社 ・株式会社メンタルサポート研究所 倉成 央博士(臨床心理士) 		<ul style="list-style-type: none"> ・江村 和世 医師(精神科医) ・やまがたてるえ (助産師・チャイルドファミリーコンサルタント) 			
実証先	全国の就労妊婦等を抱える企業、他民間企業/自治体						
対象者	従業員(就労妊婦含む)および そのパートナー、直属の上司		実施 概要	企業向けに4つの事業(①就労妊婦等向けオンライン相談、②就労 妊婦等とパートナーに向けたセミナー、③就労妊婦等の直属上司の 支援、④結果のフィードバックセミナー)を提供			

10 助産師・保育士が24時間体制で産後の親子をサポートする産後ケアリゾート「HOTEL CAFUNE」及び継続的なサポートのニーズ検証と産後ケアの社会認知度向上の実証実験							
テーマ	月経・PMS	妊娠・不妊	産後ケア	更年期	婦人科疾患	ヘルス リテラシー	その他
		●	●				
実施体制	代表団体	株式会社水星					
	参加団体	—					
	協力団体	—					
実証先	HOTEL CAFUNE(神奈川県川崎市)						
対象者	産後直後～12カ月程度の首都圏 近郊在住の女性とそのパートナー ・女性とその家族		実施 概要	<ul style="list-style-type: none"> ・宿泊型産後ケアサービスの提供とその後の継続的なサポート の構築 ・上記による女性のQOL向上への有用性検証 ・産後ケアの社会認知度向上に向けた調査と情報発信 			

11 女性特有の出産育児のライフイベントや健康課題を乗り越え能力を最大限発揮できる新しい 時代を実現する「『TOTONOERU®(トノエル)』を活用したレジリエントな企業基盤構築支援事業ver.1」							
テーマ	月経・PMS	妊娠・不妊	産後ケア	更年期	婦人科疾患	ヘルス リテラシー	その他
	●		●				●
実施体制	代表団体	株式会社天煌堂					
	参加団体	株式会社actor					
	協力団体	<ul style="list-style-type: none"> ・CICJapan合同会社 ・VentureCafeTokyo 		<ul style="list-style-type: none"> ・日本生命保険相互会社 			
実証先	<ul style="list-style-type: none"> ・CICJapan合同会社(東京都) ・VentureCafeTokyo(東京都) 		<ul style="list-style-type: none"> ・日本生命保険相互会社(成田支社) 				
対象者	<ul style="list-style-type: none"> ・女性従業員 ・男女管理職 		実施 概要	<ul style="list-style-type: none"> ・月経における課題、出産・育児におけるパフォーマンスの課題の解決に資す る起電する衣類「3e-EARTHING衣類」の提供 ・職場のコミュニケーション課題の解決に資する脳医学診断とコーチングプ ログラム「ノウセツ」の提供 			

12 未病状態のからだケア 素材～製品・サービス異業種連携でのワークショップを通じた行動変容プログラムの提供							
テーマ	月経・PMS	妊娠・不妊	産後ケア	更年期	婦人科疾患	ヘルス リテラシー	その他
	●					●	
実施体制	代表団体	東レ株式会社					
	参加団体	<ul style="list-style-type: none"> ・あすか製薬株式会社 ・株式会社ネクイノ 			<ul style="list-style-type: none"> ・プレミア・ウェルネスサイエンス株式会社 ・株式会社 東レシステムセンター 		
	協力団体	<ul style="list-style-type: none"> ・一般社団法人メディカル・フェムテック・コンソーシアム ・滋賀医科大学 北原照代特任准教授 ・昭和大学薬学部 佐藤均教授 					
実証先	<ul style="list-style-type: none"> ・東レ株式会社(東京地) ・あすか製薬株式会社(東京都) 		<ul style="list-style-type: none"> ・株式会社ネクイノ(大阪府) ・プレミア・ウェルネスサイエンス株式会社(東京都) 				
対象者	<ul style="list-style-type: none"> ・従業員(男女問わず) ・月経関連の不調を有する 20～30代の女性従業員 		実施 概要	<ul style="list-style-type: none"> ・東レ株式会社と参加企業へ被験者抽出のためのアンケート実施 ・被験者へワークショップ(①ヘルスリテラシー向上セミナーと専門家との 座談会、②製品・サービスの体験)を提供 ・デジタル・ウェルネスプラットフォーム(DWP)の社会実装 			

(2) 採択事業 一覧

経済産業省 令和4年度 フェムテック等サポートサービス実証事業費補助金
実証事業一覧 17~19

※ 実施体制は7/1時点で確定している団体を記載
 ※ 参加団体とは、代表団体の協業者として、本事業全体の推進に当たる団体を指す
 ※ 協力団体とは、実証フィールドの提供や事業活動へのアドバイスなどにより、本事業を支援する団体を指す

17 身体症状と音声の分析を用いたヘルスケアとキャリア支援を繋ぐ仕組みづくり							
テーマ	月経・PMS	妊娠・不妊	産後ケア	更年期	婦人科疾患	ヘルスリテラシー	その他
	●	●	●	●	●	●	●
実施体制	代表団体	一般社団法人ヘルスサポーターズイノベーション					
	参加団体	-					
	協力団体	日本生命 佐賀支社 明治安田生命 佐賀支社 佐賀市役所					
実証先	<ul style="list-style-type: none"> ・日本生命(佐賀県) ・明治安田生命(佐賀県) ・佐賀市役所(佐賀県) 						
対象者	女性従業員	実施概要	<ul style="list-style-type: none"> ・音声計測によるその日の心の状態見える化するツール実装 ・健康・妊娠や働き方に関するランチtimeウェビナー開催 ・ヨガやマインドフルネス、心身の不調をケアするオンラインレッスン開催 ・健康・子育てやキャリアに関する専門家へのチャット・オンライン相談提供 				

18 運動後の爽快感が味わえる「次世代EMS」を活用した、働く女性のメンタルヘルス・パフォーマンス向上事業							
テーマ	月経・PMS	妊娠・不妊	産後ケア	更年期	婦人科疾患	ヘルスリテラシー	その他
	●			●			●
実施体制	代表団体	株式会社ポーラ・オルビスホールディングス					
	参加団体	株式会社おせっかい倶楽部、ポーラ化成工業株式会社					
	協力団体	上馬整形外科クリニック					
実証先	都心のメンタルヘルスに課題を有する働く女性						
対象者	メンタルヘルス(PMSや更年期の課題・症状含む)に課題感を抱いている働く女性	実施概要	<ul style="list-style-type: none"> ・大きな筋肉を効率的に刺激する次世代EMSが働く女性のメンタルヘルス課題を解消し、パフォーマンス・well-beingに貢献することを臨床試験により科学的に実証 ・次世代EMSを一定期間使用した試験参加者へのデブスインタビュー 				

19 女性活躍を推進するための生理用品設備設置とコミュニケーションをデザインする教育事業							
テーマ	月経・PMS	妊娠・不妊	産後ケア	更年期	婦人科疾患	ヘルスリテラシー	その他
	●					●	●
実施体制	代表団体	わたしの暮らし研究所株式会社					
	参加団体	-					
	協力団体	<ul style="list-style-type: none"> ・ふしぎデザイン株式会社 ・NPO妊婦の暮らし 		<ul style="list-style-type: none"> ・株式会社丸和 ・株式会社山崎製作所 			
実証先	全国の企業、地方自治体、教育機関						
対象者	<ul style="list-style-type: none"> ・従業員(男女問わず) ・管理職 ・生理用品設備導入企業 ・小学生、中学生、高校生、大学生 	実施概要	<ul style="list-style-type: none"> ・共創するための女性活躍推進セミナー実施 ・トイレへの生理用品設備設置支援 ・導入企業間のコミュニティ運営、情報発信 ・青少年教育で活用できる教育ツール作成 				

(参考情報)

(2) 採択事業 一覧

経済産業省 令和5年度フェムテック等サポートサービス実証事業費補助金 実証事業一覧 1~4

01	婦人科系疾患の早期発見と不妊症予防を目指した職域健診実証事業						
テーマ	月経・PMS	妊娠・不妊	産後ケア	更年期	婦人科疾患	ヘルスリテラシー	その他
実施体制	代表団体	特定非営利活動法人FORECIA					
	参加団体	・秋田大学医学部附属病院 ・愛媛県 ・北海道大学大学院医学研究院 ・栄賢会 梅ヶ丘産婦人科 ・みずほ銀行					
	協力団体	・vivola 株式会社 ・みずほリサーチ&テクノロジーズ株式会社 ・愛媛大学医学部付属病院 ・愛媛県総合保健協会					
実証先	愛媛県モデル企業4社						
対象者	①男女の従業員,管理職 ②従業員,管理職 (20~39歳女性)		実施概要	①生殖・不妊・月経等に関する研修 ②事業所健診時に追加検査(13項目、不妊症予防や妊娠前の治療の有効性に関連するもの)とオンライン面談を実施			

03	地域職域連携による就労妊婦及び夫へのオンライン両立支援事業						
テーマ	月経・PMS	妊娠・不妊	産後ケア	更年期	婦人科疾患	ヘルスリテラシー	その他
実施体制	代表団体	株式会社アイセック					
	参加団体	・公益財団法人母子衛生研究会 ・株式会社Techne					
	協力団体	・国立大学法人 新潟大学 ・ロート製薬 株式会社					
実証先	・新潟市 ・新発田市 ・加茂市 ・佐渡市 ・座間味村						
対象者	就労している妊婦とその配偶者		実施概要	・妊婦及びその配偶者にスクリーニングを実施 ・スクリーニングと併せて、職場への両立に関する相談可否を確認 ・相談可能な方にはAIチャットボットによる情報提供を、相談不可の方には助産師や保健師によるオンライン相談の利用勧奨を行う。また、希望者には企業への代行相談も行う			

※ 実証体制とは2023年8月10日時点で確定している団体を記載
 ※ 参加団体とは、代表団体の協業者として、本事業全体の推進にあたる団体を指す
 ※ 協力団体とは、実証フィールドの提供や事業活動へのアドバイスなどにより、本事業を支援する団体を指す

02	「思考するトイレ空間」としてのフェムテック情報ステーションの構築 —大学で働く教職員と社会人予備軍である学生に向けたヘルスリテラシー向上プログラムとフェムテック研究推進プロジェクト						
テーマ	月経・PMS	妊娠・不妊	産後ケア	更年期	婦人科疾患	ヘルスリテラシー	その他
実施体制	代表団体	国立大学法人 金沢大学					
	参加団体	—					
	協力団体	—					
実証先	国立大学法人金沢大学						
対象者	教職員・学生		実施概要	金沢大学ダイバーシティ推進機構が中心となり、大学内のトイレをフェムテック情報ステーションとし、女性の健康課題に対する理解の促進を図るヘルスリテラシー向上を目的としたプロジェクト			

04	夫婦・パートナー間の関係強化およびコミュニケーション/情緒的・物理的サポートスキルトレーニングサービス「べあも」を用いた、女性のウェルビーイング・パフォーマンス向上の実証事業						
テーマ	月経・PMS	妊娠・不妊	産後ケア	更年期	婦人科疾患	ヘルスリテラシー	その他
実施体制	代表団体	株式会社きゅあも					
	参加団体	株式会社ジャパンイノベーション					
	協力団体	・奥平産婦人科医院 ・株式会社レキサス ・ライタス株式会社 ・株式会社リエイト ・株式会社 システムツー・ワン					
実証先	・奥平産婦人科医院 ・株式会社リエイト		・株式会社レキサス ・株式会社 システムツー・ワン		・ライタス株式会社		
対象者	・妊婦とそのパートナー ・社員とそのパートナー		実施概要	「べあも」のサービスをパートナーと共に受けることにより、パートナーとの関係の向上、メンタルヘルスの向上、パートナーの情緒的/物理的サポート向上、コミュニケーションスキルの向上、それらによる仕事のパフォーマンス向上の実証を行う			

(参考情報)

(2) 採択事業 一覧

経済産業省 令和5年度フェムテック等サポートサービス実証事業費補助金
実証事業一覧 5~8

※ 実証体制とは2023年8月10日時点で確定している団体を記載
 ※ 参加団体とは、代表団体の協業者として、本事業全体の推進にあたる団体を指す
 ※ 協力団体とは、実証フィールドの提供や事業活動へのアドバイスなどにより、本事業を支援する団体を指す

05 簡便な骨盤底筋の筋力測定デバイスおよび支援アプリケーションによる、骨盤底筋トレーニングの継続率・体験向上に関する検証事業							
テーマ	月経・PMS	妊娠・不妊	産後ケア	更年期	婦人科疾患	ヘルスリテラシー	その他
		●	●	●			
実施体制	代表団体	株式会社TENGAヘルスケア					
	参加団体	—					
	協力団体	・医療法人LEADING GIRLS ・女性医療クリニックLUNAグループ					
実証先	・ご協力医療機関 ・尿失禁にお悩みの方						
対象者	<ul style="list-style-type: none"> 女性 骨盤底筋トレーニングを実施している/したい方 	実施概要 <ul style="list-style-type: none"> ケーゲルチェッカー（自宅で筋力測定と可動性のチェックができる商品）による骨盤底筋トレーニングの継続率の向上検証 骨盤底筋トレーニングサポートアプリ開発 アプリとケーゲルチェッカーの併用による骨盤底筋トレーニングの継続率の向上検証 					

07 就業女性の月経に関する健康課題についての自己理解、管理者と従業員及び従業員同士の相互理解促進事業～吸水ショーツをきっかけとした教育プログラムの開発～							
テーマ	月経・PMS	妊娠・不妊	産後ケア	更年期	婦人科疾患	ヘルスリテラシー	その他
	●					●	
実施体制	代表団体	株式会社Period.					
	参加団体	国立大学法人浜松医科大学					
	協力団体	・茨城県		・静岡SSUポニータ		・浜松いわた信用金庫	
実証先	・茨城県		・静岡SSUポニータ		・浜松いわた信用金庫		・Co-startup Space&CommunityFUSE
対象者	<ul style="list-style-type: none"> 女性社員 男性社員 管理職 	実施概要 <ul style="list-style-type: none"> 月経のある就労中女性に対し、吸水ショーツを取り入れることで生じるパフォーマンス向上の有無についての研究を実施 上記研究のデータを用いた教育プログラムを開発し、組織全体での月経をはじめとした女性の健康課題への取組意欲について調査 					

06 ウェアラブルIoTデバイス&アプリと行動変容研修等の複合プログラムによる月経随伴症状に伴う労働損失の改善及び企業価値向上要素の可視化							
テーマ	月経・PMS	妊娠・不妊	産後ケア	更年期	婦人科疾患	ヘルスリテラシー	その他
	●					●	●
実施体制	代表団体	TOPPANIτζ株式会社					
	参加団体	—					
	協力団体	明治安田生命保険相互会社					
実証先	明治安田生命保険相互会社						
対象者	20~40代の女性従業員	実施概要	ヘルスケアIoTサービス「わたしの温度」で現状把握し、婦人科医師による「行動変容研修」や「オンライン医療相談サービス」の複合プログラムを通じ、労働パフォーマンスの分析・効果測定を行います				

08 妊婦向け体調管理・生活支援アプリケーションの利用による、妊婦・パートナーの健康意識の変化の検証							
テーマ	月経・PMS	妊娠・不妊	産後ケア	更年期	婦人科疾患	ヘルスリテラシー	その他
		●					
実施体制	代表団体	株式会社Famileaf					
	参加団体	—					
	協力団体	・株式会社ワコール ・茨城県					
先実証	・株式会社ワコール ・茨城県						
対象者	働いている妊婦とそのパートナー	実施概要	<ul style="list-style-type: none"> 妊婦向け体調管理・生活支援アプリ（『hug+u』（はぐゆー））の継続的提供 妊婦の勤務先企業の女性・妊婦向けサポートに関する情報周知 				

(2) 採択事業 一覧

経済産業省 令和5年度フェムテック等サポートサービス実証事業費補助金 実証事業一覧 13~16

※ 実証体制とは2023年8月10日時点で確定している団体を記載
 ※ 参加団体とは、代表団体の協業者として、本事業全体の推進にあたる団体を指す
 ※ 協力団体とは、実証フィールドの提供や事業活動へのアドバイスなどにより、本事業を支援する団体を指す

13 女性・企業・社会にシナジー効果をもたらす、医師が開発した性差医療アプリ「WaiSE」を活用した、健康経営促進サービスの構築と実証							
テーマ	月経・PMS	妊娠・不妊	産後ケア	更年期	婦人科疾患	ヘルスリテラシー	その他
	●			●	●	●	●
実施体制	代表団体	国立大学法人 政策研究大学院大学					
	参加団体	株式会社 オクタウェル					
	協力団体	株式会社 アルム					
実証先	・株式会社 アルム ・DeNA						
対象者	<ul style="list-style-type: none"> 実証企業の女性従業員 GIに関心がある企業の全従業員 	実施概要	<ul style="list-style-type: none"> 「WaiSE健康経営トライアル版」の作成 「WaiSE健康経営トライアル版」の実証と検証 性差医学・医療 / ジェンダー・イノベーション(GI)概念の啓発・普及および市場調査 				

14 日本・ベトナムにおける「製造IoT」×「女性の健康管理」による生産性の見える化で女性のパフォーマンス改善を実現							
テーマ	月経・PMS	妊娠・不妊	産後ケア	更年期	婦人科疾患	ヘルスリテラシー	その他
	●			●		●	
実施体制	代表団体	豊田通商株式会社					
	参加団体	・トヨタ工業株式会社 ・Flora株式会社					
	協力団体	Toyotsu Safety & Automotive Components Vietnam Co., LTD.					
実証先	<ul style="list-style-type: none"> トヨタ工業株式会社 Toyotsu Safety & Automotive Components Vietnam Co., LTD. 						
対象者	<ul style="list-style-type: none"> 管理職 従業員（男女） 作業員（男女） 	実施概要	<ol style="list-style-type: none"> 「製造現場で取得されるデータ」と「独自の自動ツールを用いて取得される女性従業員の健康や生活習慣に係るデータ」の取得 企業が女性の健康課題による生産性への影響をデータに基づき把握 セミナーとフェムケア等による改善効果測定 				

15 更年期症状に悩める女性美容師のウェルビーイング実現および実証の波及効果による持続的なエコシステムの構築							
テーマ	月経・PMS	妊娠・不妊	産後ケア	更年期	婦人科疾患	ヘルスリテラシー	その他
				●		●	
実施体制	代表団体	日本美容創生株式会社					
	参加団体	・株式会社RUALA ・総美有限会社					
	協力団体	・渋谷区・宇都宮イノベーションコンソーシアム・小山高夫医師・小川智由名誉教授					
実証先	渋谷および宇都宮エリアの美容院						
対象者	40代～50代の女性美容師	実施概要	女性美容師の更年期症状に対するリテラシー向上およびケアサービスの提供を通じた更年期課題解決のためのモデルケースの検証				

16 働く更年期女性の不調改善と職場での男性のサポート体制構築事業							
テーマ	月経・PMS	妊娠・不妊	産後ケア	更年期	婦人科疾患	ヘルスリテラシー	その他
				●			
実施体制	代表団体	パラマウントベッド株式会社					
	参加団体	株式会社陽と人					
	協力団体	・大企業1社 ・大企業労働組合1団体					
実証先	・大企業1社 ・大企業労働組合1団体						
対象者	更年期症状/GSM症状に悩む女性従業員、同僚/上司	実施概要	<ul style="list-style-type: none"> 具体的な症状や悩みを調査し、睡眠計測センサーやデリケートゾーン専用製品等を活用して改善プログラムという形で介入を実施 同僚/上司などへの科学的データに基づく学びの機会を提供 				

(参考情報)

(2) 採択事業 一覧

経済産業省 令和5年度フェムテック等サポートサービス実証事業費補助金
実証事業一覧 17~18

※ 実証体制とは2023年8月10日時点で確定している団体を記載
 ※ 参加団体とは、代表団体の協業者として、本事業全体の推進にあたる団体を指す
 ※ 協力団体とは、実証フィールドの提供や事業活動へのアドバイスなどにより、本事業を支援する団体を指す

17 働く女性の尿モレ（軽失禁）不安解消・ウェルビーイング向上を図るサービスの開発と実証							
テーマ	月経・PMS	妊娠・不妊	産後ケア	更年期	婦人科疾患	ヘルスリテラシー	その他
			●	●	●		
実施体制	代表団体	Lasiina株式会社					
	参加団体	日本製紙クレシア株式会社					
	協力団体	富士通株式会社					
実証先	富士通株式会社						
対象者	軽失禁（尿モレ）のある働く女性	実施概要	働く女性に「軽失禁向けフェムテックサービス」のモニターテストを実施。参加者から得られたセンシングデータとアンケート結果を比較分析し、女性のキャリアにどのような影響を与えているのか、また他の要因との関連性を検証します。				

18 ウェアラブルデバイスを用いた自律神経機能から捉えたPMSの評価と自己認識と表情筋トレーニングによる症状緩和							
テーマ	月経・PMS	妊娠・不妊	産後ケア	更年期	婦人科疾患	ヘルスリテラシー	その他
	●					●	
実施体制	代表団体	特定非営利活動法人日本臨床研究支援ユニット					
	参加団体	—					
	協力団体	・株式会社クロスウェル ・株式会社FFC ・サラヤ株式会社					
実証先	サラヤ株式会社						
対象者	・女性社員 ・男性社員	実施概要	<ul style="list-style-type: none"> ・自律神経機能とPMSの関係について理解を深める対面式座学 ・医療機器ソフト「きりつ名人」を用いた自律神経機能評価 ・Apple watchより測定をしたECG波形から自律神経機能を評価 ・表情筋トレーニング 				

(参考情報)

(2) 採択事業 一覧

経済産業省 令和6年度フェムテック等サポートサービス実証事業費補助金 実証事業一覧 1~4

- ※ 実証体制とは2024年8月21日時点で確定している団体を記載
- ※ 参加団体とは、代表団体の協業者として、本事業全体の推進にあたる団体を指す
- ※ 協力団体とは、実証フィールドの提供や事業活動へのアドバイスなどにより、本事業を支援する団体を指す

01 「考え方のくせ」を変えるプログラムの実践で、女性特有の不調とうまく付き合えるようになることをサポート							
テーマ	月経・PMS	妊娠・不妊	産後ケア	更年期	婦人科疾患	ヘルスリテラシー	その他
	●	●	●	●		●	●
実施体制	代表団体	ライオン株式会社					
	参加団体	-					
	協力団体	・始動メディカルコンサルティング合同会社		・株式会社杏林堂薬局 ・日本特殊陶業株式会社			
実証先	・株式会社杏林堂薬局 ・シミックホールディングス株式会社		・日本特殊陶業株式会社				
対象者	①男女の従業員 ②女性特有の精神的不調に悩む従業員		実施概要 ①従業員向けのヘルスケアセミナーの実施 ②月経や更年期などにおける精神的な不調に悩む女性に対し、CoCoReアプリを通してACTに基づくセルフケアを提供し、症状や生産性、幸福度等の変化を検証する。				

02 更年期障害による睡眠課題の健康改善プロジェクト							
テーマ	月経・PMS	妊娠・不妊	産後ケア	更年期	婦人科疾患	ヘルスリテラシー	その他
				●		●	
実施体制	代表団体	PGV株式会社					
	参加団体	-					
	協力団体	・豊橋市					
実証先	・豊橋市 ・とよはし健康宣言事業所						
対象者	更年期症状に伴う睡眠課題を生じやすい45~65歳の女性で企業に勤める者		実施概要 ・豊橋市を通じ対象年齢の睡眠課題を訴える女性従業員をリクルーティング ・セミナーおよび体温管理を実施 ・上記の前で、WHO-HPQや簡易更年期指数などのアンケートまた睡眠計測を実施し、解析・評価				

03 女性の健康CareをNormal（あたりまえ）に 女性の健康プラットフォームC O T T O N Care Of Things, Things Of Normal							
テーマ	月経・PMS	妊娠・不妊	産後ケア	更年期	婦人科疾患	ヘルスリテラシー	その他
				●		●	
実施体制	代表団体	株式会社ジェイコム九州					
	参加団体	-					
	協力団体	-					
実証先	・日本ケーブルテレビ連盟九州支部 加盟企業 ・株式会社ケーブルネット下関		・JCOM株式会社 ・株式会社ジェイコム九州				
対象者	各実証先企業の管理職、女性社員		実施概要 ①管理職向けの女性の健康に関するセミナーの開催 ②女性の健康に関する情報や研修動画、オンライン診療などのプラットフォーム提供				

04 教育機関・自治体に向けた生理痛体験研修プログラムの開発							
テーマ	月経・PMS	妊娠・不妊	産後ケア	更年期	婦人科疾患	ヘルスリテラシー	その他
	●					●	
実施体制	代表団体	大阪ヒートクール株式会社					
	参加団体	-					
	協力団体	-					
実証先	・静岡県の高校						
対象者	教職員および生徒		実施概要 生理を経験したことのない男性職員や、生理痛の苦しさを共有できなかった女性職員に対して「生理痛VR体験デバイスを用いた研修」を実施。				

(2) 採択事業 一覧

経済産業省 令和6年度フェムテック等サポートサービス実証事業費補助金 実証事業一覧 5~8

※ 実証体制とは2024年8月21日時点で確定している団体を記載
 ※ 参加団体とは、代表団体の協業者として、本事業全体の推進にあたる団体を指す
 ※ 協力団体とは、実証フィールドの提供や事業活動へのアドバイスなどにより、本事業を支援する団体を指す

05 「慢性痛と体調不良を可視化するアプリ」と、オンライン・マインドフルネスを組み合わせた場合における、慢性痛および体調不良の緩和効果ならびに女性のプレベンティブな改善効果の検証事業							
テーマ	月経・PMS	妊娠・不妊	産後ケア	更年期	婦人科疾患	ヘルスリテラシー	その他
	●					●	
実施体制	代表団体	メディカル・データ・ビジョン株式会社					
	参加団体	・株式会社センシング ・パスカル・ユニバース株式会社					
	協力団体	・インターナショナルマインドフルネスセンタージャパン					
実証先	・株式会社ママスクエア						
対象者	PMS症状を抱える就業中の20~49歳の女性		実施概要 痛みの程度を自律神経反応の変化と組み合わせて客観的に提示するアプリを用いて、マインドフルネスがPMSの症状である疼痛と自律神経の変調に伴う体調不良に改善効果をもたらすか否かの検証を行う。				

07 痛みの可視化・共感形成を促すWEBサービスとウェアラブル緩和デバイス開発							
テーマ	月経・PMS	妊娠・不妊	産後ケア	更年期	婦人科疾患	ヘルスリテラシー	その他
						●	
実施体制	代表団体	東レ株式会社					
	参加団体	・東レ建設株式会社 ・東麗繊維研究所					
	協力団体	・産前産後ケアセンターヴィタリテハウス					
実証先	・東レ株式会社 ・東レ建設株式会社 ・東麗繊維研究所						
対象者	従業員(男女)		実施概要 ①ウェブで痛みや悩みを表出し他者とシェアする場を提供することによる心身状態の改善効果測定 ②対面イベントと農作業による痛みと心身状態の改善効果測定 ③筋骨格系の痛みと心身状態改善のための素材製品開発と評価				

06 医師と医療従事者のコラボによる、持続可能な更年期オンライン診療事業の効果検証							
テーマ	月経・PMS	妊娠・不妊	産後ケア	更年期	婦人科疾患	ヘルスリテラシー	その他
				●		●	
実施体制	代表団体	株式会社MyFit					
	参加団体						
	協力団体						
実証先	・伊藤忠商事株式会社 ・オムロン株式会社 ・株式会社バリュークリエイト ・株式会社丸井グループ						
対象者	35~50代のPMS・更年期症状にお悩みの女性社員希望者		実施概要 実証希望参加者の方には2ヶ月間のMYLILYの利用、利用前後に30問程度のアンケート調査にご回答いただく。				

08 女性アスリートのヘルスコントロールとウェルビーイングを実現するための検証プログラム							
テーマ	月経・PMS	妊娠・不妊	産後ケア	更年期	婦人科疾患	ヘルスリテラシー	その他
	●					●	
実施体制	代表団体	広島テレビ株式会社					
	参加団体						
	協力団体	・株式会社サンフレッチェ広島 ・国立大学法人広島大学(スポーツリハビリテーション学研究室) ・広島県産婦人科医会					
実証先	サンフレッチェ広島レジーナ(女子サッカーチーム)						
対象者	選手		実施概要 ・産婦人科医によるヘルスリテラシー講習を受講 ・課題解決に適したセルフケア商品(フェムテック商品)の試用 ・月経周辺期症状の重症度、ウェルビーイング、パフォーマンスに関するアンケートに回答(計3回)				

(参考情報)

(2) 採択事業 一覧

経済産業省 令和6年度フェムテック等サポートサービス実証事業費補助金
実証事業一覧 9~12

※ 実証体制とは2024年8月21日時点で確定している団体を記載
 ※ 参加団体とは、代表団体の協業者として、本事業全体の推進にあたる団体を指す
 ※ 協力団体とは、実証フィールドの提供や事業活動へのアドバイスなどにより、本事業を支援する団体を指す

09 非関心層のヘルスリテラシー向上を目指す、職場への月経用ナプキンの無償提供装置設置を活用した女性のヘルスリテラシーの向上施策の実証							
テーマ	月経・PMS	妊娠・不妊	産後ケア	更年期	婦人科疾患	ヘルスリテラシー	その他
	●					●	
実施体制	代表団体	株式会社ジヨコネ。					
	参加団体	株式会社ホノックス、有限会社ベコンキャット					
	協力団体	-					
実証先	・株式会社バソナ ・サン電子株式会社						
対象者	特定の事業所で働く女性従業員	実施概要	2ヶ月間企業の従業員用女性トイレに月経用ナプキン無償配布装置を設置し、月経用ナプキンとともに女性の健康情報を提供する。				

11 カップルセラピーを活用した一般不妊治療段階における男女へのオンライン支援事業							
テーマ	月経・PMS	妊娠・不妊	産後ケア	更年期	婦人科疾患	ヘルスリテラシー	その他
		●				●	
実施体制	代表団体	マインドウェル株式会社					
	参加団体	-					
	協力団体	・アンファー株式会社 ・グレイス杉山クリニックSHIBUYA ・株式会社Hajimari		・金子漢方薬局 ・株式会社ゼネラルリンク ・Lumirous Sdn. Bhd.		・京都府亀岡市 ・WWJ株式会社	
実証先	・アンファー株式会社 ・グレイス杉山クリニックSHIBUYA ・株式会社Hajimari		・金子漢方薬局 ・株式会社ゼネラルリンク ・Lumirous Sdn. Bhd.		・京都府亀岡市 ・WWJ株式会社		
対象者	①一般不妊治療を実施・検討中の男女 ②従業員、人事担当者		実施概要	①カップルセラピーを継続して受けることで、男女それぞれに肯定的な心理変化が見られるか検証 ②①の調査に基づく個人の態度変容・仕事のパフォーマンスに関するセミナーを受けることで、意識変化が見られるか検証			

10 健診データ等を活用したセルフケアアドバイス&カウンセリングサービスによる、月経・PMS症状の改善サポート事業 (ICT×人的介入によるプレゼンティーズム・QOL改善状況の効果測定)							
テーマ	月経・PMS	妊娠・不妊	産後ケア	更年期	婦人科疾患	ヘルスリテラシー	その他
	●					●	●
実施体制	代表団体	株式会社JMDC					
	参加団体	株式会社cotree					
	協力団体	オムロンヘルスケア株式会社					
実証先	オムロンヘルスケア株式会社						
対象者	女性社員	実施概要	健診データ等を活用したセルフケアアプリおよびカウンセリングサービスの利用により、月経・PMSに伴う不調の認知を促し行動変容に繋げることで、プレゼンティーズムの改善等の効果検証を実施。				

12 グルコースデータ解析に基づいた女性ホルモン変動予測アプリによる働く女性の妊活サポート事業							
テーマ	月経・PMS	妊娠・不妊	産後ケア	更年期	婦人科疾患	ヘルスリテラシー	その他
		●					
実施体制	代表団体	株式会社SympaFit					
	参加団体	産科婦人科館出張 佐藤病院					
	協力団体	-					
実証先	産科婦人科館出張 佐藤病院						
対象者	妊活に取り組む女性	実施概要	・排卵予測プログラムによる妊娠率の向上 ・妊娠中や産後のメンタルサポートおよび食事サポート ・妊活セミナーの開催				

(参考情報)

(2) 採択事業 一覧

経済産業省 令和6年度フェムテック等サポートサービス実証事業費補助金 実証事業一覧 13

- ※ 実証体制とは2024年8月21日時点で確定している団体を記載
- ※ 参加団体とは、代表団体の協業者として、本事業全体の推進にあたる団体を指す
- ※ 協力団体とは、実証フィールドの提供や事業活動へのアドバイスなどにより、本事業を支援する団体を指す

13	フェムテックデバイス「kegg」の普及がもたらす妊活支援の新時代： 意識変容と医療介入の早期化を目指して						
テーマ	月経・PMS	妊娠・不妊	産後ケア	更年期	婦人科疾患	ヘルスリテラシー	その他
		●				●	
実施体制	代表団体	伊藤忠商事株式会社					
	参加団体	fermata株式会社					
	協力団体	東京大学大学院 原田美由紀准教授					
実証先	伊藤忠商事株式会社						
対象者	女性社員及び男性社員の就労中の配偶者	実施概要	女性社員及び男性社員の就労中の配偶者に約3か月間keggのモニタリングを行ってもらい、アンケートやインタビューを行い提供価値を検証する。				

(参考情報)

(2) 採択事業 一覧

経済産業省 令和7年度フェムテック等サポートサービス実証事業費補助金 実証事業一覧 1~4

- ※ 実証体制とは2025年8月時点で確定しており、掲載を希望した団体を記載
- ※ 参加団体とは、代表団体の協業者として、本事業全体の推進にあたる団体を指す
- ※ 協力団体とは、実証フィールドの提供や事業活動へのアドバイスなどにより、本事業を支援する団体を指す

01	働く女性のためのウェルビーイングパートナー「つきのかたち」						
テーマ	月経・PMS	妊娠・不妊	産後ケア	更年期	婦人科疾患	ヘルスリテラシー	その他
	●			○	○	○	
実施体制	代表団体	FUJIYAMA BRIDGE LAB株式会社					
	参加団体	-					
	協力団体	株式会社TOKAIホールディングス					
実証先	株式会社TOKAIホールディングス						
対象者	男女の従業員		実施概要 女性の健康、キャリア課題についてのセミナー受講、AIコーチとの会話、企業への会話分析のフィードバックを通し、女性従業員の自己肯定感やキャリア感の変化、企業の行動変容への効果を検証する。				

02	血糖値データに基づく生理・PMS重症度予測と睡眠改善支援事業						
テーマ	月経・PMS	妊娠・不妊	産後ケア	更年期	婦人科疾患	ヘルスリテラシー	その他
	●					○	○
実施体制	代表団体	株式会社SympaFit					
	参加団体	-					
	協力団体	産科婦人科館出張佐藤病院、東京大学医学部付属病院産婦人科、医療法人慈桜会瀬戸病院					
実証先	医療法人慈桜会瀬戸病院、株式会社angles						
対象者	就労女性		実施概要 企業に勤務する20~40代の女性を対象とし、血糖値測定、睡眠・食事・ストレス・生理/PMS症状データの収集を実施する。学習モデルによる重症度予測アルゴリズムの構築と個別化改善提案の有効性を検証する。				

03	脳波による更年期判定AIを用いた更年期症状の早期発見・早期予防介入サービスの実証						
テーマ	月経・PMS	妊娠・不妊	産後ケア	更年期	婦人科疾患	ヘルスリテラシー	その他
				●		○	
実施体制	代表団体	国立大学法人大阪大学					
	参加団体	PGV株式会社					
	協力団体	-					
実証先	佐賀県、東京都中野区、株式会社増田医科器械						
対象者	協力企業の女性従業員（プレ更年期~更年期、概ね35~55歳）		実施概要 パッチ式睡眠脳波を短時間計測し、結果を専門家面談で解説、生活改善計画を策定する。必要に応じ再測定まで行う。				

04	社員一人ひとりのウェルビーイングを実現する「人が活きる人的資本経営をサポート ー女性自身の健康行動が変わる、職場に集うみんなが変わる“オフィスRizMo（リスモ）”の開発と実証ー						
テーマ	月経・PMS	妊娠・不妊	産後ケア	更年期	婦人科疾患	ヘルスリテラシー	その他
	○	○	○	○	○	●	
実施体制	代表団体	パナソニック株式会社 くらシアプライアンス社					
	参加団体	-					
	協力団体	-					
実証先	パナソニック株式会社 くらシアプライアンス社						
対象者	女性従業員および男性上司・同僚		実施概要 ①自分自身で体調のコントロールができる「体調ナビゲーションサービスRizMo」と、専門家いつでも相談できる「ヘルスクア相談サービス」の提供。 ②基礎知識を学ぶ、セミナー動画の配信。 ③体験型職場ワークショップの実施。				

(参考情報)

(2) 採択事業 一覧

経済産業省 令和7年度フェムテック等サポートサービス実証事業費補助金 実証事業一覧 5~8

※ 実証体制とは2025年8月時点で確定しており、掲載を希望した団体を記載
 ※ 参加団体とは、代表団体の協業者として、本事業全体の推進にあたる団体を指す
 ※ 協力団体とは、実証フィールドの提供や事業活動へのアドバイスなどにより、本事業を支援する団体を指す

05	女性の健康CareをNormal（あたりまえ）に 女性の健康プラットフォーム&アプリ Cotton Care Of Things, Things Of Normal						
テーマ	月経・PMS	妊娠・不妊	産後ケア	更年期	婦人科疾患	ヘルスリテラシー	その他
	○	○	○	○	○	●	
実施体制	代表団体	株式会社ジェイコム九州					
	参加団体	-					
	協力団体	-					
実証先	富田薬品株式会社、株式会社コミュニティネットワークセンター、ジーク株式会社 日本ケーブルテレビ連盟九州支部						
対象者	各企業の健康推進担当者	実施概要	<ul style="list-style-type: none"> ●企業・団体・行政等の健康経営推進担当者へのセミナー実施及び研修コンテンツの提供 ●アプリ・コンテンツの制作 <ul style="list-style-type: none"> ・女性の健康アプリ ・動画制作（女性の健康課題・婦人科受診ガイド・セルフケア等） ・企業・団体・行政等の健康推進担当者向け研修コンテンツ 				
06	女性のストレスチェック結果と女性特有の不調の相関性を明らかにし、支援スキームの有効性を実証する						
テーマ	月経・PMS	妊娠・不妊	産後ケア	更年期	婦人科疾患	ヘルスリテラシー	その他
	●	○		○	○	○	
実施体制	代表団体	株式会社WithMidwife					
	参加団体	始動メディカルコンサルティング合同会社、ダクタラ株式会社					
	協力団体	ちかメンタルクリニック、広田証券株式会社、広島県福山市、社会福祉法人愛佳会					
実証先	広田証券株式会社、社会福祉法人愛佳会、広島県福山市						
対象者	実証先の従業員	実施概要	ストレスチェックと女性特有の健康課題を統合分析し、専門職による個別支援と集団研修を組み合わせた伴走型支援モデルを検証する。				
07	更年期女性に対するマインドフルネスプログラムの効果検証						
テーマ	月経・PMS	妊娠・不妊	産後ケア	更年期	婦人科疾患	ヘルスリテラシー	その他
			○	●		○	
実施体制	代表団体	株式会社Melon					
	参加団体	-					
	協力団体	-					
実証先	株式会社ポピンズ						
対象者	従業員	実施概要	任意で手上げ式で該当企業から募集し、対象者であろう方含めてプログラムを提供する。前後でアンケートによる効果検証を回り、マインドフルネスによる介入効果を測る。				
08	AIチャットボットとPHR (personal healthcare record)を活用したパーソナライズ更年期医療モデルの構築実証						
テーマ	月経・PMS	妊娠・不妊	産後ケア	更年期	婦人科疾患	ヘルスリテラシー	その他
				●	○	○	
実施体制	代表団体	HerLifeLab株式会社					
	参加団体	Naoko女性クリニック、沢岷美奈子 女性医療クリニック、女性医療クリニックLUNA					
	協力団体	-					
実証先	-						
対象者	更年期症状を抱える女性	実施概要	更年期症状を相談するAIチャット窓口を設けるとともに、治療中の症状データを記録することで、継続的に治療モチベーションを高める仕組みを構築。心理的安全性の向上や仕事へのパフォーマンスの影響を検証する。				

(参考情報)

(2) 採択事業 一覧

経済産業省 令和7年度フェムテック等サポートサービス実証事業費補助金 実証事業一覧 9

- ※ 実証体制とは2025年8月時点で確定しており、掲載を希望した団体を記載
- ※ 参加団体とは、代表団体の協業者として、本事業全体の推進にあたる団体を指す
- ※ 協力団体とは、実証フィールドの提供や事業活動へのアドバイスなどにより、本事業を支援する団体を指す

09 「女性特有の健康課題（プレゼンティズム）による経済損失解消」AIロボ: WaiSE(ワイス)×AITS(アイツ)-自覚症状×職場健診データから甲状腺検査への推奨度を示す-							
テーマ	月経・PMS	妊娠・不妊	産後ケア	更年期	婦人科疾患	ヘルスリテラシー	その他
	○			○	○	○	●
実施体制	代表団体	株式会社コスミックコーポレーション					
	参加団体	国立大学法人 政策研究大学院大学、医療法人社団ミッドタウンクリニック					
	協力団体	社会医療法人社団 カレスサポート カレス記念病院					
実証先	医療法人社団ミッドタウンクリニック 社会医療法人社団カレスサポートカレス記念病院						
対象者	人間ドック受診者・従業員		実施概要 WaiSE・AITS共通ユーザーインターフェイス構築、AITSの予測機能を働く世代女性にカスタマイズ、WaiSEによるヘルスリテラシー向上・行動変容を検証。 対象者は人間ドック・健診の受診女性。				

